



大学院環境科学学院 年次報告書

平成 20 年度～22 年度

北海道大学大学院環境科学学院

北海道大学大学院環境科学院
年次報告書 平成20年度～22年度

目次

はじめに	1
I 組織	
1 沿革	3
2 教員組織	5
3 事務組織	11
4 各種委員会	12
II 学生の受入	
5 入学試験	16
6 学生定員と現員の推移	17
7 留学生数の推移と支援体制	19
III 教育活動	
8 専攻・コース編成	23
9 カリキュラム編成	24
10 公開コースの開催	27
IV 成果	
11 学位取得状況	34
12 研究成果発表状況	54
13 修了後の進路	106
V 補遺	
14 規程	111
15 予算	115
16 安全管理	116
17 国際交流（交流協定）	117

は じ め に

北海道大学は、平成17年に大学院組織に対して、教育を担う学院と教員が所属して研究を行う研究院という二本立ての枠組みを導入いたしました。教育組織である環境科学院はこの枠組みを利用し、基盤部局である地球環境科学研究院（平成17年度発足）に、水産科学研究院、低温科学研究所、電子科学研究所、触媒化学研究センター、北方生物圏フィールド科学センター、サステナビリティ学教育研究センターの学内組織、ならびに学外の連携機関として防災科学技術研究所を加え、総勢150余名の教員が参画した全学的・総合的な環境科学の大学院として平成17年4月1日に発足いたしました。また、平成19年度からは創成科学共同研究機構の教員も参画されています。平成22年度末現在において6年が経過し、すでに多くの修士課程ならびに博士後期課程学生が巣立っております。また、参画教員の連携のもと、正規カリキュラムの充実はもとより、外部資金によるさまざまな教育プログラムも推進してまいりました。環境科学院では、この機に学院の評価と将来計画のための基礎データを公表する目的で年次報告書を発行することにいたしました。前半の3年間については、法人としての中期目標期間の中間評価として公表しておりますので、本報告書では平成20年度～22年度の活動を整理し、学院の発展のための基礎資料といたく存じます。



北海道大学大学院環境科学院 学院長 嶋津克明

は じ め に



北海道大学は、平成１７年に大学院組織に対して、教育を担う学院と教員が所属して研究を行う研究院という二本立ての枠組みを導入いたしました。教育組織である環境科学院はこの枠組みを利用し、基盤部局である地球環境科学研究院（平成１７年度発足）に、水産科学研究院、低温科学研究所、電子科学研究所、触媒化学研究センター、北方生物圏フィールド科学センター、サステナビリティ学教育研究センターの学内組織、ならびに学外の連携機関として防災科学技術研究所を加え、総勢１５０余名の教員が参画した全学的・総合的な環境科学の大学院として平成１７年４月１日に発足いたしました。また、平成１９年度からは創成科学共同研究機構の教員も参画されています。平成２２年度末現在において６年が経過し、すでに多くの修士課程ならびに博士後期課程学生が巣立っております。また、参画教員の連携のもと、正規カリキュラムの充実はもとより、外部資金によるさまざまな教育プログラムも推進してまいりました。環境科学院では、この機に学院の評価と将来計画のための基礎データを公表する目的で年次報告書を発行することにいたしました。前半の３年間については、法人としての中期目標期間の中間評価として公表しておりますので、本報告書では平成２０年度～２２年度の活動を整理し、学院の発展のための基礎資料といたく存じます。

北海道大学大学院環境科学院 学院長 嶋津克明

I 組 織

1 沿革

大学院環境科学研究科

1977（昭和 52 年）	4 月 1 日	大学院環境科学研究科が設置される
	4 月 1 日	環境計画学専攻修士課程，環境構造学専攻修士課程，社会環境学専攻修士課程，環境保全学専攻修士課程が設置される
	4 月 1 日	環境計画学専攻博士後期課程が設置される
	4 月 1 日	環境構造学専攻博士後期課程が設置される
1979（昭和 54 年）	4 月 1 日	社会環境学専攻博士後期課程，環境保全学専攻博士後期課程が設置される
1980（昭和 55 年）	3 月 10 日	管理棟・研究棟（現在の A 棟）・実験棟（6,898 m ² ）竣工
1987（昭和 62 年）	10 月 17 日	大学院環境科学研究科創立 10 周年記念式典・祝賀会を開催
1988（昭和 63 年）	2 月 20 日	大学院環境科学研究科創立 10 周年記念公開シンポジウムを開催

大学院地球環境科学研究科

1993（平成 5 年）	4 月 1 日	大学院地球環境科学研究科が設置される
	4 月 1 日	地圏環境科学専攻（修士課程，博士後期課程），生態環境科学専攻（修士課程，博士後期課程），物質環境科学専攻（修士課程，博士後期課程）が設置される
	7 月 14 日	アメリカ合衆国イリノイ大学大学院シカゴ校と部局間交流協定を締結
1994（平成 6 年）	4 月 1 日	大気海洋圏環境科学専攻修士課程が設置される
1995（平成 7 年）	3 月 16 日	インドネシア共和国バランカラヤ大学と部局間交流協定を締結
1996（平成 8 年）	2 月 9 日	連合王国ノッチンガム大学と部局間交流協定を締結（～2002（平成 14 年）2 月 6 日）
	4 月 1 日	大気海洋圏環境科学専攻博士後期課程が設置される
	12 月 2 日	研究棟（現在の B 棟）（第一期 4,580 m ² ）竣工
1997（平成 9 年）	10 月 17 日	ネパール王国トリブバン大学科学技術研究科と部局間交流協定を締結
	11 月 17 日	中華人民共和国蘭州大学資源環境学院と部局間交流協定を締結
1998（平成 10 年）	1 月 16 日	マレーシアサバ大学科学技術研究科と部局間交流協定を締結（～ 2003（平成 15 年 1 月 15 日）
2000（平成 12 年）	3 月 27 日	研究棟（現在の C 棟）（第二期 5,282 m ² ）竣工
	9 月 29 日	大学院地球環境科学研究科創立 10 周年記念シンポジウム・祝賀会を開催

大学院環境科学院

2005（平成 17 年）	4 月 1 日	大学院環境科学院が設置される
	4 月 1 日	環境起学専攻（修士課程，博士後期課程），地球圏科学専攻（修士課程，博士後期課程），生物圏科学専攻（修士課程，博士後期課程），環境物質科学専攻（修士課程，博士後期課程）が設置される
2006（平成 18 年）	8 月 26 日	インドネシア共和国バランカラヤ大学と大学間交流協定を締結
2007（平成 19 年）	6 月 13 日	スイス連邦工科大学チューリッヒ校と大学間交流協定を締結
2008（平成 20 年）	7 月 31 日	中華人民共和国廈門大学海洋科学・環境科学院と部局間交流協定を締結
	10 月 1 日	パキスタンカラチ大学と部局間交流協定を締結
	12 月 1 日	ロシア極東地質学研究所と部局間交流協定を締結
	12 月 2 日	ロシア科学アカデミーシベリア支部・寒冷圏生物研究所と部局間交流協定を締結
	12 月 3 日	ロシア連邦サハ共和国ヤクーツク国立大学と部局間交流協定を締結
	12 月 11 日	インドネシアイスラム大学と部局間交流協定を締結
2009（平成 21 年）	2 月 18 日	モンゴル科学アカデミー地理学研究所と部局間交流協定を締結
	2 月 18 日	モンゴル国立大学生態学研究科と部局間交流協定を締結
	2 月 19 日	モンゴル国家気象水文環境監視省水文気象研究所と部局間交流協定を締結
	12 月 24 日	講義棟（614 m ² ）竣工
2010（平成 22 年）	2 月 1 日	ロシア科学アカデミーシベリア支部・メリニコフ永久凍土研究所と部局間交流協定を締結
	2 月 1 日	ロシア科学アカデミーシベリア支部・北方先住民族研究所と部局間交流協定を締結
	10 月 24 日	ネパール王国トリブバン大学と大学間交流協定を締結
	10 月 29 日	中華人民共和国東南大学と大学間交流協定を締結
	12 月 13 日	自由大学（オランダ）と部局間交流協定を締結
2011（平成 23 年）	1 月 6 日	ロシア連邦チュメニ石油ガス大学及びロシア科学アカデミーチュメニサイエンスセンターと部局間交流協定を締結
	4 月 1 日	大学院環境科学院のコースを一部再編
	4 月 13 日	大学院環境科学院と（株）星野リゾート・トマムとの間で連携協定を締結
	12 月 15 日	大学院環境科学院と環境中間支援 4 団体との間で連携協定を締結

1-2 歴代研究科長、学院長

職 名	氏 名	在 任 期 間
大学院環境科学研究科長	関 清 秀	1977（昭和 52 年）4 月 1 日～1979（昭和 54 年）3 月 31 日
	高 桑 栄 松	1979（昭和 54 年）4 月 1 日～1980（昭和 55 年）3 月 31 日
	明 道 博	1980（昭和 55 年）4 月 1 日～1982（昭和 57 年）3 月 31 日
	太 田 實	1982（昭和 57 年）4 月 1 日～1986（昭和 61 年）3 月 31 日
	伊 藤 浩 司	1986（昭和 61 年）4 月 1 日～1990（平成 2 年）3 月 31 日
	黒 柳 俊 雄	1990（平成 2 年）4 月 1 日～1992（平成 4 年）3 月 31 日
	小 島 豊	1992（平成 4 年）4 月 1 日～1993（平成 5 年）3 月 31 日
大学院地球環境科学研究科長	堀 浩	1993（平成 5 年）4 月 1 日～1995（平成 7 年）3 月 31 日
	戸 倉 清 一	1995（平成 7 年）4 月 1 日～1998（平成 10 年）3 月 31 日
	西 則 雄	1998（平成 10 年）4 月 1 日～2002（平成 14 年）3 月 31 日
	池 田 元 美	2002（平成 14 年）4 月 1 日～2005（平成 17 年）3 月 31 日
大学院環境科学学院長	池 田 元 美	2005（平成 17 年）4 月 1 日～2007（平成 19 年）3 月 31 日
	岩 熊 敏 夫	2007（平成 19 年）4 月 1 日～2009（平成 21 年）3 月 31 日
	南 川 雅 男	2009（平成 21 年）4 月 1 日～2011（平成 23 年）3 月 31 日
	嶋 津 克 明	2011（平成 23 年）4 月 1 日～2013（平成 25 年）3 月 31 日

2 教員組織

平成20年度

学院長 岩熊 敏夫
副学院長 南川 雅男
副学院長 嶋津 克明

21.4.1 現在

専攻	課題・コース	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手
環境起学専攻 専攻長 東 正剛	地球温暖化	南川 雅男 グレイ・ラルフ・ギンター	露崎 史朗 渡辺 豊 鈴木 光次			
	大気オゾン	長谷部文雄	廣川 淳			
	生物共生系とその数理モデル研究	東 正剛 高田 壯則			佐竹 睦子	
	水循環	山崎 孝治 笹 賀一郎				
	環境修復	田中 俊逸 古月 文志	新岡 正 沖野 龍文 豊田 和弘		藏崎 正明	
	共生システム創成・低炭素社会創成	池田 元美 小野 有五	石川 守 山中 康裕 藤井 賢彦 ブライヤー ブレイヤー・カモル			
地球圏科学 専攻 専攻長 藤吉 康志	陸圏環境科学	平川 一臣	渡邊 悌二		澤柿 教伸 串田 圭司	
	物質循環・環境変遷学	杉本 敦子 乗木新一郎 吉川 久幸 河村 公隆	山本 正伸 長尾 誠也 中塚 武 西岡 純		入野 智久 宮崎 雄三	
	雪氷・寒冷圏科学	藤吉 康志 渡辺 力 佐藤 篤司	石川 信敬 白澤 邦男 白岩 孝行 中井 専人	杉山 慎	石井 吉之 兒玉 裕二 曾根 敏雄 河村 俊行 的場 澄人 下山 宏 飯塚 芳徳	
	大気海洋物理・気候力学	久保川 厚 江淵 直人 三寺 史夫 大島慶一郎	谷本 陽一 藤原 正智 青木 茂	中村 知裕	水田 元太 深町 康 豊田 威信 川島 正行	
	惑星系物質科学	香内 晃 本堂 武夫 古川 義純	渡部 直樹 佐崎 元		日高 宏	

生物圏科学 専攻 専攻長 山田 敏彦	生物多様性科学	戸田 正憲	工藤 岳		大舘 智志	
	生態遺伝学	木村 正人 大原 雅	鈴木 仁 三浦 徹			吉田 磨仁
	環境分子生物学 微生物生態学	森川 正章 福井 学	奥山英登志 山崎 健一 笠原 康裕		鷲尾 健司 片桐 千仞 落合 正則 小島 久弥	
	植物生態学	甲山 隆司 原 登志彦	春木 雅寛 隅田 明洋		久保 拓弥 小野 清美	
	動物生態学	岩熊 敏夫	野田 隆史			
	海洋生物生産 環境学	岸 道郎 門谷 茂 久万 健志	工藤 勲			
	水圏環境生物学	上田 宏 本村 泰三 山羽 悦郎 仲岡 雅裕	宗原 弘幸 宮下 和士 長里千香子		山本 潤 四ツ倉典滋 傳法 隆	
	森林圏環境学	佐藤 冬樹 神沼公三郎 日浦 勉 齊藤 隆	秋林 幸男 車 柱榮 門松 昌彦 野田 真人 柴田 英昭 植村 滋 揚妻 直樹		村上 正志 野村 睦 高木健太郎 吉田 俊也	夏目 俊二
	耕地圏環境学	荒木 肇 山田 敏彦	秦 寛 鈴木 啓太		平田 聡之 星野洋一郎	高橋 誠
環境物質科学 専攻 専攻長 松田 冬彦	生体物質科学	坂入 信夫 松田 冬彦	山田 幸司		梅澤 大樹	
	ナノ環境材料	嶋津 克明 中村 博	神谷 裕一 小西 克明 吉田 登		中田 耕	
	光電子科学	中村 貴義 太田 信廣	中林 孝和 芥川 智行		飯森 俊文 野呂真一郎	
	環境触媒化学	大澤 雅俊 大谷 文章	叶 深 阿部 竜		山方 啓 天野 史章	

※斜体は特任教員を示す

平成21年度

学院長 南川 雅男
副学院長 嶋津 克明
副学院長 久保川 厚

21.4.1 現在

専攻	課題・コース	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手
環境起学専攻 専攻長 高田 壯則	地球温暖化	南川 雅男 グレイベナルフ・ ギンター	露崎 史朗 渡辺 豊 鈴木 光次			
	大気オゾン	長谷部文雄	廣川 淳			
	生物共生系と その数理モデル 研究	東 正剛 高田 壯則			<u>佐竹 睦子</u>	
	水循環	山崎 孝治 笹 賀一郎			<u>佐藤 友徳</u>	
	環境修復	田中 俊逸 古月 文志	新岡 正 沖野 龍文 豊田 和弘		藏崎 正明	
	共生システム 創成・低炭素社 会創成	池田 元美 小野 有五 <u>ブライモ アデモラ・カモル</u>	石川 守 山中 康裕 <u>藤井 賢彦</u>		<u>根岸淳二郎</u>	
地球圏科学 専攻 専攻長 平川 一臣	陸圏環境科学	平川 一臣	渡邊 悌二		澤柿 教伸 串田 圭司	
	物質循環・ 環境変遷学	杉本 敦子 乗木新一郎 吉川 久幸 河村 公隆	山本 正伸 西岡 純 関 幸		入野 智久 宮崎 雄三	
	雪氷・寒冷圏 科学	藤吉 康志 渡辺 力 佐藤 篤司	白澤 邦男 白岩 孝行 中井 専人	杉山 慎	石井 吉之 兒玉 裕二 曾根 敏雄 的場 澄人 下山 宏 飯塚 芳徳	
	大気海洋物理・ 気候力学	久保川 厚 江淵 直人 三寺 史夫 大島慶一郎	谷本 陽一 藤原 正智 青木 茂 堀之内 武	中村 知裕	水田 元太 深町 康 豊田 威信 川島 正行	
	惑星系物質科学	香内 晃 本堂 武夫 古川 義純	渡部 直樹 佐崎 元		日高 宏	

生物圏科学 専攻 専攻長 甲山 隆司	生物多様性科学	戸田 正憲	工藤 岳		大舘 智志	
	生態遺伝学	木村 正人 大原 雅	鈴木 仁 三浦 徹			吉田 磨仁
	環境分子生物学 微生物生態学	森川 正章 福井 学	奥山英登志 山崎 健一 笠原 康裕		鷲尾 健司 片桐 千仞 落合 正則 小島 久弥	
	植物生態学	甲山 隆司 原 登志彦	春木 雅寛 隅田 明洋		久保 拓弥 小野 清美	
	動物生態学		野田 隆史			
	海洋生物生産 環境学	岸 道郎 門谷 茂 久万 健志	工藤 勲			
	水圏環境生物学	上田 宏 本村 泰三 山羽 悦郎 仲岡 雅裕	宗原 弘幸 宮下 和士 長里千香子		山本 潤 三谷 曜子 四ツ倉典滋 傳法 隆	
	森林圏環境学	佐藤 冬樹 神沼公三郎 日浦 勉 齊藤 隆	秋林 幸男 車 柱榮 門松 昌彦 柴田 英昭 植村 滋 揚妻 直樹 吉田 俊也		野村 睦 高木健太郎 中路 達郎 岸田 治 中村 誠宏	夏目 俊二
	耕地圏環境学	荒木 肇 山田 敏彦	秦 寛 鈴木 啓太		平田 聡之 星野洋一郎	高橋 誠
環境物質科学 専攻 専攻長 中村 博	生体物質科学	坂入 信夫 松田 冬彦	山田 幸司		梅澤 大樹	
	ナノ環境材料	嶋津 克明 中村 博 小西 克明	神谷 裕一 吉田 登		中田 耕	
	光電子科学	中村 貴義 太田 信廣	中林 孝和 芥川 智行		飯森 俊文 野呂真一郎	
	環境触媒化学	大澤 雅俊 大谷 文章	叶 深 阿部 竜		山方 啓 天野 史章	

※斜体は特任教員を示す

平成22年度

学院長 南川 雅男
副学院長 嶋津 克明
副学院長 久保川 厚

22. 4. 1 現在

専攻	課題・コース	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手
環境起学専攻 専攻長 山崎 孝治	地球温暖化	南川 雅男 グレーバル・ ギンター	露崎 史朗 渡辺 豊 鈴木 光次			
	大気オゾン	長谷部文雄	廣川 淳			
	生物共生系と その数理モデル研究	東 正剛 高田 壯則			<u>佐竹 睦子</u>	
	水循環	山崎 孝治 笹 賀一郎			<u>佐藤 友徳</u>	
	環境修復	田中 俊逸 古月 文志	新岡 正 沖野 龍文 豊田 和弘		藏崎 正明	
	共生システム 創成・低炭素社会創成	小野 有五 田中 教幸 <u>ブライマー</u> <u>アデモラ・カモル</u>	石川 守 山中 康裕 <u>藤井 賢彦</u>		<u>根岸淳二郎</u> <u>岡田 直資</u> <u>戸田 求</u> <u>宮崎 真</u>	
地球圏科学 専攻 専攻長 河村 公隆	陸圏環境科学	平川 一臣	渡邊 悌二		澤柿 教伸	
	物質循環・ 環境変遷学	杉本 敦子 吉川 久幸 河村 公隆	山本 正伸 山下 洋平 西岡 純 関 幸		入野 智久 亀山 宗彦 宮崎 雄三 <u>岩花 剛</u> <u>濱田 洋平</u>	
	雪氷・寒冷圏 科学	藤吉 康志 渡辺 力 佐藤 篤司	白澤 邦男 白岩 孝行 中井 専人	杉山 慎	石井 吉之 兒玉 裕二 曾根 敏雄 的場 澄人 下山 宏 飯塚 芳徳	
	大気海洋物理・ 気候力学	久保川 厚 江淵 直人 三寺 史夫 大島慶一郎	谷本 陽一 藤原 正智 青木 茂 堀之内 武	中村 知裕	水田 元太 深町 康 豊田 威信 川島 正行	

生物圏科学 専攻 専攻長 岸 道郎	生物多様性科学	戸田 正憲	工藤 岳		大舘 智志	
	生態遺伝学	木村 正人 大原 雅	鈴木 仁 三浦 徹			吉田 磨仁
	環境分子生物学 微生物生態学	森川 正章 福井 学	奥山英登志 山崎 健一 笠原 康裕 落合 正則		鷲尾 健司 <u>三輪 京子</u> 小島 久弥	
	植物生態学	甲山 隆司 原 登志彦	春木 雅寛 隅田 明洋		久保 拓弥 小野 清美 長谷川成明	
	動物生態学		野田 隆史		<u>小泉 逸郎</u>	
	海洋生物生産 環境学	岸 道郎 門谷 茂	工藤 勲		上野 洋路	
	水圏環境生物学	上田 宏 本村 泰三 山羽 悦郎 仲岡 雅裕	宗原 弘幸 宮下 和士 長里千香子		山本 潤 三谷 曜子 四ツ倉典滋 傳法 隆	
	森林圏環境学	佐藤 冬樹 神沼公三郎 日浦 勉 齊藤 隆	車 柱榮 門松 昌彦 柴田 英昭 植村 滋 揚妻 直樹 吉田 俊也		野村 睦 高木健太郎 中路 達郎 岸田 治 中村 誠宏 <u>福澤加里部</u>	夏目 俊二
	耕地圏環境学	荒木 肇 山田 敏彦	秦 寛		平田 聡之 星野洋一郎	高橋 誠
環境物質科学 専攻 専攻長 小西 克明	生体物質科学	坂入 信夫 松田 冬彦	山田 幸司		梅澤 大樹	
	ナノ環境材料	嶋津 克明 中村 博 小西 克明	神谷 裕一 吉田 登 川口 俊一		中田 耕 七分 勇勝	
	光電子科学	中村 貴義 太田 信廣	中林 孝和		飯森 俊文 野呂真一郎	
	環境触媒化学	大澤 雅俊 大谷 文章	叶 深 阿部 竜		山方 啓 天野 史章	

※斜体は特任教員を示す

3 事務組織

平成20年度

環境科学事務部	担 当	係 長	主 任	一般職員		契約職員等
事務長 遠山 節徳	総 務	堀田 文雄	岩部 もゆみ	三浦 司		辻本 裕子(事務補助員)
	学術助成	林 健治	濱 勝博 永澤 弘子			
	会 計	佐藤 上総	佐藤 永晃	赤渕 崇弘	小林 康子	
	図 書	小峯 邦夫				

平成21年度

環境科学事務部	担 当	係 長	主 任	一般職員		契約職員等
事務長 遠山 節徳	総 務	森下 高志		三浦 司	犬塚 晶由里	辻本 裕子(事務補助員)
	学術助成	林 健治	濱 勝博	高嶋 和希		塚辺 由貴(事務補助員)
	会 計	佐藤 上総	沖田 正彦	小林 康子		猪俣 法子(事務補助員)
	図 書	竹鼻 敏治				

GCOE ユニット	特任助教		事務補佐員		
拠点リーダー 山中 康裕	岡田 直資	山下 哲平	秋田 玲希	尾高 有紀	小笠原 のぞみ
			田名邊 由美子	石田 えり子	

平成22年度

環境科学事務部	担 当	係 長	主 任	一般職員	嘱託職員	契約職員等
事務長 久保 修	総 務	濱 勝博		犬塚 晶由里		辻本 裕子(事務補佐員)
	学術助成	今村 浩史		高嶋 和希	早川 唯雄	塚辺 由貴(事務補助員)
	会 計	柴野 仁	沖田 正彦	小林 康子		井筒菜津美(事務補助員)
	図 書	竹鼻 敏治				

GCOE ユニット	特任助教	特定専門職員 (GCOE コーディ ネータ)	事務補佐員		
拠点リーダー 山中 康裕	岡田 直資	朝日 克彦	秋田 玲希	尾高 有紀	小笠原 のぞみ
			堀 紘子	近藤 綾佳	倉品 佐千子

GCOE 環境教育研究 交流推進室	特定専門職員 (GCOE 上級コ ーディネータ)	特定専門職員 (GCOE コーディ ネータ)	博士研究員	事務補佐員
	中村 一樹	吉村 暢彦	佐藤 祐介	沢田石 誠

4 各種委員会

平成20年度

委員会名	環境起学	地球圏 科学	生物圏 科学	環境物質 科学	副学院長	職指定	職指定	事務選出 委員	事務所掌	備考
専攻長会議	東 正剛	藤吉 康志	山田 敏彦	松田 冬彦	南川雅男 嶋津克明	学院長	専攻長		総務担当	
学院人事委員会	東 正剛	藤吉 康志	山田 敏彦	松田 冬彦	南川雅男 嶋津克明	学院長	専攻長		総務担当	
教務委員会	東 正剛	藤吉 康志	山田 敏彦	松田 冬彦	南川雅男 嶋津克明	学院長	専攻長		学術助成担当	
入試委員会	東 正剛	藤吉 康志	山田 敏彦	松田 冬彦	南川雅男 嶋津克明	学院長	専攻長		学術助成担当	
点検評価委員会	東 正剛	藤吉 康志	山田 敏彦	松田 冬彦	南川雅男 嶋津克明	学院長	専攻長	事務長	総務担当	
将来計画委員会	東 正剛	藤吉 康志	山田 敏彦	松田 冬彦	南川雅男 嶋津克明	学院長	専攻長		総務担当	
安全管理委員会	東 正剛	藤吉 康志	山田 敏彦	松田 冬彦	南川雅男 嶋津克明	学院長	専攻長	事務長・ 会計係長	会計担当	
環境委員会	東 正剛	藤吉 康志	山田 敏彦	松田 冬彦	南川雅男 嶋津克明	学院長	専攻長		会計担当	
広報委員会	豊田 和弘	澤柿 教伸	野田 隆史	山田 幸司					総務担当	
WEB サイト管理 委員会	露崎 史朗	渡辺 力 澤柿 教伸	久保 拓弥 吉田 磨仁	山田 幸司		学院長 (オブザーバー)			総務担当	
学生委員会	渡辺 豊	平川 一臣	木村 正人	中村 博					学術助成担当	
課題・コース代表 教員	露崎 史朗 長谷部文雄 高田 壯則 笹 賀一郎 沖野 龍文 池田 元美	平川 一臣 杉本 敦子 藤吉 康志 久保川 厚 古川 義純	戸田 正憲 大原 雅 福井 学 甲山 隆司 野田 隆史 門谷 茂 山羽 悦郎 神沼公三郎 山田 敏彦	坂入 信夫 中村 博 中村 貴義 大澤 雅俊						

H20.4.1

平成21年度

委員会名	環境起学	地球圏 科学	生物圏 科学	環境物質 科学	副学院長	職指定	職指定	事務選出 委員	事務所掌	備考
専攻長会議	高田 壯則	平川 一臣	甲山 隆司	中村 博	嶋津 克明 久保川 厚	学院長	専攻長		総務担当	
学院人事委員会	高田 壯則	平川 一臣	甲山 隆司	中村 博	嶋津 克明 久保川 厚	学院長	専攻長		総務担当	
教務委員会	古月 文志	澤柿 教伸	木村 正人	小西 克明	嶋津 克明 久保川 厚	学院長			学術助成担当	
入試委員会	高田 壯則	平川 一臣	甲山 隆司	中村 博	嶋津 克明 久保川 厚	学院長	専攻長		学術助成担当	
点検評価委員会	高田 壯則	平川 一臣	甲山 隆司	中村 博	嶋津 克明 久保川 厚	学院長	専攻長	事務長	総務担当	
将来計画委員会	高田 壯則	平川 一臣	甲山 隆司	中村 博	嶋津 克明 久保川 厚	学院長	専攻長		総務担当	
安全管理委員会	高田 壯則	平川 一臣	甲山 隆司	中村 博	嶋津 克明 久保川 厚	学院長	専攻長	事務長・ 会計係長	会計担当	
環境委員会	高田 壯則	平川 一臣	甲山 隆司	中村 博	嶋津 克明 久保川 厚	学院長	専攻長		会計担当	
広報委員会	豊田 和弘	堀之内 武	野田 隆史	神谷 裕一					総務担当	
WEB サイト管理 委員会	露崎 史朗	渡辺 力 澤柿 教伸	久保 拓弥 吉田 磨仁	山田 幸司		学院長 (オブザーバー)			総務担当	
学生委員会	長谷部文雄	平川 一臣	木村 正人	中村 博					学術助成担当	
留学生支援 委員会	池田 元美	藤吉 康志	森川 正章	坂入 信夫	嶋津 克明 久保川 厚	学院長				※1
人材育成委員会	東 正剛	藤吉 康志	甲山 隆司	松田 冬彦	嶋津 克明 久保川 厚	学院長				※2
課題・コース代表 教員	鈴木 光次 廣川 淳 高田 壯則 山崎 孝治 豊田 和弘 山中 康裕	平川 一臣 杉本 敦子 藤吉 康志 大島慶一郎 古川 義純	戸田 正憲 木村 正人 森川 正章 原 登志彦 野田 隆史 岸 道郎 上田 宏 齊藤 隆 山田 敏彦	松田 冬彦 小西 克明 太田 信廣 大谷 文章						

H21.4.1

※1 (GCOE委員) 山中 康裕・杉本 敦子・古月 文志・(農学研究院) 長谷川 周一

※2 (GCOE委員) 山中 康裕・杉本 敦子・大原 雅・(農学研究院) 長谷川 周一

平成22年度

委員会名	環境起学	地球圏 科学	生物圏 科学	環境物質 科学	副学院長	職指定	職指定	事務選出 委員	事務所掌	備 考
専攻長会議	山崎 孝治	河村 公隆	岸 道郎	小西 克明	嶋津 克明 久保川 厚	学院長	専攻長		総務担当	
学院人事委員会	山崎 孝治	河村 公隆	岸 道郎	小西 克明	嶋津 克明 久保川 厚	学院長	専攻長		総務担当	
教務委員会	長谷部 文雄	杉本 敦子	木村 正人	坂入 信夫	嶋津 克明 久保川 厚	学院長			学術助成担当	
入試委員会	山崎 孝治	河村 公隆	岸 道郎	小西 克明	嶋津 克明 久保川 厚	学院長	専攻長		学術助成担当	
点検評価委員会	山崎 孝治	河村 公隆	岸 道郎	小西 克明	嶋津 克明 久保川 厚	学院長	専攻長	事務長	総務担当	
将来計画委員会	山崎 孝治	河村 公隆	岸 道郎	小西 克明	嶋津 克明 久保川 厚	学院長	専攻長		総務担当	
安全管理委員会	山崎 孝治	河村 公隆	岸 道郎	小西 克明	嶋津 克明 久保川 厚	学院長	専攻長	事務長・ 会計係長	会計担当	
環境委員会	山崎 孝治	河村 公隆	岸 道郎	小西 克明	嶋津 克明 久保川 厚	学院長	専攻長		会計担当	
広報委員会	廣川 淳	堀之内 武	野田 隆史	神谷 裕一					総務担当	
WEB サイト管理 委員会	露崎 史朗	豊田 威信 澤柿 教伸	久保 拓弥 吉田 磨仁	川口 俊一		学院長 (オブザーバー)			総務担当	
学生委員会	高田 壯則	吉川 久幸	木村 正人	小西 克明					学術助成担当	
留学生支援 委員会	古月 文志	藤吉 康志	森川 正章	坂入 信夫	嶋津 克明 久保川 厚	学院長				※1
人材育成委員会	東 正剛	鈴木 光次	岸 道郎	小西 克明	嶋津 克明 久保川 厚	学院長				※2
課題・コース代表 教員	渡辺 豊 長谷部文雄 東 正剛 笹 賀一郎 田中 俊逸 小野 有五	渡邊 悌二 山本 正伸 藤吉 康志 三寺 史夫	戸田 正憲 大原 雅 森川 正章 甲山 隆司 野田 隆史 門谷 茂 仲岡 雅裕 神沼公三郎 山田 敏彦	坂入 信夫 中村 博 中村 貴義 大谷 文章						

H22.4.1

※1 (GCOE委員)山中 康裕・杉本 敦子 (農学研究院)秋元 信一

※2 (GCOE委員)山中 康裕・杉本 敦子・大原 雅 (農学研究院)秋元 信一

II 学生の受入

5 入学試験

平成20年度

秋季入試：博士後期課程	平成19年8月30日（木）
修士（博士前期）課程	平成19年8月30日（木）・31日（金）
春季入試：博士後期課程	平成20年2月28日（木）
修士（博士前期）課程	平成20年2月28日（木）・29日（金）
入試説明会 第1回	平成19年5月27日（日）・29日（火）
第2回	平成19年12月16日（日）・18日（火）

平成21年度

秋季入試：博士後期課程	平成20年8月28日（木）
修士（博士前期）課程	平成20年8月28日（木）・29日（金）
春季入試：博士後期課程	平成21年3月2日（月）
修士（博士前期）課程	平成21年3月2日（月）・3日（火）
入試説明会： 第1回	平成20年5月24日（土）・25日（日）・27日（火）
第2回	平成20年12月19日（金）
	平成21年2月6日（金）・22日（日）

平成22年度

秋季入試：博士後期課程	平成21年8月26日（木）
修士（博士前期）課程	平成21年8月26日（木）・27日（金）
春季入試：博士後期課程	平成22年3月1日（火）
修士（博士前期）課程	平成22年3月1日（火）・2日（水）
入試説明会 第1回	平成21年5月23日（土）・24日（日）・27日（水）
第2回	平成21年12月12日（土）・13日（日）・15日（火）

平成23年度

秋季入試：博士後期課程	平成22年8月26日（木）
修士（博士前期）課程	平成22年8月26日（木）・27日（金）
春季入試：博士後期課程	平成23年3月1日（火）
修士（博士前期）課程	平成23年3月1日（火）・2日（水）
入試説明会 第1回	平成22年5月22日（土）・23日（日）・26日（水）
第2回	平成22年11月27日（土）・28日（日）・12月7日（火）

6 学生定員と現員の推移

6-1. 入学定員

①博士後期課程

(単位：人)

専攻	20【2008】年度	21【2009】年度	22【2010】年度
環境起学専攻	15	15	15
地球圏科学専攻	15	15	14
生物圏科学専攻	23	23	23
環境物質科学専攻	11	11	11
計	64	64	63

②修士課程（博士前期課程）

(単位：人)

専攻	20【2008】年度	21【2009】年度	22【2010】年度
環境起学専攻	44	44	44
地球圏科学専攻	37	37	35
生物圏科学専攻	52	52	52
環境物質科学専攻	28	28	28
計	161	161	159

6-2. 入学者数

①博士後期課程

(単位：人（％）)

専攻	20【2008】年度	21【2009】年度	22【2010】年度
環境起学専攻	6 (40%)	11 (73%)	13 (87%)
地球圏科学専攻	13 (87%)	11 (73%)	11 (79%)
生物圏科学専攻	15 (65%)	17 (74%)	18 (78%)
環境物質科学専攻	7 (64%)	6 (55%)	6 (55%)
計	41 (64%)	45 (70%)	48 (76%)

②修士課程（博士前期課程）

(単位：人（％）)

専攻	20【2008】年度	21【2009】年度	22【2010】年度
環境起学専攻	32 (73%)	41 (93%)	20 (45%)
地球圏科学専攻	36 (97%)	27 (73%)	26 (74%)
生物圏科学専攻	56 (108%)	40 (77%)	43 (84%)
環境物質科学専攻	25 (89%)	27 (96%)	24 (86%)
計	149 (93%)	135 (84%)	113 (71%)

(注) () は、入学定員に対する充足率を示す。

(注) 10月入学者数を含む。

6-3. 在籍者数

①博士後期課程

地球環境科学研究科

(単位：人)

専攻	20【2008】年度	21【2009】年度	22【2010】年度
地圏環境科学専攻	2	2	－
生態環境科学専攻	5	4	－
物質環境科学専攻	2	2	－
大気海洋圏環境科学専攻	3	1	－
計	12	9	－

環境科学院

(単位：人)

専攻	20【2008】年度	21【2009】年度	22【2010】年度
環境起学専攻	21	25	31
地球圏科学専攻	35	41	43
生物圏科学専攻	64	66	60
環境物質科学専攻	24	21	22
計	144	153	156

②修士課程（博士前期課程）

地球環境科学研究科

(単位：人)

専攻	20【2008】年度	21【2009】年度	22【2010】年度
地圏環境科学専攻			－
生態環境科学専攻			－
物質環境科学専攻	1		－
大気海洋圏環境科学専攻			－
計	1	0	－

環境科学院

(単位：人)

専攻	20【2008】年度	21【2009】年度	22【2010】年度
環境起学専攻	58	72	63
地球圏科学専攻	65	66	55
生物圏科学専攻	103	100	88
環境物質科学専攻	50	53	53
計	276	291	259

(注) 各年度5月1日現在の数

7 留学生数の推移と支援体制

7-1 留学生数(全体)

①博士後期課程

地球環境科学研究科

(単位：人)

専攻	20【2008】年度	21【2009】年度	22【2010】年度
地圏環境科学専攻	1	1	－
生態環境科学専攻			－
物質環境科学専攻			－
大気海洋圏環境科学専攻			－
計	1	1	－

環境科学院

(単位：人)

専攻	20【2008】年度	21【2009】年度	22【2010】年度
環境起学専攻	9	9	9
地球圏科学専攻	4	9	13
生物圏科学専攻	6	6	9
環境物質科学専攻	10	8	8
計	29	32	39

②修士課程（博士前期課程）

地球環境科学研究科

(単位：人)

専攻	20【2008】年度	21【2009】年度	22【2010】年度
地圏環境科学専攻			－
生態環境科学専攻			－
物質環境科学専攻			－
大気海洋圏環境科学専攻			－
計	0	0	－

環境科学院

(単位：人)

専攻	20【2008】年度	21【2009】年度	22【2010】年度
環境起学専攻	4	5	5
地球圏科学専攻	2	2	3
生物圏科学専攻	2	4	4
環境物質科学専攻	4	5	6
計	12	16	18

(注) 各年度5月1日現在の数

7-2留学生数(国別)

(単位：人)

地域	日本語による 国名・地域名	20【2008】年度		21【2009】年度		22【2010】年度	
		博士 後期	修士	博士 後期	修士	博士 後期	修士
アジア	インド	3		3		3	
	インドネシア	4	1	3	3	3	2
	タイ		1			1	1
	台湾	1	1	1			
	ネパール	2	1	3		2	1
	バングラデシュ	3	1	7		5	
	フィリピン	1		2		3	1
	ブルネイ				1		1
	マレーシア		1			1	
	モンゴル			2		3	
	韓国	3		2		3	
	中国	10	4	7	8	10	8
アフリカ	ガーナ				1	1	1
	ナイジェリア	1		1		1	1
	ベナン					1	
大洋州	フィジー		1		1		
北米	アメリカ合衆国						1
中南米	ブラジル		1	1		1	
	ボリビア	1					
ヨーロッパ	セルビア				1		1
	ブルガリア	1					
	ロシア			1		1	
	英国				1		
	計	30	12	33	16	39	18

(注) 各年度5月1日現在の数

(注) 地球環境科学研究科・環境科学院の合計

7-3 留学生の支援体制

- (1) 留学生支援委員会
- (2) 北海道大学国際本部の私費留学生特待制度による博士後期課程生の支援
- (3) 留学生担当事務補佐員 1 名の配置
- (4) 専任留学生サポーターの設置

III 教育活動

8 専攻・コース編成

以下の4専攻を置き、各専攻は複数のコースで編成する。

環境起学専攻（2コース）

先駆コース

統合コース（修士課程のみ）

ただし、コースにかかわらず以下の5課題を置く

【地球温暖化・大気オゾン・生物共生系とその数理モデル研究・
水循環・環境修復】

地球圏科学専攻（4コース）

陸圏環境科学コース

物質循環・環境変遷学コース

雪氷・寒冷圏科学コース

大気海洋物理・気候力学コース

生物圏科学専攻（9コース）

生物多様性科学コース

生態遺伝学コース

環境分子生物学・微生物生態学コース

植物生態学コース

動物生態学コース

海洋生物生産環境学コース

水圏環境生物学コース

森林圏環境学コース

耕地圏環境学コース

環境物質科学専攻（4コース）

生体物質科学コース

ナノ環境材料コース

光電子科学コース

環境触媒化学コース

9 カリキュラム編成

修了要件

修士課程： 必修科目 12 単位を含み、合計 30 単位以上を修得すること

ただし、環境物質科学専攻においては、必修科目 18 単位、選択必修科目から 8 単位以上を含み、合計 30 単位以上を修得すること。ただし、環境物質科学実習Ⅰ及び環境物質科学実習Ⅱの単位は、修了に必要な単位数に算入することができない。

博士後期課程： 必修科目 12 単位を修得すること

環境起学専攻

修士課程

(必修科目)

- ・環境起学論文講読Ⅰ 4 単位
- ・環境起学特別研究Ⅰ 8 単位

(選択科目) ※実習・演習は 4 単位、他は 2 単位

- ・環境科学基礎論 地球環境科学総論
- ・地球温暖化総論 環境修復学総論 オゾン層破壊・紫外線影響評価総論 生態系機能学総論 水循環学総論 共生システム創成学総論
- ・地球温暖化メカニズム特論 地球温暖化物質科学特論 地球温暖化生態学特論 成層圏オゾン変動特論 対流圏広域汚染特論 保全生態学特論 環境保全学特論 水資源物理学特論 流域環境学特論 環境修復学特論 環境修復研究法特論 野外環境学特論 生物資源環境学特論 環境解析学特論 国際コミュニケーション法特論
- ・地球温暖化対策特別講義 環境国際関係論特別講義 環境社会学特別講義
- ・環境解析法演習 国際コミュニケーション法演習 環境保全教育法演習 統合環境観測法実習 統合環境調査法実習 環境保全教育法実習 統合環境分析法実習

博士後期課程

(必修科目)

- ・環境起学論文講読Ⅱ 4 単位
- ・環境起学特別研究Ⅱ 8 単位

地球圏科学専攻

修士課程

(必修科目)

- ・地球圏科学論文講読Ⅰ 4 単位
- ・地球圏科学特別研究Ⅰ 8 単位

(選択科目) ※実習・演習は 4 単位、他は 2 単位

- ・古環境学基礎論 地球雪氷学基礎論 大気海洋物理学基礎論 大気海洋化学基礎論
- ・第四紀環境変動特論 山岳環境科学特論 陸域環境統合システム特論 陸圏物質循環学特論

論 古気候変動学特論 大気圏化学特論 化学海洋学特論 海洋堆積学特論 環境分析化学特論 生物地球科学特論 氷河・氷床学特論 雪氷水文学特論 寒冷圏気象・気候学特論 応用雪氷学特論 大気環境科学特論 極域海洋学特論 大気力学特論 海洋力学特論 気候変動特論 気候モデリング特論 地球流体力学特論 大気海洋解析法特論 惑星系物質科学特論 雪氷物性学特論 宇宙雪氷学特論 遠隔情報学特論

・地球圏科学特別講義Ⅰ 地球圏科学特別講義Ⅱ 地球圏科学特別講義Ⅲ 地球圏科学特別講義Ⅳ

・地球圏科学演習Ⅰ 地球圏科学演習Ⅱ 地球圏科学実習Ⅰ 地球圏科学実習Ⅱ 地球雪氷学実習

博士後期課程

(必修科目)

- ・地球圏科学論文講読Ⅱ 4単位
- ・地球圏科学特別研究Ⅱ 8単位

生物圏科学専攻

修士課程

(必修科目)

- ・生物圏科学論文講読Ⅰ 4単位
- ・生物圏科学特別研究Ⅰ 8単位

(選択科目) ※実習は4単位、他は2単位

- ・多様性生物学基礎論 生態学基礎論 分子生物学基礎論 海洋生物環境学基礎論 フィールド科学基礎論 生物生産学基礎論
- ・多様性生物学特論Ⅰ 多様性生物学特論Ⅱ 生態遺伝学特論Ⅰ 生態遺伝学特論Ⅱ 環境分子生物学特論Ⅰ 環境分子生物学特論Ⅱ 植物生態学特論Ⅰ 植物生態学特論Ⅱ 動物生態学特論Ⅰ 動物生態学特論Ⅱ 海洋生物圏環境科学特論Ⅰ 海洋生物圏環境科学特論Ⅱ 水圏科学特論Ⅰ 水圏科学特論Ⅱ 森林圏科学特論Ⅰ 森林圏科学特論Ⅱ 森林圏科学特論Ⅲ 森林圏科学特論Ⅳ 耕地圏科学特論Ⅰ 耕地圏科学特論Ⅱ
- ・生物圏科学特別講義Ⅰ 生物圏科学特別講義Ⅱ
- ・生物圏科学実習Ⅰ 生物圏科学実習Ⅱ

博士後期課程

(必修科目)

- ・生物圏科学論文講読Ⅱ 4単位
- ・生物圏科学特別研究Ⅱ 8単位

環境物質科学専攻

修士課程

(必修科目)

- ・環境物質科学論文講読Ⅰ 4単位
- ・環境物質科学特別研究Ⅰ 8単位
- ・環境物質科学基礎論Ⅰ 環境物質科学基礎論Ⅱ 環境物質科学基礎論Ⅲ 各2単位

(選択必修科目) 各2単位

- ・分子環境学特論Ⅰ 資源分子化学特論 化学物質影響学特論 環境生態化学特論 環境触媒学特論 分子機能材料特論 ナノ構造制御化学特論 光分子化学特論 電子材料科学特論 光触媒化学特論 表面機能科学特論 反応制御化学特論

(選択科目) ※実習は4単位、他は2単位

- ・分子環境学特論Ⅱ 分子環境学特論Ⅲ
- ・環境物質科学特別講義Ⅰ 環境物質科学特別講義Ⅱ
- ・環境物質科学実習Ⅰ 環境物質科学実習Ⅱ

博士後期課程

(必修科目)

- ・環境物質科学論文講読Ⅱ 4単位
- ・環境物質科学特別研究Ⅱ 8単位

10 公開コースの開催

10-1 南極学カリキュラム

南極学カリキュラムとは、極地や寒冷圏における環境や物性、生態系について 総合的に学ぶ教育プログラムであり、国際的な雪氷圏科学教育のコンソーシアムである国際南極大学

(International Antarctic Institute) と提携してプログラムを提供している。プログラムは、極地研究のエキスパートを講師に招いて 坐学形式で行う南極学特別講義とスイス氷河やオホーツク海沿岸海氷域などのフィールドで現地に行う南極学特別実習、および各専攻の寒冷科学関連講義 から構成され、所定の単位数を履修した学生には南極学修了証書(Diploma of Antarctic Science)が授与される。

各講義の履修者数、および南極学修了証書の取得者数

	平成20年度	平成21年度	成22年度
南極学特別講義I	53	43	34
南極学特別講義II	17	18	15
南極学特別実習I	8	9	10
南極学特別実習II	14	6	— (実施せず)
南極学特別実習III	18	22	32
南極学修了証書	6	11	6

10-2 JENESYSプログラム

2009 年、2010 年度に学術振興会の経費を得てアジアの修士課程学生を対象とした半年間の教育プログラムを実施した。

2009 年度

「実習とセミナーを中心とした環境保全対策リーダー養成プログラム」

実施期間：平成21年10月 ～ 平成22年3月（6ヶ月）

参加者：インドネシアからの5名の留学生

- ・ Nidya Ravenska パランカラヤ大学
- ・ Delvira Jayatri P イスラムインドネシア大学
- ・ Lina Mahardiani ガジャマダ大学
- ・ Aster Rahayu アンダラス大学
- ・ Tania Avianda Gusman ガジャマダ大学

プログラム内容：

- 9月29日 プログラム参加者が来日し、南新川留学生会館に入寮
- 10月1日 プログラムガイダンス・各種手続き
- 10月5日 授業・セミナー等開始
- 10月8日 開プログラム式（学院長、副学院長、専攻長、プログラム担当者出席）
- 3月23日 修了研究発表会

3月25日 修了証書授与式（学院長、副学院長、専攻長、プログラム担当者出席）、修了祝賀会

3月31日 プログラム終了

実施科目：

- 環境修復学特論（週1回）
- 環境科学基礎論（12月集中）
- 地球温暖化メカニズム基礎論（週1回）
- 国際コミュニケーション特論（週1回）
- 環境社会学（週1回）
- 日本語学習（希望者のみ）
- 統合環境分析法実習（週2日、10テーマ）
- 環境物質科学実習（1月集中、7テーマ）
- 雨竜研究林実習（3月集中）（ツアーゼミの一環として）
- 国際コミュニケーション実習（2週に1回）
- 環境修復課題セミナー（月2回）
- ツアーゼミ（2，3月に実施）

北海道にある環境保全施設等の見学。他大学、高専の見学と交流

水道科学館（札幌）

白石清掃工場（札幌）

PCB 廃棄物処理事業（室蘭）

弘前大学理工学部、函館高専見学（弘前、函館）

- Environmental Science Seminar in English（月1回）

特別研究

10月末にテーマ、指導教員を決定し、研究を開始

- ・ Leaching of Antimony from PET bottle plastic of Indonesia, Japan, France and USA Companies (Aster Rahayu)
- ・ Concentration of Heavy Metal on Snow Fall in Sapporo City (Delvira Jayatri Prasasti)
- ・ Remediation of Ground Water Polluted with Nitrate using Anion Exchange Resin and Heterogeneous Catalyst (Lina Mahardiani)
- ・ Ecotoxicity Assay of Antifouling Natural Products to Green Microalgae and to Marine Diatom (Nidya Ravenska)
- ・ Adsorption and Desorption Characteristics of Copper Ion on Sludge Produced from Drinking Water Treatment (Tania Avianda Gusman)

2010 年度

「ラボ実習とフィールド実習から学ぶ環境保全対策リーダー養成プログラム」

実施期間：平成22年10月 ～ 平成23年3月（6ヶ月）

参加者：参加者：インドネシア、フィリピン、インド学生 合計6名

- ・ Fina Fransisca, Palangka Raya Univ.
- ・ Awaluddin Nurmiyanto, Gajdah Mada Univ.,
- ・ Satya Candra Wibawa Sakti, Gajdah Mada Univ.,
- ・ Julius Adam V. Lopez, Univ. of Phillipines-Diliman,
- ・ Maria Charmela D. Ates, Univ. of Phillipines-Visayas,
- ・ Vipin A.K., Cochin Univ. of Science and Technology,

プログラム内容：

9月29,30日 プログラム参加者が来日

10月1日 プログラム参加者 南新川留学生会館に入寮

10月1日 開プログラム式（学院長、副学院長、専攻長、プログラム担当者出席）

10月1日 プログラムガイダンス・各種手続き

10月4日 授業・セミナー等開始

3月23日 特別研究発表

3月24日 修了証書授与式（学院長、副学院長、専攻長、プログラム担当者出席）、修了祝賀会

3月31日 プログラム終了

実施科目：

- 環境修復学特論（週1回）
- 環境科学基礎論（11～12月集中）
- 地球温暖化メカニズム基礎論（週1回）
- 国際コミュニケーション特論（週1回）
- 環境社会学（週1回）
- 日本語学習（希望者のみ）
- 統合環境分析法実習（週2日、10テーマ）
- 環境物質科学実習（1月集中、7テーマ）
- 国際コミュニケーション実習（2週に1回）
- 環境修復課題セミナー（月2回）
- ツアーゼミ（2, 3月に実施）

北海道にある環境保全施設等の見学と他大学の見学と交流

- 1) 下水道科学館（札幌）
- 2) 関西学院大学ワークショップ参加（大阪）
- 3) 京都大学人間・環境学研究科訪問（京都）

- Environmental Science Seminar in English（月1回）

特別研究

10月末にテーマ、指導教員を決定し、研究を開始

- Remediation of groundwater polluted with nitrate (NO_3^-) by photo-catalytic reduction over metal-loaded semiconductor photo-catalysts (Awaluddin Nurmiyanto)
- Control specific Gravity of alginate gel beads for easy collection of adsorbent from bottom sediment and water (Fina Fransisca)
- Preparation of Aminomagnetite and Imprinted aminomagnetite via sol-gel method (Satya Candra Wibawa Sakti)
- Effects of Pyrene on Apoptosis in PC12 cells (Maria Charmela Dadole Ates)
- Anti-influenza constituents from the sponge-associated bacteria, *Quadrisphaera granulorum* (Julius Adam Velasco Lopez)
- Modification of alginate-CNT beads with chitosan (Adawan Kiliankil Vipin)

10-3 持続可能な低炭素社会づくりに向けた教育プログラムの策定及び国際枠組みの構築に関する研究・提言

本プロジェクトでは、環境科学院及び公共政策大学院、国際本部の連携により、北海道大学におけるサステナビリティ・ウィークや国際シンポジウム、市民セミナー等の開催、修士課程レベルの教育プログラムの充実（環境科学院・公共政策大学院共通シラバスの作成、大学院共通授業・市民公開講座の実施等）、低炭素社会の形成に関する教育の実施及び政策提言を行なった。

プロジェクトの主な実施状況

- (1) 大学院共通授業・市民公開講座「持続可能な低炭素社会」受講者数
平成20年度：約50名（大学院生35名、市民15名）
平成21年度：約100名（大学院生70名、市民30名）
平成22年度：約130名（大学院生80名、市民50名）
- (2) サステナビリティ・ウィーク
平成20年度：平成20年6月23日～7月11日開催、50企画、参加者数6,399人
平成21年度：平成21年11月1日～11月18日開催、33企画、参加者数8,440人
平成22年度：平成22年10月25日～11月7日開催、47企画、参加者数11,196人
- (3) 持続可能な社会に関する教科書の作成
日本語5冊、英語1冊（「持続可能な低炭素社会」（日・英）、「環境経済学講義」、「地球的問題の政治学」、「国際公共財の政治経済学」、「創造的政策としての地方分権」）
- (4) 研究・政策提言
・平成21年度サステナビリティ・ウィークにおいて、感染症、オホーツク海、東アジア環境経済協力、食糧・エネルギー自給、水の国際開発援助に係る5つの提言を作成した。
・大学院生の参加を得て、サステナブル・キャンパスに関する研究活動を実施すると共に、低炭素社会形成研究として北海道をフィールドとするバイオマス利活用研究やインドネシア泥炭地域からのCO₂排出抑制に関する研究等を行なった。

10-4 海外サマースクール

グローバル COE プログラム「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」では、シベリア、モンゴル、インドネシアに海外フィールド観測拠点を設置し、観測研究を推進している。これらの各地域のかかえる問題を広い視野から理解し、問題に取り組む能力を養うことを目的として、広範な専門分野の講義や観測・分析の実習を行う海外フィールド観測サマースクールを同プログラム主催で実施した。学生や若手研究者自身が企画を分担し、受講生として、また講師として参加することによって、実践的な研究者の育成を目指している。

2009 年度

2009 IFES-GCOE Field Science Short Course at Yakutsk, Russia

Taiga forest ecosystem on permafrost

-- Role of permafrost zone in a global change --

2009 年 IFES-GCOE 国際野外実習（ロシアヤクーツク）

期間：平成21年8月1日～7日

場所：ロシア・サハ共和国・ヤクーツク郊外 ヤクーツク寒冷圏生物学研究所 スパスカヤパッド実験林

応募者：39名(海外3カ国)

参加者：北大10名(うち環境科学院学生5名)、国内1名、海外11名(3カ国)、計22名

講師：9名

2010 年度

2010 IFES-GCOE Field Summer School, Mongolia

Sustainable Ecosystem Usage of Eurasian Ecotone, Mongolia

2010 年 モンゴルフィールドサマースクール

ユーラシア・エコトーン：モンゴルにおける生態系の持続的利用

期間：平成22年7月16日～26日

場所：モンゴル・ウランバートル モンゴル国立大学および気象水文研究所、ウランバートル周辺

応募者：73名(海外11カ国)

参加者：北大10名(うち環境科学院学生8名)、国内2名、海外9名(2カ国)、計21名

講師：16名

10-5 国際サマースクール

博士後期課程の大学院生に将来における国際的・学術的国際プロジェクトを牽引できるような研究者としての能力を身につけてもらうことを目的とし、日本および国外の大学院生と一緒にフィールド研究の方法を学ぶ国際サマースクールを、グローバルCOEプログラム「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」(平成20年度～24年度)の主催で実施した。フィールドでの調査観測技術の習得、参加者による各自の研究のポスター発表、研究課題・計画に関するトレーニング、英語でのグループ討論、発表・議論などを行った。

2009年度

GCOE-INeT International Summer School 2009 “Frontiers in Ecosystem Ecology of Northern Forest”

GCOE-INeT国際サマースクール2009「北方林における生態系生態学の最前線」

期間：平成21年6月14日～20日

場所：北方生物圏フィールド科学センター天塩研究林、中川研究林、雨竜研究林、札幌キャンパス

応募者：24名(海外10ヶ国)

参加者：北大7名(うち環境科学院学生4名)、海外12名(10カ国)、計19名

講師、スタッフ：8名

2010年度

GCOE-INeT International Summer School 2010 “Cascading interactions among ecosystems”

GCOE-INeT国際サマースクール2010「生態系の連鎖的相互作用」

期間：平成22年6月19日～7月1日

場所：北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所およびその周辺、札幌キャンパス

応募者：55名(海外22カ国)

参加者：北大8名(うち環境科学院学生6名)、海外13名(13カ国)、計21名

講師、スタッフ：13名

10-6 公開ラボ実習

公開ラボ実習とは、グローバル COE プログラム「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」が主催して、学生や若手研究者に対して、分析技術実習および周辺学問分野の講義を行うものである。参加者は全国の大学院・大学に対して公募した。一部の实習は英語で実施され、海外からの参加者および JENESYS プログラム参加者も受講した。企画実習生は、自ら提案した企画がカリキュラムの一部として採用され、運営に主体的に関わる参加者である。

2008 年度

- (1) GCOE 安定同位体実習（平成 20 年 11 月 17 日～21 日、応募者：36 名、参加者：企画実習生 6 名、受講生 12 名、計 18 名(うち環境科学院学生 10 名))

2009 年度

- (1) GCOE 安定同位体実習（平成 21 年 10 月 19 日～23 日、応募者：23 名、参加者：企画実習生 4 名、受講生 9 名、計 13 名(うち環境科学院学生 7 名))
- (2) GCOE 環境生物学実習 I,II（平成 22 年 1 月 18, 20～22 日、参加者：3 名(内訳、環境科学院学生(留学生)1 名、国内他大学 1 名、海外 1 名))
- (3) GCOE 環境物質科学ラボ実習“Laboratory Training Course of Environmental Materials Science”(平成 22 年 1 月 18 日～21 日、参加者 7 名(すべて留学生、環境科学院学生 1 名、同研究生 1 名、JENESYS プログラム参加者 5 名))

2010 年度

- (1) GCOE 安定同位体実習（平成 22 年 10 月 25 日～29 日、応募者：19 名、参加者：企画実習生 4 名、受講生 12 名、計 16 名。参加者の内訳は、北大 12 名(うち環境科学院学生 7 名、うち留学生 2 名)、国内他大学 2 名、海外 2 名(2 カ国))
- (2) GCOE 環境生物学実習 I,II,III（平成 22 年 11 月 11 日～25 日、参加者：5 名(うち環境科学院学生 3 名、うち留学生 4 名))
- (3) GCOE 環境物質科学ラボ実習“Laboratory Training Course of Environmental Materials Science”(平成 23 年 1 月 24 日～27 日、参加者：7 名(すべて留学生、北大他部局学生 1 名、JENESYS プログラム参加者 6 名))

IV 成 果

1 1 学位取得状況

1 1-1 博士論文題目一覧

環境起学専攻（博士課程は先駆コースのみ）

平成20年度

Construction of an alkaline tephrostratigraphical framework of the late Quaternary in Japan by INAA-scanning of marine sediment cores（海底堆積物コアの放射化分析による第四紀後期の日本のアルカリ岩質テフラ層序の構築）
任 忠完

環境汚染物質の除去を指向した機能性素材の開発 曾根 弘昭

Effects of solar UV radiation and iron on bacterial community composition in western North Pacific（西部北太平洋における細菌群集構造に対する太陽光紫外線と鉄の影響） 片岡 剛文

平成21年度

棘皮動物幼生の変態誘起物質 松浦 裕志（論文博士）

Cytotoxicity of Multi-wall Carbon Nanotubes on Plant Cells in in vitro Culture System（in vitro培養システムにおける多層カーボンナノチューブの植物細胞に対しての細胞毒性の評価に関する研究） 譚 暁明

Development of Novel Adsorbents for Environmental Remediation by Using Carbon Nanotubes as the Functional Sites（カーボンナノチューブを素材にした吸着材料の開発と環境浄化応用） 于 洪文

A model study on descending surface water at the marginal ice zone relating to Antarctic Intermediate Water（南極中層水形成に係る氷縁域の表層水沈降を解明するモデル研究） 平池 友梨

間伐材由来の炭素素材の吸着剤への利用ならびに凍結濃縮法を用いる水処理技術の開発に関する研究 代 英杰

Anthropogenic Pb in marine sinking particles studied by stable isotope of Pb and biomarker（鉛同位体とバイオマーカーを用いた西部北太平洋における海洋降粒子中の人為起源鉛に関する研究） 永岡 大輔

Conservation biology on endangered salmonid species Sakhalin taimen Hucho perryi inhabiting river basins of eastern Hokkaido（北海道東部の河川に生息する絶滅危惧サケ科魚種イトウの保全生物学） 野本 和宏

Studies on Toxicity of Multi-Wall Carbon Nanotubes on Plants（植物におけるカーボンナノチューブの毒性影響評価）
林 春

平成22年度

Cell viability of phytoplankton in the Northwest Pacific Ocean（北西太平洋域における植物プランクトンの細胞死）
早川 真紀

Hydroclimatology of Nepal in relation to Atmospheric Circulations and Indices（ネパールの水文気候とそれに関係する大気循環と指標） Madan SIGDEL（論文博士）

地球圏科学専攻

平成20年度

Formation and maintenance processes of a thick cloud band over the northern part of the Sea of Japan during the cold air outbreaks（冬季日本海北部に発生する太い筋雲の形成・維持機構） 大竹 秀明

Ice-Ocean Coupled Systems Driven by Wind Forcing（風により駆動される海氷海洋結合システムの研究） 川口 悠介

平成21年度

- Numerical Study on the Atmospheric Response to Meso-Scale Sea Surface Temperature Anomalies in the Kuroshio Extension (黒潮続流域における中規模海面水温偏差に対する大気応答の数値的研究) 古関 俊也
- A study of modulation in interannual sea-ice patterns in the Southern Ocean in association with large-scale atmospheric mode shift (南大洋における海氷変動パターンの変調と大気大循環パターンのシフトに関する研究) 宇田川 佑介
- Mesoscale variability along the east coast of India revealed in satellite data and OGCM (衛星データと海洋大循環モデルによるインド東岸に沿う中規模変動の解明) KURIEN PRESCILLA
- Photosynthetic features and primary productivity of phytoplankton in the northwestern subarctic Pacific (西部北太平洋亜寒帯域における植物プランクトン群集の光合成特性と基礎生産力に関する研究) 伊佐田 智規
- Periglacial Geomorphological Study in the Antarctic Peninsula Region-Recognition of Antarctic Peninsula Type Periglacial Environment and its Characteristic Solifluction- (南極半島地域における周氷河地形学的研究—南極半島型周氷河環境の認定とソリフラクション—) 森 淳子 (論文博士)
- Roles of deep convection in the tropical tropopause layer studied using the Nonhydrostatic ICosahedral Atmospheric Model (NICAM) (全球非静力学モデルNICAMを用いた対流圏界面領域における深い対流の役割に関する研究) 久保川 陽呂鎮
- Cold Trap Dehydration in the Tropical Tropopause Layer Estimated from the Water Vapor Match (水蒸気matchにより評価された熱帯対流圏界層における水平移流に伴う脱水) 稲飯 洋一
- Atmospheric chemical studies on the distributions of dicarboxylic acids, ketocarboxylic acids and α -dicarbonyls in marine and biomass burning aerosols and stable isotopic composition of aerosol nitrogen and carbon (海洋エアロゾルおよびバイオマス燃焼エアロゾル中のジカルボン酸、ケトカルボン酸、 α -ジカルボニルの分布とエアロゾル窒素・炭素の安定同位体組成に関する大気化学的研究) Shuvashish Kundu
- 西部北太平洋亜寒帯域における植物プランクトンの鉄ストレスとその応答に関する研究 齊藤 愛
- Studies on phase equilibrium states and spatial distributions of water-soluble microparticles preserved in polar ice sheets (極地氷床に存在する水溶性微粒子の相平衡状態および分布に関する研究) 櫻井 俊光
- A Study on Ice-bands in the Antarctic Seasonal Ice Zone using MOS MESSR Images (MOS MESSR画像による南極季節海氷域のアイスバンドに関する研究) 石田 邦光 (論文博士)

平成22年度

- Late Quaternary lake-glacier interaction in the Karakul closed-basin, eastern Pamir (パミール高原東部、カラクル流域における第四紀後期の湖水位・氷河変動とその関係) 小松 哲也
- Solifluction processes controlled by formation and melting of ground ice (地中氷の形成と融解に伴うソリフラクションプロセス) 松本 穂高 (論文博士)
- Study on the Carbon Cycle in the Western North Pacific Subtropical Gyre using the Stable Carbon Isotope of Dissolved Inorganic Carbon (溶存無機炭素の炭素安定同位体を用いた西部北太平洋亜熱帯域における炭素循環に関する研究) 高村 友海
- A study on the improvement of one-month forecasts using ensemble Kalman filter (アンサンブル・カルマンフィルタを用いた1か月予報の改善に関する研究) 小山 博司
- Changes in ice flow regime due to proglacial lake formation in an alpine glacier (氷河前縁湖の形成に起因する山岳氷河の流動変化) 津滝 俊
- ドップラーライダーを用いて検出した都市域に発生するダストデビルの構造をもつ鉛直渦と気流の組織構造の観測的研究 (Observational studies on dust devil-like vortices and organized airflow structures in an urban area detected by a 3-D scanning Doppler lidar) 藤原 忠誠
- Geomorphological studies on the first-order basins in the Siwalik Hills, Nepal (ネパール、シワリク丘陵の一次谷に関する地形学的研究) GHIMIRE, Motilal

Precise sonde observations of the atmospheric temperature profile: Development of a temperature reference sonde with the analysis of test flight data (鉛直気温分布の精密ゾンデ観測～温度基準ゾンデの開発と試験観測データの解析～)
清水 健作

Temperature changes in the tropical tropopause layer (熱帯対流圏界層における気温変動) 吉田 康平

Studies on long-term variations in aerosol optical properties and direct effect by ground-based radiometers (地上日射観測によるエアロゾル光学特性と直接効果の長期変動に関する研究) 工藤 玲

生物圏科学専攻

平成20年度

Resource utilization patterns of understory herbs in cool-temperate deciduous forests (冷温帯落葉広葉樹林における林床植物の資源利用様式) 井田 崇 (生物多様性)

Regulatory Mechanisms of the Alternative Developmental Pathway in ants: Caste and Sexual Differentiation" (アリ類における選択的な発生経路の調節機構：カースト分化と性分化) 宮崎 智史 (生態遺伝学)

Analysis of microbial community structure and isolation of novel sulfate-reducing bacteria, in relation to the petroleum hydrocarbon degradation (石油系炭化水素分解に關与する微生物群集構造の解析と新規硫酸還元菌の分離) 東岡 由里子 (環境分子生物学・微生物生態学)

Studies on control of leaf cell cycle and its expansion by Arabidopsis transcriptional co-activator, AtMBF1 (シロイヌナズナ転写コアクチベーターAtMBF1による葉の細胞の周期および肥大成長の調節に関する研究) 東條 卓人 (環境分子生物学・微生物生態学)

Influence of riverine nutrient fluxes on primary production dynamics in Ishikari Bay, subarctic oligotrophic coastal environment of Japan (貧栄養性亜寒帯沿岸域の石狩湾における基礎生産動態に及ぼす河川起源栄養塩の影響評価) ジュリアス イブクン アブウ アラ (Julius Ibukun AGBOOLA) (海洋生物生産環境学)

Studies on the ability of iron storage and resting spore formation in the coastal marine diatoms (沿岸性珪藻の鉄貯蔵能および休眠孢子形成能に関する研究) 杉江 恒二 (海洋生物生産環境学)

亜寒帯汽水湖(火散布沼)における懸濁物食二枚貝(アサリ: *Ruditapes philippinarum*)の個体群動態が親生物元素(C,N,P,Si)の循環過程に及ぼす影響 小森田 智大 (海洋生物生産環境学)

Environmental study on hydrochemistry in the Teshio watershed (天塩川流域における水質化学に関する環境科学的研究) イレバニーナ ヨーダ ノバ (Ileva Nina Yordanova) (水圏生物学)

Disturbance effect on diversity of understory vegetation through resource availability and herbivores (攪乱が資源利用可能性と植食者を介して林床植物の多様性に与える影響) 日野 貴文 (森林圏環境学)

Physiological and morphological responses of *Betula ermanii* to environmental stress (環境ストレスに対するダケカンバの生理的・形態的応答) 鈴木(田畑) あずさ (生物適応機構学)

放射性核種を用いた北西部北太平洋における生物ポンプ能力評価に関する研究 川上 創 (論文博士)

Reproductive traits and allocation of resources for reproduction in perennial plants during mass flowering (多年生植物の大量開花時における繁殖特性と繁殖器官への資源分配) 大西(宮崎) 祐子 (論文博士)

平成21年度

Multilocus phylogeography of the Japanese hare (*Lepus brachyurus*, Leporidae) (複数遺伝子座を用いたニホンノウサギの系統地理学的研究) 布目 三夫 (生態遺伝学)

Population History and Mechanisms of Population Genetic Structuring of the Large Japanese Wood Mouse (*Apodemus speciosus*) (アカネズミの集団史と集団遺伝学的構造の創出メカニズムに関する研究) 友澤 森彦 (生態遺伝学)

Inter-population variation and the evolution of mating systems in *Trillium camschatcense* (オオバナノエンレ

- イソウにおける繁殖様式の集団分化に関する進化生態学的研究) 久保田 渉誠 (生態遺伝学)
- 炭素・窒素安定同位体比を用いた亜寒帯汽水湖の生態系構造解析 梶原 瑠美子 (海洋生物生産環境学)
- Stable isotopic ecology of the Japanese Scallop *Patinopeten Yessoensis* (Jay, 1857) (日本産ホタテガイ *Patinopeten Yessoensis* (Jay, 1857) の安定同位体についての生態学的考察) AYA Frolan, Almarez (海洋生物生産環境学)
- Studies on the cytoplasmic inheritance of mitochondria in isogamous and oogamous brown algae (同型配偶子接合および卵生殖を行う褐藻のミトコンドリア細胞質遺伝に関する研究) 木村 圭 (水圏環境生物学)
- 道東別寒辺牛川水系に生息するイトウ (*Hucho perryi*) 成魚の季節的移動生態および生息場特性に関する研究 本多 健太郎 (水圏環境生物学)
- Mechanism of sperm storing and cryptic female choice by picking behaviour of the sperm reservoir in the Japanese pygmy squid (ヒメイカの精子貯蔵メカニズムと精子塊ついばみ行動による隠れたメスの選択) 佐藤 成祥 (水圏環境生物学)
- Diversity patterns and their mechanisms in stream invertebrate assemblages: focusing on effects of disturbance through community-level density dependence (河川底生動物群集における多様性のパターンおよびメカニズムに関する研究: 群集レベルでの密度依存性を介した攪乱の影響に注目して) 森 照貴 (森林圏環境学)
- Study on resource selection by baleen whales using multidisciplinary ecological data (生態学的なデータを統合的に用いたヒゲクジラ類の資源選択性に関する研究) 村瀬 弘人 (論文博士)
- Diversity of drosophilid flies in relation to forest structure, with implications for sustainable use of forest ecosystem (ショウジョウバエ類の多様性と森林構造との関係、および森林生態系の持続的利用上の意義) 阿久津 公祐 (論文博士)
- 音響手法を用いた *Neocalanus* 属カイアシ類の計量方法に関する研究 松倉 隆一 (論文博士)
- Environmental factors affecting lacustrine phytoplankton community dynamics in Central Kalimantan-Indonesia (インドネシア・中央カリマンタンの三日月湖に生息する植物プランクトンの群集動態に及ぼす環境要因) Ardianor (論文博士)
- スケトウダラ太平洋系群の資源変動におよぼす成魚期の海洋環境の影響に関する研究 志田 修 (論文博士)
- Vegetation dynamics after peat mining on Sarobetsu Mire (北海道サロベツ湿原における泥炭採掘跡地の植物群集動態) 西村 愛子 (地域生態系学)

平成22年度

- Establishment of an efficient *in vitro* culture and particle bombardment-mediated transformation systems in two warm season grass species, *Miscanthus sinensis* and *Zoysia japonica* (ススキおよびシバの2つの暖地型イネ科草種における効率的な組織培養系とパーティクルボンバードメントによる形質転換系技術の確立) 王 迅 (耕地圏環境学)
- Defense strategies against herbivory and its relation to characteristics of life history in plant species (植物の被食防衛戦略および防衛戦略に影響を与える生活史特性の解明) 石崎 智美 (生態遺伝学)
- Regulatory mechanisms underlying the polyphenisms in aphids (アブラムシの表現型多型制御メカニズム) 石川 麻乃 (生態遺伝学)
- The neurological and molecular mechanisms of soldier defensive behavior in termites (兵隊シロアリの防衛行動に関する神経分子基盤) 石川 由希 (生態遺伝学)
- Regulatory mechanisms of the predator-induced polyphenism in the water flea (genus *Daphnia*) (ミジンコにおける捕食者に誘導される表現型多型の制御機構の解析) 宮川 一志 (生態遺伝学)
- Facilitative effects of tussocks on plant establishment in a post-mined peatland (泥炭採掘跡地における谷地坊主の植物定着促進効果) 小山 明日香 (植物生態学)
- 火散布沼 (亜寒帯汽水湖) における物質循環過程の季節変動 (Seasonal change of material cycling in the subarctic lagoon of Hichirippu (Hokkaido, Japan)) 菅 夏海 (海洋生物生産環境学)

- Spatial distribution, dynamics and recovery of wetland forest in Central Kalimantan (中部カリマンタン湿地林の空間分布、動態と再生) Mirmanto, Edi (論文博士)
- Community structure and activity of aerobic methane oxidizing bacteria in forest soils and freshwater lakes (森林土壌および淡水湖沼における好気性メタン酸化細菌の群集構造と活性) 堤 正純 (環境分子生物学・微生物生態学)
- Functional cytological studies on olfactory imprinting and homing in salmon (サケの嗅覚記憶・回帰に関する機能形態学的研究) 坂東 洋 (水圏環境生物学)
- 音響手法を用いたカタクチイワシ (*Engraulis japonicus*) 仔魚の分布推定に関する研究 (Spatial estimation of larval Japanese Anchovy (*Engraulis japonicus*) distribution using acoustic method) 伊藤 祐介 (論文博士)

物質環境科学専攻

平成 20 年度

- 金属クラスター／金属ポルフィリン錯体複合系による酸化触媒反応に関する研究 村上 嘉崇 (ナノ環境材料)
- Catalytic Conversion of Butenes over Acid Strength and Amount Controlled Silica-Supported 12-Tungstosilicic Acid (酸強度と酸量が制御されたシリカ担持 12-タングストケイ酸触媒によるブデン転化反応に関する研究) 張 晋 (ナノ環境材料)
- Effect of Electric Field and Magnetic Field on photoluminescence in photoinduced Electron Transfer Systems (光誘起電子移動系におけるフォトルミネッセンスへの電場、磁場効果) Kamlesh Awasthi (光電子科学)
- Studies on preparation and molecular recognition property of sugar-based anionic surfactant library (アニオン性糖質界面活性剤ライブラリーの調製と分子認識に関する研究) 田野 千春 (生体物質科学)
- A study on synthetic strategy for the efficient construction of α - and β -(1-3)-branched oligosaccharides (効率的な α -および β -(1-3)-分枝オリゴ糖構築の合成戦略に関する研究) 孫 尚鉉 (生体物質科学)
- 環境汚染物質の除去を指向した機能性素材の開発 曾根 弘昭 (生体物質科学)
- Development of System Based on Copper-Palladium Bimetallic Catalyst for Remediation of Nitrate Polluted Groundwater (硝酸汚染地下の浄化システム) 王 穀 (ナノ環境材料)
- Design of Selective-Oxidation Catalysts based on control of Crystal Morphology for Effective Utilization of Hydrocarbons (炭化水素資源有効利用のための結晶形態制御に基づく選択酸化触媒設計) 今井 裕之 (論文博士)

平成 21 年度

- シクロデキストリン単分子層による界面構造と機能のナノ制御 道見 康弘 (ナノ環境材料)
- Photoirradiation effects on the electrical conductivity of polycrystalline silver iodide (多結晶ヨウ化銀の電気伝導度における光照射効果) Rahima Khaton (光電子科学)
- 電極表面の吸着分子が触媒する水素発生反応機構 内田 太郎 (環境触媒科学)
- Studies on Protease Inhibitors of Freshwater Cyanobacteria (淡水産シアノバクテリアのプロテアーゼ阻害物質に関する研究) 来生 貴也 (生体物質科学)
- Studies on Hybrid Colloidal Particles with Eccentric Structures: Synthesis, Characterization and Application to Fabrication of Functional Materials (偏心構造をもつハイブリッドコロイド粒子の調製、構造・特性解析および機能材料への応用に関する研究) 大沼 明 (環境触媒化学)
- Quantitative Analysis of Interfacial Structures of Thin Films by Nonlinear Vibrational Spectroscopy: Effect of Coherent Interference (非線形振動分光法による薄膜界面構造の定量解析：コヒーレント干渉効果) 全 玉進 (環境触媒化学)

平成22年度

- Total Synthesis of 10-Isocyano-4-cadinene (10-イソシアノ-4-カジネンの全合成) 西川 慶祐 (生体物質科学)
- Infrared spectroscopic studies on adsorbed nitrate and related compounds at platinum electrodes (白金電極上の吸着硝酸イオンおよび関連物質に関する赤外分光法による研究) Farhana Rahman Rima (ナノ環境材料)
- Structure and catalytic properties of heteropoly compounds highly dispersed on silica support (シリカ担体上に高分散したヘテロポリ化合物の構造と触媒特性) 菅野 充 (ナノ環境材料)
- Synthesis and physical properties of crown-ether included ions / ferromagnetic oxalate-bridged transition-metal complexes salts toward multiferroics (マルチフェロイクス実現に向けたクラウン包接型イオン/強磁性 シュウ酸架橋金 属錯体塩の合成と物性評価) 遠藤 格 (光電子科学)
- Fabrication and quantum transport of gold nanoparticle assemblies stabilized by physisorbed π -conjugated molecules (π 共役分子で物理吸着保護した金ナノ粒子集積体の構築と量子伝導) 野田 祐樹 (光電子科学)

11-2 修士論文題目一覧

環境起学専攻

平成20年度

- 苫前の風力発電施設におけるバードストライク発生要因の解明 北野 雅人 (先駆)
- Relationships between the composition of seed bank and standing vegetation on a reed swamp after wildfire (野火を受けたヨシ湿原における埋土種子集団と植生の構成関係について) 木村 英雄 (先駆)
- 環太平洋諸国へのヒアリ侵入の原因解明 紅露 周平 (先駆)
- 全木集材方式による未利用木質バイオマス収集コスト削減と林内物質動態への影響 永岡 彩 (先駆)
- 北海道におけるササ類の資源化に関する研究 福田 陽一朗 (先駆)
- Reconstruction of Sea Surface Temperature in the past 340,000 years in the southwest Pacific (南西太平洋における過去34万年間の表層水温変動の復元) Ho, Sze Ling (先駆)
- Cost-benefit modelを用いた葉寿命の最適戦略基準の検討 吉田 智彦 (先駆)
- Effects of fighting experience on the occurrence of downstream migratory behavior and olfactory imprinting in masu salmon, *Oncorhynchus masou masou* (サクラマス攻撃行動経験が降河行動および嗅覚記憶に及ぼす影響) Lee, Shih-Pin (先駆)
- ホタテ貝殻を用いたリン回収剤の開発 竹内 雅美 (先駆)
- 世代間公平に注目した持続可能性指標の提案と北海道への適用 猪坂 公德 (統合)
- Quantification of N_2 excess gas derived from denitrification by using passive gasses of Ar and N_2 in the western North Pacific (不活性気体Arと N_2 を用いた西部北太平洋における脱窒過程の見積りに関する研究) 伊藤 昌稚 (統合)
- カラマツの窒素・炭素安定同位体比を用いたモンゴル森林-草原境界の環境指標 内埜 裕子 (統合)
- 東シベリアタイガ林の窒素循環 大杉 あい (統合)
- モンゴル遊牧民の草原劣化に対する環境意識と土地利用 小野寺 有 (統合)
- エレクトロレメディエーションによる鉛汚染土壌からの鉛除去挙動 加藤 能孝 (統合)
- ケニア、マザレスラムにおけるエコツーリズム開発 菊本 光子 (統合)

Cd resistance of bacteria in Rawakalong lake in Indonesia (インドネシアラワカロン湖におけるバクテリアのCd耐性)
小林 健一 (統合)

マイクロサテライトDNAマーカーを用いたウミネコ (*Larus crassirostris*) の遺伝的構成の解析 佐保田 篤志 (統合)

成層圏QBOとオゾンを中心とした気候要素との関係 田口 裕貴 (統合)

産業連関表を用いた二酸化炭素排出の地域間依存に関する研究 長 邦彦 (統合)

日本のサンゴ礁データベースの作成と分析 中尾 有伸 (統合)

Parameterization of oceanic vertical distribution of dimethylsulfide in the North Pacific (北太平洋における海水中のジメチルサルファイドの鉛直分布の解明に関する研究) 本間 則仁 (統合)

マテリアルフローからみた持続可能性に関する研究 ～北海道の自治体をモデルケースとして～ 宮崎 稔也 (統合)

Water balance for agricultural production responding to climatic variability in Bangladesh (気候変動に応答するバングラデッシュ農作物の水供給バランス) Karim, Mohammed Rezaul (統合)

木質バイオマスのエネルギー利用における政策的課題 森井 康裕 (統合)

北海道における地域協働のカーボンオフセット事業モデルの検討 安本 哲郎 (統合)

平成21年度

「タウンフォレスト」のあるまちづくり～北海道におけるタウンフォレストの気象緩和機能の把握と利用方法～
石川 紋華 (先駆)

琵琶湖コア中の水酸化物成分の化学組成変動と過去30万年間における堆積環境変遷 川島 奈那子 (先駆)

北海道沿岸に來遊するトドの肝臓及び皮下脂肪におけるPCBs全209異性体の濃度について 久保 溪女 (先駆)

Suggestions for prevention of fires in Kalimantan based on the survey on the residents' recognition and reality (住民の意識と実態の調査に基づくカリマンタン泥炭火災の防止に向けた提案) 小菅 千絵 (先駆)

季節変化・日変化特性に基づく日本周辺地表オゾン変動の解析 榊 裕太 (先駆)

Determinants on the litter decomposition of two early successional species (遷移初期種二種のリター分解速度規定要因)
竹内 史子 (先駆)

身近な野鳥を用いた環境教育プログラムの開発 竹島 勇太 (先駆)

協同繁殖行動の成立条件に関するゲームモデル研究 西澤 裕文 (先駆)

Responses to ultraviolet on two plant species in the early stages of succession (遷移初期における植物2種の紫外線応答)
平田 亜弓 (先駆)

エネルギーから見た循環型社会の構築～北海道における再生可能エネルギー100%のまちづくりを目指して～
渡邊 真未 (先駆)

北海道大雪山永久凍土帯における湧水からみた陸面水循環過程 新井 秀典 (統合)

対流圏における気体臭素生成と大気質に与える影響 上野 晶鋭 (統合)

CO₂濃度と鉄供給の増加が西部北太平洋およびベーリング海の微生物群集に及ぼす影響の評価 遠藤 寿 (統合)

ごみ問題についての学校での環境教育に関する研究 王 姣 (統合)

PETボトル樹脂中に含まれるアンチモンの環境動態に関する研究 川村 英亮 (統合)

Boron concentrations in river water and effects of boron on organism (河川水中のホウ素濃度およびホウ素の生体影響評価) 北村 昌彦 (統合)

石に集積した塩類の溶出挙動と除去方法に関する研究 楠 浩輔 (統合)

化学イオン化質量分析計を用いた亜硝酸濃度測定手法の開発 齋藤 亮介（統合）

エルニーニョが台風活動に与える影響について 末永 義明（統合）

光合成タンパク質を用いたオホーツク海および西部北太平洋における大型珪藻類の鉄ストレス評価 関口 洋祐（統合）

北海道におけるミミズハゼ属の分布と分類 橋本 誠也（統合）

航空リモートセンシングを用いた北方林における炭素貯留量の広域計測-地下部貯留量も考慮して- 平松 悠揮（統合）

Comparisons of seed germination and seedling establishment between two *Drosera* species（モウセンゴケ属植物2種における発芽特性と実生定着の比較） 保要 有里（統合）

中層大気大循環論を題材とした科学教育活動の実践と課題 宮田 景子（統合）

北大キャンパスにおける有機性廃棄物の有効利活用の可能性検討 山田 健太（統合）

Development of a biomarker for heavy metal contaminants using hepatic and renal metallothioneins in *Hyposarcus pardalis*（*Hyposarcus pardalis* の肝臓及び腎臓中のメタロチオネインを用いた重金属汚染バイオマーカーの開発） 湯川 俊（統合）

夏季アジアモンスーン域における下層ロスビー波 渡邊 武志（統合）

平成22年度

Removal of cadmium ion in water using sludge from drinking water treatment plant（浄水場から排出されるスラッジを利用した水中のカドミウムイオンの除去） Eko Siswoyo（先駆）

中層の乾燥大気が豪雨に及ぼす影響 大越 孝紀（先駆）

機能化シリカ被膜マグネタイトを用いる重金属イオンの磁気分離 大島 勇人（先駆）

モンゴルにおけるブランドハタネズミ（*Microtus Brandti*）の生活史に応じた植生遷移 太田 遥（先駆）

モンゴル・ウランバートル近郊草原での植生劣化と回復 小野 智郁（先駆）

北海道長沼町グリーンツーリズムにおける農家民宿事業の現状と課題 古賀 友子（先駆）

コンタクトプロセスを用いたクローナル植物における病原体伝播モデルの解析 酒井 佑模（先駆）

下水処理場周辺の河川環境に含まれる17β-エストラジオールの調査研究 速水 悠（先駆）

局地気象観測に関する授業の開発と実践 嶋 潤希（先駆）

フロー型アノードックストリップングボルタンメトリーを用いた環境試料中の重金属測定に関する検討 柳原 雄一郎（先駆）

Modeling decision-making about roost selection in Fission-Fusion bat society（離散-集合社会を形成するコウモリにおけるねぐら選択の数理モデル） 鹿嶋 一孝（統合）

炭素・窒素安定同位体比を用いた氾濫原水域における劣化機構の解明 ～イシガイ目とその餌資源に着目して～ 香月 弘太郎（統合）

北海道における近年の夏の気候についての解析的研究 川田 岳（統合）

The mechanism of toxicity on human vascular endothelial cells by humic acid obtained from tropical peatland（熱帯泥炭地で得られたフミン酸によるヒト血管） 木原 佑介（統合）

さっぽろ薪プロジェクトの展開と課題 ～北海道大学における薪事業提案～ 齊藤 祐（統合）

Effects of environmental contaminants on DNA damage in BeWo cells -For development of risk assessment for future generation-（BeWo細胞における環境汚染物質のDNA損傷に及ぼす影響 一次世代のリスクアセスメントの構築に向けて） 坂田 梨紗（統合）

北海道における土地被覆変化に対する地域的気候応答 佐々木 智規（統合）

Impact of land-use change on carbon balance in Central Kalimantan, Indonesia（インドネシア中部カリマンタン州における土地利用変化の炭素収支への影響） 島畑 淳史（統合）

北方針広混交林流域における森林施業が溶存鉄およびDOCの溪流流出に与える影響 鈴木 耕平（統合）

環境科学院における環境負荷低減に向けた提言～北大キャンパスのモデルケースとして～ 高木 健一郎（統合）

構内の水田を用いた小学校での環境教育プログラムの改善 -教科教育との連携の試み- 田沼 大和（統合）

モンゴルにおける森林火災の実態 ～人為的影響と回復過程の広域評価～ 中坂 高士（統合）

Simulation study of traffic pattern at Shiretoko National Park in Japan（知床国立公園における交通パターンのシミュレーション研究） 蜂谷 菜保子（統合）

Effects of light conditions on cadmium accumulation in *Raphanus sativus* L. var. *sativus* and *Raphanus sativus* L. var. *longipinnatus* L. H. Bailey（ハツカダイコン、カイワレダイコンにおけるカドミウム集積能への光の影響） 藤本 圭佑（統合）

温泉地における環境負荷低減の可能性検討ー北海道・流山温泉と夕張温泉におけるケーススタディー 藤原 沙弥香（統合）

Aspartame induces apoptosis in PC12 cells（PC12細胞におけるアスパルテームのアポトーシス誘導） 堀尾 由香莉（統合）

線形計画法を用いた清掃工場の施設配置計画に関する研究 村山 直昭（統合）

中国における風力発電の普及促進に向けた政策提言 李 萍（統合）

環境問題に対する大学生の知識・関心・行動からみた環境教育のあり方に関する基礎的研究 出村 沙代（統合）

地球圏科学専攻

平成20年度

アラスカ内陸部における森林火災と樹種構成との関係 阪口 絵理奈（陸圏環境科学）

北海道南西部の洞窟「北海洞」における洞窟学的研究 長谷川 航（陸圏環境科学）

太陽活動が成層圏・対流圏結合に及ぼす影響 石川 泰（大気海洋物理学・気候力学）

夏の帯状平均場の予測可能性 岩崎 聡子（大気海洋物理学・気候力学）

冬季西部北太平洋における水温フロントと下層大気との関係 兼成 智久（大気海洋物理学・気候力学）

南アジア地域の対流圏・下部成層圏オゾン変動の研究 小橋川 豊（大気海洋物理学・気候力学）

エネルギー収支と渦位から見た日本海Polar Lowの発達メカニズム 嶋田 宇大（大気海洋物理学・気候力学）

データ同化を利用した熱帯対流圏界層内における流跡線高精度化の試み 土門 優介（大気海洋物理学・気候力学）

石狩平野における地表オゾン変動に関する研究 西村 隆（大気海洋物理学・気候力学）

NLBMを用いた北半球大気循環の偏差場形成 安井 壯一郎（大気海洋物理学・気候力学）

雨滴の最大粒径の気候学的特徴と出現特性 山村 育代（大気海洋物理学・気候力学）

水の安定同位体比を用いた東シベリアタイガ林の水循環の研究 上田 哲大（物質循環・環境変遷学）

2006～2009年に利尻島で観測された地表O₃とCO₂の混合比変動 岡 隼人（物質循環・環境変遷学）

中国三江平原における溶存有機物の蛍光特性 鈴木 智代（物質循環・環境変遷学）

二枚貝化石を用いた最終氷期以降の日本海表層水温・酸素同位体比の季節変動復元 多田 圭吾（物質循環・環境変遷学）

沖縄・辺戸岬における水溶性有機エアロゾルの組成と起源 鳥居 和洋（物質循環・環境変遷学）

2008年夏季の南大洋における海洋炭酸系の分布と変動 比文 啓太（物質循環・環境変遷学）

西部北太平洋における窒素固定生物の定量と窒素固定能の評価 松井 崇人（物質循環・環境変遷学）

オホーツク海表層堆積物の有機物の起源推定研究 三上 裕（物質循環・環境変遷学）

西部北太平洋エアロゾル中の脂質化合物の分布：父島における季節および経年変化 山口 隼人（物質循環・環境変遷学）

夏季札幌における大気エアロゾル中の有機炭素、黒色炭素及び水溶性有機炭素の日変動 横野 圭介（物質循環・環境変遷学）

アラスカ・ランゲル山雪氷コアの酸素・水素同位体比とその古気候学的意味 戸井田 武（雪氷・寒冷圏科学）

樹冠による降雪遮断量の評価 久野 友靖（雪氷・寒冷圏科学）

降雨を伴った融雪出水の研究 高橋 雅博（雪氷・寒冷圏科学）

平成21年度

雨縞を構成する雨滴の粒径分布特性 青木 篤史（大気海洋物理学・気候力学）

アリューシャン列島域における潮流による鉛直混合の数値シミュレーション 阿部 祥子（大気海洋物理学・気候力学）

融解初期における海氷の構造特性の変化 石井 大樹（大気海洋物理学・気候力学）

冬季冷却が道東沖暖水渦フロントに及ぼす影響 市村 拓也（大気海洋物理学・気候力学）

ドップラーライダーを用いて観測した中層雲雲底における特異構造の解析 梅原 章仁（大気海洋物理学・気候力学）

チベット高原の融雪時期の変動が東アジアの夏の大気場に及ぼす影響 大佐賀 南（大気海洋物理学・気候力学）

接地境界層における乱流の水平構造に関する観測的研究 大友 康平（大気海洋物理学・気候力学）

地形の違いが夜間冷却過程に及ぼす影響に関する観測的研究 奥田 将基（大気海洋物理学・気候力学）

ロス海沿岸域における海洋長期変動と淡水収支の関係 金田 麻理子（大気海洋物理学・気候力学）

水蒸気の酸素・水素安定同位体の時間変動特性 金田 祐介（大気海洋物理学・気候力学）

オホーツク海沿岸帯状雲の成因と構造 上庄 拓哉（大気海洋物理学・気候力学）

2009年冬季、サロマ湖における海氷変質過程の観測研究 佐伯 立（大気海洋物理学・気候力学）

WINDASおよびMUレーダーで明らかになった日本上空の対流圏～下部成層圏の風の日変動 坂崎 貴俊（大気海洋物理学・気候力学）

植生群落上に発達する大規模乱流構造のメカニズムに関する研究 高橋 翼（大気海洋物理学・気候力学）

森林粗度層における乱流の空間スケールに関する観測的研究 正木 登（大気海洋物理学・気候力学）

日本東方沖における総観規模擾乱に伴う大気境界層の変質に関する研究 三木 洋介（大気海洋物理学・気候力学）

南極海におけるAMSR-E薄氷厚アルゴリズムの開発とケープダンレーポリニヤの形成変動過程の研究 宮野 なつみ（大気海洋物理学・気候力学）

ケープダンレー沖を中心とした東南極海域における南極底層水の特性に関する研究 山本 健喜（大気海洋物理学・気候力学）

過去1500年間の別府湾の古水温復元 市川 記央（物質循環・環境変遷学）

日本海における沈降粒子中化学成分の季節・経年変動に関する研究 ～特にBaについて～ 奥 俊輔（物質循環・環境変遷学）

TEX₈₆を用いた過去15万年間の南部南シナ海の古水温復元と気候感度制約のための古気候学的アプローチ 齋 博貴（物質循環・環境変遷学）

海洋大気中における低分子モノカルボン酸：ガス・エアロゾル相における分布とその変動要因 澤野 真規（物質循環・環境変遷学）

降雨時に河川へ流出する溶存有機物の移行挙動 高畠 容子（物質循環・環境変遷学）

樹木年輪の安定炭素同位体比を用いた東シベリアタイガ林の過去の水分環境と炭素循環の解析 鄭 峻介（物質循環・環境変遷学）

UK₃₇とTEX₈₆による東シナ海北部の完新世水温変動の復元 中西 貴大（物質循環・環境変遷学）

西部北太平洋亜寒帯域における基礎生産特性と環境因子との関係 野坂 裕一（物質循環・環境変遷学）

海水の酸素・水素および全炭酸の炭素同位体比からみた沿岸域の物質循環 三好 崇也（物質循環・環境変遷学）

南極ドームふじ地域の表面雪に含まれる不揮発性微粒子の化学組成分析 槌本 陽（雪氷・寒冷圏科学）

積雪からのイオン流出に関する実験的研究 平野 宏和（雪氷・寒冷圏科学）

A numerical glacier flow model for dating an ice core drilled at Aurora Peak, Alaska（氷河流動モデルによるアラスカ・オーロラピーク氷コアの年代決定） 福田 武博（雪氷・寒冷圏科学）

スイス・ローヌ氷河末端部における表面融解量の空間分布 吉澤 猛（雪氷・寒冷圏科学）

Regional differences by an analysis of main land use/land cover and bioregional conditions in the Kyrgyz part of the Pamir-Alai Transboundary Conservation Area (PATCA)（パミール・アライ国際自然保全地域（PATCA）のキルギス側における土地利用・土地被覆とバイオリージョンの状態に関する分析によって明らかにされた地域的差異） Lebaïtelaite Gaunavinaka（陸圏環境科学）

不連続永久凍土域、大雪山山頂部における微気象環境 前田 剛宏（陸圏環境科学）

水星間塵表面での原子反応による分子進化：ホルムアルヒド、メタノールの重水素濃集過程およびアンモニア分子生成 渡辺 元浩（惑星系物質科学）

平成22年度

複雑地形の風下の気流構造が筋状エコーの発生に及ぼす効果 伊藤 諒（大気海洋物理学・気候力学）

予測可能性から見たLocal Ensemble Transform Kalman Filterの性能調査 一大気大循環モデルを用いて 大嶋 彬（大気海洋物理学・気候力学）

ドップラーレーダと面相関法を用いた海氷移動ベクトルの算出と海氷域の風の抵抗係数の直接観測 大角 光司（大気海洋物理学・気候力学）

オホーツク海における海氷生産量の長期変動に関する研究 柏瀬 陽彦（大気海洋物理学・気候力学）

南西諸島における強雨の長期変動に関する研究 城間 紀孝（大気海洋物理学・気候力学）

気候監視のための高層気象観測用水蒸気センサの開発 杉立 卓治（大気海洋物理学・気候力学）

クリル海峡における拡散係数の時間変化効果に関する研究 武内 祐樹（大気海洋物理学・気候力学）

全球降水マップGSMaPによる降水強度場の特性と誤差要因に関する研究 田内 裕人（大気海洋物理学・気候力学）

東部熱帯太平洋における下層雲変動の力学的要因に関する研究 寺尾 建哉（大気海洋物理学・気候力学）

ケーブダンレー沖における南極底層水の形成と流動に関する数値的研究 中山 佳洋（大気海洋物理学・気候力学）

成層圏突然昇温に伴う空気塊の経路変化 平野 和也（大気海洋物理学・気候力学）

熱帯の季節内振動に伴う東アジア域の降水変動の解析 本間 有慈（大気海洋物理学・気候力学）

理想的な設定の海洋GCMにおける亜熱帯反流：混合層分布の影響 三原 草介（大気海洋物理学・気候力学）

オホーツク海沿岸に発生する様々なスケールの渦状擾乱の検出および構造と成因 向笠 康二郎（大気海洋物理学・気候力学）

PIV法を用いた接地境界層における乱流構造の把握 森 文洋（大気海洋物理学・気候力学）

北太平洋亜寒帯域の生物生産に果たす粒子態鉄の役割 金浜 幸治（物質循環・環境変遷学）

Chemical Compositions, diurnal changes and sources of atmospheric aerosols collected at Mangshan site, north of Beijing（北京市郊外・マンシャンにおける大気エアロゾルの化学組成、日周変化と起源） 何 楠楠（物質循環・環境変遷学）

植物体内の硝酸イオン(NO_3^-)動態 藤吉 麗 (物質循環・環境変遷学)

夏季富士山頂におけるエアロゾル中の低分子ジカルボン酸組成と生成過程に関する研究 藤原 真太郎 (物質循環・環境変遷学)

ポット実験における植物の光合成時の炭素・酸素同位体分別 遊木 宏和 (物質循環・環境変遷学)

北方林における雪面 CO_2 フラックスの研究 中山 達矢 (雪氷・寒冷圏科学)

防雪林の林帯構造と防風防雪機能の関係 島村 誠 (雪氷・寒冷圏科学)

ドリル法と電磁誘導法より得られる海水厚から海水上の積雪深を推定する方法について 杉本 風子 (雪氷・寒冷圏科学)

アラスカ・オーロラピークアイスコアの化学解析による過去274年間の環境変動復元 對馬 あかね (雪氷・寒冷圏科学)

ネパールヒマラヤ・ヤラ氷河における近年の氷厚および流動変化 刀根 賢太 (雪氷・寒冷圏科学)

生物圏科学専攻

平成20年度

Indirect effects of a high-level predator, *Sorex unguiculatus* (Soricidae, Mammalia), on a microbial community in soil ecosystem of a cool-temperate forest in Hokkaido (冷温帯林の土壤生態系における高次捕食者オオアシトガリネズミが土壤微生物群集に及ぼす間接効果) 山本 佳奈 (生物多様性科学)

Reproductive system and population structure in a mast seeding and clonal herb, *Veratrum album* subsp. *oxysepalum* (一斉開花するクローナル植物バイケイソウの繁殖様式と個体群構造) 加藤 優希 (生態遺伝学)

Spatial and temporal aspects of Japanese moles inferred from the mitochondrial and nuclear gene sequences (分子データに基づく日本産モグラ類の進化的多様性) 桐原 崇 (生態遺伝学)

Developmental studies on mandibular morphogenesis in the stag beetle -environmental effect and hormonal control- (クワガタの大顎形成に関する発生学的研究 -環境条件と内分泌制御に注目して-) 後藤 寛貴 (生態遺伝学)

The Structures and Functions of the Soldier-Specific Exocrine Glands in Termites (シロアリにおける兵隊特異的外分泌腺の構造と機能) 長田 光司 (生態遺伝学)

Insulin Signaling Pathway Responsible for the Soldier Differentiation in a Damp-Wood Termite *Hodotermopsis sjostedti* (オオシロアリの兵隊分化におけるインスリンシグナリングの役割) 服部 章子 (生態遺伝学)

ANAMMOX細菌のグラニュール形成に関するプロテオミク解析 東條 ふゆみ (環境分子生物学・微生物生態学)

バイオフィルムを利用した持続的ナフタレン分解技術の基盤開発 嶋田 恒平 (環境分子生物学・分微生物生態学)

大腸菌のVBNC状態関与遺伝子のゲノムワイドスクリーニング 鶴谷 安弘 (環境分子生物学・微生物生態学)

*Staphylococcus*属細菌のバイオフィルム形成における尿素分解酵素の役割 大木 海平 (環境分子生物学・微生物生態学)

北海道沿岸の原油汚染を想定した原地性バイオオーグメンテーションについての研究 永井 元規 (環境分子生物学・微生物生態学)

Isolation and characterization of turbine oil-degrading bacterial consortia (タービン油分解菌群の取得とその特性) 細川 玲亜 (環境分子生物学・微生物生態学)

植物を用いたグルコシルコイド様物質検出バイオセンサーの開発 溝渕 正紘 (環境分子生物学・微生物生態学)

Influences of environmental conditions on photosynthesis of juvenile trees in Hokkaido (北海道における稚樹の光合成に及ぼす環境条件の影響) Edgard Silva (植物生態学)

- 落葉広葉樹2種の一次枝集団動態 白崎 智大 (植物生態学)
- 異なる生育温度におけるダケカンバの葉のフェノロジーとアクアポリン量の変化 高山 縁 (植物生態学)
- Comparison of lake ecosystems in a sand dune forest at Wakasakanai, northern Hokkaido, in relation to land development (開発影響を受ける稚咲内砂丘林の湖沼間の生態系の比較) 口町 紗英子 (動物生態学)
- 放浪型シワクシケアリ女王の適応的意義 濱崎 眞克 (動物生態学)
- Acorn barnacle population dynamics: an analysis of seasonal and spatial variability of processes determining growth rate(イワフジツボの個体群動態: 増加率を決定するプロセスの季節・空間変動性の解析) 深谷 肇一 (動物生態学)
- 土地利用形態を考慮した流出解析モデルによる十勝川水系の栄養塩供給機構の解析 岩波 秀晃 (海洋生物生産環境学)
- 沿岸海域の魚類資源量指標としての海底堆積物中のリン 表 倫子 (海洋生物生産環境学)
- 噴火湾の従属栄養細菌に対するウイルス溶菌の影響 角田 衣里 (海洋生物生産環境学)
- 天塩川感潮域における生物生産構造の特徴—シジミの生産環境から見た評価— 佐藤 尚哉 (海洋生物生産環境学)
- サロマ湖における貧酸素水塊の消長とそのホタテ貝生産への影響 中澤 広幸 (海洋生物生産環境学)
- 亜寒帯汽水湖(風蓮湖)の低次生物生産環境の変遷—酪農業が与えたインパクトの評価— 真名垣 友樹 (海洋生物生産環境学)
- 海洋堆積物中の生物起源シリカを指標とした北海道沿岸域の基礎生産力の歴史的変遷 日高 康晴 (海洋生物生産環境学)
- オホーツク海におけるハナサキガニ浮遊幼生の分散シミュレーション 藤田 恒太 (海洋生物生産環境学)
- 北太平洋亜寒帯域中央部におけるアラスカストリームによる鉄輸送量の評価 藤田 聡志 (海洋生物生産環境学)
- Environmental biological studies on the origin of dissolved free amino acids in stream water (河川水中の溶存遊離アミノ酸の起源に関する環境生物学的研究) 石沢 清華 (水圏環境生物学)
- Environmental biological studies on the production of dissolved free amino acids in biofilm using radioisotope (放射性同位体を用いたバイオフィルムが生産する溶存遊離アミノ酸に関する環境生物学的研究) 板垣 英祐 (水圏環境生物学)
- Cytological study on early development of zoospores in brown algae, *Laminaria japonica* and *Alaria crassifolia*(褐藻マコンブ (*Laminaria japonica*), チガイソ(*Alaria crassifolia*)の遊走子発生過程における細胞学的研究) 大友 啓資 (水圏環境生物学)
- Animal behavioral studies on upstream migration of chum salmon in the Toyohira River (豊平川におけるシロザケの遡上行動に関する動物行動学的研究) 今野 義文 (水圏環境生物学)
- クリプト藻 *Pyrenomonas helgolandii* における核分裂及びスクレオモルフ分裂の微細構造学的観察とDNA合成期の解析 佐藤 友則 (水圏環境生物学)
- 北海道噴火湾におけるスケトウダラ *Theragra chalcogramma* 稚魚の分布環境に関する研究 松本 宙 (水圏環境生物学)
- Evaluation of endemism of the sika deer (*Cervus nippon*) in Yakushima based on morphological characteristics: in comparison with related island populations (形態的特徴に基づいた屋久島に生息するニホンジカ(*Cervus nippon*)の固有性の評価: 九州及び周辺島嶼個体群との比較) 寺田 千里 (森林圏環境学)
- Seasonal changes in proline level and tannase activity in feces of three rodent species in the wild in the context of overcoming detrimental effects of acorn tannin (三種類の野ネズミにおける糞中プロリン量と糞中タンナーゼ活性の季節変化・ドングリに含まれるタンニン毒性回避メカニズムと関連づけて-) 西井 絵里子 (森林圏環境学)
- 日本列島におけるブナの窒素利用効率の地理変異 野村 遼介 (森林圏環境学)
- 植物群集初期遷移において実生の移入に影響する要因に関する研究 前田 浩輔 (森林圏環境学)
- 北方針広混交林における皆伐が溪流水質に与える影響 山中 大士 (森林圏環境学)
- アカネズミにおける Multiple paternity・エゾヤチネズミと比較して- 若林 紘子 (森林圏環境学)

傾斜放牧地での肉牛の定置放牧における牧草生産、家畜生産および窒素循環 中山 俊聡 (耕地圏科学)

北海道のキイチゴ属野生種と栽培品種における果実成分と栽培特性に関する評価並びに雑種育成に関する研究
羽根 詩織 (耕地圏科学)

平成21年度

積雪中に発達するメタン酸化細菌群集の特性 吉井 健太 (生物多様性科学)

Diversity of Sulfate-reducing Bacteria and Sulfur-oxidizing Bacteria in fresh water lakes (淡水湖沼における硫黄循環関連細菌の多様性解析) 吉川 優紀 (生物多様性科学)

Reproductive system and spatio-temporal population structure in a perennial herb *Clintonia undensis* (多年生草本ツバメオモトの繁殖特性と個体群の時空間的構造) 吉間 綾子 (生態遺伝学)

Genome-wide survey of geographic variation in Eurasian wild mice *Mus musculus* (ユーラシア産野生ハツカネズミの地理的変異に関するゲノム網羅的解析) 臼田 大輝 (生態遺伝学)

Climatic adaptation in parasitoid wasps of dorosophilid flies (ショウジョウバエの寄生蜂における気候適応) 村田 祐亮 (生態遺伝学)

Genetic structure and inbreeding avoidance in an insular bull-headed shrike population (モズの島個体群の遺伝構造と近親交配の回避) 野間野 史明 (生態遺伝学)

The role of sexual and vegetative reproduction in the population maintenance of a monocarpic perennial herb, *Cardiocrinum cordatum* var. *glehnii* (一回繁殖型植物オオウバユリの集団維持に対する有性繁殖と栄養繁殖の役割) 西澤 美幸 (生態遺伝学)

植物バイオセンサーを用いた黄体ホルモン様物質検出法の開発 西山 あづさ (環境分子生物学・微生物生態学)

ウキクサ根圏より単離した原油分解細菌の評価 鈴木 和也 (環境分子生物学・微生物生態学)

海洋細菌における多価不飽和脂質の分布、機能及び生合成 杉原 慎二 (環境分子生物学・微生物生態学)

火力発電所硝化槽より単離した新規メタノール資化細菌の諸特性解析 石川 絵里奈 (環境分子生物学・微生物生態学)

グルココルチコイド誘導性遺伝子スイッチの温度依存的特性の解析 全先 清博 (環境分子生物学・微生物生態学)

枯草菌バイオフィルムによるメナキノン菌体外生産 山崎 和彦 (環境分子生物学・微生物生態学)

微生物を用いた高度不飽和リン脂質の発酵生産に関する研究 中野渡 瞳 (環境分子生物学・微生物生態学)

2型糖尿病治療薬選抜のための植物バイオセンサーの開発 和田 千明 (環境分子生物学・微生物生態学)

有珠火山ジオパーク新旧火口における森林植生および土壌生成 山東 豪 (植物生態学)

Spatial pattern and response to disturbance of tropical rain forests in Peninsular Malaysia (半島マレーシア熱帯多雨林の空間的パターンと攪乱応答) 藤沼 潤一 (植物生態学)

有珠火山の噴気孔域における土壌理化学性と植生の回復 川久保 恵理 (植物生態学)

土壌温暖化に対する林床植物のフェノロジーと成長応答 石岡 亮 (植物生態学)

Spatial patterns in the food web structure of a small inland sea-lake ecosystem (ある小さな海跡湖生態系における食物網構造の空間パターン) 野口 智世 (動物生態学)

Phylogeography of the Weaver ant *Oecophylla smaragdina* supporting Southern Indian refugia hypothesis (南インドレフュージア仮説を支持するツムギアリの系統地理) 朝香 友紀子 (動物生態学)

支笏湖周辺二地域におけるエゾシカの嗜食性植物率、被食率、糞量の比較 八木 史香 (動物生態学)

北海道当別におけるモンシロチョウとオオモンシロチョウのメタ個体群構造の季節変化 昆 慧明 (動物生態学)

Temporal nestedness in sessile species composition in rocky intertidal zone of Eastern Hokkaido, Japan. (北海道東部の岩礁潮間帯の固着生物の種組成における時間的入れ子性) 海老原 良太 (動物生態学)

札幌都市部に生息するオオセグロカモメの生態 小平 大輔 (動物生態学)

Population dynamics of small copepods in tide pools: influence of weather events (タイドプールに生息する小型

かいあし類の個体群動態：気象イベントの影響） 河合 百華（動物生態学）

Breeding site selection and life history of the threespine stickleback, *Gasterosteus aculeatus*, spawning in tidal pools（タイドプールで繁殖するイトヨ *Gasterosteus aculeatus* における繁殖場所選択と生活史） 村上 将孝（動物生態学）

サケ類稚魚の初期生活史の場としての根室湾における低次生産構造の広域的評価 上原 崇志（海洋生物生産環境学）

南東部ベーリング海陸棚斜面域における夏季植物プランクトンブルームを支える鉄及び栄養塩の挙動 松村 由起子（海洋生物生産環境学）

ベーリング海北部陸棚域における鉄及び栄養塩動態と植物プランクトンブルーム 西村 将太郎（海洋生物生産環境学）

天塩川感潮域における低次生物生産構造の時空間変化 請川 知彦（海洋生物生産環境学）

植物プランクトン船上培養実験による鉄及び栄養塩環境評価 小俣 紋（海洋生物生産環境学）

サロマ湖におけるホタテガイ（*Patinopecten yessoensis*）の主要餌資源の推定 畑中 紫臣（海洋生物生産環境学）

噴火湾の底層水中における窒素態栄養塩の硝化過程の定量的考察 山田 有梨絵（海洋生物生産環境学）

親潮域春季植物プランクトンブルーム期における鉄及び栄養塩の短期変動 中山 雄太（海洋生物生産環境学）

知床半島周辺海域におけるシロザケ（*Oncorhynchus keta*）の回帰行動に関する研究 水越 麻仁（水圏環境生物学）

炭素・窒素安定同位体を用いた洞爺湖の食物網解析 吉田 悠貴（水圏環境生物学）

カジカ類数種の着底期までの形態形成と基質選好性に関する生態学的研究 坂井 慶多（水圏環境生物学）

ミトコンドリアDNA分析に基づくエゾヤチネズミ個体群の遺伝的空間構造・地域スケールから局所スケールへ 銭谷 純平（森林圏環境学）

エゾシカ個体群の最近15年間での遺伝的構成の変化 竹川 聡美（森林圏環境学）

人工林における風倒木伐採施業の有無が哺乳類の生息地利用に与える影響 難波 海南子（森林圏環境学）

森林に生息するアライグマ（*Procyon lotor*）における泊り場利用の季節変化 福島 萌（森林圏環境学）

Sustainable management regime of selection harvesting for maintaining diversity of mixed forest in northern Japan（天然生針広混交林における多様性の維持を目指した持続可能な択伐施業） 安田 哲（森林圏環境学）

Distribution of the Eurasian red squirrel（*Sciurus vulgaris orientis*）in small fragmented forests: Which is more important, habitat size or quality?（小規模分断林におけるエゾリス（*Sciurus vulgaris orientis*）の分布：生息地の面積が重要か質が重要か？） 館 絢花（森林圏環境学）

大規模風倒撓乱が鳥類群集に与える影響の経年変化 町田 直樹（森林圏環境学）

北方混交林における鱗翅目幼虫群集構造：樹木55種での比較 安田 健太郎（森林圏環境学）

Laying of surplus eggs in the great tit（*Parus major*）and its ecological significance（シジュウカラ（*Parus major*）の産卵数と育雛数の差が示す生態学的意味） 油田 照秋（森林圏環境学）

温暖化が樹木の食害に及ぼす影響とその光学的評価の試み 田柳 史織（森林圏環境学）

日本各地から収集したススキ系統における培養特性の解明と遺伝子導入の試み 安部 由紀（耕地圏環境学）

ハスカップ（*Lonicera caerulea* L. var. *emphyllocalyx*）の機能性成分の解析と胚乳培養を利用した新規育種法に関する研究 桐山 和也（耕地圏環境学）

ススキ（*Miscanthus sinensis*）のバイオエタノール製造原料としての特性評価 藤田 慎一（耕地圏環境学）

平成22年度

Geographical Variation in Acclimating Ability of Acorn Tannin Resistance in *Apodemus speciosus*（アカネズミにおける生理特性の地理的変異：ドングリに含まれるタンニンへの馴化能力に注目して） 泉 佳代子（森林圏環境学）

コイ科唯一の遡河回遊魚：ウグイの回遊パターンとその要因 臼井 平（動物生態学）

北部北太平洋及びベーリング海海盆域における鉄の挙動 内田 廉 (海洋生物生産環境学)

Marinobacter 属細菌と共存する新属細菌の混合バイオフィーム形成 栄木 悠 (環境分子生物学・微生物生態学)

貧栄養実験河川において光が付着藻類に及ぼすストイキオメトリックな変化が植食者の成長および繁殖に与える影響 太田 民久 (森林圏環境学)

Population dynamics and reproductive success in sex-changing herb, *Arisaema serratum*
(性転換する植物マムシグサの個体群動態と繁殖成功) 大松 ちひろ (生態遺伝学)

Developmental regulations of flight apparatus in association with the life-cycle polymorphisms in the pea aphid *Acyrtosiphon pisum* (エンドウヒゲナガアブラムシの生活史多型における飛翔器官の発生制御)
小川 浩太 (生態遺伝学)

Coat-color polymorphism and genetic variation in Black Rat, the *Rattus rattus* species complex (クマネズミ類の毛色多型に関する遺伝的変異の解析) 神戸 嘉一 (生態遺伝学)

餌生物転換期におけるスケトウダラ太平洋系群稚魚の鉛直分布特性に関する研究 川内 陽平 (水圏環境生物学)

厚岸湾におけるゼニガタアザラシの漁場来遊行動に関する研究 今井 貴裕 (水圏環境生物学)

噴火湾における親生物元素の初期続成作用における分解過程と堆積フラックスの歴史的変遷 谷沢 弘将 (海洋生物生産環境学)

Effect of sexual reproduction and clonal growth on population structure in a mast seeding perennial herb, *Veratrum album* subsp. *oxysepalum* (一斉開花する多年生植物バイケイソウの有性繁殖とクローン成長が個体群構造に及ぼす影響) 草嶋 乃美 (生態遺伝学)

Environmental factors affecting the reproductive success of crows inhabiting the campus of Hokkaido University (北海道大学構内に生息するカラスの繁殖成功に影響を及ぼす環境要因) 貞國 利夫 (動物生態学)

河川起源の鉄による沿岸性珪藻の増殖機構 藤村 謙一 (海洋生物生産環境学)

The effect of fertilizer application on biomass potential and cell wall components in *Miscanthus sinensis* grown in oligotrophic grassland in Tomakomai, Hokkaido (北海道苫小牧の貧栄養草地で生育するススキにおける施肥がバイオマス生産性と細胞壁成分に及ぼす影響) 佐藤 翔平 (耕地圏環境学)

微細藻類の簡便な生死判別推定法の開発と評価 重倉 基希 (海洋生物生産環境学)

Pseudomonas 属細菌の菌体外二次代謝産物が与える細胞性挙動への影響 菅田 曜 (環境分子生物学・微生物生態学)

Studies on Inter-Populational Variations of Reaction-Norm of the Predator-induced Polyphenism and the Molecular Bases in the Water Flea *Daphnia pulex* (ミジンコにおける防御形態リアクションノームの集団間変異とその分子基盤に関する研究) 杉本 直己 (生態遺伝学)

グミ科植物のシーベリーとグミの形質調査および属間雑種育成の試みに関する研究 祖木熱提 庫尔班 (耕地圏環境学)

亜寒帯汽水湖(風蓮湖)における各態リンの時空間分布 田岡 宏崇 (海洋生物生産環境学)

カイコのアポリポホリンIII の自然免疫における役割 高橋 洋平 (環境分子生物学・微生物生態学)

原油汚染土壌修復技術へのバイオフィームの適用 高橋 康德 (環境分子生物学・微生物生態学)

渡り鳥が亜寒帯汽水湖の物質循環過程に与える影響—ラムサール条約登録湿地・火散布沼をモデルに— 関口 郁恵 (海洋生物生産環境学)

低温環境下における森林土壌での窒素の無機化および硝化過程の解明 長谷川 由布子 (森林圏環境学)

Evolutionary constraints on sequence variation of the melanocortin 1 receptor (*Mcl1*) in Carnivore lineages (食肉類の毛色関連遺伝子 *Mcl1* の進化的動態に関する研究) 幡中 迪彦 (生態遺伝学)

ウキクサ根圏から単離したアルカン分解性 *Bacillus* 属細菌の諸特性解析 羽山 亨 (環境分子生物学・微生物生態学)

種々の有機廃棄物の混合割合による土壌生成に対する土壌動物の効果 小川 洋平 (植物生態学)

Ultrastructural study on plasmodesmata in the Brown Alga *Dictyota dichotoma* (Dictyotales, Phaeophyceae)

- (褐藻アミジグサにおける原形質連絡の微細構造解析) 寺内 真 (水圏環境生物学)
- パッチの形状と面積が岩礁潮間帯固着生物の種数と種組成に及ぼす影響 二村 淳ノ介 (動物生態学)
- エイコサペンタエン酸の細菌細胞膜の構造と機能への関与 堀 竜二 (環境分子生物学・微生物生態学)
- Mechanisms of reproductive isolation of interspecific hybridization between *Trillium apetalon* and *T. tschonoskii* (Melanthiaceae) (エンレイソウとミヤマエンレイソウの種間雑種形成における生殖隔離に関する研究) 前川 諒 (生態遺伝学)
- 植物を用いたミネラルコロチコイド様物質検出バイオセンサーの開発 三好 洗了 (環境分子生物学・微生物生態学)
- 加速度データロガーを用いた外来種ニジマスおよび在来種アメマスの遊泳行動に関する比較研究 山本 圭一 (水圏環境生物学)
- 野幌国有林における森林構成と根張りマウンドの土壌理化学性 三好 祐司 (植物生態学)
- Expression analysis of sex-determining genes in a ponerine ant *Diacamma* sp. (トゲオオハリアリ *Diacamma* sp. における性決定遺伝子の発現解析) 森原 なぎさ (動物生態学)
- 北海道千歳川支流の中小規模河川における魚類群集の多様度の決定要因：環境要因と外来種ブラウントラウトに注目して 山崎 千登勢 (森林圏環境学)
- Variability of temporal coexistence mechanisms along environmental gradients in rocky intertidal sessile assemblages (岩礁潮間帯固着生物群集における時間的共存機構の環境勾配に伴う変異性) 田中 智之 (動物生態学)
- Taxonomy and phylogeny of *Leptopilina* (Hymenoptera, Figitidae) attacking frugivorous drosophilids in East and Southeast Asia (東アジア・東南アジアにおける果実食ショウジョウバエに寄生する *Leptopilina* 属 (膜翅目, ヤドリタマバチ科) の分類と系統) Novkovic, Biljana (生態遺伝学)
- Toxicity assessment of crude oil bioremediation using microbial isolates and consortia (微生物群集及び単離株を用いた原油に対するバイオレメディエーションの毒性評価) Ahmad Iskandar Bin Haji Mohd Taha (環境分子生物学・微生物生態学)

環境物質科学専攻

平成 20 年度

- 超分子ローター構造を導入した電気伝導性[Ni(dmit)2]錯体の構築 青沼 昌樹 (光電子科学)
- 忍路産海藻由来テルペノイドの構造と生物活性 白土 悠 (生体物質科学)
- 酸化タングステン光アノード上における可視光誘起高選択的芳香族水酸化反応 富田 修 (環境触媒化学)
- Synthesis of β -cyclodextrin-dimers as the curcumin's stabilizer サバンネットカンペー (生体物質科学)
- ポルフィリンービオローゲン連結化合物を介した光誘起電子移動とその外部磁場効果 齋藤 彰一 (ナノ環境材料)
- 12-タングストリン酸セシウム銀塩触媒の酸触媒反応および脱水素反応特性 杉山 明宏
- Kalkitoxin 類の全合成 香村 隆夫 (生体物質科学)
- 金属担持型酸化タングステン光触媒による酸素還元反応の機構解明と応用 高見 仁バイモデル多孔性 12-タングストケイ酸セシウム塩の合成と酸触媒機 岩瀬 由香里 (ナノ環境材料)

腸管出血性大腸菌 O111 由来の O-抗原五糖の合成研究 森下 原野（生体物質科学）

表面に認識部位を導入した半導体ナノクラスターの設計 栄 秀憲（生体物質科学）

有機物分解のためのフレークボール形状タングステン酸ビスマス光触媒の開発 野上 皓平（環境触媒化学）

Study on removal of several hazardous materials in water with modified alginatgel beads (修飾アルギン酸ゲルビーズによる水環境中の有害汚染物質の除去に関する研究) 三原 義広（生体物質科学）

酸化鉄ナノ粒子を内包したシリカ表面への Cs_{2.5}H_{0.5}PW₁₂O₄₀ の固定化と水中からの磁気分離回収 後藤 利光（ナノ環境材料）

Thyrsiferol 類の合成研究 角田 大（生体物質科学）

酸化チタン中空マイクロ粒子の調製とその光触媒特性 太田 圭亮（環境触媒化学）

有機超伝導体 β -(BEDT-TTF)₂I₃ の電気伝導度における光照射効果 中畑 喬之（光電子科学）

表面に糖質を配した炭素分岐デンドリマーの合成研究 坂本 和郎（生体物質科学）

薄片が垂直に配向した酸化タングステン電極の開発と光電気化学特性 李 定（環境触媒化学）

ナノポーラス構造を持つリング状 polyoxomolybdate 結晶の物性工藤 史人（光電子科学）

Pd(0)-SmI₂ 複合系による分子間カップリング反応 上田 智也（生体物質科学）

球状高分子を鋳型に用いる高活性酸化タングステン光触媒の合成 国奥 広伸（環境触媒化学）

北海道産海藻のトリプシン及びプロリルエンドペプチダーゼ阻害作用 諫山 知宣（生体物質科学）

アルミナ担持イリジウム触媒によるジメチルシクロペンタンの選択的水素化開環 山本 拓真（ナノ環境材料）

平成21年度

Proteus vulgaris O42由来O-抗原五糖の合成研究 浅田智紀（生体物質科学）

アミド化シクロデキストリン誘導体の合成とエピガロカテキンガラートの包接に関する研究 河原絵里奈（生体物質科学）

ラベル化部位を持つ蛍光ソルバトクロミック色素の合成と変色型蛍光センシングデバイスの開発 周紅波（生体物質科学）

種々の天然由来タンニンゲルへの重金属の吸着挙動 野中厚志（生体物質科学）

孤立分散カーボンナノチューブを複合した水素貯蔵材料の作製と評価 半田雅恵（生体物質科学）

植物における多層カーボンナノチューブの毒性の *in vivo* /評価 高廣充海洋生物の生物間相互作用物質 熊谷百慶（生体物質科学）

シクロデキストリン単分子層へのアニオンの包接 池浦健太郎（ナノ環境材料）

メソポーラスカーボン電極の電気化学特性評価 佐藤祐輔（ナノ環境材料）

シクロデキストリン単分子層を分子鋳型とした機能性チオール配列制御 高橋真（ナノ環境材料）

PdおよびPd系二元金属電極上における吸着NOの還元反応 野谷翔治（ナノ環境材料）

クラウン修飾半導体クラスターの金属イオンに対する光化学応答 井田麻奈美（ナノ環境材料）

ナノ金属種表面近傍での分子認識を利用した発光センシング系の構築 高瀬永理 (ナノ環境材料)

シリカゲルに担持した有機保護Auナノクラスターの触媒活性 矢野寛興 (ナノ環境材料)

化物イオン耐性の高い活性炭担持Pd-Sn触媒による水中硝酸イオン還元 倉持祥子 (ナノ環境材料)

Keggin型ヘテロポリアニオン誘導体-セシウム塩の調製とそれらの分子吸着・収着特性 三浦裕紀 (ナノ環境材料)

12-タングストケイ酸セシウム-パラジウム塩触媒による鈴木-宮浦カップリング反応 吉田雅憲 (ナノ環境材料)

種々の酸化物に担持した12-タングストケイ酸の酸性質と酸触媒作用 張継コウ (ナノ環境材料)

蛍光タンパク質の蛍光寿命イメージング測定による生細胞内環境に関する研究 大下周吾 (光電子科学)

銀電極上での水素発生に及ぼすチオ尿素の影響 高橋賢司 (環境触媒化学)

高安定性色素と構造最適化金属酸化物を用いる2段階励起可視光水分解反応 今井陽平 (環境触媒化学)

酸化タングステン-酸化チタン混合光触媒によるトルエンの高効率酸化分解 川田裕輔 (環境触媒化学)

バナジウム酸化物系局所励起光触媒による有機物の気相酸化分解反応 田中麻紗子 (環境触媒化学)

平成22年度

ドデシルチオグリコシドを用いるアスパラギン結合糖鎖コア構造の合成研究 小野寺 佑介 (生体物質科学)

danicalipinAの不斉全合成 柴田 昌幸 (生体物質科学)

Omaezalleneの合成研究 鈴木 将洋 (生体物質科学)

鉛汚染土壌の汚染源の推定と電気化学的除去 大川 康寿 (生体物質科学)

レタスに対する多層カーボンナノチューブの毒性評価 伊藤アリ レフィ (生体物質科学)

ヤマトシロアリに対する多層カーボンナノチューブの毒性評価 胡 白楊 (生体物質科学)

紅藻ソゾ層由来含ハロゲン化合物の微量分析と防汚剤開発 渡邊 摩美 (生体物質科学)

シロクデキストリンを用いたロタキサン型蛍光センサーの開発 中村 進之介 (ナノ環境材料)

赤外分光法によるCu/Pd電極上の硝酸イオン及び関連物質の吸着状態分析 山木 邦亮 (ナノ環境材料)

窒素同位体比測定の為の電気化学飼料調整に関する研究 伊藤 史也 (ナノ環境材料)

シロクデキストリン単分子層を鋳型として用いた白金ナノ粒子電極の構築 齋藤 亮介 (ナノ環境材料)

新奇サブナノ金クラスターの合成と機能開拓 亀井 優太郎 (ナノ環境材料)

酸化剤との反応を利用した有機保護金属クラスターの機能化 鈴木 快 (ナノ環境材料)

発光性ケイ素クラスターの合成と表面修飾 松村 光 (ナノ環境材料)

Sn-Pd/Al₂O₃触媒と半導体光触媒共存下での水中硝酸イオン光還元 近藤 浩史 (ナノ環境材料)

担持イリジウム触媒上でのジメチルシクロペンタン水素化開環反応における担体の影響 土居 隼人 (ナノ環境材料)

マンガン酸化鉱物共存下での水中溶存マンガン（Ⅱ）イオンの吸着・酸化反応 笠原 翔（ナノ環境材料）

フルオロアダマンチルアンモニウムを導入した塩の構造と物性 巖 寅男（光電子科学）

溶液中における蛍光物質の電場吸収・電場発光測定法の開発 岡田 孟矩（光電子科学）

変異型黄色発行タンパク質の蛍光寿命を用いたイオン濃度の検出 澄川 亮哉（光電子科学）

固体表面に置ける四級アンモニウム塩界面活動性剤単分子膜の構造研究 葛 愛民（環境触媒化学）

湿式法で調製した銅（Ⅰ）を含むp型半導体電極による光水素発生反応の効率化 海老名 紀廣（環境触媒化学）

高分散金属種の担時による光酸素発生用タンタル酸窒化物触媒の高効率化 原田 愛子（環境触媒化学）

有機物の光アノード酸化反応のための炭素繊維布-酸化タングステン修飾複合電極の開発 法邑 宏八（環境触媒化学）

タングステン酸化物-ピリジン複合体から調製した多孔性酸化タングステン光触媒 和久井 敦（環境触媒化学）

タングステン／モリブデン系ビスマス複合酸化物の調製と構造・光触媒活性評価 北村三佳（環境触媒化学）

11-3 修業年限修業学位取得率

博士後期課程

平成 18年度 入学者	平成20年度までの 修了者		平成 19年度 入学者	平成21年度までの 修了者		平成 20年度 入学者	平成22年度までの 修了者	
	標準年限 内修了者 数	取得率 (%)		標準年限 内修了者 数	取得率 (%)		標準年限 内修了者 数	取得率 (%)
48	13	27.1	39	17	43.6	39	12	30.8

※ 修士（博士前期）課程は省略（概ね年限内で取得している）

1 2 研究成果発表状況

2008年～2010年に発表された研究成果を、原著論文（査読有り）、その他の論文（査読なし）、学会発表、受賞、の順に、各専攻毎にまとめる。下線の氏名は環境科学院学生（修了者も学院所属時の発表ならば含む）、イタリックの氏名は学院教員を示す。なお、教員のみの業績については、各部局の報告等に所載するため掲載していない。

1 2-1 原著論文（査読有り）

環境起学専攻

- Egawa M., Aoki K., Sun Yongkun, Hosokawa T., Saito T. and *Kurasaki M.*, 2011. Effects of Parabens on Apoptosis Induced by Serum-free Medium. *Journal of Environmental Science and Health Part B*.
- Egawa, C., Koyama, A. and *Tsuyuzaki, S.*, 2008. Relationships between the developments of seedbank, standing vegetation and litter in post-mined peatland. *Plant Ecology*, 203, 217-228.
- Egawa, C., *Tsuyuzaki, S.*, 2010. Seedling establishment of late colonizer is facilitated by seedling and overstory of early colonizer in a post-mined peatland. *Plant Ecology*, 212, 369-381.
- H. Seddik, *R. Greve*, L. Placidi, I. Hamann and O. Gagliardini, 2008. Application of a continuum-mechanical model for the flow of anisotropic polar ice to the EDML core, Antarctica. *Journal of Glaciology*, 54 (187), 631-642.
- Hayakwa, M., *Suzuki K.*, Saito H., Takahashi K., and Ito S., 2008. Differences in cell viabilities of phytoplankton between spring and late summer in the northwest Pacific Ocean. *Journal of Experimental Marine Biology and Ecology*, 360, 63-70.
- Hiraike, Y. and *Ikeda M.*, 2009. Descending surface water at the Antarctic marginal ice zone and its contribution to the Intermediate Water using an ice-ocean model. *J. Oceanogr.*, 65, 587-603.
- Ho Sze Ling, Yamamoto M., Mollenhauer Gesine, *Minagawa M.*, 2010. Core top TEX86 values in the south and equatorial Pacific. *Organic Geochemistry*.
- Hongwen Yu, *Fugetsu B.*, 2008. Use of Ultra-thin Cross-Linked Polymer Films for Preparation of Stable Mono-Dispersed Carbon Nanotubes. *Materials Letters*, 4050-4052.
- Hongwen Yu, *Fugetsu, B.*, 2010. A novel adsorbent obtained by inserting carbon nanotubes into cavities of diatomite and applications for organic dye elimination from contaminated water. *Journal of Hazardous Materials*, 177, 138-145.
- Karim R., *Ikeda M.*, *Ishikawa M.*, 2011. Recent Climatic Effects on Seasonal Rice Yields in Bangladesh: A statistical overview. *Journal of Agricultural Science and Technology*.
- Kataoka T., *Suzuki K.*, Hayakawa M., *Higashi S.*, and Tsuda A., 2009. Temporal changes in community composition of heterotrophic bacteria during in situ iron fertilization experiment in the western subarctic Pacific (SEEDS-II). *Deep-Sea Research II*, 56, 2779-2787.
- Kataoka T., *Suzuki K.*, Hayakawa M., Kudo I., *Higashi S.* and Tsuda A., 2009. Temporal changes in community composition of heterotrophic bacteria during in situ iron enrichment in the western subarctic Pacific (SEEDS-II). *Deep-Sea Research part II Topical studies in oceanography special issue*.
- Kataoka, T., Hodoki Y., *Suzuki K.*, Saito H., and *Higashi S.*, 2009. Detection of UVBR-sensitive and -tolerant bacteria in surface waters of the western North Pacific. *Journal of Photochemistry and Photobiology: B: Biology*, 95, 108-116.
- Kataoka, T., Hodoki Y., *Suzuki K.*, Saito H., and *Higashi S.*, 2009. Tempo-spatial patterns of bacterial community composition in the western North Pacific Ocean. *Journal of Marine Systems*, 77, 197-207.
- Kawakami M., *Inagawa R.*, Hosokawa T., Saito T. and *Kurasaki M.*, 2008. Mechanism of apoptosis induced by copper in PC12 cells. *Food and Chemical Toxicology*, 46, 2157-2164.
- Kido M., Yustiawati S. M. Suhaemi, S., Hosokawa T., Tanaka S., Saito T., *Iwakuma T.*, *Kurasaki M.*, 2009. Comparison of general water quality of rivers in Indonesia and Japan. *Environmental Monitoring and Assessment*, 156, 317-329.
- Kimura, H., *Tsuyuzaki, S.*, 2011. Fire severity affects vegetation and seed bank in a wetland. *Applied Vegetation Science* (in press).
- Koropitan, A. and *Ikeda M.*, 2008. Three-dimensional modeling of tidal circulation and mixing over the Java Sea. *J. Oceanogr.*, 64, 61-80.
- Lim C., Ikehara K., *Toyoda K.*, 2008. Cryptotephra detection using high-resolution trace-element analysis of Holocene marine sediments, southwest Japan. *Geochimica et Cosmochimica Acta*, 72, 5022-5036.
- Lin, C., *Fugetsu, B.*, Su, Y., Watari, F., 2009. Studies on toxicity of multi-walled carbon nanotubes on Arabidopsis T87 suspension cells. *Journal of Hazardous Materials*, 170, 578-583.
- Matsuura H., Yazaki I. and *Okino T.*, 2009. Induction of larval metamorphosis in the sea cucumber *Apostichopus japonicus* by neurotransmitters. *Fisheries Science*, 75, 777-783.
- Miyamaru F., Saito Y., M. W. Takeda, B. Hou, W. Wen, and P. Sheng, 2010. Characteristics of Terahertz Radiation Emitted From Fractal Photoconductive Antennas. *Japanese journal of applied physics*, 49, 70205.
- Miyamaru F., Saito Y., Takeda M. W., L. Liu, B. Hou, W. Wen, and P. Sheng, 2009. Emission of terahertz radiations from fractal antennas. *Applied Physics Letters*, 95, 221111.
- Miyamaru F., Saito Y., Yamamoto, K., Furuya T., Nishizawa S., Tani M., 2010. Dependence of emission of terahertz radiation on geometrical parameters of dipole photoconductive antennas. *Applied Physics Letters*, 96, 21104.
- Nagaoka D., Shigemitsu M., *Minagawa M.*, and Noriki S., 2010. Anthropogenic Pb in Settling Particulate Matter in the Northwestern Pacific Examined Using Stable Isotopes of Pb. *Journal of Oceanography*, 66, 117-132.

- Nomoto K., Omiya H., Sugimoto T., Akiba K., Edo K., and Higashi S., 2010. Potential negative impacts of introduced rainbow trout on endangered Sakhalin taimen in an agricultural stream, eastern Hokkaido. *Ecology of Freshwater Fish*, 19, 116-126.
- Placidi, L., R. Greve, H. Seddik and S. H. Faria, 2010. Continuum-mechanical, Anisotropic Flow model for polar ice masses, based on an anisotropic Flow Enhancement factor. *Continuum Mechanics and Thermodynamics*, 22 (3), 221-237.
- Rudy Syah Putra, Tanaka S., 2011. Aluminum drinking water treatment residuals (Al-WTRs) as an entrapping zone for lead in soil by electrokinetic remediation. *Separation and Purification Technology*, 79, 208-215.
- S. Bargmann, H. Seddik and R. Greve, 2011. Computational modeling of flow-induced anisotropy of polar ice for the EDML deep drilling site, Antarctica: The effect of rotation recrystallization and grain boundary migration. *International Journal for Numerical and Analytical Methods in Geomechanics*.
- Tan X., Fugetsu, B., 2009. Studies on toxicity of multi-walled carbon nanotubes on suspension rice cells. *Carbon*, 47, 3479-3487.
- Umezawa, T., Shitaba, T., Kaneko K., Okino T., Matsuda F., 2011. Asymmetric total synthesis of danicalipin A and evaluation of biological activity. *Organic Letters*, 13 (5), 904-907.
- Y.Dai, Mihara Y., Tanaka S., Watanabe K., Terui N., 2010. Nitrobenzene-adsorption capacity of carbon materials released during the combustion of woody biomass. *J.Hazardous Materials*, 174, 776-781.
- Yingjie DAI, Terui N., Yongbo Lin, Tanaka S., Jin K., Hiramaya Y., Teduka M., Milin ZHANG, Xiande SHEN, and Fugetsu, B., 2010. Determination of Nitrobenzene in Water and Ice Samples Collected from the Songhua River after an Explosion of a Petrochemical Plant and Investigation on Enclosing Behavior of Nitrobenzene into Ice. *Anal.Sci.*
- 手塚正博, 城昌治, 代英杰, 田中俊逸, 若杉郷臣, 西岡健, 2010. 氷ろ過装置の開発. *化学工学論文集*, 36, 181-187.
- 代英杰, 小島陽一郎, 松田從三, 田中俊逸, 2009. 有機性廃棄物を材料とした浄化槽用シーディング剤の汚水浄化効果. *廃棄物資源循環学会誌*, 20(3), 189-195.
- 中尾有伸, 山野博哉, 藤井賢彦, 山中康裕, 2009. 日本のサンゴ礁データベースの作成と分析. *日本サンゴ礁学会誌*, 11, 109-129.
- 田中恵理子, 代英木, 林永波, 古月文志, 田中俊逸, 神和夫, 平間裕志, 2009. 化学工場爆発事故後に採取した松花江の魚試料中のニトロベンゼンの定量. *分析化学*, 58, 807-813.
- 鈴木耕平, 佐藤冬樹, 柴田英昭, 早柏慎太郎, 上浦達也, 工藤真理子, 笹賀一郎, 2011. 北方針広混交林流域における森林施業が溶存鉄およびDOCの溪流流出に与える影響. *日本森林学会北海道支部論文集*, 59, 71-73.

地球圏科学専攻

- Agarwal, S., Aggarwal, S. G., Okuzawa, K., Kawamura, K., 2010. Size Distributions of Dicarboxylic Acids, Ketoacids, α -Dicarbonyls, Sugars, WSOC, OC, EC and Inorganic Ions in Atmospheric Particles Over Northern Japan: Implication for Long-Range Transport of Siberian Biomass Burning and East Asian Polluted Aerosols. *ATMOSPHERIC CHEMISTRY AND PHYSICS*, 10, 6713-6754.
- Aniya, M., Skvarca, P., Sugiyama, S., Aoki, T., Matsumoto, T., Anma, R., Naito, N., Enomoto, H., Hori, K., Marinsek, S., Konya, K., Nuimura, T., Tsutaki, S., Tone K., Barcaza, G., 2011. Glaciological research project in Patagonia 2006-2009: Studies at Glaciar Perito Moreno, Hielo Patagónico Sur, in area of Hielo Patagónico Norte and along the Pacific Coast. *Bulletin of Glaciological Research*, 30, 1-17.
- Aoki, K., Kutsuwada, K., 2008. Verification of wind-driven transport in the North Pacific subtropical gyre using gridded wind stress product. *Journal of Oceanography*, 64, 49-60.
- Aoki, K., 2008. Revised age and distribution of ca. 87 ka Aso-4 tephra based on new evidence from the northwest Pacific Ocean. *Quaternary International*, 178, 100-118.
- Aoki, K., Kubokawa, A., Sasaki, H., Sasai, Y., 2009. Midlatitude Baroclinic Rossby Waves in a High-Resolution OGCM Simulation. *Journal of Physical Oceanography*, 39, 2264-2279.
- Aoki, S., Fujii, N., Ushio, S., Yoshikawa, Y., Watanabe, S., Mizuta, G., Fukamachi, Y., Wakatsuchi, M., 2008. Deep western boundary current and southern frontal systems of the Antarctic Circumpolar Current southeast of the Kerguelen Plateau. *Journal of Geophysical Research*, 113.
- Chikamoto, M. O., Matsumoto, K., Yamanaka, Y., 2009. Influence of export rain ratio changes on atmospheric CO₂ and sedimentary calcite preservation. *Journal of Oceanography*, 65, 209-221.
- Chikamoto, Y., Tanimoto, Y., Mukougawa, H., Kimoto, M., 2010. Relationship of summer monsoon Rainfall over Nepal with moisture flux and large scale atmospheric circulations. *Journal of the Meteorological Society of Japan*, 88, 183-202.
- Fudeyasu, H., Ichiyanaagi, K., Sugimoto, A., Yoshimura, K., Ueta, A., Yamanaka, M., Ozawa, K., 2008. Isotope ratios of precipitation and water vapor observed in typhoon Shanshan. *Journal of Geophysical Research*, 113, D12113.
- Fujiwara, C., Yamashita, K., Nakanishi, M., Fujiyoshi, Y., 2011. Dust devil-like vortices in an urban area detected by a 3-D scanning Doppler lidar. *Journal of Applied Meteorology and Climatology*, 50, 534-547.
- Fujiwara, M., Iwasaki, S., Shimizu, A., Inai, Y., Shiotani, M., Hasebe, F., Matsui, I., Sugimoto, N., Okamoto, H., Nishi, N., Hamada, A., Sakazaki, T., Yoneyama, K., 2009. Cirrus observations in the tropical tropopause layer over the western Pacific. *Journal of Geophysical Research*, 114, D09304, doi:10.1029/2008JD011040.
- Fujiyoshi Y., Fujiwara C., Yamashita K., 2009. Detection of organized airflow in the atmospheric boundary layer using a 3D-scanning coherent Doppler lidar Proceedings. Society of Photographic Instrumentation Engineers, Vol. 7382, 738204.
- Fukamachi, Y., Ohshima, K. I., Mukai, Y., Mizuta, G., Wakatsuchi, M., 2011. Sea-ice drift characteristics revealed by measurement of acoustic Doppler current profiler and ice-profiling sonar off Hokkaido in the Sea of Okhotsk. *Annals of Glaciology*, 57, 1-8.
- Fukuda, T., Sugiyama, S., Matoba, S., Shiraiwa, T., 2011. Glacier flow measurement and radio-echo sounding at Aurora Peak, Alaska, in 2008. *Annals of Glaciology*, 52(58), 49-54.

- Hattori-Saito, A., Nishoka, J., Ono, T., McKay, R. M. L., Suzuki, K., 2010. Fe deficiency in micro-sized diatoms in the Oyashio region of the western subarctic Pacific during spring. *Journal of Oceanography*, 66, 117-132.
- He, N., Kawamura, K., 2010. Distributions and diurnal changes of low molecular weight organic acids and α -dicarbonyls in suburban aerosols collected at Mangshan, North China. *Geochemical Journal*, 44, e17-e22.
- Hirata, T., Hardman-Mountford, N., Brewin, R., Aiken, J., Barlow, R., Suzuki, K., Isada, T., Howell, E., Hashioka, T., Noguchi-Aita, M., Yamanaka, Y., 2011. Synoptic relationships quantified between surface Chlorophyll-a and diagnostic pigments specific to phytoplankton functional types. *Biogeosciences*, 8, 311-327.
- Iijima, Y., Aoki, S., Kutsuwada, T., 2009. The Antarctic Oscillation and Southern Ocean sea surface height basin mode. *J. Oceanogr.*, 65 (1), 53-60.
- Iizuka, Y., Horikawa, S., Sakurai, T., Johnson, S., Dahl-Jensen, D., Steffensen, J.P., Hondoh, T., 2008. A relationship between ion balance and the chemical compounds of salt inclusions found in the GRIP and Dome Fuji ice cores. *Journal of Geophysical Research*, 113, D07303.
- Iizuka, Y., Ohno, H., Sakurai, T., Horikawa, S., Hondoh, T., 2009. Chemical compounds of water-soluble impurities in Dome Fuji ice core. *Physics of Ice Core Records*, 2nd volume.
- Iizuka, Y., Ohno, H., Sakurai, T., Horikawa, S., Hondoh, T., 2010. Chemical compounds of water-soluble impurities in Dome Fuji ice core. *Physics of Ice core Record* 2, 273-285.
- Inagaki, M., Yamamoto, M., Igarashi, Y., Ikehara, K., 2009. Biomarker records from Core GH02-1030 off Tokachi in the northwestern Pacific over the last 23,000 years; Environmental changes during the last deglaciation. *Journal of Oceanography*, 65, 847-858.
- Inai, Y., Hasebe, F., Shimizu, K., Fujiwara, M., 2009. Correction of radiosonde pressure and temperature measurements using simultaneous GPS height data. *Scientific Online Letters on the Atmosphere*, 5, 109-112, doi:10.2151/sola.2009-028.
- Isada, T., Kuwata, A., Saito, H., Ono, T., Ishii, M., Yoshikawa-Inoue, H., Suzuki, K., 2009. Photosynthetic features and primary productivity of phytoplankton in the Oyashio and Kuroshio-Oyashio transition regions of the northwest Pacific. *Journal of Plankton Research*, 31, 1009-1025.
- Isada, T., Hattori-Saito, A., Saito, H., Ikeda, T., Suzuki, K., 2010. Primary productivity and its bio-optical modeling in the Oyashio region, NW Pacific during the spring bloom 2007. *Deep-Sea Research II*, 57, 1653-1664.
- Isono, D., Yamamoto, M., Irino, T., Oba, T., Murayama, M., Nakamura, T., Kawahata, K., 2009. The 1, 500-year climate oscillation in the mid-latitude North Pacific during the Holocene. *Geology*, 37, 591-594.
- KANAMORI, Syosaku., BENSON, Carl S., TRUFFER, Martin., MATOKA, Sumito., SOLIE, Daniel J., SHIRAIWA, Takayuki., 2008. Seasonality of snow accumulation at Mount Wrangell, Alaska. *USA JOURNAL OF GLACIOLOGY*, 54, 273-278.
- Kanaya, Y., Pochanart, P., Liu, Y., LI, J., Tanimoto, H., Kato, S., Suthawaree, J., Inomata, S., Taketani, F., Okuzawa, K., Kawamura, K., Akimoto, H., Wang, Z., 2009. Rates and regimes of photochemical ozone production over central east china in June 2006: a box model analysis using comprehensive measurements of ozone precursors. *ATMOSPHERIC CHEMISTRY AND PHYSICS*, 9, 7711-7723.
- Kawaguchi, Y. and Mitsudera, H., 2008. Numerical Study of Ice-Drift Divergence by a Cyclonic Wind with a Lagrangian ice model. *Tellus A*, DOI: 10.1111/j.1600-0870.2008.00321.x.
- Kawaguchi, Y., Nishashi, S., Mitsudera, H., Ohshima, K. I., 2010. Formation mechanism of huge coastal polynyas and its application to Okhotsk Northwestern Polynya. *Journal of Physical Oceanography*, 40(11), 2451-2465.
- Kawaguchi, Y., Tamura, T., Mitsudera, H., Nishino, S., Kikuchi, T., and Itoh, M., 2011. Numerical Study of Winter Water Formation in the Chukchi Sea: Roles and Impacts of Coastal Polynyas. *Journal of Geophysical Research - oceans*, 116, C07025, doi:10.1029/2010JC006606.
- Kawaguchi, Y., Mitsudera, H., 2009. Effects of along-shore wind on DSW formation beneath coastal polynyas: Application to the Sea of Okhotsk. *JOURNAL OF GEOPHYSICAL RESEARCH-OCEANS*, 114, C10013.
- Kawashima, Masayuki, Fujiyoshi, Yasushi., Ohi, Masayuki., Mori, Syuuichi., Sakurai, Nammiko., Abe, Yoshiko., Harjupa, Wendi., Syamsudin Fadli, Yamanaka Manabu, 2011. Case study an intense wind event associated with a mesoscale convective system in west Sumatera during the HARIMAU2006 campaign. *JOURNAL OF THE METEOROLOGICAL SOCIETY OF JAPAN*, 89A, 239-257.
- Kitamori, Y., Mochida, M., Kawamura, K., 2009. Assessment of the liquid water content in urban aerosol particles by the hygroscopic growth measurements in Sapporo, Japan. *Atmospheric Environment* 43, 3416-3423.
- Komatsu, T., Watanabe, T., Hirakawa, K., 2010. A framework for Late Quaternary lake-level fluctuations in Lake Karakul, eastern Pamir, focusing on lake-glacier landform interaction. *Geomorphology*, 119, 198-211.
- Komatsu Tetsuya., 2009. Field Photographs of geomorphic features in the Lake Karakul region, eastern Pamirs. *地理学論集*, 84, 44-50.
- Konno, U., Tsunogai, U., Komatsu, D. D., Daita, S., Nakagawa, F., Tsuda, A., Matsui, T., Eum, Y.-J., Suzuki, K., 2010. Determination of total N₂ fixation rates in the ocean taking into account both the particulate and filtrate fractions. *Biogeosciences*, 7, 2369-2377.
- Koseki, S., Watanabe, M., 2010. Atmospheric Boundary Layer Response to Meso-scale SST anomalies in the Kuroshio Extension. *Journal of Climate*, 23, 2492-2507.
- Kundu, S., Kawamura, K., Andreae, T. W., Hoffer, A., Andreae, M. O., 2010. Molecular distributions of dicarboxylic acids, ketocarboxylic acids and α -dicarbonyls in biomass burning aerosols: implications for photochemical production and degradation in smoke layers. *ATMOSPHERIC CHEMISTRY AND PHYSICS*, 10, 2209-2225.
- Kundu, S., Kawamura, K., Lee, M., 2010. Seasonal variation of the concentrations of nitrogenous species and their nitrogen isotopic ratios in aerosols at Gosan, Jeju Island: Implications for atmospheric processing and source changes of aerosols. *Journal of Geophysical Research*, 115, D20305.

- Kundu, S., Kawamura, K., Lee, M., 2010. Seasonal variations of diacids, ketoacids and α -dicarbonyls in marine aerosols at Gosan, Jeju Island: Implications for their formation and degradation during long-range transport. *Journal of Geophysical Research*, 115, D19307.
- Kundu, S., Kawamura, K., Lee, M., Andreae, T. W., Hoffer, A., Andreae, M. O., 2010. Comparison of Amazonian biomass burning and East Asian marine aerosols: Bulk organics, diacids and related compounds, water-soluble inorganic ions, stable carbon and nitrogen isotope ratios. *Low Temperature Science*, 68, 89-100.
- Kurihara, M. K., Kimura, M., Iwamoto, Y., Narita, Ooki, A., Y., Eum, Y.-J., Tsuda, A., Suzuki, K., Tani, Y., Yokouchi, Y., Uematsu, M., Hashimoto, S., 2010. Linkage between ocean and air in short-lived iodocarbons and oceanic distributions of biogenic trace gases in the Western North Pacific. *Marine Chemistry*, 118, 156-170.
- Kusahara, K., Hasumi, H., Tamura, T., 2010. Modeling sea ice production and dense shelf water formation in coastal polynyas around East Antarctica. *Journal of Geophysical Research*, 115, C10006.
- Kusahara, K., Ohshima, K. I., 2009. Dynamics of the wind-driven sea level variation around Antarctica. *Journal of Physical Oceanography*, 39, 658-674.
- Madan, S., Ikeda, M., Tanimoto, Y., 2009. Relationship of summer monsoon Rainfall over Nepal with moisture flux and large scale atmospheric circulations. *Journal of the Meteorological Society of Japan*, in revision.
- Matoba, S., Shiraiwa, T., Tsushima, A., Sasaki, H., Muravyev, Y. D., 2011. Records of sea-ice extent and air temperature at the Sea of Okhotsk from an ice core of Mount Ichinsky, Kamchatka. *ANNALS OF GLACIOLOGY*, 58, 44-50.
- Matsuda, J., Mitsudera, H., Nakamura, T., Uchimoto, K., Nakanowatari, Takuya., Ebuchi, N., 2009. Wind and buoyancy driven intermediate-layer overturning in the Sea of Okhotsk. *Deep sea Research Part I*, 56, 1401-1413.
- Misumi, K., Yamanaka, Y., 2008. Ocean anoxic events in the mid-Cretaceous simulated by a 3-D biogeochemical general circulation model. *CRETACEOUS RESEARCH*, 29, 893-900.
- Misumi, K., Yamanaka, Y., Tajika, E., 2009. Numerical simulation of atmospheric and oceanic biogeochemical cycles to an episodic CO₂ release event: implications for the cause of mid-Cretaceous Ocean Anoxic Event-1a. *Earth and Planetary Science Letters*, 286, 316-323.
- Miyazaki, Y., Kawamura, K., Sawano, M., 2010. Size distributions and chemical characterization of water-soluble organic aerosols over the western North Pacific in summer, *J. Geophys. Res.*, 115, D23210, doi:10.1029/2010JD014439.
- Miyazaki, Y., Kawamura, K., Sawano, M., 2010. Size distributions of organic nitrogen and carbon in remote marine aerosols: Evidence of marine biological origin based on their isotopic ratios, *Geophys. Res. Lett.*, 37, L06803, doi:10.1029/2010GL042483.
- Nihashi, S., Ohshima, K. I., 2008. Bulk heat transfer coefficient in the ice-upper ocean system in the ice melt season derived from concentration-temperature relationship. *Journal of Geophysical Research*, 13, C06008, doi:10.1029/2007JC004127.
- Nihashi, S., Ohshima, K. I., Nakasato, H., 2011. Sea-ice retreat in the Sea of Okhotsk and the ice-ocean albedo feedback effect on it. *Journal of Oceanography*, 67, doi:10.1007/s10872-011-0056-x.
- Nihashi, S., Ebuchi, N., Fukamachi, Y., Takahashi, S., 2011. Characteristics of sea ice in the Okhotsk coastal polynyas revealed from satellites, ice-profiling sonar, and digital camera observations. *Annals of Glaciology*, 52(57), 133-139.
- Nihashi, S., Ohshima, K. I., Tamura, T., Fukamachi, Y., Saitoh, S., 2009. Thickness and production of sea ice in the Okhotsk Sea coastal polynyas from AMSR-E. *Journal of Geophysical Research - Oceans*, 114, C10025.
- NOMURA Daiki., SHIRASAWA Kunio, GRADINGER Rolf, EICKEN Hajo., 2010. Rapid physically driven inversion of the air-sea ice CO₂ flux in the seasonally landfast ice off Barrow, Alaska after onset of surface melt. *Continental Shelf Research*, 30, 1998-2004.
- Nomura, D., Nishioka, J., Granskog, M.A., Krell, A., Matoba, S., Toyota, T., Hattori, H., Shirasawa, K., 2010. Nutrient distributions associated with snow and sediment-laden layers in sea ice of the southern Sea of Okhotsk. *Marine Chemistry*, Vol. 119, 1-8.
- NOMURA, Daiki., OOKI Atsushi., SIMIZU Daisuke., FUKUCHI Mitsuo., 2011. Bromoform concentrations in slush-layer water in Antarctic fast ice. *Antarctic Science*, 1-6.
- Nomura, D., Ishikawa, M., Takatsuka, T., Kawamura, T., Shirasawa, K., Yoshikawa-Inoue, H., 2009. Transport of chemical components in sea ice and under-ice water during melting in the seasonally ice-covered Saroma-ko Lagoon, Hokkaido, Japan Estuarine. *Coastal and Shelf Science*, 81, 201-209.
- Nomura, D., Yoshikawa-Inoue, H., Toyota, T., Shirasawa, K., 2010. Effect of snow, snow melting, and re-freezing processes on air-sea ice CO₂ flux. *JOURNAL OF GLACIOLOGY* 1., 56, No196, 262-270.
- Ohshima, K. I. Simizu, D., 2008. Particle tracking experiments on a model of the Okhotsk Sea: toward oil spill simulation. *Journal of Oceanography*, 64, 103-114.
- Ohtake, H., Kawashima, M., Fujiyoshi, Y., 2009. The formation mechanism of a thick cloud band over the northern part of the Sea of Japan during cloud air outbreaks. *Journal of the Meteorological Society of Japan*, 87(2), 289-306.
- OMIYA Satoshi, SATO Atsushi, KOSUGI Kenji, MOCHIZUKI Shigeto, 2011. Estimation of the electrostatic charge of individual blowing snow particles by wind tunnel experiment. *Annals of Glaciology*, 52(58), 148-152.
- Ono, J., Ohshima, K. I., Mizuta, G., Fukamachi, Y., Y., Wakatsuchi, M., 2008. Diurnal coastal-trapped waves on the eastern shelf of Sakhalin in the Sea of Okhotsk and their modification by sea ice. *Continental Shelf Research*, 28, 6, 697-709.
- Ono, J., Ohshima, K. I., 2010. Numerical model studies on the generation and dissipation of the diurnal coastal-trapped waves over the Sakhalin shelf in the Sea of Okhotsk. *Continental Shelf Research*, 30, doi:10.1016/j.csr.2009.06.006, 588-597.
- Saito, T., Stein, O., Tsunogai, U., Kawamura, K., Nakatsuka, T., Gamo, T., Yoshida, N., 2011. Stable carbon isotope ratios of ethane over the North Pacific: atmospheric measurements and global chemical transport modeling *Journal of Geophysical Research*, 116, D02308.

- Sakamoto, I., Watanabe, Y. W., Kido, K., Osawa, M., Noriki, S., 2008. Time series of multiple chemical parameters of CO₂ in Otaru coast in Hokkaido, Japan: Evidence of the important role of coastal region for CO₂ flux between air and Sea. *Estuarine, Coastal and Shelf Science*, 79, 37-386.
- Sakazaki, T., Fujiwara, M., 2010. Diurnal variations in lower-tropospheric wind over Japan. Part II: Analysis of Japan Meteorological Agency mesoscale analysis data and four global reanalysis data sets. *Journal of the Meteorological Society of Japan*, 88, No. 3, 349-372, doi:10.2151/jmsj.2010-306.
- Sakazaki, T., Fujiwara, M., 2008. Diurnal variations in summertime surface wind upon Japanese plains: Hodograph rotation and its dynamics. *Journal of the Meteorological Society of Japan*, 86, No. 5, 787-803.
- Sakazaki, T., Fujiwara, M., 2010. Diurnal variations in lower-tropospheric wind over Japan. Part I: Observational results using the Wind profiler Network and Data Acquisition System (WINDAS). *Journal of the Meteorological Society of Japan*, 88, No. 3, 325-347, doi:10.2151/jmsj.2010-305.
- Sakazaki, T., Fujiwara, M., Hashiguchi, H., 2010. Diurnal variations of upper tropospheric and lower stratospheric winds over Japan as revealed with middle and upper atmosphere radar (34.85N, 136.10E) and five reanalysis data sets. *Journal of Geophysical Research*, 115, D24104, doi:10.1029/2010JD014550.
- Sakurai, T., Iizuka, Y., Horikawa, S., Johnsen, S., Dahl-Jensen, D., Steffensen, J.P., Hondoh, T., 2009. Direct observation of salts as micro-inclusions in the Greenland GRIP ice core. *Journal of Glaciology*, 55(193), 777-783.
- Sakurai, T., Ohno, H., Horikawa, S., Iizuka, Y., Uchida, T., Hondoh, T., 2010. A technique for measuring microparticles in polar ice using micro Raman spectroscopy. *International Journal of Spectroscopy*.
- Sakurai, T., Ohno, H., Genceli, F. E., Horikawa, S., Iizuka, Y., Uchida, T., Hondoh, T., 2010. Magnesium methanesulfonate salt found in the Dome Fuji ice core. *Journal of Glaciology*, 56, 199.
- Shigemitsu, M., Watanabe, Y. W., et al., 2011. Relationship between sinking organic matter and minerals in the shallow zone of the western subarctic Pacific. Accepted in *Journal of Oceanography*. *Journal of Oceanography*, vol.66, 5, 697-708.
- Shigemitsu, M., Watanabe, Y. W., Narita, H., 2008. Time variations of $\delta^{15}\text{N}$ of organic nitrogen in deep western subarctic Pacific over the last 145 kyr. *Geochemistry, Geophysics, Geosystems* 9(10), Q10012.
- Shigemitsu, M., Watanabe, Y. W., Narita, H., 2009. Sedimentary inorganic nitrogen and its isotope ratio in the western subarctic Pacific over the last 145 kyr. *Journal of Oceanography*, 65, 541-548.
- Shigemitsu, M., Yamanaka, Y., Watanabe, Y. W., Maeda, N., Noriki, S., 2010. Seasonal characteristics of the nitrogen isotope biogeochemistry of settling particles in the western subarctic Pacific: a model study. *Earth and Planetary Science Letters* vol.293: 1-2, 180-190.
- Shimamura, M., Hyeong, K., Yoo, C.-M., Watanabe, T., Irino, T., Jung H.-S., 2008. High resolution stable isotope records of scleractinian corals near Ishigaki Island: Their implication as a potential paleoclimatic recorder in middle latitude regions. *Geoscience Journal*, 12, 25-31, 2008.
- Shimamura, M., Irino, T., Oba, T., Xu, G., Lu, B., Wang, L., Toyoda, K., 2008. Main controlling factors of coral skeletal carbon isotopic composition and skeletal extension rate: High-resolution study at Hainan Island, South China Sea. *Geochemistry, Geophysics, Geosystems*, 9, Q04024, <http://dx.doi.org/10.1029/2007GC001789> 16 April 2008.
- Shimizu, K., Hasebe, F., 2010. Fast-response high-resolution temperature sonde aimed at contamination-free profile observations. *ATMOSPHERIC MEASUREMENT TECHNIQUES*, 3, 1673-1681.
- Shintani, T., Yamamoto, M., Chen, M.-T., 2008. Slow warming of the northern South China Sea during the last deglaciation. *Terrestrial, Atmospheric, and Oceanic Sciences* vol. 19, 4, 341-346.
- Shintani, T., Yamamoto, M., Chen, M.-T., 2011. Paleoenvironmental changes in the northern South China Sea over the past 28,000 years: a study of TEX86-derived sea surface temperatures and terrestrial biomarkers. *Journal of the Asian Earth Science*, 40, 1221-1229.
- SUGIMOTO, F., TATEYAMA, K., ENOMOTO, H., SHIRASAWA, K., 2010. Snow depth and sea-ice thickness measurements by drilling and an electromagnetic-induction technique in the Southern Ocean in 2003 and 2007. *Proceedings of the 20th IAHR International Symposium on Ice*, Lahti, Finland, June 14 to 18, 2010 (CD-ROM).
- Sugiyama, S., Skvarca, P., Naito, N., Tone, K., Enomoto, H., Shinbori, K., Marinsek, S., Aniya, M., 2010. Hot-water drilling at Glaciar Perito Moreno, Southern Patagonia Icefield. *Bulletin of Glaciological Research*, 29, 27-32.
- Sugiyama, S., Tsutaki, S., Nishimura, D., Blatter, H., Bauder, A., Funk, M., 2008. Hot water drilling and glaciological observations at the terminal part of Rhonegletscher, Switzerland in 2007. *Bulletin of Glaciological Research*, 26, 41-47.
- Sugiyama, S., Yoshizawa, T., Huss, M., 2011. Changes in glacier dynamics under the influence of proglacial lake formation in Rhonegletscher, Switzerland. *Annals of Glaciology*, 52(58), 31-36.
- Suzuki, K., Saito, H., Isada, T., Hattori-Saito, A., Kiyosawa, H., Nishioka, J., McKay, R. M. L., Kuwata, A., Tsuda, A., 2009. Community structure and photosynthetic physiology of phytoplankton in the northwest subarctic Pacific during an in situ iron fertilization experiment (SEEDS-II). *Deep-Sea Research II*, 56, 2733-2744.
- Takamura, T., Ishii, M., Midorikawa, T., Nojiri, Y., Yoshikawa-Inoue, H., 2010. Seasonal and inter-annual variations in pCO₂sea and air-sea CO₂ fluxes in mid-latitudes of the western and eastern North Pacific during 1999-2006: recent results utilizing voluntary observation ships. *JOURNAL OF THE METEOROLOGICAL SOCIETY OF JAPAN*, 88, No6, 883-898.
- Tamura, T., Ohshima, K. I., 2011. Mapping of sea ice production in the Arctic coastal polynyas. *Journal of Geophysical Research*, 116, C07030, doi:10.1029/2010JC006586.
- Tamura, T., Ohshima, K. I., Nishihashi, S., 2008. Mapping of sea ice production for Antarctic coastal polynyas. *Geophysical Research Letters*, 35, L07606.
- Tamura, T., Ohshima, K. I., Nishihashi, S., Hasumi, H., 2011. Estimation of surface heat/salt fluxes associated with sea ice growth/melt in the Southern Ocean. *Scientific Online Letter on the Atmosphere*, 7, 17-20.

- Tanimoto, Y., Xie, S.-P., Kai, K., Okajima, H., Tokinaga, H., Murayama, T., Nonaka, M., Nakamura, H., 2009. Observations of marine atmospheric boundary layer transitions across the summer Kuroshio Extension. *Journal of Climate*, 22, 1360-1374.
- Tsutaki, S., Nishimura, D., Yoshizawa, T., Sugiyama, S., 2011. Changes in glacier dynamics under the influence of proglacial lake formation in Rhonegletscher, Switzerland. *Annals of Glaciology*, 52(58), 31-36.
- Tsutaki, S., Sugiyama, S., 2009. Development of a hot water drilling system for subglacial and englacial measurements. *Bulletin of Glaciological Research*, 27, 7-14.
- Udagawa Yuhstake, Tachibana Yoshihiro, Yamazaki Koji, 2009. Modulation in interannual sea-ice patterns in the Southern Ocean in association with large-scale atmospheric mode shift. *Journal of Geophysical Research*, 114, D21103.
- Valsala, K.V., Maksyutov, S., Ikeda, M., 2008. Design and validation of an offline oceanic tracer transport model for carbon cycle study. *JOURNAL OF CLIMATE*, 21, 2752-2769.
- Watanabe, T., Lamsal, D., Ives, J.D., 2009. Evaluating the growth characteristics of a glacial lake and its degree of danger of outburst flooding: Imja Glacier, Khumbu Himal, Nepal. *Norsk Geografisk Tidsskrift (Norwegian Journal of Geography)*, 63, 255-267.
- Watanabe, Y. W., Nishioka, J., Shigemitsu, M., Mimura, A., Nakatsuka, T., 2009. Influence of riverine alkalinity on carbon species in the Okhotsk Sea. *Geophysical Research Letters*, 36(15), L15604.
- Watanabe, Y. W., Shigemitsu, M., Tadokoro, K., 2008. Evidence of change in oceanic fixed nitrogen with decadal climate change in the North Pacific subpolar region. *Geophysical Research Letters* 35, L01602.
- Williams, G. D., Hindell, M., Houssais, M.-N., Tamura, T., Field, I. C., 2011. Upper ocean stratification and sea ice growth rates during the summer-fall transition, as revealed by Elephant seal foraging in the Adelie Depression, East Antarctica. *Ocean Science Discussions*, 7, 185-202.
- Williams, G. D., Meiners, A. J. S., Poole, A., Mathiot, P., Tamura, T., 2011. Late winter oceanography off the Sabrina and BANZARE coast (117-128E), East Antarctica. *Deep-Sea Research Part II*, 58, 1194-1210.
- Williams, G. D., Aoki, S., Jacobs, S. S., Rintoul, S. R., Tamura, T., Bindoff, N., 2010. Antarctic Bottom Water from the Adelie and George V Land coast, East Antarctica (140-149E). *Journal of Geophysical Research*, 115, C04027.
- Yamamoto, A., Yamanaka, Y., Tajika, E., 2009. Modeling of methane bubbles released from sea-floor gas hydrate: Condition required for methane emission to the atmosphere. *Earth and Planetary Science Letters*, 284, 590-598.
- Yasunari J. Teppei, Yamazaki Koji, 2009. Origins of air masses over an Alaskan glacier and implications for ice core studies in the North Pacific region. *SOLA*, 5, 77-80.
- Yasunari J. Teppei, Yamazaki Koji, 2009. Impact of Asian dust storm associated with the stratosphere-troposphere transport in the spring of 2001 and 2002 on dust and tritium variations in Mount Wrangell ice core, Alaska. *Atmospheric Environment*, 43, 2582-2590.
- Yasunari, T. J., Yamazaki, K., 2009. Impacts of Asian dust storm associated with the stratosphere-to-troposphere transport in the spring of 2001 and 2002 on dust and tritium variations in Mount Wrangell ice core, Alaska. *Atmospheric Environment*, Volume 43, Issue 16, 2509-2682.
- Yoneyama, K., Fujita, M., Sato, N., Fujiwara, M., Inai, Y., Hasebe, F., 2008. Correction for radiation dry bias found in RS92 radiosonde data during the MISMO field experiment. *Scientific Online Letters on the Atmosphere*, 4, 13-16.
- Yoshida Kohei, Yamazaki Koji, 2010. Role of vertical eddy heat flux in the response of tropical tropopause temperature to changes in tropical sea-surface temperature. *Journal of Geophysical Research*, 115, D01108.
- Yoshikawa-Inoue, H., Fukazawa, Y., Tanimoto, H., Matsueda, H., Sawa, Y., Wada, A., 2008. Atmospheric CO₂ and O₃ in Rishiri Island during December 2006 to March 2007. *Papers in Meteorology and Geophysics*, 59, 31-38.
- 乗木新一郎, 坂本 愛, 渡辺 W 豊, 2008. Time series of carbonate system variables off Otaru coast in Hokkaido, Japan. *Estuar Coastal Shelf Science*, Vol. 79, 377-386.
- 青木かおり, 入野智久, 大場忠道, 2008. 鹿島沖海底コア MD01-2421 の後期更新世テフラ層序. 第四紀研究, 47, 391-407.
- 大宮哲, 佐藤篤司, 2011. 吹雪粒子が持つ電荷に関する野外観測. 寒地技術論文・報告集, Vol. 27, 13-17.
- 大宮哲, 佐藤篤司, 2011. 吹雪粒子の帯電と跳躍回数に関する風洞実験. 日本雪氷学会誌「雪氷」, 73(4), 205-212.
- 大宮哲, 佐藤篤司, 小杉健二, 望月重人, 2008. 風洞内における吹雪粒子の電荷測定. 寒地技術論文・報告集, Vol. 24, pp. 58-62.
- 大島慶一郎, 小野純, 清水大輔, 2008. オホーツク海における漂流物の粒子追跡モデル実験. 沿岸海洋研究, 45, 115-124.
- 中村有吾, 丸茂美佳, 平川一臣, 澤柿教伸, 2008. 北海道東部, 知床半島の完新世テフラ層序. 第四紀研究, 47, 1, 39-48.
- 筆保弘徳, 上田哲大, 一柳錦平, 2009. 降水・水蒸気同位体を用いた台風観測キャンペーン, 気象研究ノート, 220 号 気象学における水安定同位体比の利用, 33-44.
- 澤柿教伸, 松岡直子, 岩崎正吾, 平川一臣, 2010. 日高山脈トッタベツ谷における融氷河成堆積物の堆積学的検討. 地理学論集 85, 3-15.

生物圏科学専攻

- Araki, K., Ohara, M., 2008. Rhizomatous clonal growth and reproductive demography in *Convallaria keiskei*. *Journal of Plant Research*, 121, 147-154.
- AGBOOLA Julius I. and Kudo Isao, 2009. Seasonal change of riverine nutrients and distribution of chlorophyll a in Ishikari Bay, subarctic oligotrophic coastal environment of Japan. *La Mer*, 47, 1-17.
- Akasaka, M. & Tsuyuzaki, S., 2009. Comparisons of recruitment, survival and growth in invasive and native tree saplings on a volcano. *Plant Ecology*, 202, 235-245.
- Aoki Kentaro, Mari Egawa, Saito Takeshi, Hosokawa Toshiyuki, Kurasaki Masaaki, 2008. Effects of g-hexachlorocyclohexane on apoptosis induced by serum deprivation in PC12 cells. *Journal of Environmental Science and Health Part B*, 43, 471-475.

- Awata, S., M. R. Kimura, N. Sato, K. Sakai, T. Abe and H. Munehara, 2010. Breeding season, spawning time, and description of spawning behaviour in the Japanese ornate dragonet, *Callionymus ornatipinnis*: a preliminary field study at the northern limit of its range. *Ichthyological Research*, 57, 16-23.
- Brisson J., A., Ishikawa A., Miura T., 2010. Wing development genes of the pea aphid and differential gene expression between winged and unwinged morphs. *Insect Molecular Biology*, 19, Suppl 2, 63-73.
- Cock, J. M., Sterck, L., Rouzé, P., Scornet, D., Allen, A. E., Amoutzias, G., Anthouard, V., Artiguenave, F., Aury, J.-M., Badger, J. H., Beszteri, B., Billiau, K., Bonnet, E., Bothwell, J. H. F., Bowler, C., Boyen, C., Brownlee, C., Carrano, C. J., Charrier, B., Cho, G. Y., Coelho, S. M., Collén, J., Corre, E., Da Silva, C., Delage, L., Delaroque, N., Dittami, S. M., Doubeau, S., Elias, M., Farnham, G., Gachon, C. M.M., Gschloessl, B., Heesch, S., Jabbari, K., Jubin, C., Kawai, H., Kimura, K., Kloareg, B., Küpper, F. C., Lang, D., Le Bail, A., Leblanc, C., Lerouge, P., Lohr, M., Lopez, P. J., Martens, C., Maumus, F., Michel, G., Miranda-Saavedra, D., Morales, J., Moreau, H., Motomura, T., Nagasato, C., Napoli, C. A., Nelson, D. R., Nyvall-Collén, P., Peters, A. F., Pommier, C., Potin, P., Poulain, J., Quesneville, H., Read, B., Rensing, S. A., Ritter, A., Rousvoal, S., Samanta, M., Samson, G., Schroeder, D. C., Séguens, B., Strittmatter, M., Toton, T., Tregear, J., Valentin, K., von Dassow, P., Yamagishi, T., de Peer, Y. V. and Wincker, P., 2010. The *Ectocarpus* genome and the independent evolution of multicellularity in the brown algae *Nature*, 465, 617-621.
- Fukaya K., Okuda T., Nakaoka M., Hori M., Noda T., 2010. Seasonality in the strength and spatial scale of processes determining intertidal barnacle population growth. *Journal of Animal Ecology*, 78, 328-337.
- Higashioka, Y., Kojima, H., Nakagawa, T., Sato, S., and Fukui, M., 2009. A novel n-alkane-degrading bacterium as a minor member of p-xylene-degrading sulfate-reducing consortium. *Biodegradation*, 20, 383-390.
- Higashioka, Y., Kojima, H., Sato, S., and Fukui, M., 2009. Microbial community analysis at crude oil-contaminated soils targeting the 16S ribosomal RNA, xylM, C23O, and bcr genes. *Journal of Applied Microbiology*, 107, 126-135.
- Hino, H., Miles, N.G., Bandoh, H. and Ueda, H., 2009. Molecular biological research on olfactory chemoreception in fishes (Review Paper). *Sustainability Science*, 4, 189-198.
- Horikawa, D.D., Kunieda, T., Abe, W., Watanabe, M., Nakahara, Y., Yukuhiro, F., Sakashita, T., Hamada, N., Wada, S., Funayama, T., Katagiri, C., Kobayashi, Y., Higashi, S. and Okuda, T., 2008. Establishment of a rearing system of the extremotolerant tardigrade *Ramazzottius variornatus*: a new model animal for astrobiology. *Astrobiology*, June 2008, 549-556.
- Hoshino Y., Kashihara Y., Hirano T., Murata N. and Shinoda K., 2008. Plant regeneration from suspension cells induced from hypocotyls derived from interspecific cross *Alstroemeria pelegria* × *A. magenta* and transformation with *Agrobacterium tumefaciens*. *Plant Cell, Tissue and Organ Culture*, 94, 45-54.
- Ida TY. Kudo G., 2008. Timing of canopy closure influences carbon translocation and seed production of an understory herb, *Trillium apetalon* (Trilliaceae). *Annals of Botany*, 101, 435-446.
- Ida TY. Kudo G., 2009. Comparisons of light harvesting and resource allocation strategies between two rhizomatous herbaceous species inhabiting deciduous forests. *Journal of Plant Research*, 122, 171-181.
- Ikemoto Y., Ishikawa Y., Miura T., Asama H., 2009. A mathematical model for caste differentiation in termite colonies (Isoptera) by hormonal and pheromonal regulations. *Sociobiology*, 54, 841-859.
- Ileva, N.Y., Shibata, H., Satoh, F., Sasa, K. and Ueda, H., 2009. Relationship between the riverine nitrate-nitrogen concentration and the land use in the Teshio River watershed, North Japan. *Sustainability Science*, 4(2), 189-198.
- Imai M., Naraki Y., Tochinai S., Miura T., 2009. Elaborate regulations of the predator-induced polyphenism in the water flea *Daphnia pulex*: kairomone-sensitive periods and life-history tradeoffs. *Journal of Experimental Zoology* 311A: 788-795.
- Ishikawa A., Miura T., 2009. Differential regulations of wing and ovarian development and heterochronic changes of embryogenesis between morphs in wing polyphenism of the vetch aphid. *Evolution & Development*, 11, 680-688.
- Ishikawa Y., Okada Y., Ishikawa A., Miyakawa H., Koshikawa S., Miura T., 2010. Gene expression changes during caste-specific neuronal development in the damp-wood termite *Hodotermopsis sjostedti*. *BMC Genomics*, 11, 314.
- Ishizawa, S., Yamamoto, Y., Denboh, T., and Ueda, H., 2010. Release of dissolved free amino acids from biofilms in stream water. *Fishery Science*, 76, 669-676.
- Ito H., Hosokawa R., Morikawa M., Okuyama H., 2008. A turbine oil-degrading bacterial consortium from soils of oil fields and its characteristics. *International Biodeterioration & Biodegradation*, 61(3), 223-232.
- Kashihara Y., Hirano T., Murata N., Shinoda K., Araki H. and Hoshino Y., 2010. Evaluation of pre-fertilization barriers by observation of pollen tube growth and attempts for overcoming post-fertilization barriers in intergeneric hybridization between *Alstroemeria* and *Bomarea* by ovule Culture. *Acta Horticulturae*, 855, 159-164.
- Kawai Y., Kudo G., 2009. Effectiveness of buzz pollination in *Pedicularis chamissonis*: significance of multiple visits by bumblebees. *Ecological Research*, 24, 215-23.
- Kazahari Nobuko, Agetsuma Naoki, 2008. Social factors enhancing foraging success of a wild group of Japanese macaques (*Macaca fuscata*) in a patchy food environment, *Behaviour*, 145(6), 143-160.
- Kazahari Nobuko, Agetsuma Naoki, 2010. Mechanisms determining relationships between feeding group size and foraging success in food patch use by Japanese macaques *Macaca fuscata*. *Behaviour*, 147, 1481-1500.
- Kimura, K., Nagasato, C., Kogame, K. and Motomura, T., 2010. Disappearance of male gamete mitochondrial DNA after four-celled stage sporophyte of the isogamous brown alga *Scytosiphon lomentaria* (Scytosiphonales, Phaeophyceae). *Journal of Phycology*, 46, 143-152.
- Kimura, R. M. and H. Munehara, 2010. The disruption of habitat isolation among three *Hexagrammos* species by artificial habitat alternations that create mosaic-habitat. *Ecological Research*, 25, 41-50.
- Kishi M., Kaeriyama M., Ueno H., and Kamezawa Y., 2010. The effect of climate change on the growth of Japanese chum salmon (*Oncorhynchus keta*) using a bioenergetics model coupled with a three-dimensional lower trophic ecosystem model (NEMURO). *Deep Sea Research Part II*, 57, 1, 257-1, 265.
- Kishi, M. J., M.Kaeriyama, H.Ueno and Y.Kamezawa, 2009. The effect of climate change on the growth of Japanese chum

- salmon (*Oncorhynchus keta*) using a bioenergetics model coupled with a three-dimensional lower trophic ecosystem model (NEMURO). Deep-Sea Research 2, Volume 57, Issues 13-14, Pages 1093-1266.
- Kitamura, K., Kobayashi, M., Kodani, J. Yada, Y., 2008. Genetic variations in seeds of small, isolated beach populations in the Noto Peninsula. Proceedings of the 8th IUFRO International Beech Symposium, 46-48.
- Kitanishi S., Yamamoto T. and Higashi S., 2008. Microsatellite variation reveals fine-scale genetic structure of masu salmon, *Oncorhynchus masou*, within the Atsuta River. Ecology of Freshwater Fish, 18, 65-71.
- Kitayama, S., Kuma, K., Manabe, E., Sugie, K., Takata, H., Isoda, Y., Toya, K., Saitoh, S., Takagi, S., Kamei, Y., and Sakaoka, K., 2009. Controls on iron distributions in the deep water column of the North Pacific Ocean: Iron(III) hydroxide solubility and marine humic-type dissolved organic matter. Journal of Geophysical Research, 114, C08019.
- Kobayashi, M., Kitamura, K. & Kawahara, T., 2009. Microsatellite polymorphism of Siebold's beech (*Fagus crenata* Bulume) at five National Forest Reserves in the Oshima Peninsula, southern Hokkaido. Bulletin of Forestry and Forest Products Research Institute (森林総合研究所研究報告) .
- Kobayashi, M., Matsui, T., Yoshida, K. Kohyama, T., 2008. Forest attributes contributing to the expansion of Siebold's beech population at its northern distribution front. Proceedings of the 8th IUFRO International Beech Symposium, 142-144.
- Kubota, S. and Ohara, M., 2009. The evolution of self-compatible and self-incompatible populations in a hermaphroditic perennial, *Trillium camschatcense* (Melanthiaceae). Journal of Plant Research, 122, 497-505.
- Kubota, S. and Ohara, M., 2009. Discovery of male sterile plants and their contrasting occurrence between self-compatible and self-incompatible populations of the hermaphroditic perennial *Trillium camschatcense*. Plant Species Biology, 24, 169-178.
- Kubota, S., Kameyama, Y., Hirao and Ohara, M., 2008. Adaptive significance of self-fertilization in a hermaphroditic perennial, *Trillium camschatcense* (Melanthiaceae). American Journal of Botany, 95, 482-489.
- Kudo G., Ida TY., 2010. Carbon source for reproduction in a spring ephemeral herb, *Corydalis ambigua* (Papaveraceae). Functional Ecology, 24, 62-69.
- Kudo G., Ida TY., Tani T., 2008. Linkages between phenology, pollination, photosynthesis, and plant reproduction in deciduous forest understory plants. Ecology, 89, 321-331.
- Kudo G., Kimura M., Kasagi T., Kawai Y. & Hirao A. S., 2010. Habitat-specific responses of alpine plants to climatic amelioration: comparison of fellfield to snowbed communities. Arctic, Antarctic, and Alpine Research, 42, 438-448.
- Kurosawa, R., 2008. Disturbance-induced bird diversity in early successional habitats in the humid temperate region of northern Japan. Ecological Research, 24, 687-696.
- Lim SP., Roongsawang N., Washio K, Morikawa M., 2009. Flexible exportation mechanisms of arthrofactors in *Pseudomonas* sp. MIS38. Journal of Applied Microbiology, 197, 157-166.
- M. Tomozawa, H. Tomida, H. Suzuki, K. Tsuchiya, 2010. Mitochondrial phylogeography and population history of the large Japanese wood mouse (*Apodemus speciosus*) on Sado Island, Japan. Mammal Study, 35(2), 93-97.
- Makiguchi, Y. and Ueda, H., 2009. Effects of external and surgically implanted dummy radio transmitters on mortality, swimming performance and physiological status of juvenile masu salmon *Oncorhynchus masou*. Journal of Fish Biology, 74, 304-311.
- Makiguchi, Y., Konno, Y., Nii, H., Nakao, K. and Ueda, H., 2009. Biotelemetry research on upstream migration behavior of adult chum and pink salmon in a re-meandered segment of the Shibetsu River, Japan. "Telemetry: research, technology, and application"(eds. Barculo, D. and Daniels, J.) NOVA Publishers, 145-174.
- Makiguchi, Y., Liao, L.Y., Konno, Y., Nii, H., Nakao, K., Gwo, J.C., Onozato, H., Huang, Y.S. and Ueda, H., 2009. Site fidelity and habitat use of Formosan landlocked salmon (*Oncorhynchus masou formosanus*) during typhoon season in the Chichiawan stream, Taiwan assessed by nano-tag radio telemetry. Zoological Studies, 48, 460-467.
- Makiguchi, Y., Nagata, S., Kojima, T., Ichimura, M., Konno, Y., Murata, H. and Ueda, H., 2009. Cardiac arrest during gamete release in chum salmon regulated by the parasympathetic nerve system. PLoS ONE, 4(6), e5993.
- Makiguchi, Y., Nii, H., Nakao, K., Ueda, H., 2008. Migratory behaviour of adult chum salmon, *Oncorhynchus keta*, in a reconstructed reach of the Shibetsu River, Japan. Fisheries Management and Ecology, 15, 425-433.
- Matsuda I., Tuuga A., Higashi S., 2009. Ranging Behaviour of Proboscis Monkeys in a Riverine Forest with Special Reference to Ranging in Inland Forest. International Journal of Primatology, 30, 313-325.
- Matsuda Ikki, Izawa Kosei, 2008. Predation of wild spider monkeys at La Macarena, Colombia. Primates, 49(1), 65-68.
- Matsuda, I., A. Tuuga & S. Higashi, 2009. The feeding ecology and activity budget of proboscis monkeys. American Journal of Primatology, 71, 1-15.
- Matsuda, I., A. Tuuga & S. Higashi, 2009. The feeding ecology and activity budget of proboscis monkeys. American Journal of Primatology, 71, 1-15.
- Matsuda, I., Kubo, K., Tuuga, A., and Higashi, S., 2010. A Bayesian analysis of the temporal change of local density of proboscis monkeys: implications for environmental effects on a fission-fusion society. American Journal of Physical Anthropology, 142, 235-245.
- Matsui, T., Namikawa, K., Goto, R., Kobayashi, M., Kuramoto, S., 2008. Is *Fagus crenata* expanding north-eastwards in Hokkaido? -Implications from forest age structure and disturbance history- Proceedings of the 8th IUFRO, 121-123
- Miyakawa H., Imai M., Sugimoto N., Ishikawa Y., Ishikawa A., Ishigaki H., Okada Y., Miyazaki S., Koshikawa S., Cornette R., Miura T., 2010. Gene up-regulation in response to predator kairomones in the water flea, *Daphnia pulex*. BMC Developmental Biology, 10, 45.
- Miyashita T., Araki H., Hoshino Y., 2009. Ploidy distribution and DNA content variations of *Lonicera caerulea* in Japan. Journal of Plant Research Jan, 124(1), 1-9.
- Miyashita T., Hoshino Y., 2010. Interspecific hybridization in *Lonicera caerulea* and *Lonicera gracillipes*: The occurrence of

- green / albino plants by reciprocal crossing. *Scientia Horticulturae*, 125, 692-699.
- Miyashita T., Ohashi T., Shibata F., Araki H., Hoshino Y., 2009. Plant regeneration with maintenance of the endosperm ploidy level by endosperm culture in *Lonicera caerulea* var. *emphyllocalyx*. *Plant Cell, Tissue and Organ Culture*, 98, 291-301.
- Miyazaki S., Murakami T., Kubo T., Azuma N., Higashi S., Miura T., 2010. Ergatoid queen development in the ant *Myrmecina nipponica*: modular and heterochronic regulation of caste differentiation. *Proceedings of the Royal Society B*, vol. 277, no. 1690, 1953-1961.
- Mori T., Murakami M., Saitoh T., 2010. Latitudinal gradients in stream invertebrate assemblages at a regional scale: patterns and processes in Hokkaido Island, Japan. *Freshwater Biology*, 55, 1520-1532.
- Motomura T., Nagasato, C. and Kimura K., 2010. Cytoplasmic inheritance of organelles in brown algae. *Journal of Plant Research*, 123(2), 185-92.
- Munroe DM., Noda T., Ikeda T., 2010. Shore level differences in barnacle (*Chthamalus dalli*) recruitment relative to rock surface topography. *Journal of Experimental Marine Biology and Ecology*, 392, 188-192.
- Murata Y., Ideo S., Watada, M., Mitsui, H. and Kimura M. T., 2009. Genetic and physiological variation among sexual and parthenogenetic populations of *Asobara japonica* (Hymenoptera: Braconidae), a larval parasitoid of drosophilid flies. *European Journal of Entomology*, 106, 171-178.
- Namba T. and Ohdachi S., 2009. Diets of the Eurasian least shrew (*Sorex minutissimus*) from various localities in Hokkaido, Japan. *Mammal Study*, 34, 219-221.
- Nishida N., Hori R., Morita N. and Okuyama H., 2010. Membrane eicosapentaenoic acid is involved in the hydrophobicity of bacterial cells and affects the entry of hydrophilic and hydrophobic compounds. *FEMS Microbiol.*, 306(2), 91-96.
- Nishimura A., Tsuyuzaki S. & Haraguchi, A., 2009. A chronosequence approach for detecting revegetation patterns after Sphagnum-peat mining, northern Japan. *Ecological Research*, 24, 237-246.
- Nunome M., Ishimori, C., Aplin, K., Tsuchiya, K., Yonekawa, H., Moriwaki, K., and Suzuki H., 2010. Detection of recombinant haplotypes in wild mice (*Mus musculus*) provides new insights into the origin of Japanese mice. *Molecular Ecology*, 19, 2474-2489.
- Nunome M., Torii, H., Matsuki, R., Kinoshita, G., and Suzuki H., 2010. The influence of Pleistocene refugia on the evolutionary history of the Japanese hare, *Lepus brachyurus*. *Zoological Science*, 27, 746-754.
- Okada Y., Miyazaki S., Miyakawa H., Ishikawa A., Tsuji K., Miura T., 2010. Ovarian development and insulin-signaling pathways during reproductive differentiation in the queenless ponerine ant *Diacamma* sp. *Journal of Insect Physiology*, 56(3), 288-295.
- Okuda T., Noda T., Yamamoto T., Hori M., and Nakaoka M., 2009. Latitudinal gradient in species diversity in assemblages of sessile animals in rocky intertidal zone: mechanisms determining scale-dependent variability. *Journal of Animal Ecology*, 78, 328-337.
- Okuyama H., Orikasa Y., Nishida T., 2008. Significance of antioxidative function of eicosapentaenoic and docosahexaenoic acids in marine microorganisms *Applied and Environmental Microbiology*, 74, 3, 570-574.
- Orikasa Y., Tanaka M., Sugihara, 2009. *pfaB* products determine the molecular species produced in bacterial polyunsaturated fatty acid biosynthesis. *FEMS Microbiol. Lett.*, 295, 170-176.
- Sato N. and H. Munehara, 2010. Structure of the seminal receptacle and sperm storage in the Japanese pygmy squid. *J. Zool.*, 282, 151-156.
- Sato N., S. Awata and H. Mune, 2009. Seasonal occurrence and sexual maturity. *ICES Journal of Marine Science*, 66, 811-815.
- Satoh N., T. Kasugai and H. Munehara, 2008. Estimated life span of the Japanese pygmy squid, *Idiosepius paradoxus* from statolith. *Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom*, 88(2), 391-394.
- Shimada T., Sato JJ, Aplin KP., Suzuki H., 2009. Comparative analysis of evolutionary modes in *Mclr* coat color gene in wild mice and mustelids. *Genes & Genetic Systems*, 84, 225-231.
- Shimada T., Aplin, K. P., and Suzuki H., 2010. *Mus lepidoides* (Muridae, Rodentia) of Central Burma is a Distinct Species of Potentially Great Evolutionary and Biogeographic Significance. *Zoological Science*, 27, 449-459.
- Shiojiri, K., Karban, R. and Ishizaki S., 2009. Volatile communication among sagebrush branches affects herbivory: timing of active cues. *Arthropod Plant Interactions*, 3, 99-104.
- Shuideram S., Rahajoe, J., Kohyama T., 2008. Variation in longevity and traits of leaves among co-occurring understorey plants in a tropical montane forest. *Journal of Tropical Ecology* 24, 121-133.
- Sugie, K., and Kuma K., 2008. Resting spore formation in the marine diatom *Thalassiosira nordenskiöldii* under iron- and nitrogen-limited conditions. *Journal of Plankton Research*, 30, 1245-1255.
- Sugihara S., Orikasa Y., and Okuyama H., 2008. An EntD-like phosphopantetheinyl transferase gene from *Photobacterium profundum* SS9 complements *pfa* genes of *Moritella marina* strain MP-1 involved in biosynthesis of docosahexaenoic acid. *Biotechnology Letters*, 30(3), 411-414.
- Sugihara S., Orikasa Y., and Okuyama H., 2010. The highly expressed *Escherichia coli entD* gene complements the *pfaE*-deficient *pfa* genes responsible for the biosynthesis of long chain *n*-3 polyunsaturated fatty acids. *FEMS Microbiol. Lett.*, 307, 207-211.
- Sugihara Shinji, Hori Ryuji, Nakanowatari Hitomi, Takada Yasuhiro, Yumoto Isao, Morita Naoki, Yano Yutaka, Watanabe Kazuo & Okuyama Hidetoshi, 2010. Possible biosynthetic pathways for all cis-3,6,9,12,15,19,22,25,28-hentriacontanoic acid in bacteria. *Lipids*, 45, 167-177.
- Tabata A., Ono, K., Sumida A., Hara, T., 2010. Effects of soil water conditions on the morphology, phenology and photosynthesis of *Betula ermanii* in the boreal forest. *Ecological Research*, 25, 823-835.
- Takagi Kentaro, Kotsuka Chikara, Fukuzawa Karibu, Kayama Masazumi, Makoto Kobayashi, Watanabe Tsunehiro, Nomura Mutsumi, Fukazawa Tatsuya, Takahashi Hiroyuki, Hojyo Hajime, Ashiya Daitaro, Naniwa Akihiko, Sugata Sadao, Kamiura Tatsuya, Sugishita Yoshiyuki, Sakai Rei, Ito Kinya, Kobayashi Makoto, Maebayashi Mamoru,

- Mizuno Masato, Murayama Takeshi, Kinoshita Koji, Fujiwara Daisaku, Hashida Shukichi, *Shibata Hideaki*, Yoshida Toshiya, Sasa Kaichiro, Saigusa Nobuko, Fujinuma Yasumi, Akibayashi Yukio, 2010. Allometric relationships and carbon and nitrogen contents for three major tree species (*Quercus crispula*, *Betula ermanii*, and *Abies sachalinensis*) in northern Hokkaido, Japan. *Eurasian Journal of Forest Research*, 13, 1-7.
- Takagi, K., Kotsuka, C., Fukuzawa, K., Kayama, M., Makoto, K., Watanabe, T., Nomura, M., Fukazawa, T., Takahashi, H., Hojyo, H., Ashiya, D., Naniwa, A., Sugata, S., Kamiura, T., Sugishita, Y., Sakai, R., Ito, K., Kobayashi, M., Maebayashi, M., Mizuno, M., Murayama, T., Kinoshita, K., Fujiwara, D., Hashida, S., *Shibata, H.*, Yoshida, T., Sasa, K., Saigusa, N., Fujinuma, Y. and Akibayashi, Y., 2009. Allometric relationships and carbon and nitrogen contents for three major tree species (*Quercus crispula*, *Betula ermanii*, and *Abies sachalinensis*) in northern Hokkaido, Japan. *Eurasian Journal of Forest Research*, 12(2), 65-71.
- Takagi, K., Kotsuka, C., Fukuzawa, K., Kayama, M., Makoto, K., Watanabe, T., Nomura, M., Fukazawa, T., Takahashi, H., Hojyo, H., Ashiya, D., Naniwa, A., Sugata, S., Kamiura, T., Sugishita, Y., Sakai, R., Ito, K., Kobayashi, M., Maebayashi, M., Mizuno, M., Murayama, T., Kinoshita, K., Fujiwara, D., Hashida, S., *Shibata, H.*, Yoshida, T., Sasa, K., Saigusa, N., Fujinuma, Y. and Akibayashi, Y., 2010. Allometric relationships and carbon and nitrogen contents for three major tree species (*Quercus crispula*, *Betula ermanii*, and *Abies sachalinensis*) in northern Hokkaido, Japan. *Eurasian Journal of Forest Research*, 13(1), 1-7.
- Terauchi, M., Kato, A., *Nagasato, C.* and *Motomura, T.*, 2010. Analysis of expressed sequence tags from the chrysophycean alga *Ochromonas danica* (Heterokontophyta). *Phycological Research*, 58(3), 217-221.
- Terui, T. and *M.J.Kishi*, 2008. Population dynamics model of Copepoda (*Neocalanus cristatus*) in the northwestern subarctic Pacific. *Ecological Modelling*, 215, 77-88.
- Tojo T., Tsuda K., Yoshizumi T., Ikeda A., Yamaguchi J., Matsui M. and *Yamazaki K.*, 2009. Arabidopsis MBF1s Control Leaf Cell Cycle and its Expansion. *Plant Cell Physiol.*, 50(2), 254-264.
- Tomohiro Komorita, Seiichiro Shibamura, Toshiro Yamada, Rumiko Kajihara, Masanori Tsukuda and *Shigeru Montani*, 2009. Impact of low temperature during the winter on the mortality in the post-settlement period of the juvenile of short-neck clam, *Ruditapes philippinarum*, on the tidal flats in Hichirippu Lagoon, Hokkaido, Japan. *Plankton and Benthos Research*, 4, 31-37.
- Tomozawa, Morihiko., *Suzuki, Hitoshi*, 2008. A Trend of Central versus Peripheral Structuring Appeared in Mitochondrial and Nuclear Gene Sequences of the Japanese Wood Mouse *Apodemus speciosus*. *Zoological Science*, 25, 273-285.
- Tsuji Y., Kazahari N., Kitahara M., Takatsuki S., 2008. A more detailed seasonal division of energy balance and protein balance of Japanese macaques (*Macaca fuscata*) on Kinkazan island, northern Japan. *Primates*, 49, 157-160.
- Tsujiino M., Hori M., Okuda T., Nakaoka M., Yamamoto T., *Noda T.*, 2010. Distance decay of community dynamics in rocky intertidal sessile assemblages evaluated by transition matrix models. *Population Ecology*, 52, 171-180.
- Tsutsumi M., Kojima H., Uemura S., Ono K., Sumida A., Hara T. & *Fukui M.*, 2009. Structure and activity of soil-inhabiting methanotrophic communities in northern forest of Japan. *Soil Biology & Biochemistry*, 41, 403-408.
- Tsuyuzaki, S.* & Miyoshi, C., 2009. Effects of smoke, heat, darkness and cold stratification on seed germination of 40 species in a cool temperate zone, northern Japan. *Plant Biology*, 11, 369-378.
- Ushizaka, S., Sugie, K., Yamada, M., Kasahara, M., and Kuma, K., 2008. Significance of Mn and Fe for the growth of a coastal marine diatom, *Thalassiosira weissflogii*. *Fisheries Science*, 74, 1137-1145.
- Wang X., Hoshino Y., *Yamada T.*, 2010. Rapid and efficient callus induction and plant regeneration from seeds of zoysiagrass (*Zoysia japonica* Steud.). *Grassland Science*, 56, 198-204.
- Wang, Xun., Hoshino Yoichiro, *Yamada Toshihiko*, 2010. Rapid and efficient callus induction and plant regeneration from seeds of zoysiagrass (*Zoysia japonica* Steud.) *Grassland Science*, 56, 198-204.
- Yamada Toshihiko*, Tamura Ken-ichi, Wang Xun, Aoyagi Yukiko, 2010. Transgenesis and Genomics in Forage Crops. *Molecular Techniques in Crop Improvement: 2nd Edition*, 4, 719-744.
- Yasuda Shumpei P., Nakayama Aya, Iwabuchi Manami, Minato Shusaku, Tsuchiya Kimiyuki, *Suzuki Hitoshi*, 2009. Isolation and development of microsatellite markers for the Japanese dormouse, *Glirulus japonicus* *Molecular Ecology Resources*, 9, 569-571.
- Yodnarasri Supaporn, *Montani Shigeru*, Tada Kuninao, Shibamura Seiichiro, Yamada Toshiro, 2008. Is there any seasonal variation in marine nematodes within the sediments of the intertidal zone? *Marine Pollution Bulletin*, 57, 149-154.
- 上田 宏, 牧口祐也, 2009. データロガー開発を牽引する日本の技術力。 “動物たちの不思議に迫るバイオリギング” (日本バイオリギング研究会編), pp14-17.
- 上田 宏, 牧口祐也, 2009. サケだって、たまには休憩したい。 “動物たちの不思議に迫るバイオリギング” (日本バイオリギング研究会編), pp98-101.
- 上田 宏, 牧口祐也, 2009. 産卵中に心臓停止?。 “動物たちの不思議に迫るバイオリギング” (日本バイオリギング研究会編), pp. 106.
- 川久保恵理, 山東豪, 三好祐司, 小川洋平, 春木雅寛, 2010. 有珠山の植生回復と土壌の性質・地熱・火山ガス調査を交えて, 日本森林学会北海道支部論文集, 58.
- 松倉隆一, 向井徹, 安藤靖浩, 飯田浩二, 2008. ツノナシオキアミ *Euphausia pacifica* の密度比、音速比の変化とターゲットストレングス推定に与える影響, 日本水誌, 75, 38-44.
- 三好祐司, 春木雅寛, 荻原 裕, 2010. 野幌国有林の代表的な林分における土壌の化学性, 日本森林学会北海道支部論文集, 58, 67-70.
- 奥田武弘, 野田隆史, 山本智子, 堀正和, 仲岡雅裕, 2010. 群集構造決定機構に対する環境と空間の相対的重要性: 岩礁潮間帯における生物群間比較. 日本生態学会誌, 60, 227-239.
- 山田真知子, 香月絵理, 大坪蘭子, 濱田建一郎, 上田直子, 門谷 茂, 2009. 熱帯・亜熱帯性海産珪藻 *Skeletonema tropicum* の温帯域内湾 (洞海湾) における生存戦略. 海の研究, 18, 157-167.
- 山東豪, 川久保恵理, 春木雅寛, 2009. 有珠山火口の立地と土壌. 日本森林学会北海道支部論文集, 57, 114-116.

- 杉江恒二, 谷口旭, 2008. *Thalassiosira* 属珪藻 2 種によるスラク由来鉄の生物学的有用性の持続度の推定. 鉄と銅, 94 巻, 8 号, 569-574.
- 川久保恵理, 山東豪, 春木雅寛, 2009. 有珠山の森林形成過程における植生回復. 日本森林学会北海道支部論文集, 57, 113-115.
- 東條卓人, 高橋洋介, 山崎健一, 2008. 植物バイオセンサーを用いた低コスト・無菌操作不要のステロイド系化合物活性測定法. *New Food Industry*, 50(5), 38-48.
- 本多健太郎, 野田裕二, 津田裕一, 宮下和士, 2009. バイオテレメトリー手法を用いた別寒辺牛川水系におけるイトウ (*Hucho perryi*) 成魚の移動生態の解明. 日本生態学会誌, 29, 239-247.
- 濱田建一郎, 上田直子, 山田真知子, 多田邦尚, 門谷 茂, 2008. 夏季の過栄養内湾 (洞海湾) における生化学的キャラクターから見た粒子状物質の起源と低次生産過程. 海の研究, 17(3), 179-191.

環境物質科学専攻

- Kowalska, E., Prieto-Mahaney, O. O., Abe, R., Ohtani, B., 2010. Visible-light-induced Photocatalysis through surface plasmon excitation of gold on titania surfaces. *Physica Chemistry Chemical Physics*, 12, 2344-2355.
- Ohtani, B., Prieto-Mahaney, O. O., Li, D., Abe, R., 2010. What is Degussa P25- Crystal composition analysis, reconstruction from isolated pure particles, and photocatalytic activity test. *Journal of Photochemistry and Photobiology: A Chemistry*, 216, 179-182.
- Ohtani, B., Prieto-Mahaney, O. O., Amano, F., Murakami, N., Abe, R., 2010. What Are Titania Photocatalysts? -An Exploratory Correlation of Photocatalytic Activity with Structural and Physical Properties. *Journal of Advanced Oxidation Technology*, 13, 247-261.
- 飯森俊文, Awasthi Kamlesh, 太田信廣, 2008. 低温電場吸収・電場発光スペクトル測定装置の開発と光誘起電子移動反応研究への応用. 分光研究, 57(4), 198-200, 触媒, 53, 216-222.
- Zhang, Y., Tong, Y., Lu, L., Osawa, M., Ye, S., 2010. Dimethyl Ether (DME) Dissociation Reaction on Platinum Electrode Surface: A Quantitative Kinetic Analysis by in situ Infrared Spectroscopy. *Journal of Electrochemical Society*, 157, F10-F15.
- Nishikawa K., Nakahara, H., Shirokura, Y., Nogata, Y., Yoshimura, E., Umezawa, T., Okino, T., Matsuda, F., 2010, "Total Synthesis of 10-Isocyanato-4-cadinene and Determination of Its Absolute Configuration". *Organic Letters*, 12, 904-907.
- Goto Toshimitsu, Sakamoto Yoshinori, Kamiya Yuichi, 2009. Cs₂5H₀.5PW₁₂O₄₀ nanoparticles fixed on silica encapsulating magnetic iron oxide as a magnetically separable water-tolerant solid acid. *Chemistry Letters*, 38 (2009) 736-737.
- Ohnishi Ryuichiro, Sugii Takeshi, Doi Hayato, Sakamoto Yoshinori, Kamiya Yuichi, 2009. Hydroconversion of dimethylpentanes from methylcyclohexane using two consecutive reactors packed with Pt-modified solid acid catalyst and supported Ir catalyst. *Journal of the Japan Petroleum Institute*, 52 (2009), 341-350.
- Zhang Jin, Ohnishi Ryuichiro, Okuhara Toshio, Kamiya Yuichi, 2009, Preferential oligomerization of isobutene in butenes mixture over highly dispersed 12-tungstosilicic acid on silica. *Applied Catalysis A: General*, 353 (2009), 68-73.
- Wang Yi, Sakamoto Yoshinori, Kamiya Yuichi, 2009. "Remediation of actual groundwater polluted with nitrate by the catalytic reduction over a copper-palladium supported on active carbon. *Applied Catalysis A: 361* (2009), 123-129.
- Kamiya Yuchi, Imai Hiroyuki, Okuhara Toshio, 2009. Selective oxidation of n-butane over a highly crystalline vanadyl pyrophosphate catalyst synthesized by intercalation-exfoliation-reduction of layered vanadyl phosphate dehydrate. *Journal of the Japan Petroleum Institute*, 52 (2009) 81-89.
- Hamada Tomoaki, Sakamoto Yoshinori, Okuhara Toshio, Kamiya Yuichi, 2009. Sulfated Zirconia-Supported Palladium as a Highly Active and Selective Catalyst for Selective Oxidation of Ethylene in the Vapor Phase. *Chemistry Letters*, 38 (2009), 222-223.
- Chiharu Tano, Sang-Hyun Son, Jun-ichi Furukawa, Tetsuya Furuike, Nobuo Sakairi, 2008. Dodecyl thioglycopyranoside sulfates: Novel sugar-surfactants for enantiomeric separations by micellar electrokinetic capillary chromatography. *Electrophoresis*, 2008, 29, 2869-2875.
- C. Tano, S.-H. Son, J. Furukawa, T. Furuike, N. Sakairi, 2009. Enantiomeric separation by MEKC using dodecyl thioglycoside surfactants: Importance of an equatorially oriented hydroxy group at C-2 position in separation of dansylated amino acids. *Electrophoresis*, 30, 2743-2746.
- Sang-Hyun Son, Chiharu Tano, Tetsuya Furuike, Nobuo Sakairi, 2009. Pre-activation of fully acetylated dodecyl thioglycosides with BSP-Tf₂O led to efficient glycosylation at low temperature. *Carbohydrate Research*, 344, 285-290.
- Sang-Hyun Son, Chiharu Tano, Tetsuya Furuike, Nobuo Sakairi, 2009. Stereoselective tris-glycosylation to introduce b-(1→3)-branches into gentiotetraose for the concise synthesis of phytoalexin-elicitor heptagluco-side. *Organic and Biomolecular Chemistry*, 6, 1441-1449.
- Sang-Hyun Son, Chiharu Tano, Tetsuya Furuike, Nobuo Sakairi, 2009. Synthesis of a tetrasaccharide repeating unit of O-antigenic polysaccharide of *Salmonella enteritidis* by use of unique and odorless dodecyl thioglycosyl donors. *Tetrahedron Lett.*, 49, 5289-5292.
- Murakami Yoshitaka, Konishi Katsuaki, 2009. Mechanistic insights into the co-catalyst effect of Au clusters in Mn-porphyrin-catalyzed olefin oxidation. *New Journal of Chemistry*, 129, 14401.
- Sakamoto Y., Kanno M., Okuhara T., Kamiya Y., 2008. Highly selective hydrogenation of nitrate to harmless compounds in water over copper-palladium bimetallic clusters supported on active carbon. *Catalysis Letters*, 125, 392.
- Zhang J., Ohnishi R., Kamiya Y., Okuhara T., 2008. Improved catalytic activity using water for isomerization of butene to isobutene over heteropolyacid catalysts, *Journal of Catalysis*, 254, 263.
- Kim Jeongsik, Morozumi Tatsuya, Nakamura Hiroshi, 2009. Fluorescence Chemosensor with Specific Response for Mg²⁺. *Chemistry Letters*, 38, 10, 994-995.
- Kim Jeongsik, Morozumi Tatsuya, Nakamura Hiroshi, 2009. New "Off-On" Responsible Fluoroionophores for Alkaline Earth Metal Ions Based on Benzo-15-crown-5 Bearing 9-Phenanthreneacetamide. *Analytical Sciences*, 25, 5, 617-622.
- Kim Jeongsik, Morozumi Tatsuya, Mamiko Kurumatani, Nakamura Hiroshi, 2009. Novel Chemosensor for Alkaline Earth Metal Ion Based on 9-Anthryl Aromatic Amide Using a Naphthalene as a TICT Control Site and Intramolecular Energy Transfer Donor. *Tetrahedron Letters*, 49, 12, 1984-1987.
- Kim Jeongsik, Morozumi Tatsuya, Nakamura Hiroshi, 2009. Substituted Position Effect on Twisted Intramolecular Charge Transfer of 1- and 2-Anthracene Aromatic Carboxamides as Chemosensors Based on Linear Polyether. *Analytical Sciences*, 25, 11, 1319-1325.
- Nakata, K., Okubo, A., Shimazu, K., Yamakata, A., Ye, S., Osawa, M., 2009. Surface-Enhanced Infrared Absorption Spectroscopic Studies of Adsorbed Nitrate, Nitric Oxide and Related Compounds 1. Reduction of Adsorbed NO on a Platinum Electrode. *Langmuir*, 24, 4352-4357.

- Yasuhiro Domi, Yusuke Yoshinaga, *Katsuaki Shimazu*, Marc D. Porter, 2009. Characterization and Optimization of Mixed Thiol-Derivatized β -Cyclodextrin/Pentanethiol Monolayers with High-Density Guest-Accessible Cavities. *Langmuir*, 25(2009), 8094-8100.
- Piao Shuying, Kayama Yota, Makano Yuya, *Nakata Kou*, Yoshinaga Yusuke, *Shimazu Katsuaki*, 2009. Nitrate reduction on tin-modified rhodium, ruthenium, and iridium electrodes. *Journal of Electroanalytical Chemistry*, 629(2009), 110-116.
- Kanno Mitsuru, Yasukawa Toshiya, Ninomiya Wataru, Ooyachi Ken, *Kamiya Yuichi*, 2010. Catalytic oxidation of methacrolein to methacrylic acid over silica-supported 11-molybdo-1-vanadophosphoric acid with different heteropolyacid loadings. *Journal of Catalysis*, 270 (2010) , 1-8.
- Zhang Jin, Kanno Mitsuru, Ohnishi Ryuichiro, Tpriyabe Kakeru, Matsuhashi Hiromi, *Kamiya Yuichi*, 2010. Preferential oligomerization of isobutene in a mixture of isobutene and 1-butene over sodium-modified 12-tungstosilicic acid supported on silica. *Journal of Molecular Catalysis A*, 326 (2010), 107-112.
- Farhana Rahman Rima, *Kou Nakata*, *Katsuaki Shimazu*, *Masatoshi Osawa*, 2010. Surface-Enhanced Infrared Absorption Spectroscopic Studies of Adsorbed Nitrate, Nitric Oxide and Related Compounds. Formation and Reduction of Adsorbed Nitrite at a Platinum Electrode. *Journal of Physical Chemistry*, 114, 6011-6018.
- Nishikawa K., Nakahara, H., Shirokura, Y., Nogata, Y., Yoshimura, E., *Umezawa, T.*, *Okino, T.*, *Matsuda, F.*, 2010. Total Synthesis of 10-Isocyano-4-cadinene and Determination of Its Absolute Configuration. *Organic Letters*, 12, 904-907.
- Yoshikazu Oka, Shinnosuke Nakamura, Tatsuya Morozumi, *Hiroshi Nakamura*, 2010. TritonX-100 Selective Chemosensor Based on β -Cyclodextrin Modified by Anthracene Derivative. *Talanta*, 82, 4, 1622-1626.

1 2-2 その他の論文（査読無し）

環境起学専攻

- Greve, R. and Otsu S., 2007. The effect of the north-east ice stream on the Greenland ice sheet in changing climates. *The Cryosphere Discussions* 1 (1), 41–76.
- H. Seddik, R. Greve, T. Zwinger and L. Placidi, 2009. A full-Stokes ice flow model for the vicinity of Dome Fuji, Antarctica, with induced anisotropy and fabric evolution. *The Cryosphere Discussions*, 3 (1), 1–31.
- H. Seddik, R. Greve, Sugiyama S. and R. Naruse, 2009. Numerical simulation of the evolution of glacial valley cross sections. arXiv, 0901. 1177 [physics.geo-ph].
- Sugimoto T., Miyoshi K., Sakata D., Nomoto K. and Higashi S., 2009. Fecal DNA-based discrimination between indigenous *Martes zibellina* and non-indigenous *Martes melampus* in Hokkaido, Japan. *Mammal Study*, 34, 155–159.
- 笠井文孝, 野本和宏, 森高志, 滝澤素子, 2009. 斜里川におけるイトウ個体群の現状-2002-2008年の調査報告. 知床博物館研究報告, 30, 9-20.

地球圏科学専攻

- Ghimire, M., Pathak, M., Bhatta, B. & Bogati, R., 2008. Situation and Trend Analysis of Churia Area Using Geographic Information and Remote Sensing Ministry of Forest and Soil Conservation. CARE-Nepal, IUCN-Nepal, WWF-Nepal, 77ページ.
- Granskog, M., Toyota, T., Hattori, H., Nomura, D., Krell, A., 2009. Observations on physical properties and biogeochemistry of sea ice in southern Sea of Okhotsk. *Proceedings of The 24th International Symposium on Okhotsk Sea and Sea Ice*, Mombetsu, Japan, February, 16-18, 183-186.
- Isada, T., Suzuki, K., Liu, H., Nishioka, J., Nakatsuka, T., 2009. Primary productivity and photosynthetic features of phytoplankton in the Sea of Okhotsk during late summer. *PICES Scientific Report*, No. 36, 72-75.
- Kawaguchi, Y., Nihashi, S., Mitsudera, F., Ohshima, K. I., 2009. Formation of broad opening of coastal polynya. *Proc. 24th International Symposium on Okhotsk Sea and Sea Ice*, Mombetsu, Japan, 88-91.
- Konno, U., Tsunogai, U., Komatsu, D. D., Daita, S., Nakagawa, F., Tsuda, A., Matsui, T., Eum, Y.-J., Suzuki, K., D., 2010. Significance of N₂ fixation in dissolved fractions of organic nitrogen. *Biogeosciences Discussion*, 7, 765-786.
- Mitsudera, H., Matsuda, J., Nakamura, T., Uchimoto, K., Nakanowatari, T., Ebuchi, N., 2009. Wind- and buoyancy-driven overturning circulation in the Sea of Okhotsk.
- Mitsudera, Humio., Matsuda, Junji., Nakamura, Tomohiro., Uchimoto, Keisuke., Nakanowatari, Takuya., Ebuchi., Naoto., 2008. Wind- and buoyancy-driven overturning circulation in the Sea of Okhotsk. *Proceedings of the 24th International Symposium on Okhotsk Sea and sea ice*.
- Nihashi, S., Ohshima, K. I., Tamura, T., Saitoh, S., 2008. Sea-ice production in the Okhotsk coastal polynyas. *Proc. 23rd International Symposium on Okhotsk Sea and Sea Ice*, Mombetsu, Japan, 39-42.
- NOMURA Daiki, GRADINGER Rolf., EICKEN Hajo., SHIRASAWA Kunio, 2009. Air-sea ice CO₂ flux over landfast sea ice in the Arctic Ocean, off Barrow, Alaska. *Proceedings of the 24th International Symposium on Okhotsk Sea and Sea Ice*, Mombetsu, Japan, 15-19 February 2009.
- NOMURA Daiki, TAKATSUKA Toru, ISHIKAWA Masao, KAWAMURA Toshiyuki, SHIRASAWA Kunio, YOSHIKAWA-INOUE Hisayuki, 2008. The effect of under-ice river plume on physico-chemical properties in the brine and under-ice water during melting in the seasonally ice-covered Saroma-ko Lagoon, Hokkaido, Japan. *Proceedings of the 23rd International Symposium on Okhotsk Sea and Sea Ice*, Mombetsu, Japan, 16-22 February 2008, 135-141.
- Nomura Daiki, Simizu Daisuke, Oouchida Chinatsu, Yasui Saori, Iida Takahiro, Hashida Gen, Fukuchi Mitsuo, 2010. Biogeochemical data of the 51st Japanese Antarctic Research Expedition in the Austral summer of 2009-2010. JARE data report.
- Ohshima, K. I., Nakanowatari, T., Nihashi, S., Nishioka, J., Nakatsuka, T., Wakatsuchi, M., 2010. Impact of sea ice production and its recent reduction on overturning and material circulation in the Okhotsk Sea and North Pacific. *Report on Amur-Okhotsk Project*, No. 6, Research Institute for Humanity and Nature, 21-29.
- Tanimoto, Y., Tokinaga, H., Kai, K., 2008. Recent developments of air-sea interaction studies over Kuroshio and its extension. *Geographical Reports*, 43, 25-32.
- Toyota, T., Kamimura, H., Ono, S., Cho, K., 2009. Retrieval of sea ice thickness distribution in the Sea of Okhotsk from ALOS/PALSAR backscatter data. *Proceedings of The 24th International Symposium on Okhotsk Sea and Sea Ice*, Mombetsu, Japan, February 16-18, 138-142.
- Yamaguchi, H., Ono J., Ohshima, K. I., Kurokawa, A., 2010. A system for numerical prediction of spilled oil behavior in the Sea of Okhotsk including ice-covered condition. *Proceeding of 25th International Symposium on Okhotsk Sea and Sea Ice*, 17-24.
- 三寺史夫, 松田淳二, 中村知裕, 内本圭亮, 中野渡拓也, 江淵直人, 2008. オホーツク海熱塩循環の数値実験. 海環境と生物および沿岸環境修復技術に関するシンポジウム発表論文集.
- 山崎孝治, 宇田川佑介, 2010. 南極振動とENSO. 極圏・雪氷圏と地球環境, 二宮書店, 216-219.
- 西村大輔, 杉山慎, Bauder, A., Funk, A., 2008. スイスアルプス・ローヌ氷河における過去100年の流動速度変化, 北海道の雪氷, 27, 41-44.
- 大島慶一郎, 小野純, 小野数也, 勝又勝郎, 2008. オホーツク海の潮流の観測, 月刊海洋, 50, 28-33.
- 大島慶一郎, 深町康, 青木茂, 清水大輔, 田村岳史, 牛尾収輝, 橋田元, 北出裕二郎, 若土正暁, 2010. 未知の南極底層水生成域の発見と今後の観測に向けてーケーブダンレープロジェクトー, 月刊海洋, 号外54, 12-20.
- 大島慶一郎, 中野渡拓也, Riser, S. C., 若土正暁, 2010. オホーツク海・海氷域でのフロート観測, 月刊海洋, 42(11), 643-653.
- 谷本陽一, 謝尚平, 甲斐浩平, 時長宏樹, 岡島秀樹, 村山利幸, 野中正見, 中村尚, 2008. 夏季黒潮続流上における海洋性大気境界層の変質過程, 月刊海洋, 49 (号外), 42-48.
- 津滝俊, 杉山慎, 2008. 熱水ドリル掘削システムの構築, 北海道の雪氷, 27, 37-40.

田村岳史, 大島慶一郎, 2010. SSM/Iを用いた海氷生産量・熱塩フラックスのグローバルマッピング, 月刊海洋, 号外54, 37-42.

刀根賢太, 杉山 慎, 福井幸太郎, 藤田耕史, 2010. 2009年ネパールヒマラヤ・ヤラ氷河における氷厚探査. 北海道の雪氷, 29, 45-48.

藤吉康志, 山下和也, 藤原忠誠, 2008. LESの気象への応用と検証. 日本気象学会気象研究ノート219号.

二橋創平, 大島慶一郎, 2010. 南極海におけるAMSR-Eデータを用いた薄氷厚推定アルゴリズムの開発と海氷生産量の見積もり, 月刊海洋, 号外54, 43-51.

飯島裕司, 青木茂, 谷本陽一, 2008. しらせ海上気象観測データから見た 110°E 線の亜南極フロント上における大気の海洋に対する応答, 月刊海洋, Vol.49, 66-73.

福田武博, 杉山 慎, 白岩孝行, 的場澄人, 2009. 2008年アラスカ・オーロラビークにおける氷河流動測定・氷厚探査, 北海道の雪氷, 28, 69-72.

福田武博, 杉山慎, 澤柿教伸, 2011. ALOS/PRISMデータの解析によるラングホブデ氷河表面高度測定, 北海道の雪氷.

野村大樹, 豊田威信, 的場澄人, 西岡純, 白澤邦男, 2008. オホーツク海の水氷中栄養塩濃度について-砕氷船「そうや」による観測から-, 第7回海環境と生物及び沿岸環境修復技術に関するシンポジウム発表論文集. 2008.7.16-17.札幌, 93-98.

鈴木光次, 伊佐田智規, Hongbin Liu, 飯田高大, 2008. 夏季のオホーツク海および千島列島海域における基礎生産過程の特徴, 月刊海洋号外, 50, 99-106.

生物圏科学専攻

Makiguchi, Y., Nii, H., Nakao, K. and Ueda, H., 2008. Effects of the reconstruction in the Shibetsu River on upstream migration behaviour of chum salmon assessed by EMG radio telemetry. *Cybiuim (Revue Internationale d'Ichtyologie)*, 32 (2), 309.

Nunome, M., Suzuki, H., Moriwaki, K., 2009. Mosaic genome structure of multiple subspecies in the Japanese wild mouse. *Mus musculus molossinu* "The Wild Mammals of Japan." Ed by Ohdachi SD, Ishibashi Y, Iwasa MA, Saitoh T, SHOUKADOH Book Sellers, Kyoto, 44-45.

Yamamoto, Y., Ishizawa, S. and Ueda, H., 2008. Effects of amino acid mixtures on upstream selective movement of four Pacific salmon. *Cybiuim (Revue Internationale d'Ichtyologie)*, 32 (2), 57-58.

江戸謙頭, 北西滋, 小泉逸郎, 野本和宏, 2008. 北海道に生息する希少サケ科魚類イトウの遺伝的構造と絶滅リスク評価. プロ・ナトゥーラ・ファンズ第17期 助成成果報告書, 67-76.

小川洋平, 春木雅寛, 2010. 種々の産業廃棄物の混合割合による土壌生成に対する土壌動物の効果. 寒地技術シンポジウム論文報告集, 26, CTC10-II-015.

久万健志, 松村由起子, 千木良充, 2008. 南東部ベーリング海陸棚斜面域における夏期植物プランクトンブルームを支える鉄と栄養塩. 月刊海洋, 号外No. 50, 138-143.

永島 宏, 村瀬弘人, 米崎史郎, 松倉隆一, 南憲史, 永木利幸, 川原重幸, 宮下和士, 2008. 仙台湾周辺における軽量魚探を用いた鯨類餌生物の種判別, 宮城水産県報, 第8号 15-25.

本多健太郎, 2009. 幻の魚「イトウ」を追って. バイオロギング最新科学で解明する動物生態学, 日本バイオロギング研究会編.

水越麻仁, 本多健太郎, 野別貴博, 三谷曜子, 宮下和士, 2009. バイオロギングによるカラフトマス、シロザケの移動生態調査. 平成20年度知床世界自然遺産地域生態系調査報告, 104-113.

正富宏之, 百瀬邦和, 古賀公也, 松本文雄, 2008. 北海道における2007年のタンチョウ繁殖状況. 専修大学北海道地域総合科学研究センター報告第2号, 19-43.

正富宏之, 百瀬邦和, 古賀公也, 松本文雄, 2009. 北海道における2008年のタンチョウ繁殖状況. 専修大学北海道地域総合科学研究センター報告第3, 33-58.

南憲史, 宮下和士, 東条斉興, 安間洋樹, 伊藤祐介, 野別貴博, 2009. コンプ類分布状況調査. 平成20年度知床世界自然遺産地域生態系調査報告, 52-69.

牧口祐也, 永田鎮也, 村田秀樹, 小島隆人, 上田 宏, 2008. 心拍ロガーを用いたシロザケ親魚の遊泳行動解析. 海洋と生物, 175, 30(2), 144-149.

牧口祐也, 新居久也, 中尾勝哉, 上田 宏, 2008. 津川におけるEMG発信機を用いたシロザケ親魚の遡上行動解析. 海洋と生物. 175, 30(2), 150-156.

本多 健太郎, 野田 裕二, 津田 裕一, 安間 洋樹, 宮下 和士, 2009. 超音波テレメトリーによるイトウ (*Hucho perryi*) 成魚の季節的移動パターンの解明. 日本生態学会誌, 59(3), 239-247.

本多健太郎, 鍵和田玄, 宮下和士, 2009. 北海道別寒辺牛川水系に生息するイトウの季節変動に伴う移動生態の解明. 平成20年度河川整備基金助成事業報告, pp1-30.

有賀 誠, 津田 裕一, 藤岡 紘, 本多 健太郎, 光永 靖, 三原孝二, 宮下 和士, 2009. 石狩川におけるシロザケ *Oncorhynchus keta* の遡上行動 -テレメトリーシステムの利用. 応用生態工学, 12(2), 119-130.

12-3 学会発表

環境起学専攻

- Endo, H., T. Yoshimura, K. Sugie, *K. Suzuki*, 2010年8月29日-9月2日, Effects of increased pCO₂ and iron enrichment on phytoplankton community compositions in the NW subarctic Pacific and Bering Sea, The VII International Symposium on Inorganic Carbon Utilization by Aquatic Photosynthetic Organisms (CCM7), 兵庫 (淡路夢舞台国際会議場), ポスター
- Endo, H., T. Yoshimura, K. Sugie, *K. Suzuki*, 2010年8月29日-9月2日, Effects of increased pCO₂ and iron enrichment on phytoplankton community compositions in the NW subarctic Pacific and Bering Sea, The VII International Symposium on Inorganic Carbon Utilization by Aquatic Photosynthetic Organisms (CCM7), 兵庫 (淡路夢舞台国際会議場), ポスター
- Endo, H., T. Yoshimura, K. Sugie, *K. Suzuki*, 2010年10月23日-11月2日, Effects of increased pCO₂ on phytoplankton community compositions in the NW subarctic Pacific and Bering Sea in summer, 第2回北海道大学サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト, 北海道 (北海道大学), ポスター
- Greve, R., H. Seddik, T. Zwinger and L. Placidi, 2009年11月18-20日, Dynamic/thermodynamic modeling of the Antarctic Ice Sheet with the focus on the vicinity of Dome Fuji, 2nd International Symposium on the Dome Fuji Ice Core and Related Topics, 東京, 口頭
- Greve, R., T. Sato, T. Shiraiwa, T. Zwinger and H. Seddik, 2009年12月14-18日, Accumulation reconstruction from a 270 year ice core retrieved from the Gorshkov crater glacier, Ushkovsky Ice Cap, Kamchatka, AGU Fall Meeting, San Francisco, USA, ポスター
- H. Kawamura and *K. Toyoda*, 2010年1月26日, Study on environmental fate of antimony in PET plastic bottles in Sapporo, 京都大学原子炉実験所専門研究会, 口頭
- H. Seddik, *R. Greve*, T. Zwinger and O. Gagliardini, 2009年9月29日-10月3日, A steady-state simulation of the Greenland ice sheet using a three-dimensional full-Stokes model, 日本雪氷学会全国大会, 札幌, 口頭
- Hiraike, Y., 2008年5月29日, Descending Water at the Antarctic marginal ice zone and its contribution to the Intermediate Water using an ice-ocean model, 2008年度地球惑星科学連合大会, 幕張, ポスター
- Hiraike, Y., 2008年6月24日, Descending Water at the Antarctic marginal ice zone and its contribution to the Intermediate Water using an ice-ocean model, Hokkaido University Sustainability Week Symposium, 札幌, ポスター
- Hiroshi Matsuura, Ikuko Yazaki and Tatsufumi Okino, 2008年1月25日, Metamorphosis inducers of sea urchin and sea cucumber larva, The 10th Seoul National University - Hokkaido University Joint Symposium, ソウル, 口頭
- Ho Szeling, Nuita M., Yamamoto M., *Minagawa M.*, Sagawa T., Horikawa K., Murayama M., Kato Y., 2008年7月13-18日, Glacial-interglacial oceanographic variations over the past 340,000 years at the mid-latitude of southwest Pacific based on a multi-proxy approach, Goldschmidt 2008 - "from Sea to Sky", Vancouver, Canada, ポスター
- Jha Pawan Kumar, *Minagawa Masao*, 2010年6月15日, Study of Denitrification Process in Ishikari River System, Japan, Goldschmidt conference, Knoxville 2010, Knoxville, Tennessee, ポスター
- Kashima K., Ohtsuki, H., *Satake, A.*, 2009年10月, Modelling fission fusion society in bat populations, Taiwan- Japan Ecology Workshop, 台北、台湾, ポスター
- Kataoka Takafumi, Hodoki Yoshikuni and *Higashi Seigo*, 2008年8月17-22日, Effectes of UV radiation on bacterial community composition in the western North Pacific, 12th international Symposium on Microbial Ecology (ISME), Australia, ポスター
- Kataoka Takafumi, Hodoki Yoshikuni and *Higashi Seigo*, 2008年12月2-5日, Effects of UV radiation on bacterial community composition in the western North Pacific, XXXI Symposium on Polar Biology, (国立極地研究所), ポスター
- Kataoka, T., *K. Suzuki*, M. Hayakawa, I. Kudo, *S. Higashi*, and A. Tsuda, 2009年1月26日, Temporal changes in community composition of heterotrophic bacteria during in situ iron enrichment in the western subarctic Pacific (SEEDS-II), ASLO Aquatic Sciences Meeting 2009, フランス・ニース (Center de Congress Acropolis), 口頭
- Matsuura, Hiroshi., Yazaki, Ikuko. and *Okino, Tatsufumi*, 2008年10月23日, Larval metamorphosis inducers of sea urchin from the aqueous extract of the green alga *Ulveella lens*, 5th World Fisheries Congress (WFC 2008), Yokohama, 口頭
- Matsuura, Hiroshi., Yazaki, Ikuko. and *Okino, Tatsufumi*, 2008年6月23日, Sea cucumber larval metamorphosis by neurotransmitters, Hokkaido University Sustainability Weeks -G8 Summit Round, Sapporo, ポスター
- Md. Tajuddin Sikder, 齋藤健, 細川敏幸, 安田優臣, 蔵崎正明, 2011年3月25-28日, 先進国及び発展途上国における重金属分析等の水質比較研究, 第81回日本衛生学会, 東京(震災により中止), 口頭
- Miyazaki, T., *Fujii, M.* Yabe, N., 2009年11月9日, The value of promoting effective use organic wastes in Hokkaido, Japan: a potential way to realize the Green New Deal, 2009 Japan-America Frontiers of Engineering, 米国アーバイン, ポスター
- Morris, G.A., *Hirokawa, J.*, Fujiwara, M., *Hasebe, F.*, Ishida, K., Celarier, E., Krotkov, N., Schoeberl, M., and Komyr, W., 2008年11月, A study of the impact of China's pollution on air quality in Japan before, during, and after the Olympics: Measurement program overview and preliminary data analysis, 第14回大気化学討論会, 横浜, ポスター
- Morris, G. A., *Hirokawa, J.*, Fujiwara, M., *Hasebe, F.*, Ishida, K., Krotkov, N., Schoeberl, M. R., Komhyr, W., Lefer, B., and Flynn, J., 2008年12月, Detection of an SO₂ plume over Sapporo, Japan from the eruption of Mt. Kasatochi using a balloon sounding technique, AGU 2008 Fall Meeting, サンフランシスコ, ポスター
- Nakajima Miyuki, *Minagawa Masao*, Shimoda Kazutaka, Kawamura Hiroshi, Aoyama Tomoya, 2010年11月3日, C-N stable isotope values of freshwater fishes in Hokkaido, Japan for the information on the isotope ecology, 同位体生態学国際シンポジウム2010京都, 京都 (コープイン京都), ポスター
- Nioka Tadashi*, Ohnuki Soichiro Miyazaki Yoshifumi, 2008年8月6日, Individual differences in blood volume

- and oxygenation in the brain during a cognitive task based on time-resolved spectroscopic measurements, The 36th Annual Conference of International Society on Oxygen Transport to Tissue, Sapporo, ポスター
- Nioka Tadashi, Ohnuki Soichiro, Miyazaki Yoshifumi, 2008年8月23日, Individual differences in blood volume and oxygenation in the brain during executions of a cognitive task, The 9th International Congress of Physiological Anthropology, Delft, ポスター発表
- Ohnuki Soichiro, Nioka Tadashi, 2009年9月30日, Individual differences in changes in cerebral hemoglobin concentrations during a cognitive task and their mutual relationships, The 18th International Congress on Brain Electromagnetic Topography, Kyoto, ポスター
- Orencio, P., Cabrido, C., Fujii, M., 2010年1月14-15日, Institutional mechanisms for effective inter-local governmental planning and management of fisheries resources: The case of four municipalities in Baler Bay, Aurora, Philippines, International symposium on Integrated Coastal Management for Marine Biodiversity in Asia, 京都, ポスター
- S. Ito, T. Morioka, Y. Ueno, S. Suyama, M. Nakagami, A. Shiomoto, F. Shido, M. J. Kishi, 2008年10月24日-11月2日, Future projection of Pacific saury to climate change and its improvements by experimental and observational approaches, PICES 17th Annual Meeting, Dalian, China, 口頭発表
- Sato T., Sasaki T., Matsumura S., 2011年1月19日, Potential impact of land use change over northern Japan in a changing climate, International workshop on downscaling, つくば, 口頭
- Sato, T., R. Greve, T. Shiraiwa, T. Zwinger and H. Seddik, 2009年11月17-18日, A 270 yr climate record from Ushkovsky ice core, Kamchatka, 極域気水圏シンポジウム, 東京, 口頭
- Sato, T., T. Shiraiwa, R. Greve, T. Zwinger and H. Seddik, 2009年9月29日-10月3日, Analysis of water isotope ratios and past accumulation rate reconstruction of Ushkovsky ice core, Kamchatka, 日本雪氷学会全国大会, 札幌, 口頭
- Seddik, H., R. Greve, T. Zwinger and L. Placidi, 2009年2月18-20日, A full-Stokes ice flow model for the vicinity of Dome Fuji, Antarctica, with induced anisotropy and fabric evolution, Research meeting "Paleoclimate and Paleoenvironment Reconstruction by Ice Cores", 札幌 (北大低温研), 口頭
- Seddik, H., R. Greve, T. Zwinger and O. Gagliardini, 2010年6月25日, Steady-state simulations of the Greenland ice sheet using a three-dimensional full-Stokes model International Symposium on Snow, Ice and Humanity in a Changing Climate, 札幌, 口頭
- Seddik, H., R. Greve, T. Zwinger and O. Gagliardini, 2009年12月14-18日, Steady-state simulations of the Greenland ice sheet using a three-dimensional full-Stokes model, AGU Fall Meeting, San Francisco, USA, ポスター
- Seddik, H., R. Greve, T. Zwinger, F. Gillet-Chaulet and O. Gagliardini, 2010年12月14日, Investigating the Greenland ice sheet evolution under changing climate using the three-dimensional full-Stokes model Elmer/Ice, AGU Fall Meeting, San Francisco, USA, ポスター
- Seddik, H., R. Greve, T. Zwinger, O. Gagliardini and L. Placidi, 2008年6月16-20日, A full-Stokes ice flow model for the vicinity of Dome Fuji, Antarctica, with induced anisotropy and fabric evolution, AOGS 5th Annual Meeting, Busan, South Korea, 口頭
- Shibano Ryota, 2009年4月14日, Response of marine ecosystem to typhoon passage, IGBP Symposium "Frontier of integrated research activities on east Asian and global environment", Otaru, Japan, ポスター
- Shido Fumitake, Shin-ichi Ito, Taizo Morioka, Naoto Murakami, Takashi Ichikawa, Norio Shirafuji, Tadashi Andoh, Yasuhiro Ueno, Yasuhiro Yamanaka, 2009年10月23日-11月1日, Influence of temperature on cruising speed of Pacific saury: laboratory experiments with simple video techniques PICES 18th Annual Meeting, Jeju, Korea, 口頭発表
- Shunitz Tanaka, Yoshitaka Kato, Toyohito Shiokawa, Rudy Syahputra, Naoya Fujiwara, 2008年8月20日, Sequential Extraction and Removal Behavior of Several Species of Lead by Electrokinetic Remediation 7th EREM, ソウル, ポスター
- Sigdel, M., and M. Ikeda, 2008年6月24日, Drought risk over Nepal: an environmental perspective, Abstract, Strategy for Sustainable World, Hokkaido University Sustainability Week Symposium, 札幌, ポスター
- Sigdel, M., and M. Ikeda, 2009年3月10-12日, Spatial and temporal analysis of drought and summer precipitation in Nepal under climate change, International Scientific Congress on Climate Change (Climate Change: Global Risks, Challenges and Decisions), コペンハーゲン (デンマーク), ポスター
- Sigdel, M., and M. Ikeda, 2009年12月14-18日, Winter precipitation system around Nepal revealed by atmospheric circulations, moisture budget and teleconnections, American Geophysical union (AGU) fall meeting, サンフランシスコ (米国), ポスター
- Sikder, Md. Tajuddin, 2010年9月4日, The Impacts of Climate Change on the Coastal Belt of Bangladesh: An Investigation of Risks & Adaptations on Agricultural Sector, International Conference on Environmental Aspects of Bangladesh (ICEAB)(北九州), 北九州, 口頭
- Sikder, Md. Tajuddin and K. Maudood Elahi, 2010年9月4日, Mega Dams in the Himalayas: An Assessment of Environmental Degradation and Global Warming, International Conference on Environmental Aspects of Bangladesh (ICEAB)(北九州), 北九州, 口頭
- Sugimoto T., Nagata J., Aramilev VV., McCullough DR., 2009年7月11-16日, Use of noninvasive genetic samples to estimate population size of Siberian Tiger in Russian Far East, Society for Conservation Biology 2009 Annual Meeting & 23rd International Congress for Conservation Biology, China, ポスター
- Sugimoto T., Nagata J., Aramilev VV., McCullough DR., 2010年3月15-18日, New genetic data of the Far Eastern leopard population, International Conference of The Amur Tiger in Northeast Asia: Planning for the 21st Century - Current status, conservation problems, future conservation efforts to ensure survival in 21st Century, Russia, 口頭
- SUN Yongkun and GUO Zhikun, 2011年3月25日, Autologous Adipose Tissue-Derived Mesenchymal Stem Cells Induced to Myocardial Cells in vivo for Curing Acute Myocardial Infarction, The Sino-German Symposium on Experimental Medicine 2011, 新郷、中国, 口頭

- T. Kataoka, Y. Hodoki, *K. Suzuki*, H. Saito, *S. Higashi*, 2009年6月28日-7月2日, Temporal-spatial patterns of bacterial community composition in the western North Pacific Ocean. FEMS 2009: 3rd Congress of European Microbiologists, スウェーデン・ゴセンバーグ, ポスター
- Umetsu A. and *K. Toyoda*, 2010年1月26日, INAA of alkaline volcanic grains at Baitoushan and Ulleung-island volcanos and from sediment cores in Southeast Japan Sea, 京都大学原子炉実験所専門研究会, 口頭
- Yoshida T., *Takada T.*, 2008年9月16-17日, How should we obtain optimal leaf longevity, based on numerical calculation of cost-benefit model?, 第18回 日本数理生物学会, 京都, ポスター
- Yu Onodera, 2008年, Pasture degradation in Mongolia, International Conference on Natural Resources and Sustainable Development in Surrounding Regions of the Mongolian Plateau, Ulaanbaatar, Mongolia, 口頭
- Zwinger, T., S. Sugiyama, H. Seddik and *R. Greve*, 2009年4月19-24日, Full Stokes simulations of the drainage system from Dome Fuji to Shirase Glacier, Antarctica, EGU General Assembly, Vienna, Austria, ポスター
- 伊藤昌雅 (北大院環境), 渡辺豊 (北大院地球環境), 田中伸一、小埜恒男, 2008年9月, 北西部北太平洋における溶存気体N₂とArの時系列変化, 2008年度日本地球化学学会年会, 東京 (東大), 口頭発表
- 稲村 修, 張勁, 南川雅男, 2011年3月10日, 炭素・窒素安定同位体組成と水圏環境指標としての材料ハスの利用, 第58回日本生態学会札幌大会, 札幌 (札幌市コンベンションセンター), ポスター
- 上野晶鋭, 加藤雄大, 真船文隆, 廣川淳, 2008年11月, 濡れ壁反応管を用いた大気成分と液体との不均一反応の研究, 第14回大気化学討論会, 横浜, ポスター
- 上野晶鋭, 廣川淳, 2009年10月, オゾンとNaBr溶液の不均一反応による臭素気体生成に関する研究, 第15回大気化学討論会, つくば, ポスター
- 江川知花, 露崎史朗, 2011年3月11日, 侵入段階の異なる湿原植物2種の光・水応答特性, 日本生態学会, 札幌, ポスター
- 大泉嶺, 高田壮則, 2008年9月16-18日, The number of clock protein's subunits affects the self-oscillation in cyanobacterial circadian system, 第18回 日本数理生物学会, 京都, ポスター
- 大泉嶺, 高田壮則, 2009年11月22日, The optimum control of Environmental Stochasticity in Growth Process, 北大・ソウル大共同シンポジウム, ソウル, 口頭発表
- 大泉嶺, 高田壮則, 2009年3月17-21日, オプション理論を用いた変動環境下の繁殖準備コストの解析, 第56回日本生態学会, 盛岡, ポスター
- 大泉嶺, 高田壮則, 2009年10月23日, シアノバクテリアにおける時計タンパク質に関する数理モデル, 日本時間生物学会, 東京, ポスター
- 大泉嶺, 高田壮則, 2009年9月9-11日, 成長過程における環境変動の最適制御戦略モデル, 第19回日本数理生物学会, 東京, 口頭発表
- 大泉嶺, 高田壮則, 2009年3月15-19日, 確率変動を含む最適成長戦略, 第57回日本生態学会, 東京, 口頭
- 大泉嶺, 高田壮則, 2010年10月18-21日, 不明, The Third China-Japan Colloquium of Mathematical Biology, 北京, 口頭発表
- 大泉嶺, 高田壮則, 2011年3月8-12日, 確率変動を含む最適戦略と個体群動態, 第58回 日本生態学会, 札幌, 口頭発表
- 表
- 大泉嶺, 高田壮則, 2010年9月13-16日, 成長率の分散制御と最適生活史戦略, 第20回日本数理生物学会, 札幌, 口頭発表
- 太田 遥, 石川 守, Battulga Sumiya, 2011年3月29-31日, モンゴルにおけるプラントハタネズミ (*Microtus brandti*) の生活史に応じた植生遷移, 日本地理学会, 東京、震災のため中止, 口頭
- 大瀧みちる, 竹内史子, 露崎史朗, 2011年3月11日, 北海道有珠山火口付近の植生遷移と微生物分解, 日本生態学会, 札幌, ポスター
- 大貫宗一郎, 宮崎良文, 新岡 正, 2008年6月7日, 局所脳酸素動態の絶対値計測における改変Stroop色-語課題2連続遂行時の各ヘモグロビン濃度の変化および相互の関係について, 日本生理人類学会第58回大会, 大阪, 口頭
- 大貫宗一郎, 宮崎良文, 新岡 正, 2009年3月31日, 局所脳酸素動態の絶対値計測における改変Stroop色-語課題2連続遂行時の各ヘモグロビン濃度の変化および相互の関係について, 第79回日本衛生学会総会, 東京, 口頭とポスター
- 大貫宗一郎, 宮崎良文, 新岡 正, 2008年10月26日, 改変Stroop色-語課題2連続遂行時の脳酸素動態の個体差について, 第15回医用近赤外線分光法研究会, 東京, 口頭
- 大貫宗一郎, 宮崎良文, 新岡 正, 2008年3月31日, 改変Stroop色-語課題の2連続遂行が脳酸素動態に及ぼす影響の個体差についての時間分解分光法による解析, 第78回日本衛生学会総会, 熊本, 口頭
- 大貫宗一郎, 新岡 正, 2009年6月6日, 改変Stroop色-語課題遂行時の各ヘモグロビン濃度変化と相互の関係, 日本生理人類学会第60回大会, 札幌, 口頭とポスター
- 大貫宗一郎, 新岡 正, 2010年5月10日, 認知課題遂行中の脳酸素動態における連続波方式近赤外分光法データの過小評価の可能性, 第80回日本衛生学会総会, 仙台, ポスター
- 鹿嶋一孝, 大槻久, 佐竹睦子, 2010年9月6-10日, コウモリのねぐら選択の数理モデル: fission-fusion社会の進化的意義, 日本数理生物学会, 札幌, ポスター
- 鹿嶋一孝, 大槻久, 佐竹睦子, 2011年3月8-12日, コウモリのねぐら選択の数理モデル: fission-fusion社会の進化的意義 日本生態学会, 札幌, ポスター
- 北村 菜美, 東正剛, 2010年4月28日, Molecular method for identification of Red Imported Fire Ant *Solenopsis invicta*, 2010 International Invasive Ant Management Workshop, ダーウィン, オーストラリア, 口頭
- 北村 菜美, 東正剛, 2010年8月29日, PCR法を用いた外来アリの迅速な同定法の提案, 第53回日本蟻類研究会大会, 千葉県館山市, 口頭
- 北村菜美, 高須啓志, 東正剛, 坂本洋典, 2011年3月27日, オオタバコガコマユバチ *Microplitis croceipes* による侵略的外来アリの学習と探知の試み, 日本応用動物昆虫学会第55回大会, 福岡県 (九州大学), 口頭
- 北村昌彦, 齋藤健, 細川敏幸, 蔵崎正明, 2010年7月3-4日, 豊平川河川水中のホウ素濃度および培養細胞系を用いたホウ素の生体影響評価, 第21回微量元素学会, 京都, 口頭
- 木村英雄, 2009年2月21日, 火災を受けたヨシ湿原における埋土種子集団と植生の構成関係について, 生態学会北海道地区大会, 札幌, 口頭
- 久保溪女, 山口勝透, 田中俊逸, 2009年9月24日, 北海道沿岸海域に來遊するトドの肝臓試料におけるPCBs全209異性体の濃度について, 日本分析化学会第58年会,

札幌, 口頭

久保弦, 山下善道, 岩田晃一郎, 荒木肇, 藤井賢彦, 2011年3月4日, 北海道大学札幌キャンパスにおける学内堆肥化事業実現可能性の検討, 日本LCA学会, 仙台, ポスター

小林健一, 湯川 俊, 細川敏幸, 齋藤健, 蔵崎正明, 2009年7月, インドネシアラワカロン湖におけるバクテリアのCd耐性, 第20回微量元素学会, 東京, ポスター

齋藤亮介, 廣川淳, 真船文隆, 2009年10月, 化学イオン化質量分析計を用いた大気中亜硝酸濃度測定手法の高度化, 第15回大気化学討論会, つくば, ポスター

酒井佑禎, 高田壮則, 2010年3月15-19日, コンタクトプロセスを用いたクローナル植物における病原菌伝搬モデル, 第57回日本生態学会, 東京, ポスター

榊裕太, 長谷部文雄, 廣川淳, 2009年10月20-22日, 季節変化・日変化に基づく日本周辺地表オゾン変動特性の抽出, 第15回大気化学討論会, つくば, ポスター

志藤文武, 伊藤進一, 奥西武, 安倍大介, 亀田卓彦, 上野康弘, 巢山哲, 中神正康, 岸道郎, 山中康裕, 2009年11月17-19日, サンマの漁期前調査結果と衛星データを用いた回遊シミュレーション, 2009年度水産海洋学会研究発表大会, 長崎, ポスター

柴野良太, 山中康裕, 岡田直資, 中田隆, 鈴木真一, 新野宏, 2008年9月24-28日, 台風に対する海洋生態系の応答, 2008年度日本海洋学会秋季大会, 呉, 口頭

助野実樹郎, 石川 守, 2010年3月16日, モンゴル北部ヘンティ山地におけるカラマツ林の構造と立地環境, 日本生態学会, 東京, ポスター

孫永, 高橋久美子, 齋藤健, 細川敏幸, 蔵崎正明, 2011年3月25-28日, PC12細胞を用いたジエチルフタル酸の生体に及ぼす影響解析及びその新規影響評価法, 第81回日本衛生学会, 東京 (震災により中止), 口頭

竹内史子, 大瀧みちる, 露崎史朗, 2010年3月18日, 泥炭採掘跡地におけるリター分解, 日本生態学会, 東京, ポスター

竹内史子, 大瀧みちる, 露崎史朗, 2011年3月9日, 湿原における遷移初期種のリター分解と微生物群集の関係, 日本生態学会, 札幌, ポスター

中坂高士, 石川 守, 宮崎 真, Baatarbileg Nachin, 2011年3月29-31日, モンゴルにおける森林火災の実態—人為的影響と回復過程の広域評価—, 日本地理学会, 東京 (震災のため中止), 口頭

中島美由紀, 下田和孝, 南川雅男, 伊藤富子, 2011年3月10日, 北海道におけるサマス類の遺骸が河川の魚類と底性動物に与える影響, 第58回日本生態学会札幌大会, 札幌市コンベンションセンター, ポスター

西澤裕文, 高田壮則, 2009年9月9-11日, 協同繁殖様式の多様性に関する個体間競争を考慮した数理解析, 第19回日本数理生物学会, 東京, ポスター

西澤裕文, 高田壮則, 2009年3月17-21日, 協同繁殖様式の多様性に関する年齢依存的競争能力を考慮した数理解析, 第56回日本生態学会, 盛岡, ポスター

西澤裕文, 高田壮則, 2010年3月15-19日, 生息地制限とマルチレベル選択下でのグループ形成の進化, 第57回日本生態学会, 東京, ポスター

藤原沙弥香, 荒木肇, 藤井賢彦, 2011年3月4日, 温泉地における環境負荷低減の可能性検討—北海道・流山温泉とタ張温泉におけるケーススタディ—, 日本LCA学会, 仙台, ポスター

保要有里, 2009年9月19日, モウセンゴケとナガバノモウセンゴケの発芽特性, 日本植物学会, 山形, ポスター

保要有里, 露崎史朗, 2010年3月18日, サロベツ湿原におけるモウセンゴケ属2種の生態比較—繁殖様式・実生定着に

ついて, 日本生態学会, 東京, ポスター

保要有里, 露崎史朗, 2011年3月9日, サロベツ湿原における*Drosera*属個体群の局所的分布パターン, 日本生態学会, 札幌, ポスター

堀尾由香莉, 細川敏幸, 齋藤健, 蔵崎正明, 2010年5月9-11日, PC12細胞におけるアスパルテームのアポトーシス誘導機構, 第80回日本衛生学会, 仙台, 口頭

本間則仁 (北大院環境), 渡辺豊 (北大院地球環境), 坂本愛, 2008年9月, 北西部北太平洋における海水中のジメチルサルファイドの鉛直分布の解明に関する研究, 2008年度日本地球化学会年会, 東京 (東大学), 口頭

山田健太, 藤井賢彦, 荒木肇, 2011年3月4日, 大学キャンパスにおける有機性廃棄物の学内循環システムの導入可能性検討, 日本LCA学会, 仙台, ポスター

湯川 俊, 細川敏幸, 齋藤健, 蔵崎正明, 2009年7月, インドネシア河川湖沼水における重金属汚染のバイオマーカーの構築, 第20回微量元素学会, 東京, 口頭

吉田智彦, 高田壮則, 2009年3月17-21日, costbenefitモデルを用いた葉寿命の最適戦略基準の検討, 第56回日本生態学会, 盛岡, 口頭

永岡 彩, 秋林幸男, 野村 睦, 高木健太郎, 上浦達哉, 北條元, 高橋廣行, 小塚 力, 坂井励, 笹 賀一郎, 2008年11月, 全木集材方式による未利用木質バイオマス収集コスト削減と林内物質動態への影響, 日本森林学会北海道支部, 札幌, ポスター

遠藤寿, 芳村毅, 西岡純, 鈴木光次, 服部寛, 山本とわ, 清沢弘志, 久万健志, 津旨大輔, 三角和弘, 2009年4月6-8日, 海洋酸性化がプランクトン群集と有機炭素の動態に与える影響の解明. 2009年度日本海洋学会春季大会, 東京 (東京大学), 口頭

遠藤寿, 鈴木光次, 西岡純, 芳村毅, 2009年4月6-8日, 海水中のpHおよび鉄が西部北太平洋亜寒帯域の微生物群集に及ぼす影響. 2009年度日本海洋学会春季大会, 東京 (東京大学), 口頭

加藤 能孝, Rudy Syahputra, 田中俊逸, 2008年8月7日, エレクトロレメディエーションによる鉛汚染土壌からの鉛除去挙動, 2008年夏季研究発表会, 北見, 口頭発表

菊本光子, 小野有五, 2009年3月28-29日, ケニア・ナイロビのマザレ・スラムにおける住民主導の開発とエコツーリズム, 日本地理学会, 東京, ポスター

久保溪女, 山口勝透, 姉崎克典, 永洞真一郎, 三橋正基, 服部薫, 田中俊逸, 2009年6月9日, 北海道の沿岸海域で採取されたトドの肝臓におけるダイオキシン類濃度とその汚染状況, 第18回環境化学討論会, つくば, ポスター

久保溪女, 山口勝透, 姉崎克典, 永洞真一郎, 三橋正基, 服部薫, 田中俊逸, 2009年6月9日, 北海道沿岸海域で捕獲されたトドの肝臓試料におけるPCBs全209コンジェナーの濃度について, 第18回環境化学討論会, つくば, ポスター

山田翔一, 高田壮則, 2011年3月8-12日, 環境変動下におけるTSD生物の自然選択, 第58回日本生態学会, 札幌, ポスター

志藤文武, 森岡泰三, 福永恭平, 村上直人, 市川卓, 小林圭介, 関谷幸生, 伊藤進一, 上野康弘, 山中康裕, 2008年3月27-31日, 静岡, 水温がサンマ飼育魚の遊泳速度に与える影響, 平成20年度日本水産学会春季大会, 静岡, ポスター

志藤文武, 森岡泰三, 福永恭平, 村上直人, 市川卓, 白藤徳夫, 小林圭介, 関谷幸生, 伊藤進一, 上野康弘, 山中康裕, 2008年11月11-13日, サンマ飼育魚の遊泳速度, 2008年度水産海洋学会研究発表大会, 東京, 口頭

柴野良太, 山中康裕, 岡田直資, 中田隆, 鈴木真一, 新野宏,

- 虎谷充浩, 2010年8月25日, 台風に対する海洋生態系の応答, 第5回特定領域研究「大気海洋物質循環」全体会議, 熊谷, ポスター
- 柴野良太, 山中康裕, 岡田直資, 鈴木真一, 中田隆, 新野宏, 虎谷充浩, 2008年12月12日, 台風に対する海洋生態系の応答のモデリング, W-PASS台風ワークショップ, 東京, 口頭
- 柴野良太, 山中康裕, 岡田直資, 鈴木真一, 中田隆, 新野宏, 虎谷充浩, 2008年12月11日, 台風に対する海洋生態系の応答のモデリング, 東海洋研究所シンポジウム"亜熱帯海洋学の最前線", 東京, 口頭
- 酒井佑植, 高田壮則, 2010年10月18-21日, Propagation model of disease on clonal plants using contact process, The Third China-Japan Colloquium of Mathematical Biology, 北京, ポスター
- 酒井佑植, 高田壮則, 2010年9月13-16日, コンタクト・プロセスを用いたクローナル植物における病原体伝播モデル, 第20回日本数理生物学会, 札幌, 口頭
- 酒井佑植, 高田壮則, 2011年3月8-12日, コンタクトプロセスを用いたクローナル植物における病原体伝播モデル, 第58回日本生態学会, 札幌, 口頭
- 助野実樹郎, 石川 守, 太田 遥, 小野智郁, 中坂高士, D. Battogtokh, 2009年1月11日, モンゴル北部ヘンティ山地におけるシベリアアカマツ林の動態林分構造と地形的位置との関係, 日本植生学会, ポスター
- 小野智郁, 石川 守, Naran gerel B, Samdan Shiirev A, 2011年3月29-31日, モンゴル・ウランバートル近郊草原での植生劣化と回復, 日本地理学会, 東京 (震災のため中止), 口頭
- 松浦裕志, 渡邊摩美, 小栗祐子, 沖野龍文, 吉村えり奈, 野方靖行, 2011年3月28日, 御前崎産ソゾ属紅藻から得られた付着阻害活性を有するジテルペノイド omaezol, 平成23年度日本水産学会春季大会, 東京, 口頭
- 松浦裕志, 白土悠, 沖野龍文, 2009年2月4日, 忍路産紅藻マギレソゾ (*Laurencia saitoi*) のテルペノイド, 日本化学会北海道支部2009年冬季研究発表会, 札幌, ポスター
- 松浦裕志, 矢崎育子, 沖野龍文, 2008年7月4日, 緑藻 *Ulva lens* 水溶性画分のエゾバフンウニ幼生変態誘起作用, 第3回化学生態学研究会函館, ポスター
- 松浦裕志, 矢崎育子, 沖野龍文, 2009年3月29日, マナマコ幼生のドーパミンによる変態, 平成21年度日本水産学会春季大会, 東京, 口頭
- 松浦裕志, 矢崎育子, 沖野龍文, 2009年5月24日, 棘皮動物幼生の変態誘起物質, 第23回海洋生物活性談話会, 油壺, 口頭
- 新井秀典, 前田剛宏, 石川 守, 岩花 剛, 杉本敦子, 2009年9月29日-10月3日, 北海道大雪山永久凍土帯における水循環の定量化, 雪氷研究大会, 札幌, ポスター
- 石田圭佑, 長谷部文雄, 廣川淳, 2009年10月20-22日, 輸送過程に起因する東アジア域広域大気質変動の観測的記述, 第15回大気化学討論会, つくば, ポスター
- 孫永, 久保木芳徳, 古沢利武, 佐藤正明, 鶴沼英郎, 阿部薫明, 赤坂司, 宇尾基弘, 亘理文夫, 滝田裕子, 2011年2月21-22日, クロマトグラフィーによるチタンと血清タンパク質の相互反応の分析, 第4回ナノバイオメディカル学会, 名古屋, 口頭
- 代英杰, 三原義広, 佐々木隆浩, 林永波, 2008年8月7日, 木質バイオマス由来の炭素素材を内包したアルギン酸ゲルによる汚染物質の除去, 2008年夏季研究発表会, 北見, 口頭
- 代英杰, 三原義広, 林永波, 古月文志, 田中俊逸, 2008年9月10日, 炭素素材を内包したアルギン酸ゲルによるニトロベンゼンの吸着性能の評価, 日本分析化学会第57年会, 福岡, ポスター
- 大貫宗一郎, 新岡 正, 2010年10月16日, 騒音が認知課題遂行時の課題成績, 脳酸素動態および心臓血管系反応に及ぼす影響と性格特性依存, 第17回医用近赤外線分光法研究会, 旭川, 口頭
- 大貫宗一郎, 新岡 正, 2011年3月28日, 騒音が認知課題成績に及ぼす影響と重回帰分析によるその個体差要因の分析 第81回日本衛生学会総会, 東京 (ただし震災により開催中止のため誌上発表), 口頭
- 大貫宗一郎, 新岡 正, 2010年5月10日, 認知課題遂行中の脳酸素動態における連続波方式近赤外分光法データの過小評価の可能性, 第80回日本衛生学会総会, 仙台, ポスター
- 大貫宗一郎, 新岡 正, 2010年5月15日, 連続波方式近赤外分光法による脳酸素動態計測データに対する評価 - 認知課題遂行時の絶対値計測データに基づく検討 -, 日本生理人類学会第62回大会, 守口, 口頭
- 中尾有伸, 山野博哉, 藤井賢彦, 山中康裕, 2008年11月22-24日, 日本のサンゴ礁被度の変遷, 日本サンゴ礁学会第11回大会, 静岡, 口頭
- 中尾有伸, 山野博哉, 藤井賢彦, 山中康裕, 2010年3月26-30日, 日本のサンゴ被度データベースの作成と分析, 2010年度日本海洋学会春季大会, 東京, ポスター
- 藤原沙弥香, 吉田磨, 牛山克己, 2009年9月17日, 北海道美瑛市宮島沼周辺の早期湛水・有機栽培水田におけるメタン放出, 日本地球化学会年会, 広島, 口頭
- 任忠完, 池原研, 豊田和弘, 2008年9月19日, 日本海堆積物コアの中性子放射化分析による第四紀後期のアルカリ岩質テフラ層序の構築, 日本地球化学会2008年会, 東京, 口頭
- 任忠完, 豊田和弘, 池原研, 2009年9月25日, 地層中微量元素の分析走査による希薄なアルカリ岩質火山灰の検出, 日本分析化学会2009, 札幌 (北大), 口頭
- 任忠完, 豊田和弘, 池原研, 2009年8月28日, 日本海堆積物コアの中性子放射化分析による第四紀後期のアルカリ岩質テフラ層序の構築, 日本第四紀学会2009, 滋賀県草津市, ポスター
- 平池友梨, 池田元美, 2008年9月25日, 海氷海洋結合モデルを用いた南極海氷縁域での表層水の沈降とその中層水形成における役割, 2008年度日本海洋学会春季大会, 広島, 口頭
- 平田亜弓, 露崎史朗, 2011年3月11日, 湿原遷移初期における植物2種の紫外線応答, 日本生態学会, 札幌, ポスター
- 片岡剛文, 入野智久, 山本正伸, 鈴木光次, 東正剛, 2009年4月6-8日, 東シナ海における古細菌および真正細菌群集の検出と鉛直分布, 2009年度日本海洋学会春季大会, 東京 (東京大学), 口頭
- 蜂谷菜保子, 庄子康, 愛甲哲也, 西成活裕, 佐竹睦子, 2010年9月6-10日, 知床国立公園における交通量のシュミレーション, 日本数理生物学会, 札幌, 口頭
- 蜂谷菜保子, 庄子康, 愛甲哲也, 西成活裕, 佐竹睦子, 2011年3月8-12日, 札幌, 知床国立公園における交通量のシュミレーション, 日本生態学会, 札幌, 口頭
- 野本和宏, 小泉逸郎, 深谷肇一, 秋葉健司, 大光明宏武, 江戸謙頭, 東正剛, 2010年2月10日, 北海道東部に生息する絶滅危惧種イトウの減少要因と保全への提言, 2009年度 日本生態学会北海道地区大会, 札幌, 口頭
- 野本和宏, 深谷肇一, 東正剛, 2009年12月12日, 北海道東部に生息するイトウの保全生物学, 第31回魚類系統研究会 (平成21年12月12日), 千歳, 口頭

鈴木耕平, 佐藤冬樹, 柴田英昭, 早柏慎太郎, 上浦達也, 工藤真理子, 笹賀一郎, 2010年11月9日, 北方針広混交林流域における森林施業が溶存鉄およびDOCの溪流流出に与える影響, 日本森林学会北海道支部大会, 札幌, ポスター

鈴木耕平, 佐藤冬樹, 早柏慎太郎, 上浦達也, 平野裕也, 吉田俊也, 野村睦, 柴田英昭, 笹賀一郎, 2011年3月25-28日, 道北の森林流域の流量変化にたいする人工的森林攪乱の影響, 日本森林学会大会, 静岡(震災のため中止),

齋藤亮介, 廣川淳, 真船文隆, 2008年11月, 化学イオン化質量分析計を用いた大気中亜硝酸濃度測定手法の開発, 第14回大気化学討論会, 横浜, ポスター

地球圏科学専攻

Aggarwal, S., Aggarwal, S. G., Kawamura, K., Okuzawa, K., 2008年9月7-12日, Organic Molecular and Ionic Compositions in Size-Segregated Aerosol Particles Collected in Sapporo, Northern Japan: Importance of Long-Range Transport of Siberian Biomass Burning and Chinese Polluted Aerosols IGAC conference, Annecy(France), ポスター

Aggarwal, S. G., Mochida, M., Kitamori, Y., Kawamura, K., Takami, A. and Hatakeyama, S., 2008年9月7-12日, Chemical Closure on Hygroscopic Properties of Aerosol Particles at Okinawa Island, Japan During Spring 2007 IGAC conference, Annecy France, ポスター

Ajioka, T., Yamamoto, M., Okino, T., Takemura, K., Hayashida, A., 2009年12月14, Paleotemperature reconstruction in Lake Biwa, central Japan, during the last 50,000 years American Geophysical Union, fall meeting 2009, サンフランシスコ, 口頭

Aoki, K., Kubokawa, A., Sasaki, H., and Sasai, Y., 2010年2月22日, Mid-latitude baroclinic Rossby waves in the OFES simulation, 2010 AGU Ocean Science Meeting, Portland(Oregon, USA.), 口頭発表

Fu, P., Kawamura, K., Okuzawa, K., Aggarwal, S. G., Wang, G., Kanaya, Y. and Wang, Z., 2008年9月7-12日, Molecular composition and concentrations of organic aerosols in the troposphere over Mt. Taishan, China, IGAC conference, Annecy(France), ポスター

Fujiwara, C., K. Yamashita, M. Nakanishi, Y. Yasushi 2009年6月22-26日, Features of dust devils in the urban area detected by a 3-D scanning Doppler lidar, 15th Coherent Laser Radar Conference (CLRC), トゥールーズ(フランス), 口頭

Fujiwara, C., K. Yamashita, M. Nakanishi, Y. Yasushi, 2009年6月29-7月3日, Features of dust devils in the urban area detected by a 3-D scanning Doppler lidar, The 7th International Conference on Urban Climate (ICUC-7), 横浜, ポスター

Fujiwara, M., Iwasaki, S., Shimizu, A., Inai, Y., Shiotani, M., Hasebe, F., Matsui, I., Sugimoto, N., Okamoto, H., Nishi, N., Hamada, A., Sakazaki, T., Yoneyama, K., 2008年11月25-26日, Cirrus observations in the tropical tropopause layer over the western Pacific, MISMO Workshop, 横浜, ポスター

Fujiyoshi Yasushi, Kawashima Masayuki, Ohtake Hideaki, Yamada Yoshinori, 2008年9月22-23日, The formation mechanism of a thick cloud band over the Sea of Japan during cold air outbreaks and a nw wind retrieval method from dual-Doppler radar data, 3rd EAMX/MAHASRI workshop, 台湾, 口頭

Fujiyoshi Yasushi, Kawashima Masayuki, Yamashita Kazuya, Fujiwara Chusei, 2008年7月7日, Overview of turbulent and layer structures in the lower troposphere observed by a 3D-scanning Doppler Lidar, 5th Conference on Clouds and Precipitation, カンクン(メキシコ), 口頭

Fujiyoshi Yasushi, Yamamura Ikuyo, Nagumo Nobuhiro, Nakagawa Katsuaki, Muramoto Ken-ichiro, 2008年7月7日, The maximum size of raindrops - Can it be a proxy of precipitation climatology?-, 5th Conference on Clouds and Precipitation, カンクン(メキシコ), ポスター

Fujiyoshi, Yasushi., Kamisho Takuya and Kawashima Masayuki, 2010年2月22-23日, Dual Doppler radar observation of thick cloud bands developed along the Hokkaido coast in the Sea of Okhotsk, 25th International Symposium on Okhotsk Sea & Sea ice, 紋別, 口頭

Fukamachi, Y., Mukai, Y., Ohshima, K. I., Mizuta, G. Wakatsuchi M., 2010年6月22日, Sea-ice motion revealed by moored Acoustic Doppler Current Profiler. International Symposium on Sea Ice in the Physical and Biogeochemical System, 札幌, ポスター

Fukamachi, Y., Ohshima, K. I., Aoki, S., Simizu, D., Tamura, T., Kitade, Y., Hirano, D., Ushio, S., and Hashida, G., 2009年11月9日, Direct observations of newly-found Antarctic Bottom Water and the associated sea-ice production - Cape Darnley Project -, ILTS International Symposium "Frontier of Low Temperature Science", 札幌, ポスター

Fukamachi, Y., Ohshima, K. I., Aoki, S., Kitade, Y., Tamura, T., Wakatsuchi, M., 2010年6月9日, Antarctic Bottom Water revealed by mooring measurement off Cape Darnley, Antarctica, International Polar Year Oslo Science Conference, ノルウェー(オスロ), 口頭

Fukuda, T., Sugiyama, S., Matoba, S., Shiraiwa, T., 2010年6月24日, Numerical glacier flow modeling for dating an ice core drilled in 2008 at Aurora Peak, Alaska, International Symposium on Snow, Ice and Humanity, Sapporo,

Ghimire, M., 2009年11月20-2日, Analysis of Multivariate Characteristics of Morphology of the First Order Basins and their Geomorphic relation: A Case Example of the Siwaliks in the Far West Nepal, The 12th SNU-HU Joint Symposium, ソウル, 口頭発表

Ghimire, Motilal, 2008年6月24日, Land use and land cover change in the Nepal Siwaliks Hokkaido University Sustainability Weeks -G8 Summit Round, Strategy for Sustainable World., Symposium : Drastic Change in the Earth System during Global Warming, 札幌, ポスター

Granskog, M., Toyota, T., Hattori, H., Nomura, D., Krell, A., 2009年2月18日, Observation on physical properties and biogeochemistry of sea ice in southern Sea of Okhotsk, オホーツク海及び海氷国際シンポジウム, ポスター

Hidaka Hiroshi, Watanabe Motohiro, Kouchi Akira, Watanabe Naoki, 2009年7月27日, Hydrogen isotope exchange and H(D) atom addition reaction of solid formaldehyde on amorphous solid water at low temperatures, XXVI ICPEAC, USA(Michigan University), ポスター

Hidaka, H., Watanabe, M., Kouchi, A., Watanabe, N., 2009年10月13日, Quantum tunneling in the H-D

- substitution and the H (D) atom addition reactions of formaldehyde on low temperature surfaces
Hydrogen and Water in condensed matter physics,
千葉県生命の森リゾート・研修センター, ポスター
- Hidaka, H., Watanabe, M., Kouchi, A., Watanabe, N., 2009年7月27日, Hydrogen isotope exchange and H(D) atom addition reaction of solid formaldehyde on amorphous solid water at low temperature, XXVI International conference on Photonic, electronic, and atomic collisions, kalamazoo(chigan, USA), ポスター
- Hidaka, H., Watanabe, M., Kouchi, A., Watanabe, N., 2008年9月4-6日, H-D substitution reactions of formaldehyde on icy grain surfaces at low temperatures, Workshop for Interstellar Matter 2008, Sapporo (Hokkaido Univ.), ポスター
- Iizuka, Y., Sakurai, T., Miyake, T., Uemura, R., Hirabayashi, M., Suzuki, T., Matoba, S., Motoyama, H., Fujii, Y. and Hondoh, T., 2008年11月, Constituent elements of insoluble and nonvolatile particles of the Dome Fuji ice core, EPICA science meeting, Venetia (Italy), ポスター
- Irino, T., Tada, K., Sagawa, T., and Ikehara, K. 2010年1月11日, Seasonal variability of sea-surface temperature and salinity in the Japan Sea during the last glacial maximum based on chemical analyses of a bivalve shell. Western Pacific Paleoceanography Workshop I: Future Challenge (Keelung, Taiwan)
- Kawaguchi Yusuke, Nishashi, Sohey, Mitsudera Fumio, Ohshima Kay I., 2009年2月16-18日, Formation of broad opening of coastal polynya, The 24th International Symposium on Okhotsk Sea and Sea Ice, 紋別, 口頭
- Kawamura, K., Tachibana, E., Okuzawa, K., Aggarwal, S., Kanaya, Y. and Wang, Z., 2008年9月7-12日, Temporal variations of dicarboxylic acids and related compounds in the aerosols over Mt. Tai in the North China Plain during early summer, IGAC conference, Annecy(France), 口頭
- Kitamori, Y., Mochida, M., and Kawamura, K., 2008年8月20-22日, Assessment of the liquid water content in urban aerosol particles by the hygroscopic growth measurements in Sapporo, Japan, エアロゾル学会, 金沢, 口頭
- Komatsu Tetsuya, 2008年11月7日, Middle-Late Pleistocene palaeolake highstands in the high Pamir, 11th Hokkaido University-Seoul National University Joint Symposium, 札幌, 口頭発表
- Kouchi, A., Miyauchi, N., Hidaka, H., Chigai, T., Nagaoka, A., Watanabe, N., 2008年5月5-8日, H₂O ICE FORMATION FROM THE REACTION OF COLD H ATOMS WITH SOLID O₂ AT 10 K Solar System Ices, Oxnard(CA USA), ポスター
- Kubokawa, H., M. Fujiwara, T. Nasuno, and M. Satoh, 2008年9月4日, Analysis of the Tropical Tropopause Layer Using the Global Nonhydrostatic Atmospheric Model, SPARC 4th General Assembly, ボローニャ (イタリア), ポスター
- Kubokawa, H., M. Fujiwara, T. Nasuno, and M. Satoh, 2009年10月25-26日, Analysis of the Tropical Tropopause Layer using the Nonhydrostatic Icosahedral Atmospheric Model (NICAM), IGAC-SPARC Joint Workshop, 京都, ポスター
- Kundu, S., Kawamura, K., and Lee, M., 2009年12月14-18日, Molecular distribution, seasonal variation, chemical transformation and sources of dicarboxylic acids and related compounds in atmospheric aerosols at remote marine Gosan site, Jeju Island AGU fall meeting, San Francisco, ポスター
- Kundu, S., Kawamura, K., Andreae, T. W., Hoffer, A., and Andrea, M. O., 2009年7月9-10日, Molecular distributions of dicarboxylic acids, ketocarboxylic acids and dicarbonyls in biomass burning aerosols: Implications for photochemical production and degradation in smoke layer, 北海道大学低温科学研究所研究集会「大気圏と生物圏の相互作用: 大気化学を中心として」, 札幌, 口頭
- Kundu, S., Kawamura, K., Lee, M., 2009年7月19-29日, Seasonal Variation of Nitrogen Isotopic Ratios of Bulk Nitrogen and Concentrations of Nitrogen Species in Atmospheric Aerosol at Gosan site, Jeju Island, MOCA-09 (IAMAS), Montreal(Canada), 口頭
- Lamsal D., Watanabe T., Sawagaki T., 2010年, Analysis of topographic changes of the debris-covered Imja Glacier, Khumbu Himal, Nepal, using Corona, air photographs and ALOS PRISM, International Symposium on Snow, Ice and Humanity in a Changing Climate. International Glaciological Society, Sapporo,
- Lamsal, Damodar, 2008年11月7日, A Study of Topographical Changes of the Imja Glacier Lake, Khumbu Himal, Nepal: Prospects for GLOF Occurrence, 11th Hokkaido University-Seoul National University Joint Symposium, 札幌, 口頭発表
- Lee, YenLiang, 2008年12月22日, The study of the trail erosion in Wuling area and the Da-ba area of the Shei-pa, National park Symposium of the Research in the Shei-Pa National Park, 台湾 (マイオリ), 口頭発表
- Mitsudera, H., Matsuda, J., Nakamura, T., Uchimoto, K., Nakanowatari, T., Ebuchi, N., 2008年6月16日, Wind- and buoyancy-driven overturning circulation in the Sea of Okhotsk, AOGS 2008, 釜山 (韓国), 口頭
- Miyazaki, Y., Kawamura, K., Sawano, M., 2009年10月25日, The One Atmosphere: Integration, Interface, and Impact, IGAC-SPARC Joint Workshop, 京都, 口頭
- Miyazaki, Y., Kawamura, K., Sawano, M., 2009年12月14-18日, Marine biogenic sources of organic nitrogen and water-soluble organic aerosols over the western North Pacific in summer, AGU fall meeting, San Francisco, ポスター
- Mizuki, Chiharu, 2008年11月7日, A study of measures to enhance people's awareness to flood disaster prevention: A Case study of Kita-ku, Tokyo., 11th Hokkaido University-Seoul National University Joint Symposium, 札幌, 口頭発表
- Mizuki, Chiharu, 2009年7月13日, Evaluation to the measures for floods risk in urban area: A case study of Kita-Ward, Tokyo, The International Disaster and Risk Conferences Chengdu 2009, 成都(中国), 口頭発表
- Mochida, M., Nishita, C., Aggarwal, S. G., Kitamori, Y., Kawamura, K., Miura, K., Takami, A. and Hatakeyama, S., 2008年8月20-22日, Comparison between the hygroscopicity and cloud condensation nuclei activity of atmospheric aerosol particles at Cape Hedo, Okinawa, エアロゾル学会, 金沢, ポスター

- Morioka, H., M. Fujiwara, M. Shiotani, A. M. Thompson, J. C. Witte, and S. J. Oltmans, 2008年6月29日-7月5日, Seasonal and Interannual Variations of Tropical Ozone in the Southern Hemisphere Additional Ozonesondes (SHADOZ) Data, Quadrennial Ozone Symposium 2008, トロムソ (ノルウェー), ポスター
- Nagaoka, A., Watanabe, N., Kouchi, A., 2008年9月4-6日, Effective rate constants for H-D substitution reactions in methanol on the surface at 10 K, Workshop for Interstellar Matter 2008, Sapporo (Hokkaido Univ.), ポスター
- Nakanishi, T., Yamamoto, M., Okino, T., Irino, T., Oda, H., Yokoyama, Y., Matsuzaki, H., Tada, R., 2010年1月11日, Holocene temperature change in the northern East China Sea; Application of TEX86 paleothermometry, Western Pacific Paleogeography Workshop I: Future Challenge, Keelung, 口頭
- Nakanishi, T., Yamamoto, M., Okino, T., Irino, T., Oda, H., Yokoyama, Y., Matsuzaki, H., Tada, R., 2009年12月15日, Holocene temperature change in the northern East China Sea; Application of TEX86 paleothermometry, American Geophysical Union fall meeting 2009, サンフランシスコ, ポスター
- Nishimura D., Tsutaki S. and Sugiyama S., 2010年6月24日, Mechanisms and spatial variety of basal flow in Rhonegletscher, Swiss Alps, International Symposium on Snow, Ice and Humanity, Sapporo,
- Nishimura D., Tsutaki S., Sugiyama S., 2010年12月13日, Basal ice flow regime influenced by glacial lake formation in Rhonegletscher, Switzerland, American Geophysical Union fall meeting 2010, サンフランシスコ, ポスター
- Nishimura, D., Sugiyama, S., Bauder, A. Funk, M., 2008年8月19日, Changes in surface flow speed over the last 100 years, Rhonegletscher, Swiss Alps, International Symposium on Dynamics in Glaciology, Limerick (Ireland), ポスター
- NOMURA Daiki, GRADINGER Rolf, EICKEN Hajo, SHIRASAWA Kunio, 2009年2月15-19日, オホーツク海氷海研究グループ, 紋別, 口頭
- NOMURA Daiki, SHIRASAWA Kunio, GRADINGER Rolf, EICKEN Hajo, 2008年12月, Air-sea ice CO₂ flux over landfast sea ice in the Arctic Ocean, off Barrow, Alaska, XXXI Symposium on Polar Biology, 東京, ポスター
- NOMURA Daiki, TOYOTA Takenobu, MATOB A Sumito, NISHIOKA Jun, SHIRASAWA Kunio, 2008年8月, Nutrients status of snow cover and sea ice in the southern Sea of Okhotsk, PICES Workshop, 網走(日本), 口頭
- Nomura, D., Yoshikawa-Inoue, H., Toyota, T., Shirasawa, K., 2009年9月25-29日, Air-sea ice CO₂ flux in Saroma-ko Lagoon, Hokkaido, Japan: Role of snow on sea ice, snow-melting and re-freezing processes 8th international carbon dioxide conference, Jena (Germany), ポスター発表
- Ohshima, K. I., Tamura, T., 2008年11月3-7日, Studies on sea ice and polynya off the Cape Darnley in East Antarctica, using the ALOS PALSAR and passive microwave data, ALOS PI Symposium, ギリシャ,
- Ohshima, K. I., Tamura, T., 2009年11月9-13日, Studies on sea ice and polynya off the Cape Darnley Antarctica, using ALOS-PALSAR and other satellite data, 3rd ALOS Joint PI Symposium, ハワイ (アメリカ), 口頭
- Ohshima, K. I., Nihashi, S., Iwamoto, K., Tamura, T., Toyota, T., 2010年1月13日, Development of ice thickness and concentration algorithm in thin sea ice region GCOM PI Workshop, JAXA(東京) ポスター
- Ohshima, K. I., Nihashi, S., Tamura, T., Fukamachi, Y., 2010年11月15日, Polynya formation and sea ice production off Cape Darnley Antarctica, revealed by ALOS PALSAR and AMSR-E data, 4th ALOS Joint PI Symposium, 東京, 口頭
- Ohshima, K. I., Tamura, T., Nihashi, S., Iwamoto, K., Simizu, D., Fukamachi, Y., 2010年3月18日, Global Mapping of sea ice production and heat/salt flux in ice-covered regions, using satellite passive microwave data, US CLIVAR/SeaFlux Workshop, Surface Fluxes: Challenges for High Latitudes, ボルダー (アメリカ), 口頭
- Ohshima, K. I., Tamura, T., Fukamachi, Y., Aoki, S., 2009年2月10日, Sea ice production in the polynya and the associated bottom water formation off the Cape Darnley, East Antarctica., 9th International Conference of the Southern Hemisphere Meteorology and Oceanography, メルボルン (オーストラリア), 口頭
- Otosaka Shigeyoshi, Oku Shunsuke, Minami Hideki, Minakawa Masayuki and Noriki Shinichiro, 2008年6月16-20日, Decadal change of particulate flux in the Japan Sea/East Sea, AOGS 5th Annual General Meeting, 釜山 (Busan Exhibition & Convention Center (BEXCO)), 口頭発表
- Sai, H., Yamamoto, M., Chen, M.T., 2009年12月15日, TEX86 and UK37' paleotemperature records from the southern South China Sea during the last two glacial cycles, American Geophysical Union fall meeting 2009, サンフランシスコ, ポスター
- Sakazaki, T., M. Fujiwara and H. Hashiguchi, 2009年10月25-26日, Diurnal wind variations in the UT/LS region detected in MU-radar data and reanalysis data, IGAC-SPARC Joint Workshop, 京都, ポスター
- Satoshi OMIYA, Atsushi SATO, 2010年, An electrostatic charge measurement of blowing snow particles focusing on collision frequency to the snow surface, American Geophysical Union Fall Meeting 2010, San Francisco(USA), ポスター
- Satoshi OMIYA, Atsushi SATO, 2011年12月, Field observations of the electrostatic charges of blowing snow in Hokkaido, Japan, American Geophysical Union Fall Meeting 2011, San Francisco(USA), ポスター
- Satoshi OMIYA, Atsushi SATO, Kenji KOSUGI, Shigeto MOCHIZUKI, 2010年6月, Estimation of the electrostatic charge of individual blowing snow particles by wind tunnel experiment, International Glaciological Society, Sapporo(Hokkaido), ポスター
- Shimamura, M., Hyeong, K., Watanabe, T., Irino, T., Yoo, C.M., and Kim, W.S., 2010年, Opposed trend of skeletal carbon isotopic ratios found in two different coral species collected from the same site: Genus-dependent responses, Proceedings of the 11th International Coral Reef Symposium, Ft. Lauderdale, Florida, 7-11 July 2008, Session number 04
- Sugiyama, S., Naito, N., Enomoto, H., Tsutaki, S., Tone, K., Skvarca, S. Aniya, M., 2010年12月14日, Calving

- Glacier Dynamics Controlled by Small Fluctuations in Subglacial Water Pressure Revealed by Hot Water Drilling in Glaciar Perito Moreno, Patagonia, American Geophysical Union fall meeting 2010, サンフランシスコ, 口頭
- Takamura, R. T., Ishii, M., Midorikawa, T., Tokieda, T., Yoshikawa-Inoue, H., 2009年9月25-29日, Temporal variation of $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ and concentration of DIC in the western North Pacific Subtropical Gyre, 8th international carbon dioxide conference, Jena (Germany), ポスター発表
- Tamura, T., Ohshima, K. I., Nihashi, S., 2009年11月9日, Mapping of sea ice production in the Southern Ocean, ILTS International Symposium "Frontier of Low Temperature Science", 札幌, ポスター
- Tamura, T., Ohshima, K. I., Nihashi, S., 2009年7月19-29日, Mapping of sea ice production and surface heat/salt-flux in the polar Oceans, IAMAS・IAPSO・IACS JOINT ASSEMBLY MOCA-09, モントリオール(カナダ), 口頭
- Tei, S., Sugimoto, A., 2008年7月14-16日, Study on factors controlling interannual variation of carbon fixation by larch in Eastern Siberian Taiga, IVth Annual International Workshop "C/H₂O/Energy balance and climate over boreal regions with special emphasis on eastern Eurasia", Yakutsk (Russia), 口頭
- Tsutaki S., Sugiyama S., 2009年12月14日, Impact of glacier-dammed lake formation on the ice motion in Rhonegletscher, Switzerland AGU fall meeting, San Francisco (USA), ポスター
- Tsutaki S., Nishimura D., Sugiyama S., 2010年6月24日, Changes in glacier dynamics under the influence of proglacial lake formation in Rhonegletscher, Switzerland, International Symposium on Snow, Ice and Humanity, Sapporo,
- Ueta, A., Sugimoto, A., 2008年7月14-16日, Recycling of water through transpiration revealed with isotopic composition of atmospheric water vapor and precipitation observed at Spasskaya Pad, IVth Annual International Workshop "C/H₂O/Energy balance and climate over boreal regions with special emphasis on eastern Eurasia", Yakutsk (Russia), 口頭
- Ukiana M., 2008年11月6-8日, Volcanic Activities and Petrological Properties of Early Pleistocene Tephra, 11th Hokkaido University-Seoul National University Joint Symposium, 札幌, 口頭,
- Watanabe N., Hidaka H., Nagaoka A., Kouchi A., 2008年9月4-6日, Catalytic effect of amorphous solid water on surface reactions of hydrogen atoms at very low temperatures, Workshop for Interstellar Matter 2008, Sapporo (Hokkaido Univ.), ポスター
- Watanabe T., Mizushima, K., Ochiai, Y., Iwata, S., Izumiyama, S., Gaunavina, L., Hirakawa, K., Sawagaki, T., 2009年12月11日, Addressing poverty mitigation and food security in the southern Kyrgyz by ecotourism and sustainable development, キルギス科学アカデミー, キルギス共和国, 口頭発表
- Watanabe, N., Mouri, O., Chigai, N., Nagaoka, A., Pirronello, V., Kouchi, A., 2008年9月4-6日, Laboratory simulation of competition between hydrogenation and photolysis in the chemical evolution of H₂O-CO ice mixtures, Workshop for Interstellar Matter 2008, Sapporo (Hokkaido Univ.), ポスター
- Watanabe, T., Liang, L. Y., 2008年9月4日, Soil erosion studies for management of mountain protected areas: long-term monitoring in Daisetsuzan National Park, Japan, and fast assessment in Shei-Pa National Park, Taiwan Joint Finnish-Japanese Seminar on Northern Environmental Research, ロバニエニ (フィンランド, アークティックセンター), 口頭発表
- Watanabe, Teiji, Lamsal, Damodar, Ives, Jack.D., 2008年8月14日, Imja Glacier Lake, Nepal: Is the Mount Everest World Heritage site in danger?, 31st International Geographical Congress, チュニス(チュニア), 口頭発表
- Yamamoto, M., Shintani, T., Sai, H., Chen, M.-T., 2009年12月15日, Paleotemperature variation in the South China Sea and the displacement of the intertropical convergence zone during the last 30 kyrs, American Geophysical Union fall meeting 2009, サンフランシスコ, ポスター
- Yasunari, T. J., Yamazaki, K., Shiraiwa, T., Hondoh, T., 2008年6月, Importance of spring cyclonic activities in East Asia on Asian dust storm and the Stratosphere-to-Troposphere transport, First International Conference: From Deserts to Monsoons, Crete(Greece), ポスター
- Yoshinori Iizuka, Akira Tsuchimoto, Toshimitsu Sakurai (ILTS), Toshitaka Suzuki (Yamagata Univ.), Motohiro Hirabayashi, Takayuki Miyake (NIPR), Ryu Uemura (LSCE, CEA-CNRS, France), Shuji Fujita, Hideaki Motoyama, Yoshiyuki Fujii(NIPR) and Takeo Hondoh(ILTS), 2009年, Constituent elements of soluble particles of the Dome Fuji snow and ice core, The 2nd International Symposium on Dome Fuji Ice Core and Related Topics, 東京, 口頭
- Yoshizawa, T., Huss M., Sugiyama S., 2010年6月24日, Spatial distribution of surface ablation in the terminus part of Rhonegletscher, Switzerland, International Symposium on Snow, Ice and Humanity, Sapporo.
- 阿部祥子, 磯田豊, 矢幅寛, 2008年9月24-28日, 春季の宗谷暖流沖合域に形成される反流, 2008年度日本海洋学会秋季大会, 広島国際大学呉キャンパス, 口頭
- 阿部祥子, 中村知裕, 2010年3月3-4日, アリュージェン列島における潮汐混合の数値シミュレーション, 環オホーツク地域における気候変動・環境変動のモデリングと予測可能性に関するワークショップ (III), 札幌(北海道大学),
- 阿部祥子, 中村知裕, 2010年3月26-30日, アリュージェン列島域における潮流による鉛直混合の数値実験, 2010年度日本海洋学会春季大会, 東京(東京海洋大学品川キャンパス),
- 阿部洋祐, 山口悟, 澤柿教伸, 2011年3月29日, 氷期の日本の氷河への氷河流動モデルの応用-平衡線高度, 日本地理学会, 東京, 口頭
- 阿部洋祐, 片岡香子, 青木賢人, 2010年, 南アルプス三峰岳における最終氷期以降の氷河・周氷河地形発達史と岩石氷河形成過程, 日本地球惑星科学連合2010年大会,
- 安成哲平, 2008年10月, アラスカのアイスコアが語る過去30年の黄砂と成層圏対流圏輸送 (STT) の情報, 京都大学地球惑星科学専攻地球科学輻合部特別講演会, 京都, 口頭
- 安成哲平, 2009年2月, アイスコアってな〜に?〜黄砂と成層圏の物質を探る〜, 平成20年度中谷宇吉郎科学奨励賞受賞記念講演, 加賀, 口頭

- 安成哲平, 白岩孝行, 的場澄人, 佐々木央岳, 2008年9月, 降下物モニタリングについてのコメント「北太平洋域自由対流圏高度のダスト変動: 黄砂のケーススタディから季節・経年変動まで」, ダストの動態解明に関する研究集会, 名古屋, 口頭
- 安成哲平, 白岩孝行, 的場澄人, 佐々木央岳, 東久美子, 2008年11月, 北部北太平洋域の過去30年のダスト変動: 2001年4月の大規模黄砂の降下量は大きい, 日本気象学会2008年度秋季大会, 仙台, 口頭
- 稲飯洋一, 2008年5月25-30日, 熱帯西太平洋域における水蒸気・オゾンゾンデ観測キャンペーン (2007年1月・2008年1月), 日本地球惑星科学連合2008年大会, 千葉市(幕張メッセ), 口頭
- 奥 俊輔, 乙坂重嘉, 皆川昌幸, 南 秀樹, 乗木新一郎, 2009年9月17日, 日本海におけるBa粒子束 $\sim$ Ba_{xs}の水平輸送について, 2009年度日本地球化学会第56回年会, 東広島市(広島大学理学部), 口頭発表
- 奥沢和浩, 河村公隆, Aggarwal, Shankar Gopala, 金谷有剛, Wang, Zifa, 2008年10月29-30日, 中国泰山におけるエアロゾル中の有機炭素, 元素炭素および無機イオンの濃度変動, 第14回大気化学討論会, 横浜, ポスター
- 乙坂重嘉, 奥俊輔, 南秀樹, 皆川昌幸, 乗木新一郎, 2008年9月17-19日, 東部日本海における沈降粒子の元素組成の経年変化, 2008年度日本地球化学会第55回年会, 東京(東京大学教養部駒場キャンパス), 口頭発表
- 河村公隆, 立花英里, 奥沢和浩, アーガワル・シャンカル, 金谷有剛, ワン・ジーファ, 2008年5月25-30日, 泰山における有機エアロゾルの組成と濃度変動, 地球惑星連合大会, 口頭
- 河村公隆, フー・ピンチン, 立花英里, 奥沢和浩, アーガワル・シャンカル, 金谷有剛, ワン・ジーファ, 2008年9月17-19日, 中国泰山における有機エアロゾルの組成と変動, 日本地球化学会年会, 東京(駒場東大), 口頭
- 河村公隆, 立花英里, 奥沢和浩, アーガワル・シャンカル, 金谷有剛, ワン・ジーファ, 2008年7月24-25日, 中国泰山における大気エアロゾル中の低分子ジカルボン酸の分布と濃度変動, 第26回有機地球化学シンポジウム, 名古屋, 口頭
- 岩本勉之, 田村岳史, 大島慶一郎, 二橋 創平, 2009年11月26日, AMSR-Eを用いた北極海の熱フラックスと海水生産量分布の見積り, 日本気象学会, 福岡, 口頭
- 吉澤 猛, 杉山 慎, Huss M., 2009年10月1日, スイス・ローヌ氷河末端部における表面融解量の空間分布, 日本雪氷学会, 札幌, 口頭
- 久保川陽呂鎮, 藤原正智, 那須野智江, 佐藤正樹, 2008年5月25-30日, Analysis of the tropical tropopause layer using the global nonhydrostatic atmospheric model (2), 日本地球惑星科学連合2008年大会, 千葉市(幕張メッセ), ポスター
- 久保川陽呂鎮, 藤原正智, 那須野智江, 佐藤正樹, 2008年9月25-26日, 全球非静力学大気モデルを用いた熱帯対流圏界面領域の解析, 第2回赤道大気レーダーシンポジウム・第105回生存圏シンポジウム, 宇治市(京都大学宇治キャンパス), 口頭
- 久保川陽呂鎮, 藤原正智, 那須野智江, 佐藤正樹, 2009年11月25-27日, 全球・非静力学大気モデルNICAMの2006年12月MJO実験データを用いた対流圏界面領域の解析(1), 日本気象学会2009秋季大会, 福岡, 口頭発表
- 久保川陽呂鎮, 藤原正智, 那須野智江, 佐藤正樹, 2009年9月29日, 全球・非静力学大気モデル (NICAM)を用いた熱帯対流圏界面領域の解析 熱帯気象研究会 2009, 札幌(北海道大学), ポスター
- 宮野なつみ, 大島慶一郎, 二橋 創平, 田村岳史, 2009年11月17日, 南極ケープダンレーポリニヤにおけるAMSR-E薄氷厚アルゴリズムの開発と海水生産量の見積り, 第32回極域気水圏シンポジウム, 立川, 口頭
- 宮野なつみ, 田村岳史, 二橋創平, 大島慶一郎, 2010年3月29日, 南極ケープダンレーポリニヤにおける海水生産量の見積り, 日本海洋学会春季大会, 東京, 口頭
- 宮崎雄三, 河村公隆, 澤野真規, 2009年10月20-22日, 夏季の西部北太平洋上における海洋生物起源の有機エアロゾル, 第15回大気化学討論会, つくば, 口頭
- 金田祐介, 川島正行, 藤吉康志, 2009年12月22日, 水蒸気の酸素・水素同位体の時間変動特性, 日本気象学会北海道支部研究発表会, 札幌, 口頭発表
- 兼成智久, 谷本陽一, 2008年9月, 冬季黒潮続流域における高解像度海洋気象データセットの解析, 大槌シンポジウム, 岩手・大槌, 口頭発表
- 古閑俊也, 谷本陽一, 渡部雅浩, 大島和裕, 2009年1月, 黒潮続流域における中規模SST偏差に対する大気応答〜水惑星実験, 黒潮続流域での海面フラックスに関する研究集会, 三重県津市(名古屋大学地球水循環研究センター共同研究研究集会 三重大学), 口頭発表
- 古閑俊也, 渡部雅浩, 谷本陽一, 謝尚平, 2008年9月, 黒潮続流域における中規模SST偏差が総観規模擾乱に与える影響, 大槌シンポジウム, 岩手・大槌, 口頭発表
- 古閑俊也, 渡部雅浩, 谷本陽一, 謝尚平, 2008年5月, 黒潮続流域における中規模SST偏差が総観規模擾乱に与える影響, 日本気象学会2008年春季大会, 横浜, ポスター発表
- 古閑俊也, 渡部雅浩, 谷本陽一, 大島和裕, 2009年8月, 中規模SST偏差に対する大気応答〜水惑星実験〜, 大槌シンポジウム, 大槌, 口頭
- 高橋雅博, 石井吉之, 2008年9月24-27日, 降雨と融雪が重なった時の出水現象, 日本雪氷学会全国大会, 東京(東京大学), ポスター発表
- 高橋雅博, 石井吉之, 喜澤一史, 2008年11月28-29日, 陸水物理研究会金沢大会, 金沢(金沢大学), 口頭
- 高橋雅博, 石井吉之, 喜澤一史, 2008年12月28日, 定山溪ダム流域における融雪期の降雨流出, 日本陸水学会北海道支部大会, 札幌(北海道大学), 口頭
- 高橋雅博, 石井吉之, 平野宏和, 喜澤一史, 2009年11月21-23日, 降雨と融雪が重なって生じる融雪洪水, 陸水物理研究会札幌大会, 札幌(北海道大学), 口頭
- 佐々木央岳, 岡本祥子, 白岩孝行, 的場澄人, 杉山慎, 福田武博, Solie Daniel, 吉川謙二, Benson Carl, 2008年9月アラスカ山脈オーロラピーク雪氷コアの現場解析, 雪氷研究大会, 東京, ポスター
- 佐々木央岳, 的場澄人, 白岩孝行, 2008年12月, アラスカ・ランゲル山雪氷コア中の鉄濃度から推定して北部北太平洋への鉄の沈着量, 平成20年度極域気水圏・生物圏合同シンポジウム, 東京, 口頭
- 佐々木央岳, 的場澄人, 白岩孝行, 2008年9月, アラスカ・ランゲル山雪氷コア中の鉄濃度から推定した北部北太平洋への鉄の沈着量, 雪氷研究大会, 東京, 口頭
- 佐々木央岳, 的場澄人, 白岩孝行, 2009年5月, アラスカ・ランゲル山雪氷コア中の鉄濃度から推定した北部北太平洋への鉄の沈着量, 日本地球科学惑星連合大会, ポスター
- 佐々木央岳, 的場澄人, 白岩孝行, 2009年9月30日, 流跡線解析を用いたアラスカ・ランゲル山雪氷コア中の鉄フラックスの変動評価, 日本雪氷学会全国大会, ポスター

- 坂崎貴俊, 藤原正智, 2009年2月26-27日, MUレーダーを用いた下部成層圏・上部対流圏の風の日変動の解析, 第23回大気圏シンポジウム, 相模原, 口頭発表
- 坂崎貴俊, 藤原正智, 2008年5月18-21日, WINDASデータを用いた下部対流圏の風の日変動の解析, 日本気象学会2008年度春季大会, 横浜市, ポスター
- 坂崎貴俊, 藤原正智, 2009年5月21日, MUレーダーおよび全球再解析データで観測された上部成層圏・下部成層圏の風の日変動, 日本地球惑星科学連合2009年大会, 千葉市(幕張メッセ), 口頭発表
- 坂崎貴俊, 藤原正智, 2009年9月11日, WINDASで観測された下部対流圏の風の日変動, 第3回赤道大気レーダーシンポジウム・第129回生存圏シンポジウム, 宇治, 口頭発表
- 三寺 史夫, 松田 淳二, 中村 知裕, 内本 圭亮, 中野渡 拓也, 江淵 直人, 2008年9月25日, 風の強制と連結したオホーツク海の熱塩循環, 日本海洋学会, 呉, 口頭
- 山下和也, 藤原忠誠, 中西幹郎, 藤吉康志, 2008年5月18日, 大気境界層に普遍的に存在するストリーク構造の特性, 日本気象学会, 横浜, ポスター
- 山村育代, 藤吉康志, 南雲信宏, 中川勝広, 下舞豊志, 村本健一郎, 2008年12月15日, 最大雨滴の気候学的特性, 日本気象学会北海道支部, 口頭
- 山本正伸, 新谷知也, 齋博貴, 陳明德, 2009年8月29日, 南シナ海コア古水温変動からみた過去3万年間の熱帯収束帯の変動, 日本第四紀学会2009年大会, 草津, 口頭
- 市川記央, 山本正伸, 沖野龍文, 加三千宣, 杉本隆成, 武岡英隆, 2008年9月19日, TEX86 による別府湾における過去1500 年間の古水温復元, 日本地球化学会2008年度年会, 東京, 口頭
- 市川記央, 山本正伸, 沖野龍文, 加三千宣, 杉本隆成, 武岡英隆, 2009年1月9日, TEX86とアルケノンによる別府湾における過去1500年間の古水温復元, 2008年度古海洋学シンポジウム, 東京, 口頭
- 重光雅仁, 山中康裕, 渡辺 豊, 前田亘宏, 乗木新一郎, 2008年9月17-19日, 生態系モデルを用いた沈降粒子中窒素安定同位体比の季節変動解析, 2008年度日本地球化学会第55回年会, 東京(東京大学教養部駒場キャンパス), 口頭発表
- 小松哲也, 2008年6月29日, パミール東部, カラクル湖周辺の湖岸段丘と氷河地形, 北海道地理学会, 札幌(北海学園大学), 口頭発表
- 小野数也, 千貝健, 福士博樹, 中鉢健太, 坂岡桂一郎, 2009年9月26-28日, CTDとLADCPの時刻を時間サーバで同期させる, 日本海洋学会秋季大会, 京都, ポスター
- 小林勇介, 2010年, 京都西南部における竹林の分布変化について,
- 小林勇介, 2010年, 登山道荒廃に関する研究-北海道百名山を事例に,
- 上庄拓哉, 川島正行, 藤吉康志, 2009年11月22-24日, オホーツク海沿岸帯状雲の特徴と分類, 日本気象学会秋期大会, 福岡, ポスター
- 上庄拓哉, 川島正行, 藤吉康志, 2009年12月22日, オホーツク海沿岸帯状雲の成因と構造, 日本気象学会北海道支部研究発表会, 口頭発表
- 上田哲大, 杉本敦子, 2009年5月19日, 東シベリアタイガ林の大気水蒸気の起源について, 日本地球惑星科学連合2008年大会, 幕張, 口頭
- 上田哲大, 杉本敦子, 2009年9月17日, 東シベリアタイガ林における大気水蒸気同位体比の数日~数週間の変動要因, 日本地球化学会年会, 広島大学, 口頭
- 上田哲大, 杉本敦子, 2008年5月29日, 札幌の大気水蒸気と降水の安定同位体比の季節変動及びその変動要因, 日本地球惑星科学連合2008年大会, 幕張, 口頭
- 新井秀典, 前田剛宏, 石川守, 岩花剛, 杉本敦子, 2009年9月30日, 北海道大雪山永久凍土帯における水循環要素の定量化, 雪氷学会, ポスター
- 森岡 浩, 藤原正智, 塩谷雅人, Anne M. Thompson, Jacquelyn C. Witte, Samuel J. Oltmans, 2008年5月25-30日, SHADOZデータによる熱帯オゾンの季節変動と年々変動, 日本地球惑星科学連合2008年大会, 千葉市(幕張メッセ), 口頭
- 深町康, 大島慶一郎, 青木茂, 北出裕二郎, 田村岳史, 2009年11月17日, 係留観測による南極海ケーブダンレー沖における南極底層水の変動について, 第32回極域気水圏シンポジウム, 立川,
- 深町康, 大島慶一郎, 青木茂, 北出裕二郎, 田村岳史, 若土正暁, 2010年3月29日, 係留観測による南極海ケーブダンレー沖における南極底層水について, 日本海洋学会春季大会, 東京, 口頭
- 水木千春, 2008年6月29日, 東京都北区における水害のための取り組みに関する一考察, 北海道地理学会, 札幌(北海学園大学), 口頭発表
- 水木千春, 2009年6月28日, 都市地域における洪水のための取り組みに関する評価: 東京都北区を事例として, 北海道地理学会, 札幌(北海学園大学), 口頭発表
- 杉山慎, 内藤望, 刀根賢太, 榎本浩之, Pedro Skvarca, 安仁屋政武, 2010年9月29日, パタゴニア・ペリートモレノ氷河における底面水圧と流動測定, 日本雪氷学会, 仙台, 口頭
- 西村 大輔, 津滝 俊, 杉山 慎, 2009年10月1日, 傾斜計によるスイスアルプス・ローヌ氷河末端部の掘削孔変形観測, 日本雪氷学会, 札幌, 口頭
- 西村大輔, 新堀邦夫, 杉山慎, 2008年9月26日, 氷河底堆積物コアサンプラーの開発, 日本雪氷学会, 東京, 口頭
- 西村大輔, 杉山慎, Bauder, A., Funk, A., 2008年6月10日, スイスアルプス・ローヌ氷河における過去100年の流動速度変化, 日本雪氷学会北海道支部, 札幌, 口頭
- 青木篤史, 川島正行, 藤吉康志, 2009年12月22日, 雨縞を構成する雨滴の粒径分布特性, 日本気象学会北海道支部, 札幌, 口頭
- 青木篤史, 川島正行, 藤吉康志, 2009年11月22-24日, 雨縞の研究(1)一最大粒径に着目して一, 日本気象学会秋期大会, 福岡, ポスター
- 石井大樹, 豊田威信, 2009年11月17日, 融解初期における海水の構造特性の変化, 第32回極域気水圏シンポジウム, 東京(国立極地研究所), ポスター
- 川口 悠介, 三寺 史夫, 二橋 創平, 大島 慶一郎, 2009年4月5-9日, 巨大沿岸ポリニアの形成機構に関する研究, 日本海洋学会春季大会, 東京(東京大学本郷キャンパス), 口頭
- 川島正行, 太竹秀明, 藤吉康志, 2008年12月15日, 寒気吹き出し時に日本海北部に発生する太い筋雲の形成メカニズム, 日本気象学会北海道支部, 口頭
- 多田圭吾, 入野智久, 北村晃寿, 佐川拓也, 池原研, 2009年1月9日, 二枚貝化石を用いた日本海最終氷期最寒期表層海水温・同位体比の季節変動復元, 2008年度古海洋学シンポジウム, 東京(東京大学海洋研究所),
- 多田圭吾, 入野智久, 北村晃寿, 池原研, 2008年9月19日, 二枚貝化石殻の酸素同位体比に基づく最終氷期最盛期の日本海表層水温季節変動幅の復元, 2008年度日本地球化学会第55回年会, 東京(東京大学教養学部),

大宮哲, 2011年9月, 吹雪の帯電に関する実験的研究, 2011年度雪氷研究大会・吹雪分科会 話題提供, 新潟県長岡市, 口頭

大宮哲, 2009年11月, Investigation of the electrification of blowing snow particles in a wind-tunnel, 第1回北海道大学サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト, 札幌市, ポスター

大宮哲, 2010年11月, Measurement of electrostatic charge of blowing snow particles in a wind tunnel focusing on collision frequency to the snow surface, 第2回北海道大学サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト, 札幌市, ポスター

大宮哲, 佐藤篤司, 2008年11月, 吹雪粒子が持つ電荷量の見積もり, 第22回北信越支部総会および研究発表会・製品発表検討会, 石川県加賀市,

大宮哲, 佐藤篤司, 2010年11月, 跳躍回数に着目した吹雪粒子の電荷測定, 第33回極域気水圏シンポジウム, 東京都立川市, 口頭

大宮哲, 佐藤篤司, 2010年5月, 摩擦帯電列への氷の導入に向けた実験的試み, 第23回北信越支部総会および研究発表会・製品発表検討会, 新潟県小千谷市,

大宮哲, 佐藤篤司, 2010年9月, 摩擦帯電列への氷の導入に向けた実験的アプローチ, 2010年度雪氷研究大会, 宮城県仙台市, ポスター

大宮哲, 佐藤篤司, 小杉健二, 望月重人, 2008年11月, 風洞内における吹雪粒子の電荷測定, 第24回寒地技術シンポジウム, 札幌市, 口頭

大宮哲, 佐藤篤司, 小杉健二, 望月重人, 2008年9月, 風洞内における跳躍雪粒子の電荷・質量比率の測定(2)～粒径と電荷量の関係～, 2008年度雪氷研究大会, 東京都文京区,

大宮哲, 佐藤篤司, 小杉健二, 望月重人, 2009年9月, 吹雪粒子の昇華蒸発速度の見積もり, 2009年度雪氷研究大会, 札幌市, 口頭

大宮哲, 佐藤篤司, 小杉健二, 望月重人, 2008年5月, 風洞内における吹雪粒子の電荷・質量比率の測定, 第21回北信越支部総会および研究発表会・製品発表検討会, 新潟県長岡市, 口頭

大宮哲, 佐藤篤司, 望月重人, 2010年7月, 吹雪粒子の帯電に湿度が及ぼす影響について(序報), 日本大気電気学会第83回研究発表会, 岐阜県岐阜市, 口頭

大宮哲, 佐藤篤司, 望月重人, 2010年9月, 風洞内の吹雪粒子が持つ電荷量の測定 ～跳躍回数と電荷量の関係について～, 2010年度雪氷研究大会, 宮城県仙台市,

大宮哲, 佐藤篤司, 望月重人, 2011年1月, 吹雪粒子の帯電に湿度が及ぼす影響について(第2報), 日本大気電気学会第84回研究発表会, 神奈川県横須賀市,

大島 慶一郎, 森島秀太, 江淵直人, 深町康, 若土正暁, Y. Volkov, 2008年9月12日, 宗谷暖流流量の季節・経年変動, 研究集会「宗谷暖流の変動メカニズム」, 札幌, 口頭

大島慶一郎, 森島秀太, 清水大輔, 江淵直人, 深町康, 若土正暁, Volkov, Y., 2009年9月28日, 宗谷暖流の構造・流量の季節・経年変動, 日本海洋学会秋季大会, 京都, 口頭

大島慶一郎, 牛尾収輝, 橋田元, 青木茂, 深町康, 豊田威信, 清水大輔, 二橋創平, 田村岳史, 小野数也, 榎本浩之, 館山一孝, 2009年12月10日, 南極巨大沿岸ポリニャにおける係留系等による海水高精度観測, 第3回南極観測シンポジウム, 立川, 口頭

大島慶一郎, 深町康, 青木茂, 清水大輔, 田村岳史, 若土正暁, 北出裕二郎, 平野大輔, 牛尾収輝, 橋田元, 吉川久幸, 中岡慎一郎, 2010年3月29日, 新たに発見された南極底

層水とそれに関わる海水生産の直接観測－ケーブダンレープロジェクト－, 東京日本海洋学会春季大会, 東京, 口頭

大島慶一郎, 深町康, 青木茂, 清水大輔, 田村岳史, 小野数也, 牛尾収輝, 橋田元, 吉川久幸, 北出裕二郎, 平野大輔, 2009年12月10日, 係留系による, 未知の南極底層水と海水生産量・厚さの直接観測, 第3回南極観測シンポジウム, 立川, ポスター

大島慶一郎, 深町康, 青木茂, 豊田威信, 木村詞明, 二橋創平, 田村岳史, 若土正暁, 榎本浩之, 館山一孝, 牛尾収輝, 2008年6月26日, 海水の厚さと生産量のモニタリング観測及び集中観測, 第2回南極観測シンポジウム, 東京, 口頭

大島慶一郎, 深町康, 青木茂, 清水大輔, 田村岳史, 北出裕二郎, 平野大輔, 牛尾収輝, 橋田元, 吉川久幸, 中岡慎一郎, 2009年11月17日, ケーブダンレープロジェクト - 新たに発見された南極底層水とそれに関わる海水生産の直接観測 -, 第32回極域気水圏シンポジウム, 立川, 口頭

中山佳洋, 大島慶一郎, 深町康, 2010年9月9日, 海氷と沿岸海洋の相互作用による海氷漂流強化機構, 2010年度日本海洋学会秋季大会, 網走, 口頭

中西貴大, 山本正伸, 沖野龍文, 入野智久, 小田啓邦, 横山祐典, 松崎浩之, 多田隆治, 2008年9月19日, 東シナ海北部の完新世水温変動, 日本地球化学会2008年度年会, 東京, 口頭

中西貴大, 山本正伸, 入野智久, 沖野龍文, 多田隆治, 2009年1月9日, 東シナ海懸濁粒子中のTEX86とUK37', 2008年度古海洋学シンポジウム, 東京,

中村知裕, 磯田豊, 三寺史夫, 高木吾吾, 長澤真樹, 阿部祥子, 2010年3月26-30日, 日周潮流により生成された大振幅風下波とその砕波の直接観測, 2010年度日本海洋学会春季大会, 東京(東京海洋大学品川キャンパス),

長谷川 航, 2008年8月23日, 北海道南西部, 北海洞における翼手類の冬眠, 日本洞窟学会34回大会, 浜松, ポスター
鳥居和洋, 河村公隆, 2008年10月29-30日, 2008年春の沖縄・辺戸岬における有機エアロゾルの組成, 第14回大気化学討論会, 横浜, ポスター

津滝 俊, 杉山 慎, 2009年9月30日, スイス・ローヌ氷河における氷河湖成長と氷河後退への影響, 日本雪氷学会, 札幌, ポスター

津滝 俊, 西村 大輔, 吉澤 猛, 杉山 慎, 2010年9月29日, スイスアルプスローヌ氷河における氷河前縁湖形成後の流動変化, 日本雪氷学会, 仙台, 口頭

津滝俊, 杉山慎, 2008年6月10日, 熱水ドリル掘削システムの構築, 日本雪氷学会北海道支部, 札幌, 口頭

津滝俊, 西村大輔, 杉山慎, 2008年9月26日, スイス・ローヌ氷河における氷河流動と底面の水理状態に関する調査, 日本雪氷学会, 東京, 口頭

鄭峻介, 杉本敦子, 米延仁志, T. C. Maximov, 2009年9月17日, 年輪の炭素同位体比を用いた東シベリアタイガ林の過去の水分環境と炭素循環の解析, 日本地球化学会年会, 広島大学, 口頭

鄭峻介, 杉本敦子, 2008年9月17-19日, 東シベリアタイガ林のカラマツの生長量の年々変動を決めている要因について, 地球化学会, 東京, ポスター

的場澄人, 佐々木央岳, 白岩孝行, Muravyev Yalroslav, 2008年12月, ロシア・カムチャツカ州・イチンスキー氷河コアのプロファイル, 平成20年度極域気水圏・生物圏合同シンポジウム, 東京, ポスター

- 的場澄人, 佐々木央岳, 白岩孝行, Muravyev Yalroslav, 2008年9月, ロシア・カムチャツカ州・イチンスキー氷河コアの化学解析, 雪氷研究大会, 東京, ポスター
- 的場澄人, 西岡 純, 佐々木央岳, 小埜恒夫, 南秀樹, 野村睦, 白岩孝行, 2009年8月, 北部北太平洋域への大気由来鉄沈着量の推定 - アイスコアとエアロゾル観測からの評価 -, 日本エアロゾル学会, 口頭
- 的場澄人, 對馬あかね, 佐々木央岳, Y. D. Muravyev, 白岩孝行, 2009年11月18日, カムチャツカ・イチンスキーアイスコアから得られた過去50年間のオホーツク海の気温と海水の変動, 平成21年度極地気水圏シンポジウム, 口頭
- 的場澄人, 對馬あかね, 佐々木央岳, Y. D. Muravyev, 白岩孝行, 2009年9月30日, カムチャツカ・イチンスキーアイスコア中の水素安定同位体比の負のピークの解釈, 日本雪氷学会全国大会, ポスター
- 的場澄人, 對馬あかね, 佐々木央岳, 白岩孝行, 2009年5月, カムチャツカ・イチンスキーアイスコア中の化学プロフィールから得られた気候変動情報, 日本地球科学惑星連合大会, 口頭
- 田村 岳史, 大島 慶一郎, 2008年9月24-28日, 東南極ケープダンレーポリニヤの形成・変動機構, 日本海洋学会秋季大会, 呉, 口頭
- 田村 岳史, 大島 慶一郎, Massom, R. A., 2009年11月17-18日, 東南極ケープダンレーポリニヤの形成・変動メカニズム, 第32回極域気水圏シンポジウム, 立川, 口頭
- 田村 岳史, 大島 慶一郎, 二橋 創平, 2008年12月2-5日, 北極海沿岸ポリニヤにおける海水生産量の見積もり, 極域気水圏シンポジウム, 国立極地研究所, 口頭
- 田村岳史, 大島慶一郎, 二橋創平, 2009年4月5-9日, 南大洋における海水域熱塩フラックスデータセットの作成, 日本海洋学会春季大会, 東京, 口頭
- 渡辺 元浩, 日高 宏, 渡部 直樹, 香内 晃, 2009年9月29日, 氷星間塵表面におけるホルムアルデヒドの重水素化経路の特定, 日本惑星科学会2009年秋季講演会, 東京(東京大学), ポスター
- 渡辺 倂二, ラムサール, ダモダール, 澤柿教伸, バイヤース アルトン, アイブス ジャック, 2010年3月27日, ネパールヒマラヤ, イムジャ氷河湖の発達と湖水位の自然的・人工的コントロール, 日本地理学会, 東京(法政大学), 口頭発表
- 刀根賢太, 杉山慎, 福井幸太郎, 藤田耕史, 2010年9月29日, ネパールヒマラヤ・ヤラ氷河の氷厚および流動速度測定, 日本雪氷学会, 仙台, 口頭
- 刀根賢太, 杉山慎, 福井幸太郎, 藤田耕史, 2010年6月9日, 2009年ネパールヒマラヤ・ヤラ氷河における氷厚探査, 日本雪氷学会北海道支部研究発表会, 札幌, 口頭
- 藤吉康志, 菊田元美, 山下和也, 藤原忠誠, 2008年5月18日, ドップラーライダーを用いた南極の対流圏中・下層大気の観測計画, 日本気象学会, 横浜, 口頭
- 藤吉康志, 川島正行, 大井正行, 藤原忠誠, 向笠康二郎, 2009年5月31日, 「オホーツク海沿岸帯状雲」のライダーエコー特性 (1), 日本気象学会春季大会, ポスター
- 藤吉康志, 藤原忠誠, 梅原章二, 2010年2月10日, ドップラーライダーで検出した、雲底部に形成される様々な擾乱, 航空気象研究会, 東京, 口頭
- 藤原正智, 岩崎杉紀, 清水厚, 塩谷雅人, 稲飯洋一, 長谷部文雄, 松井一郎, 杉本伸夫, 岡本創, 西憲敬, 濱田篤, 坂崎貴俊, 米山邦夫, 2008年9月25-26日, 西太平洋の熱帯対流圏界層 (TTL) におけるcirrusの観測, 第2回赤道大気ライダーシンポジウム・第105回生存圏シンポジウム, 宇治市(京都大学宇治キャンパス), 口頭
- 藤原忠誠, 山下和也, 中西幹郎, 藤吉康志, 2009年9月2-4日, ドップラーライダーで検出したDust devilの特徴, 日本流体力学会2009年会, 東京, 口頭
- 藤原忠誠, 山下和也, 中西幹郎, 藤吉康志, 2009年5月28-31日, ドップラーライダーで検出したDust devilの特徴, 日本気象学会春季大会, つくば, 口頭
- 藤原忠誠, 山下和也, 藤吉康志, 2008年5月18日, ドップラーライダーで検出した「つむじ風」の特性と回転方向, 日本気象学会, 横浜, ポスター
- 藤原忠誠, 山下和也, 藤吉康志, 2009年5月28-31日, 海風前線に発生したDust devilのドップラーライダー観測, 日本気象学会春季大会, つくば, ポスター
- 内埜裕子, 杉本敦子, 2008年9月17-19日, カラマツの窒素・炭素安定同位体比を用いたモンゴル森林-草原境界の環境指標, 地球化学会, 東京, ポスター
- 日高宏, 渡辺元浩, 香内晃, 渡部直樹, 2008年11月21日, 低温ホルムアルデヒド表面における水素・重水素原子交換反応, 第7回水素量子アトムクス研究会, 新潟大学, 口頭
- 日高宏, 渡辺元浩, 香内晃, 渡部直樹, 2009年9月27日, 低温ホルムアルデヒド固体表面における水素・重水素原子トンネル反応, 日本物理学会2009年秋季大会, 熊本(熊本大学黒髭キャンパス), 口頭
- 日高宏, 渡辺元浩, 香内晃, 渡部直樹, 2009年9月29日, 低温固体表面における水素, 窒素原子結合反応によるアンモニア分子生成, 日本惑星科学会2009年秋季講演会, 東京(東京大学本郷キャンパス), 口頭
- 日高宏, 渡辺元浩, 香内晃, 渡部直樹, 2008年8月7日, 低温固体表面におけるホルムアルデヒドのH-D交換反応 第33回原子衝突研究会(北大, 札幌) 口頭
- 入野智久, 多田圭吾, 北村晃寿, 佐川拓也, 池原研, 2009年3月29日, 二枚貝化石を用いた最終氷期以降の日本海表層水温・塩分・海水準に対する定量的制約, 日本堆積学会2009年京都枚方大会, 大阪工業大学,
- 入野智久, 太田晴美, 大場忠道, 2008年4月26日, 浮遊性有孔虫一個体ずつの重量分布に基づく海底炭酸塩溶解量の定量, 日本堆積学会2008年弘前大会, 弘前市(弘前大学),
- 入野智久, 太田晴美, 大場忠道, 2009年9月15日, 太平洋中層での浮遊性有孔虫殻の溶解と二次石灰化およびその同位体比への影響, 2009年度日本地球化学会年会, 広島大学,
- 梅原章仁, 川島正行, 藤吉康志, 2009年12月22日, ドップラーライダーにより観測した中層雲雲底における特異構造の解析, 日本気象学会北海道支部, 札幌, 口頭
- 梅原章仁, 川島正行, 藤吉康志, 2009年12月22日, ドップラーライダーにより観測した中層雲雲底における特異構造の解析, 日本気象学会北海道支部研究発表会, 口頭
- 白岩孝行, 的場澄人, 杉山慎, 佐々木央岳, 岡本祥子, 福田武博, Solie Daniel, 吉川謙二, Benson Carl, 2008年9月, アラスカ山脈尾ローラピークにおける雪氷コア掘削概方 雪氷研究大会, 東京, ポスター
- 比文啓太, 橋田元, 中岡慎一郎, 福地光男, 吉川久幸, 2008年12月4日, 2008年夏季の南大洋における海洋炭酸系の分布と変動, 国立極地研究所, ポスター
- 浮穴 愛, 2008年7月6日, 十勝平野・長流枝内丘陵に分布する前期更新世テフラ: 岩石学的特徴とそれにもとづく火山活動史, 北海道地理学会春季学術大会, 札幌, 口頭
- 浮穴 愛, 2009年5月20日, 十勝平野・長流枝内丘陵に分布する前期～中期更新世テフラ, 日本地球惑星科学連合2009年大会, 幕張, ポスター

浮穴 愛, 2009年, 十勝平野・長流枝内丘陵に分布する前期～中期更新世テフラ, 日本地球惑星科学連合2009年大会,

福田 武博, 杉山 慎, 白岩 孝行, 的場 澄人, 2009年10月1日, アラスカ・オーロラピークの氷コア掘削地における氷河流動数値モデル, 日本雪氷学会, 札幌, 口頭

福田 武博, 杉山 慎, 2010年9月29日, 衛星データを用いたLanghovde氷河表面標高の解析, 日本雪氷学会, 仙台, ポスター

福田 武博, 杉山 慎, 白岩 孝行, 的場 澄人, 2008年9月, 2008年 アラスカ・オーロラピークにおける氷河流動測定・氷厚探査, 雪氷研究大会, 東京, ポスター

福田 武博, 杉山 慎, 白岩 孝行, 的場 澄人, 2008年9月24日, 2008年 アラスカ・オーロラピークにおける氷河流動・氷厚探査 日本雪氷学会, 東京, ポスター

福田 武博, 杉山 慎, 白岩 孝行, 的場 澄人, 2009年6月23日, 2008年 アラスカ・オーロラピークにおける氷河流動測定・氷厚探査, 日本雪氷学会北海道支部, 札幌, 口頭

平野 宏和, 石井 吉之, 2009年11月21-24日, 積雪からのイオン流出実験, 陸水物理研究会札幌大会, 札幌 (北海道大学), 口頭

平野 宏和, 石井 吉之, 2009年12月18日, 積雪からのイオン流出実験, 日本陸水学会北海道支部大会, 札幌(北海道大学), 口頭

豊田 威信, 上村 治睦, 小野 修史, 矢口 龍太, 長 幸平, 2008年9月25日, PALSARによるオホーツク海の氷厚分布推定の検証観測, 日本海洋学会秋季大会, 呉市, 口頭

味岡 拓, 山本 正伸, 沖野 龍文, 竹村 恵二, 林田 明, 2009年1月9日, 琵琶湖堆積物中GDGTを用いた過去6万年間の古気候復元, 2008年度古海洋学シンポジウム, 東京, 口頭

味岡 拓, 山本 正伸, 沖野 龍文, 竹村 恵二, 林田 明, 2009年8月29日, 琵琶湖堆積物中のGDGTを用いた過去5万年間の古温度変動復元, 日本第四紀学会2009年大会, 草津, 口頭

野村 大樹, 豊田 威信, 的場 澄人, 西岡 純, 白澤 邦男, 2008年9月24-27日, オホーツク海南部の海水および海水上積雪の栄養塩濃度分布について, 日本雪氷学会, 東京大学, 口頭

野村 大樹, 豊田 威信, 的場 澄人, 西岡 純, 白澤 邦男, 2008年7月16-17日, オホーツク海の海水中栄養塩濃度について-砕氷船「そうや」による観測から-, 海環境シンポジウム実行委員会, 札幌, 口頭

櫻井 俊光, 大野 浩, 飯塚 芳徳, 堀川 信一郎, 青木 輝夫, Johnsen, S., Dahl-Jensen, D., Steffensen, J. P., 本堂 武夫, 2008年9月, 南極・グリーンランド氷床コアから復元した氷期・間氷期における水溶性エアロゾル, 2008年度日本地球化学会年会, 東京, 口頭

櫻井 俊光, 大野 浩, 堀川 信一郎, 飯塚 芳徳, Johnsen, S., Dahl-Jensen, D., Steffensen, J. P., 本堂 武夫, 2008年6月, Detail information of past atmospheric aerosols composition from bipolar ice sheets Strategy for Sustainable World, 札幌, ポスター

櫻井 俊光, 飯塚 芳徳, 内田 努, 本堂 武夫, 2008年8月, 南極氷床コア深層部に含まれる微粒子とエアロゾルの分布, 原子衝突研究協会, 札幌, ポスター

櫻井 俊光, 飯塚 芳徳, 堀川 信一郎, 内田 努, 本堂 武夫, 2008年9月, 南極氷床Dome Fujiコア深部に含まれる微粒子とエアロゾルの分布, 2008年度日本雪氷学会全国大会, 東京, ポスター

櫻井 俊光, 飯塚 芳徳, 宮本 淳, 堀川 信一郎, 谷 篤史, 内田 努, 本堂 武夫, 2009年, 南極氷床Dome Fujiコア深部に含まれる微粒子の特性および空間分布, 日本地球惑星科学連合, 幕張, ポスター

櫻井 俊光, 飯塚 芳徳, 谷 篤史, 内田 努, 本堂 武夫, 2009年, 南極氷床ドームふじ深層コアにおける微粒子の化学組成-硫酸微液泡の発見-, 日本雪氷学会, 札幌, 口頭

櫻井 俊光, 飯塚 芳徳, 内田 努, 本堂 武夫, 2009年11月, Finding of liquid sulfate as a micron sized inclusion in Dome Fuji ice core, Antarctica The 2nd International Symposium on Dome Fuji Ice Core and Related Topics, 東京, ポスター

澤 柿 教伸, 渡辺 悌二, ラムサール ダモダール, バイヤース アルトン, 2010年3月27日, ネパールヒマラヤ, ヒンクラー・ホングー谷における氷河湖決壊の可能性, 日本地理学会, 東京(法政大学), 口頭

澤野 真規, 河村 公隆, 宮崎 雄三, 2009年10月20-22日, 「海洋大気中における低分子モノカルボン酸: 気相・エアロゾル相における分布の特徴」, 第15回大気化学討論会, つくば, ポスター

齋 博貴, 山本 正伸, 沖野 龍文, 陳明徳, 2009年1月9日, 過去15万年間の南部南シナ海の古水温変動, 2008年度古海洋学シンポジウム, 東京, 口頭

齋 博貴, 山本 正伸, 陳明徳, 2008年9月19日, TEX86による過去15万年間の南部南シナ海の古水温復元, 日本地球化学会2008年度年会, 東京, 口頭

生物圏科学専攻

A. Ishikawa, K. Ogawa, H. Gotoh, T. Miura, 2010年7月8日, Juvenile hormone regulation of reproductive-mode changes in the pea aphid. EURO EVO DEVO 2010 Conference, ポスター

A. Ishikawa, Y. Okumura, Y. Nakagawa, T. Miura, 2009年, Regulations of polyphenic wing development in the vetch aphid *Megoura crassicauda*: morphogenesis, tradeoffs, and gene expression, 8th International Symposium on Aphids Programme and Abstracts, ポスター

Agboola, Julius, I., Kudo, Isao, 2008年10月29日, Dynamics of pelagic variables in two contrasting coastal systems in the western Hokkaido coast off Otaru, Japan, Eighth EMECS (Environmental Management of Enclosed Coastal Seas) Conference, Shanghai, 口頭

Agboola, Julius, I., Kudo, Isao, 2008年6月10日, Spatio-temporal analyses of nutrients and phytoplankton biomass in sub-arctic coastal environment of zsls, American Society of Limnology and Oceanography, セントジョンズ, 口頭

Aguilos Maricar, Takagi Kentaro, Liang Naishen, Watanabe Yoko, Goto Seiji, Takahashi Yoshiyuki, Mukai Hitoshi, Sasa Kaichiro, 2010年12月2日, Soil warming in a cool-temperate mixed forest enhances heterotrophic and basal respiration rates, but Q10 remains unchanged, AsiaFlux Workshop 2010, Guangzhou, ポスター

Aoyagi Yukiko, Hirata Toshiyuki, Yamada Toshihiko, 2008年6月29日-7月5日, Ecological genetic study on flowering phenology in red clover, XXI International Grassland Congress, 中国フフホト市, ポスター

Aoyagi Yukiko, Hirata Toshiyuki, Yamada Toshihiko, 2008年4月7-8日, Genetic variability of red clover based on DNA markers, Workshop on bilateral collaboration in the field of comparative genomics of stress tolerance in grasses- China and Norway, オスロ, 口頭

AOYAGI, Y., T. HIRATA and T. YAMADA, 2008年6月2-6日,

- Ecological genetic study on flowering phenology in red clover, IGC2008, 中国フフホト市, ポスター
- Araki H., S. Hane, Y. Hoshino and T. Hirata, 2008年12月, Cover crop use in tomato production in plastic high tunnel, Abstract of 1st Asian Horticultural Congress 2008, p6, Korea, 口頭
- Asaka Yukiko, Azuma Noriko, Karanth K. Praveen, Ogata Kazuo, Murakami Takahiro, Higashi Seigo, 2010年8月10日, Phylogeography of the Weaver ant *Oecophylla smaragdina* supporting southern Indian refugia hypothesis, IUSSI 2010 Congress, Copenhagen, ポスター
- Aya F. and Kudo I., 2008年10月20-25日, Age explains delta15N variation in cultured Japanese scallop *Patinopecten yessoensis* (Jay), 5th World Fisheries Congress, 横浜, 口頭
- Aya F. and Kudo I., 2009年4月22-28日, Stable isotope signatures of age-1+ Japanese scallop *Patinopecten yessoensis* (Jay): patterns and fractionation between tissues, 17th International Pectinid Workshop, Galicia, 口頭
- Aya F. and Kudo I., 2009年6月17-23日, Isotopic shifts of Japanese scallop *Patinopecten yessoensis* (Jay) with changes in size and culture habitat, Korea-Japan Joint Symposium on the Biology of Tidal Flats, Cunccheon City, ポスター
- Aya F. and Kudo I., 2009年10月16-18日, Ingestion efficiency of Japanese scallop *Patinopecten yessoensis* (Jay) fed on Pavlova sp, Japanese Association of benthology and the Plankton Society of Japan, 函館, ポスター
- Bandoh H., Kida I. and Ueda H., 2010年7月6日, Olfactory responses to home stream water in sockeye salmon by BOLD fMRI, 9th International Congress on the Biology of Fish, Barcelona, ポスター
- Bontempo e Silva, E.A., 2009年3月18日, Cold-Induced photoinhibition and seedlings of two canopy tree species in Hokkaido, Japan, 第56回日本生態学会, 盛岡, 口頭
- Bontempo e Silva, E.A., 2009年2月, Influences of canopy openings on the photosynthesis of juvenile trees in Hokkaido, 日本生態学会2008年度北海道地区大会, 札幌, 口頭
- Fujii, M., Kojima, H., Iwata, T., Urabe, J., Fukui, M., 2008年8月17-22日, Influence of Various Environmental Factors on the Bacterioplankton Community Structure in Alpine and Subalpine Lakes, The 12th International Symposium on Microbial Ecology (ISME12), Cairns, ポスター
- Fujii, M., Kojima, H., Tanaka, R., Takano, Y., Hoshino, T., Matoba, S., Imura, S., Fukui, M., 2008年5月11-15日, Community structure of microorganisms in the snow algal blooms of Langhovde, Antarctica The 3rd International Conference on Polar and Alpine Microbiology, Banff, ポスター
- Fujinuma junichi, Rhett D. Harrison, Kubo Takuya, 2009年2月12日, Invasion of an Understory Shrub, *Clidemia hirta*, into the Pasoh Forest Reserve Enhanced by Wild Pigs Shows a Large Spatial Scale Edge Effect, Association for the Tropical Biology and Conservation, チェンマイ, ポスター
- H. Aibara, K. Washio, M. Morikawa, 2008年6月1-15日, Biofilm formation by *Bacillus subtilis* 168, incompatible function of *sfp* American Society for Microbiology, General meeting 108th, Boston, 口頭
- H. Araki, G. A.K.M. Sarwar, H. Nakano, S. Takamushi, S. Ichikawa, T. Jishi and Y. Hoshino, 2009年10月, Biomass production and yield of recent asparagus cultivars in snow cover region, Hokkaido, 12th international Asparagus Symposium, リマ, ポスター
- H. Araki, H. Nakano, S. Takamushi, S. Ichikawa, T. Jishi and Y. Hoshino, 2009年10月, Evaluation of asparagus fern and rhizome residues as a bio-energy source, 12th international Asparagus Symposium, リマ, 口頭
- H. Gotoh, R. Cornette, S. Koshikawa, Y. Okada and T. Miura, 2009年, Juvenile hormone determines the scaling relationship in stag beetle, Evolution2009, ポスター
- H. Miyakawa, M. Imai, T. Miura, 2009年, Screening and expression analysis of genes responding to predator kairomones in the water flea *Daphnia pulex*, The Crustacean Society, 東京, ポスター
- H. Murase, T. Tamura, T. Isoda, R. Okamoto, H. Kato, S. Yonezaki, H. Watanabe, N. Tojo, R. Matsukura, K. Miyashita, H. Kiwada, K. Matsuoka, S. Nishiwaki, D. Inagake, M. Okazaki, H. Okamura, Y. Fujise and S. Kawahara, 2009年10月23日-11月1日, Prey preferences of common minke (*Balaenoptera acutorostrata*), Bryde's (*B. edeni*) and sei (*B. borealis*) whales in the western North Pacific, PICES 18th Annual Meeting, Jeju, 口頭
- Hata, Ahmad Iskandar Bin Haji Mohd, Nagai M., and Okuyama H., 2009年11月25日, A possible bioremediation technique at seashore: Autochthonous bioaugmentation using mic, 第12回ソウル大学・北海道大学ジョイントシンポジウム, ソウル, 口頭
- Hayashida K., Hirayama A. and Ueda H., 2010年7月6日, Changes in fish fauna in oxbow lakes on the Ishikari River and the influence of invasive fish species. Symposium on Fish Habitat: Understanding Connectivity 9th International Congress on the Biology of Fish, Barcelona, 口頭
- Hayashida K., Honda T. and Ueda H., 2010年7月2日, Causes of failure in upstream fish migration through fishways and related countermeasure proposals, 1st International Workshop of Swimming Physiology of Fish, Barcelona, ポスター
- Higashioka, Y., Kojima, H., Fukui, M., 2009年6月28日-7月2日, Effect of temperature on p-xylene-degrading sulfate-reducing consortia, FEMS 2009 3rd Congress of European Microbiologists, Gothenburg, ポスター
- Hiroto Murase, Hiroshi Nagashima, Shiro Yonezaki, Ryuichi Matukura and Toshihide Kitakado, 2008年, Application of Generalized Additive Model (GAM) to acousticsurvey data to model relationships between environment factors and distribution patterns of pelagic fish and krill: A case study in Sendai Bay, Japan ICES シンポジウム, 口頭
- Hori R., Nishida N., and Okuyama H., 2009年11月28日, CELL HYDROPHOBICITY OF EICOSAPENTAENOIC ACID-PRODUCING BACTERIA AFFECTS THE MEMBRANE TRANSPORT OF HYDROPHOBIC AND HYDROPHOBIC COMPOUNDS, 第3回アジア脂質シンポジウム・第20回植物脂質シンポジウム, 横浜, ポスター
- Hoshino Y., and Miyashita T., 2010年8月22-27日, Exploitation of wild *Lonicera caerulea* in Japan:

- ploidy distribution and DNA content variations, 28th International Horticultural Congress, Lisbon, ポスター
- Ida TY, Kudo G., 2008年8月2日, Evaluation of the significance of floral color change strategy in *Weigela middendorffiana* (Caprifoliaceae), アメリカ生態学会大会, Milwaukee, ポスター
- Ileva, N.Y., Kubo, T., Shibata, H. and Ueda, H., 2008年10月23日, Biotelemetry researches on mechanisms of salmon homing migration, 5th World Fisheries Congress, 横浜, 口頭
- Ileva, Y. Nina, 柴田英昭, 山本雄三, 上田 宏, 2009年3月28日, 天塩川における上流から河口までの栄養塩・アミノ酸動態, 2009(平成21)年度日本水産学会大会, 東京, 口頭
- Ishimaru Natsumi, Shibamura Seiichiro, Montani Shigeru, 2008年10月22日, Nitrogen dynamics in a subarctic brackish lagoon: Temporal and spatial variability and the controlling factors WFC 2008, 5th World Fisheries Congress, 東京, 口頭
- Ishimaru Natsumi, Shibamura Seiichiro, Montani Shigeru, 2008年6月23日, Nitrogen dynamics of the water column in a subarctic brackish lagoon, Hichirippu-Numa, compared to eutrophic estuarine ecosystems Strategy for Sustainable World, 北海道, ポスター
- K. Fukaya, T. Okuda, M. Nakaoka, M. Hori, T. Noda, 2009年8月17-21日, Coverage dynamics of barnacle: patterns of seasonal and spatial variation of local dynamic parameters, The 10th International Congress of Ecology, Australia, ポスター
- K. Minami, N. Tojo, H. Yasuma, Y. Ito, T. Nobetsu, and K. Miyashita, 2009年11月9-10日, Spatial estimation of kelp forests (*Laminaria* spp.) before and after harvesting in coastal water of the Shiretoko Peninsula, Hokkaido Japan, The 3rd meeting of Asian Fisheries Acoustics Society (AFAS2009), Taipei, 口頭
- K. Oki, K. Washio, D. Matsui, Y. Hirata, M. Morikawa, 2010年9月15-19日, The role of urease activity on biofilm and urolith formation by *Staphylococcus* sp. T-02 that was isolated from a toilet bowl, IBS2010, Rimini, ポスター
- K. Shimada, K. Washio, M. Morikawa, 2008年6月1-15日, Efficacy of biofilm formation by naphthalene degrading *Pseudomonas stutzeri* T102 toward bioremediation technology. American Society for Microbiology General meeting 108th, Hangzhou, 口頭
- Kashihara Y., Hirano T., Murata N., Shinoda K., Araki H. and Hoshino Y., 2009年, Evaluation of pre-fertilization barriers by observation of pollen tube growth and attempts for overcoming post-fertilization barriers in intergeneric hybridization between *Alstroemeria* and *Bomarea* by ovule culture, 23rd EUCARPIA SYMPOSIUM - Section Ornamentals "Colourful Breeding and Genetics", ライデン, ポスター
- Kawai Y., Kudo G., 2009年3月18日, Flowering phenology and competition for bumblebee pollinators in alpine plant communities, 日本生態学会大会, 盛岡, 口頭
- Kazushi Miyashita, Atsumu Watanabe, Yusuke Itho, Saho Morioka, Yoshihiro Ikewaki, and Hiroki Yasuma, 2008, Acoustic monitoring of Japanese anchovy (*Engraulis japonicus*) post-larvae "shirasu", ICES シンポジウム, ポスター
- Keiko Kitamura, Makoto Kobayashi, Jiro Kodani, Yada Yutaka, 2008年9月8-13日, Genetic variations in seeds of small, isolated beech populations in the Noto Peninsula, IUFRO The 8th International Beech Symposium, 七飯, 口頭
- Kenji Minami, Kazushi Miyashita, Takeshi Nakamura, Hiroki Yasuma, Naoki Tojo and Akira Hamano, 2008年6月14-23日, Acoustic monitoring of the seaweed (*Sargassaceae*) beds in coastal area of the Sea of Japan, ICES Symposium on the Ecosystem Approach with Fisheries Acoustics Complementary Technology, Norway
- Kimura, K., Kogame, K. Uwai, S., Nagasato, C. and Motomura, T., 2009年, Differences of elimination timing in male mitochondria and mitochondrial DNA after fertilization between isogamous and oogamous brown algae, 第9回国際藻類学会議, 東京, ポスター
- Kimura, M. and Munehara H., 2009年, Asymmetric postzygotic isolation among three *Hexagrammos* species by reduction of developmental success in particular heterospecific crosses, Indo-Pacific Fish Conference, オーストラリア, 口頭
- Kubota, Shosei, Ohara, Masashi, 2008年7月28-29日, The evolution of self-incompatible and self-compatible populations in a hermaphroditic perennial, *Trillium camschatcense*: Which is the derivative?, BOTANY 2008, ブリティッシュコロンビア, ポスター
- Kuma, K., Sugie, K., Fujita, S., and Nakayama, Y., 2008年10月26日, Temporal variability and bioavailability of iron and nutrient during spring phytoplankton bloom in the Oyashio region, PICES Seventeenth Annual Meeting, Dalian
- M. Morikawa, K. Shimada, K. Washio, 2008年5月18-21日, Efficacy of biofilm formation by naphthalene degrading *Pseudomonas stutzeri* T102 toward bioremediation technology. BIT 1st World Congress of ibio-2008, Hangzhou, 口頭
- M. Morikawa, K. Yamazaki, H. Aibara, K. Washio, 2010年7月25-27日, Enhanced Production of Vitamin K2 by *Bacillus subtilis* natto Biofilms, BIT's 3rd Annual World Congress of Industrial Biotechnology, Dalian, 口頭
- Makiguchi, Y., Konno, Y., Ichimura, M., Nagata, S., Murata, H., Kojima, T. and Ueda, H., 2009年7月27日, Cardiac arrest during gamete release in chum salmon regulated by the parasympathetic nerve system, 第5回日本バイオロギング研究会シンポジウム, 京都, 口頭
- Makiguchi, Y., Konno, Y., Ichimura, M., Nagata, S., Murata, H., Kojima, T. and Ueda, H., 2009年7月28日, Cardiac arrest during gamete release in chum salmon regulated by the parasympathetic nerve system, 36th International Congress of Physiological Sciences, 京都, 口頭
- Makiguchi, Y., Konno, Y., Nii, H., Nakao, K. and Ueda, H., 2008年10月23日, Energy use and swimming behavior of pink salmon during upstream migration in the reconstructed segment of the Shibetsu River, Japan assessed by electromyogram (EMG) transmitter, 5th World Fisheries Congress, 横浜, ポスター
- Makiguchi, Y., Nii, H., Nakao, K., Ueda, H., 2009年9月16日, Comparison of sex-specific swimming energetics

during adult migration in pink salmon, 8th Conference on Fish Telemetry held in Europe, Umea, 口頭

Makoto Kobayashi, Tetsuya Matsui, Kunikichi Yoshida, Takashi Kohyama, 2008年9月8-13日, Forest attributes contributing to the expansion of Siebold's beech population at its northern distribution front, IUFRO The 8th International Beech Symposium, 七飯, ポスター

Matsuda I., Tuuga A., Higashi S., 2009年2月7日, COMPARISON OF FEEDING BEHAVIORS BETWEEN RIVERINE AND INLAND HABITATS IN PROBOSCIS MONKEYS, Cooperation Research Symposium 「Field Research of Primates in South-eastern Asian Tropical Forest」, 犬山, 口頭

Miyashita Tomomi and Yoichiro Hoshino, 2008年, Production of triploid plants from crosses between diploid and tetraploid plants by ovule culture in Haskap (*Lonicera caerulea* var. *emphylllocaryx*), Sixth International Symposium on In Vitro Culture and Horticultural Breeding, ブリスベン, ポスター

Miyata R., Kubo, T. Kohyama T., 2010年9月7日, Functional response of open-grown leader shoots at the top of crowns to aboveground height in deciduous broad-leaved trees, Annual Meeting of British Ecological Society, ポスター

Morikawa M., Roongsawang N., Lim SP, Washio K., 2009年4月27-30日, Genetic analysis of synthetic regulation and transportation of lipopeptide type biosurfactant, Biosurfactant Workshop in Vietnam, ハノイ, 口頭

N. Tojo, A. Nishimura, T. Funamoto, O. Yamamura, H. Yasuma, and K. Miyashita, 2009年10月23日-11月1日, Ecologically driven spatial dynamics in pre-wintering juvenile walleye pollock (*Theragra chalcogramma*) in the coastal sea off northeastern Hokkaido, Japan, PICES 18th Annual Meeting, Jeju, ポスター

N. Tojo, K. Minami, R. Matsukura, Y. Kawauchi, T. Funamoto, M. Chimura, A. Nishimura, and K. Miyashita, 2009年11月9-10日, Spatial estimation of euphausiid abundance of Pacific coast of Hokkaido, Japan in early summer of 2008, The 3rd meeting of Asian Fisheries Acoustics Society (AFAS2009), Taipei, 口頭

N. Tojo, R. Matsukura, H. Yasuma, K. Minami, A. Nishimura, O. Yamamura, T. Funamoto, S. Honda, and K. Miyashita, 2009年10月23日-11月1日, Environmentally driven seasonal distribution of zooplanktons along the Pacific coast off the eastern Hokkaido, Japan, PICES 18th Annual Meeting, Jeju, 口頭

Nakaji T., Tayanagi S., Muller, O., Nakamura, M., Oguma, H. and Hiura T., 2010年8月26日, Estimation of leaf chemical defensive materials by hyperspectral reflectance in experimentally warmed oak trees, UK-Japan Workshop on Forests and Climate Change, 東京・福岡, 口頭

Nakaji T., Tayanagi S., Oguma, H., Nakamura, M., Muller, O. and Hiura T., 2010年12月14日, Hyperspectral remote sensing of mature oak (*Quercus crispula*) trees exposed to artificial soil warming, JALTE All Scientist Meeting, 東京・福岡, ポスター

Nakanowatari H. and Okuyama H., 2009年11月28日,

FERMENTATIVE PRODUCTION OF LONG CHAIN POLYUNSATURATED FATTY ACID-CON, 第3回アジア脂質シンポジウム・第20回植物脂質シンポジウム, 横浜, ポスター

Naoki Tojo, Ryuichi Matukura, Hiroki Yasuma, Shiroh Yonezaki, Hikaru Watanabe, Shigeyuki Kawahara, Hiroto Murase, Kazushi Miyashita, 2008年, Spatial analysis of Isada Krill (*Euphausia pacifica*) distribution in frontal environments in the North Pacific Ocean, GIS学会, 口頭

Naoki Tojo, Akira Nishimura, Tetsuichiro Funamoto, Hiroki Yasuma, Seiji Katakura, Kazushi Miyashita, 2008年8月25-29日, Marine environment induced spatial interaction of recruited walleye pollock juveniles (*Theragra chalcogramma*) with prey, predator, and marine environment variables in Pacific coast of Hokkaido, Japan, The 4th International Symposium on GIS/Spatial analyses in Fisheries and Aquatic Sciences, Rio de Janeiro, ポスター

Naoki Tojo, Akira Nishimura, Tetsuichiro Funamoto, Hiroki Yasuma, Seiji Katakura, Kazushi Miyashita, 2008年11月10-11日, Spatial interaction of recruited walleye pollock juveniles (*Theragra chalcogramma*) with prey, predator, and marine environment variables in Pacific coast of Hokkaido, Japan, The 2nd meeting of Asian Fisheries Acoustics Society, 仁川, 口頭

Naoki Tojo, Hiroto Murase, Ryuichi Matsukura, Hiroki Yasuma, Shiroh Yonezaki, Hikaru Watanabe, Shigeyuki Kawahara, Kazushi Miyashita, 2008年11月10-11日, Isada Krill (*Euphausia pacifica*) distribution in frontal environments in the North Pacific Ocean, The 2nd meeting of Asian Fisheries Acoustics Society, 仁川, 口頭

Naoki Tojo, Ryuichi Matsukura, Hiroki Yasuma Shiroh Yonezaki, Hikaru Watanabe, Shigeyuki Kawahara, Hiroto Murase, Kazushi Miyashita, 2008年8月25-29日, Spatial analysis of Isada Krill (*Euphausia pacifica*) distribution in frontal environments in the North Pacific Ocean, The 4th International Symposium on GIS/Spatial analyses in Fisheries and Aquatic Sciences, Rio de Janeiro, 口頭

Nemoto E., Kojima, H., Fukui M., 2010年8月22-27日, Physiological functions of freshwater *Thioploca* deduced from gene analysis, The 13th International Symposium on Microbial Ecology (ISME13), Seattle, ポスター

Nioka Tadashi, Yoshida Daiki, 2010年, Effects of caffeine on changes in cerebral blood volume and oxygenation and in cognitive-task performance: from a view point of individual difference based on sensitivity to caffeine, The Second International Conference on Drug Discovery & Therapy, ポスター

Novkovic Biljana, 及川綾子, 村田祐亮, 三井偉由, 木村正人, 2010年8月23-25日, Abundance and host association of parasitoids attacking frugivorous drosophilids in Iriomote-jima, 日本・オランダ共同セミナー『寄生バチの生態学』, 東京, ポスター

Novkovic Biljana, 木村正人, 2009年10月11日, アジア産 *Leptopilina* 属の系統と進化, 日本昆虫学会第69回大会, 三重, 口頭

Novkovic Biljana, 木村正人, 2010年9月17-20日, 琉球列島, 台湾におけるショウジョウバエと捕食寄生蜂の遺伝的

- 分化と共進化, 日本昆虫学会第70回大会, 鶴岡, 口頭
Okuda T., Noda T., Yamamoto T., Hori M., and Nakaoka M., 2009年7月18日, Among-taxon variability of relative contribution of environmental and spatial processes on rocky intertidal metacommunity structure, First ASIAHORCs Joint Symposium "Asian Biodiversity: Characteristics, Conservation and Sustainable Use" S2-14, 口頭
- Rayadin, Y., Saitoh, T., 2008年8月3-8日, Individual variation in bed site features in the Bornean orangutan (*Pongo pygmaeus*), International Primatological Society XXII Congress, Edinburgh, 口頭
- Rumiko Kajihara, Tomohiro Komorita, Seiichiro Shibamura, Toshiro Yamada, Shigeru Montani, 2008年10月22日, Stable isotopic study of benthic processes in subarctic lagoon, Hichirippu lagoon, Hokkaido, Japan, WFC 2008 5th World Fisheries Congress, 東京, 口頭
- Rumiko Kajihara, Tomohiro Komorita, Seiichiro Shibamura, Toshiro Yamada, Shigeru Montani, 2008年6月23日, Nitrogen dynamics of benthic ecosystem in subarctic brackish lagoon, Hichirippu-Numa, Hokkaido, Japan. Strategy for Sustainable World, 北海道, ポスター
- Saitoh, T., Ishibashi, Y., de Guia, A. P., Kawai, K., Zenitani, J., Kryukov A., Pavlenko, M., Kartavtseva, I., and Sheremetyeva, I., 2009年8月9-14日, Multi-scale analyses of spatial genetic structure of the gray-sided vole: inter-landmass, regional and local scales, 第10回国際哺乳類学会議, メンドーサ, ポスター
- SAKAI Nana, MIYASHITA Tomomi, TSUJITA Mari and HOSHINO Yoichiro, 2008年, Characterization of *Lonicera caerulea* var. *emphylllocaryx* (Haskap) and *L. gracilipes* var. *glandulosa*, and production of their hybrids by ovule culture, Sixth International Symposium on In Vitro Culture and Horticultural Breeding, Brisbane, ポスター
- Satomi Ishizaki, Kaori Shiojiri, Richard Karban, Masashi Ohara, 2009年11月2-6日, The evidence of clonal growth in relation to volatile communication among plants, of Sagebrush (*Artemisia tridentata*), IFES-GCOEサステナビリティ・ウィーク2009, 札幌, 口頭
- Shibata H., Toda, H., Inagaki, Y., Tatenno, R., Koba, K., Nakanishi, A., Fukuzawa, K., Urakawa, R., Yamasaki, Y., Hasegawa, Y., 2010年4月3日, Regional and comparative soil incubation study on nitrogen dynamics in forest ecosystems – ReSIN project–, 第121回日本森林学会大会, つくば, 口頭
- Shibata, H., Fukuzawa, K. and Watanabe, T., 2008年12月11日, Role of Sasa dwarf bamboo on the carbon and nitrogen biogeochemistry under the environment changes in cool-temperate forest ecosystem in northernmost of Japan, Memorial Symposium Celebrating Dr. David Tilman "Ecology for the Changing World", 仙台, 口頭
- Sugihara S. and Okuyama H., 2009年11月28日, A POSSIBLE BIOSYNTHETIC PATHWAY OF A VERY LONG CHAIN POLYUNSATURATED, 第3回アジア脂質シンポジウム・第20回植物脂質シンポジウム, 横浜, ポスター
- Tatsuru Jishi, Yoshihiko Shiga, Tomoo Maeda and Hajime Araki, 2009年10月, Winter production of white asparagus from one-year-old rootstocks by forcing culture, 12th international Asparagus Symposium, リマ, 口頭
- Terauchi, M., Kato, A., Nagasato, C. and Motomura, T., 2009年8月4日, The EST Analysis and Fundamental Experiment for Gene transformation in Chrysophycean alga *Ochromonas danica*, 第9回国際藻類学会議, 東京, ポスター
- Terauchi, M., Kajimura, N., Nagasato, C., Katsaros, C., Mineyuki, Y., Motomura, T., 2010年4月8日, Ultrastructural study on plasmodesmata formed during cytokinesis in brown alga *Dictyota dichotoma*, Ectocarpus 2010, ゲント, 口頭
- Tetsuya Matsui, Kanji Namikawa, Ryota Goto, Makoto Kobayashi, Shigeo Kuramoto, 2008年9月8-13日, Is *Fagus crenata* expanding north-eastwards in Hokkaido? -Implications from forest age structure and disturbance history-, IUFRO The 8th International Beech Symposium, 七飯, 口頭
- Tomohiro Komorita, Hiroaki Tsutsumi, Seiichiro Shibamura, Toshiro Yamada, Rumiko Kajihara, Natsumi Ishimaru, Shiomi Hatanaka, Shigeru Montani, 2008年6月23日, Recruitment pattern of the short neck clam, *Ruditapes philippinarum*, in Hichirippu lagoon, Hokkaido, Japan, Strategy for Sustainable World, 北海道, ポスター
- Tomohiro Komorita, Hiroaki Tsutsumi, Seiichiro Shibamura, Toshiro Yamada, Rumiko Kajihara, Natsumi Ishimaru, Shiomi Hatanaka, Shigeru Montani, 2008年10月22日, Larval recruitment and post settlement survival rates of the short neck clam, *Ruditapes philippinarum*, in Hichirippu lagoon, Hokkaido, Japan: Estimation of the environmental factor determined definite density of the clam, WFC 2008 5th World Fisheries Congress, 東京, 口頭
- Toru Miura, Akiko Hattori, Shigeyuki Koshikawa, Satoshi Miyazaki, Hitoshi Miyakawa, Richard Cornette, 2009年, Insulin signaling pathway responsible for the soldier differentiation in a damp-wood termite *Hodotermopsis sjostedti*, Evolution 2009, 口頭
- Tsutsumi, M., Kojima, H., Iwata, T., and Fukui, M., 2009年11月9-10日, Community structure of methane-oxidizing bacteria in water column of a freshwater lake, ILTS International Symposium "Frontier of Low Temperature Science", 札幌, ポスター
- Volta R. T. Gurning, 鷺尾健司, 森川正章, 2008年6月25日, 新規アゾ染料分解脱色細菌の探索, 環境バイオテクノロジー学会2008年度大会, 筑波, ポスター
- Wang Xun, Hoshino Yoichiro, Yamada Toshihiko, 2008年6月29日-7月5日, Establishing abundant and efficient explant system for *Agrobacterium*-mediated transformation in zoysiagrass, XXI International Grassland Congress, 中国フフホト市, ポスター
- Wang Xun, Hoshino Yoichiro, Yamada Toshihiko, 2009年3月29-30日, Rapid invitro callus induction and regeneration of zoysiagrass (*Zoysia japonica* Steud.) and miscanthus (*Miscanthus sinensis* Anderss.), 第65回日本草地学会, 藤沢, ポスター
- Wang Xun, Kong Fanjiang, Hoshino Yoichiro, Yamada Tetsuya, Yamada Toshihiko, 2009年8月10-14日, Rapid *in vitro* culture and *Agrobacterium*-mediated transformation system in zoysiagrass (*Zoysia japonica* Steud.), the 14th Australasian Plant Breeding Conference (APBC) & 11th Congress of the

- Society for the Advancement of Breeding Research in Asia and Oceania (SABRAO), Cairns
- Watanabe, M., Takamura, S., Maekawa, K., 2008年6月29-7月3日, Filial cannibalism by mature male parr in masu salmon (*Oncorhynchus masou*), Ecological and Evolutionary Ethology of Fishes, Boston, ポスター
- Watanabe, T. and Shibata, H., 2009年9月14-16日, Litter decomposition of Sasa dwarf bamboo in cool-temperate forest ecosystem of northern Hokkaido, Japan, Long-Term Ecological Research All Scientists Meeting (LTER-ASM), Colorado, ポスター
- Y. Kawauchi, H. Matsumoto, O. Shida, H. Okumura, N. Tojo, H. Yasuma, and K. Miyashita, 2009年11月9-10日, Distribution of wall-eye pollock *Therarra chalcogramma* juvenile before and after period of transition for feeding in Funka bay, Hokkaido in 2006 and 2007, The 3rd meeting of Asian Fisheries Acoustics Society (AFAS2009), Taipei, 口頭
- Y. Kawauchi, T. Mutoh, O. Shida, H. Okumura, and K. Miyashita, 2010年12月14-16日, Environmental factors influencing the vertical distribution of walleye pollock juveniles in Funka Bay, Japan before and after the transition period of food organisms, The 4th meeting of Asian Fisheries Acoustics Society (AFAS2010), Pinang
- Yazawa Yoshiko, Kohyama Takashi, Kubo Takuya, Kassim Rahman Abd, Potts D. Matthew, 2008年4月, Differentiation in crown architecture among 200 tree species in a lowland rainforest, Peninsula Malaysia, The Association for Tropical Biology and Conservation (ATBC) ASIA-PACIFIC CONFERENCE, Kuching, ポスター
- Yazawa, Y., Kohyama, T., Kubo, T., Kassim, A.R., Poorter, L., Sterk, F., Potts, M.D., 2010年7月22日, Relationships between tree architecture and demographic traits among 200 co-occurring rainforest tree species in Peninsular Malaysia, The 2010 International meeting of the Association for Tropical Biology and Conservation, Bali, 口頭
- Yazawa, Y., Kohyama, T., Kubo, T., Kassim, A.R., Poorter, L., Sterk, F., Potts, M.D., 2010年9月7日, Wood density drives architectural differentiation amongst 108 species in a lowland rainforest tree community, Annual Meeting of British Ecological Society, Leeds, ポスター
- Yoon Seokjin, Abe Hiroya, Kishi Michio J., 2010年10月10-14日, Estimation of the role of benthic algae as a food source for the Manila clam in Akkeshi Lake, Japan, -present and future- IMBER IMBIZO2, Crete, ポスター
- Yoon Seokjin, Abe Hiroya, Kishi Michio J., 2010年10月22-31日, Variance estimation of the growth and food sources of the Manila clam by global warming in a subarctic lagoon, Japan, PICES (North Pacific Marine Science Organization), Portland, ポスター
- Yoon Seokjin and Kishi J. Michio, 2009年10月28日, Estimation of the role of eelgrass and associated epiphytic algae on the carbon cycle in Akkeshi Lake, Japan, PICES (North Pacific Marine Science Organization), Jeju, 口頭
- Yoshimi Takao, Hiroki Yasuma, Ryuichi Matukura, Kazuo Amakasu, 2008年, Measurements of sound-speed and density contrasts and orientation of Antarctic krill (*Euphausia superba*) onboard RV Kaiyo Maru, ICES シンポジウム, 口頭
- Yuki Ishikawa, Hitoshi Aonuma, Ken Sasaki, Toru Miura, 2010年8月8日, Neuronal Modifications of Octopaminergic and Tyraminergetic Systems in Termite Soldiers, The international Union for the Study of Social Insects 2010 Congress, ポスター
- Yukiko Kashihara, Yoichiro Hoshino, 2008年, Preliminary experiments for intergeneric hybridization between *Alstroemeria* and *Bomarea*, Sixth International Symposium on In Vitro Culture and Horticultural Breeding, Australia, ポスター
- Yusuke Ito, Kazushi Miyashita, Saho Morioka, 2008年6月16-20日, Acoustic monitoring of Japanese Anchovy (*Engraulis japonicus*) Post-larvae "Shirasu" Measurement method of the distributions of zooplanktons using an echo-sounder and GIS around sea hills, Hachirigase, in the Sea of Japan, International Symposium on Ecosystem Approach with Fisheries Acoustics and Complementary Technologies, Bergen, ポスター
- 阿形朋子, 鷲尾健司, 金井保, 跡見晴幸, 今中忠行, 森川正章, 2009年10月21-24日, 超好熱性アーキア *Thermococcus kodakaraensis* KOD1 由来細胞表在タンパク質 Slp の機能解析, 第82回日本生化学会大会, 神戸, ポスター
- 安房田智司, 木村幹子, 佐藤成祥, 坂井慶多, 宗原弘幸, 2009年3月30日, 分布北限域におけるセトメリの繁殖期、産卵時刻と野外における産卵行動, 日本水産学会, 東京, ポスター
- 石川絵理奈, 伊東義兼, 鷲尾健司, 松本光史, 森川正章, 2009年10月21-24日, 火力発電所硝化槽より単離した新規メタノール酸化細菌の諸特性解析, 第82回日本生化学会大会, 神戸, ポスター
- 石川由希, 青沼仁志, 佐々木謙, 三浦徹, 2009年, 兵隊シロアリの攻撃性に関する生体アミンシステム, 第11回日本進化学会大会要旨集, ポスター
- 石川由希, 青沼仁志, 佐々木謙, 三浦徹, 2009年, シロアリの兵隊・ワーカーにおける脳内チラミン・オクトパミン系の解析, 第34回日本比較内分泌学会大会・日本比較生理生化学会第31回大会合同大会, 口頭
- 石崎智美, 大原雅, 塩尻かおり, Richard Karban, 2009年3月17-22日, 遺伝的近縁度が *sagebrush* (*Altemisia tridentata*) の植物間コミュニケーションに与える影響, 第56回日本生態学会, 盛岡, ポスター
- 石沢清華, 山本雄三, 傳法隆, 上田宏, 2009年3月27-31日, 河川中の溶存遊離アミノ酸の起源に関する環境生物学的研究, 日本水産学会, 東京, 口頭
- 泉佳代子, 島田卓哉, 齊藤隆, 2010年9月, アカネス・ミのタンニン耐性の地理的変異: 生息地におけるトングリの有無は影響するのか?, 第16回野生生物保護学会・日本哺乳類学会2010年度合同大会, 岐阜, ポスター
- 泉佳代子, 島田卓哉, 齊藤隆, 2010年2月20日, アカネズミのタンニン耐性の地域比較, 日本生態学会北海道地区会, 北海道, 口頭
- 板垣英祐, 山本雄三, 工藤勲, 上田宏, 2009年3月28日, 放射性同位体を用いたバイオフィームが生産する溶存遊離アミノ酸に関する研究, 2009 (平成21) 年度日本水産学会大会, 東京, 口頭
- 上原崇志, 東屋知範, 加賀敏樹, 春日井潔, 永田光博, 門谷茂, 2009年10月17日, サケ類稚魚の初期生活域である根室湾における低次生産構造の広域的評価, 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 北海道, 口頭
- 上原崇志, 小熊幸子, 加賀敏樹, 春日井潔, 永田光博, 門谷茂, 2008年9月26日, サケ類稚魚の初期生活域である根室湾における低次生産構造の広域的評価, 日本海洋学会,

- 広島, 口頭
- 請川知彦, 佐藤尚哉, 柴沼成一郎, 門谷茂, 2008年9月26日, 天塩川河口域の鉛直断面構造と物質輸送過程, 日本海洋学会, 広島, 口頭
- 請川知彦, 佐藤尚哉, 柴沼成一郎, 門谷茂, 2009年10月17日, 天塩川感潮域における低次生物生産構造の季節変化, 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 北海道, 口頭
- エリ スル ニルマラ サリ (D3), 2008年11月16日, The Optimizing of Land Use Management to Raise the Living Standard of Forest Communities - A Study in East Kalimantan -, 林業経済学会, 岩手, 口頭
- 小川浩太, 石川麻乃, 三浦徹, 2010年9月23日, エンドウヒゲナガアブラムシの翅多型: 雄・単為生殖雌間での飛翔器官形成過程の比較, 日本動物学会第81回大会, 口頭
- 小川浩太, 三浦徹, 2010年11月7日, アブラムシのオス産生時にみられるX染色体放出機構の解明に向けて, 染色体学会第61回年会, ポスター
- 小川洋平, 春木雅寛, 2009年11月24日, 石炭灰と植物性有機廃棄物からの土壌生成-土壌動物を用いて-, 寒地技術シンポジウム, 口頭
- 小川洋平, 春木雅寛, 2010年12月9日, 種々の産業廃棄物の混合割合による土壌生成に対する土壌動物の効果, 寒地技術シンポジウム, 口頭
- 小野清美, 高山縁, 原登志彦, 2008年9月, 地上部および地下部への温度処理がダケカンバ一年生実生の成長に及ぼす影響, 日本植物学会第72回大会, 高知, ポスター
- 小野清美, 高山縁, 原登志彦, 2009年3月, ダケカンバ1年生実生の地上部および地下部の成長や光合成に対する生育温度の影響, 第56回日本生態学会, 盛岡, ポスター
- 小俣紋, 山口篤, 池田勉, 久万健志, 2008年9月24-28日, 親潮域における動物プランクトン群集構造の春季短期変動, 日本海洋学会秋季大会, 呉
- 加藤優希, 荒木希和子, 大原雅, 2008年12月5-7日, バイケイソウの一斉開花による個体群構造の変化, 第40回日本種生物学学会シンポジウム, 茨城, ポスター
- 川久保恵理, 山東 豪, 三好祐司, 小川洋平, 春木雅寛, 2009年11月11日, 有珠山の森林形成過程における土壌環境について, 日本森林学会北海道支部会, 口頭
- 神戸嘉一, 2009年8月8日, クマネズミ (*Rattus rattus*) のMc1r遺伝子の変異と毛色の多型の解析, 日本動物学会北海道支部大会, 函館, 口頭
- 木村幹子, 阿部周一, 荒井克俊, 河田雅圭, 宗原弘幸, 2009年9月22日, 50年ぶり2例目: アイナメ属3種の雑種で見られた半クローン生殖, 日本魚類学会, 東京, 口頭
- 木村幹子, 荒井克俊, 河田雅圭, 宗原弘幸, 2009年9月2日, アイナメ属3種で見られた非対称な雑種致死と親種のゲノムサイズの違い, 日本進化学会, 札幌, ポスター
- 木村幹子, 河田雅圭, 宗原弘幸, 2008年8月31日, 戻し交配で戻らない!? アイナメ属の種間交雑におけるHybridogenesisの可能性-, 日本進化学会, 京都, ポスター
- 木村幹子, 宗原弘幸, 2009年9月22日, 亜寒帯性種と温帯性種の分布境界域に形成された交雑帯での雑種の適応戦略: アイナメ属魚類の事例, 日本魚類学会, 東京, 口頭
- 工藤勲, 高木健一郎, 日高康晴, 奥村裕弥, 2009年9月26日, 噴火湾における栄養塩収支に与える津軽暖流水流入の影響, 日本海洋学会, 京都, 口頭
- 久保田涉誠, 大原雅, 2008年12月5-7日, オオバナノエンレイソウにおける雄性不稔化現象とその適応的意義, 第40回日本種生物学学会シンポジウム, 茨城, ポスター
- 久保田涉誠, 大原雅, 2009年3月17-21日, オオバナノエンレイソウにおける雄性不稔固体が集団の繁殖様式に与える影響, 第56回日本生態学会, 盛岡, ポスター
- 久万健志, 松村由起子, 千木良充, 2008年5月22-23日, 東部ベーリング海大陸斜面域における植物プランクトンと鉄の挙動, 東京大学海洋研究所共同利用研究集会, 東京
- 小島久弥, 藤井正典, 福井 学, 小泉嘉一, 2008年3月14-17日, 高山帯湖沼生態系のバクテリア群集構造, 第55回日本生態学会, 福岡, 口頭
- 小森田智大, 堤 裕昭, 柴沼成一郎, 山田俊郎, 檜垣直幸, 梶原瑠美子, 門谷茂, 2009年10月18日, 沿岸潟湖における栄養塩シンクとしての底生微細藻類の役割, 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 北海道, 口頭
- 小山明日香, 露崎史朗, 2009年3月, 谷地坊主が形成するリターの実生定着に対する重要性, 日本生態学会, 盛岡, ポスター
- 坂井慶多, 宗原弘幸, 2009年9月22日, 海産カジカ科魚類仔稚魚の基質選好性, 日本魚類学会, 東京, ポスター
- 重倉基希, 木戸和男, 門谷 茂, 2009年10月17日, 付着性微細藻類の簡便な生死判別の推定法, 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 北海道, 口頭
- 島田卓哉, 西井絵里子, 齊藤隆, 2010年9月, 野外における野ネズミのタンニン摂取量推定から明らかになったこと: ト・ンク・リは秋冬限定の餌で・はない, 第16回野生生物保護学会・日本哺乳類学会2010年度合同大会, 岐阜, 口頭
- 白崎智大, 2009年2月21日, 落葉広葉樹2種の一次枝集団動態, 日本生態学会北海道地区大会, 札幌, 口頭
- 菅田曜, 岩崎一弘, 大川恵, 森川正章, 宮崎英男, 坂間至朗, 2009年6月23-24日, 微生物によるジクロロメタン分解に関する研究 環境バイオテクノロジー学会2009, 東京, ポスター
- 杉江恒二, 久万健志, 2008年9月24-28日, 鉄欠乏環境下における珪藻の休眠胞子形成, 日本海洋学会秋季大会, 呉
- 杉本直己, 三浦徹, 2009年, ミジンコの防御形態のリアクションノーム, 第11回日本進化学会大会要旨集, ポスター
- 鈴木 (田畑) あずさ, 2009年2月, 前年度の乾燥ストレスがダケカンバの形態と光合成機能に及ぼす影響, 日本生態学会2008年度北海道地区大会, 札幌, 口頭
- 関口郁恵, 小森田 智大, 柴沼成一郎, 山田俊郎, 門谷茂, 2009年10月18日, 個体識別法とコホート解析によるアサリ (*Ruditapes philippinarum*) の成長の比較, 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 北海道, 口頭
- 田岡宏崇, 柴沼成一郎, 真名垣友樹, 門谷 茂, 2009年10月17日, 懸濁態無機リンの汽水域における分布特性と粒子態C:N:P原子比の再評価, 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 北海道, 口頭
- 高山縁, 小野清美, 隅田明洋, 原登志彦, 2009年2月, ダケカンバの展葉に対する低温の影響とアクアポリンとの関係, 日本生態学会2008年度北海道地区大会, 札幌, 口頭
- 高山縁, 小野清美, 隅田明洋, 原登志彦, 2009年3月18日, ダケカンバの展葉に対する低温の影響とアクアポリンとの関係, 第56回日本生態学会, 盛岡, ポスター
- 谷沢広将, 日高康晴, 工藤勲, 奥村裕弥, 2009年9月26日, 噴火湾堆積物表層における生元素 (炭素, 窒素, ケイ素) の初期続成過程, 日本海洋学会, 京都, 口頭
- 谷沢広将, 日高康晴, 工藤勲, 奥村裕弥, 2010年9月7日, 噴火湾の堆積物表層における生元素の分解過程と栄養塩供

- 給, 日本海洋学会, 網走, 口頭
- 田畑あずさ, 小野清美, 隅田明洋, 原登志彦, 2008年9月, 前年度の乾燥ストレスがダケカンパの形態と光合成機能に及ぼす影響, 日本植物学会第72回大会, 高知, 口頭
- 堤 正純, 小島久弥, 福井 学, 2008年11月25-28日, 淡水湖沼における浮遊性メタン酸化細菌の群集構造, 第24回日本微生物生態学会, 札幌, ポスター
- 堤 正純, 小島久弥, 福井 学, 2008年9月14-18日, オコタンペ湖水柱における微生物群集構造の時空間的変動, 日本陸水学会第73回大会, 札幌, 口頭
- 鶴谷安弘, 笠原康裕, 2009年3月5-7日, 大腸菌のVBNC状態関与遺伝子のゲノムワイドスクリーニング, 第3回日本ゲノム微生物学会, 東京, ポスター
- 寺田千里, 立澤史郎, 齊藤隆, 2008年9月, 屋久島に生息するニホンジカの形態的特徴, 日本哺乳類学会, 山口, ポスター
- 寺田千里, 立澤史郎, 齊藤隆, 2009年2月, 形態的特徴に基づく屋久島に生息するニホンジカ(*Cervus nippon*)の固有性の評価: 周辺6島嶼個体群間の比較, 日本生態学会北海道地区会, 札幌, 口頭
- 寺田千里, 立澤史郎, 齊藤隆, 2009年3月, 屋久島のシカは短足か? —島嶼個体群間での形態比較—, 第56回日本生態学会, 盛岡, ポスター
- 寺田千里, 齊藤隆, 2010年9月, ニホンジカの形態変異に関する遺伝的基盤の実証: 動物園個体を用いた疑似コモンガーデンテスト, 第16回野生生物保護学会・日本哺乳類学会2010年度合同大会, 岐阜, ポスター
- 寺田千里, 齊藤隆, 2010年9月, 屋久島に生息するシカ個体群の形態形質に関する局地適応の検出, 第26回個体群生態学会・大会, 横浜, ポスター
- 照井健志, 岸道郎, 2009年9月25-29日, 北太平洋西部亜寒帯域における大型カイアシ類, 日本海洋学会, 口頭
- 照井健志, 岸道郎, 2009年10月26-30日, A Lagrangian ensemble model of Copepoda (*Neocalanus cristatus*) in the Northwestern subarctic Pacific PICES, ポスター
- 傳法 隆, 吉田 悠貴, 上田 宏, 2010年9月18日, 洞爺湖における最近の動植物プランクトンの動態と食物網について, 日本陸水学会第75回大会, 弘前, 口頭
- 東條ふゆみ, 伊東義兼, 鷲尾健司, 岡部聡, 森川正章, 2009年3月27-29日, Anammox細菌のグラニュール形成に関するプロテオミク解析, 日本農芸化学会2009, 福岡, ポスター
- 友澤森彦, 2009年9月16日, アカネズミの遺伝的多様性に島嶼分断化および染色体変異が与えた影響, 日本遺伝学会, 松本, 口頭
- 中山俊聡, 秦 寛, 高橋 誠, 猪瀬善久, 2009年3月28-30日, 傾斜放牧地での肉牛の定置放牧における放牧規模の違いが牧草生産, 家畜生産および窒素循環に及ぼす影響, 日本草地学会, 神奈川, 口頭
- 中山雄太, 藤田聡志, 杉江恒二, 久万健志, 2008年8月4日, 春季親潮域における鉄及び栄養塩変化は水塊移流かブルームの変容か?, 東京大学海洋研究所共同利用研究集会, 東京,
- 西井絵里子, 島田卓, 齊藤隆, 2009年2月, 三種類の野ネズミにおける糞中プロリンと糞中タンナーゼ活性の季節変化—ドングリに含まれるタンニン毒性回避メカニズムと関連づけて—, 日本生態学会北海道地区会, 札幌, 口頭
- 西井絵里子, 島田卓, 齊藤隆, 2009年3月, 野生下での野ネズミのタンニン馴化機構—タンニン摂取量の季節変動と糞中タンナーゼ活性の関係, 第56回日本生態学会, 盛岡, ポスター
- 西澤美幸, 大原雅, 2008年9月24-27日, オオウバユリにおける栄養繁殖体形成の意義, 第72回日本植物学会, 高知, ポスター
- 西澤美幸, 大原雅, 2009年3月17-23日, 一回繁殖型植物オオウバユリの繁殖特性が集団遺伝構造に与える影響, 第56回日本生態学会, 盛岡, ポスター
- 西村将太郎, 久万健志, 2008年4月25-26日, ベーリング海・チュクチ海における基礎生産と栄養塩・鉄 IARC/JAXA 北極圏研究海洋班研究計画シンポジウム, 函館
- 布目三夫, 2009年8月9日, A role of Pleistocene refugia in shaping genetic diversity of the Japanese hare, *Lepus brachyurus*, 国際哺乳類学会議 (IMC10), メンドーサ, ポスター
- 布目三夫, 2009年11月21日, 複数遺伝子座を用いたニホンノウサギ4亜種の遺伝的背景の解析, 日本哺乳類学会, 台北, ポスター
- 野間野史明, Russell Andrew, 2009年9月29日, Social networks in cooperative breeders: effects on group and population viability?, The 6th Biennial Meeting of the Australasian Evolution Society, Canberra, ポスター
- 野間野史明, Russell Andrew, 2010年11月19-21日, Social networks in a cooperative breeder, 日本動物行動学会, 那覇, ポスター
- 野間野史明, 松島俊也, 2009年11月27日, 冬季における小型鳥類の捕食者偵察, 2009年度日本動物行動学会, 筑波, ポスター
- 幡中迪彦, 2009年8月3日, 食肉類における毛色関連遺伝子 *Mc1r* の進化的動態, 日本進化学会, 札幌, ポスター
- 畑中紫臣, 小森田智大, 柴沼成一郎, 梶原留美子, 石丸夏海, 山田俊郎, 門谷茂, 2008年9月26日, 亜寒帯半閉鎖性汽水湖(火散布沼)における窒素およびリンの挙動, 日本海洋学会, 広島, 口頭
- 畑中紫臣, 中澤広幸, 前川公彦, 福山龍次, 門谷茂, 2009年10月16-18日, サロマ湖における基礎生産の評価およびホタテ貝の餌資源の推定, 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 北海道, 口頭
- 林田寿文, 平山明, 上田 宏, 2010年12月12日, 石狩川旧川群の魚類相の変遷と移入種の影響について, 平成22年度日本水産学会北海道支部大会, 室蘭, 口頭
- 林田寿文, 三好晃治, 辻 貴敏, 上田 宏, 2010年12月12日, 麻酔・手術がニジマスに与える生理学的影響, 平成22年度日本水産学会北海道支部大会, 室蘭, 口頭
- 林田寿文, 三好晃治, 辻 貴敏, 上田 宏, 2010年12月18日, 麻酔・手術がニジマスに与える生理学的影響, 第4回サケ学研究会, 函館, 口頭
- 坂東 洋, 黄田育宏, 上田 宏, 2009年3月28日, Functional MRIを用いたサケ科魚類嗅覚中枢神経系の神経活動解析の試み, 2009 (平成21) 年度日本水産学会大会, 東京, 口頭
- 坂東 洋, 黄田育宏, 上田 宏, 2009年9月4日, fMRIを用いたヒメマスの母川水ニオイ刺激に対する応答解析, 日本味と匂学会第43回大会, 旭川, ポスター
- 東岡由里子, 小島久弥, 中川 達功, 佐藤 信也, 福井 学, 2008年11月25-28日, パラキシレン分解硫酸還元集積系から分離した新規アルカン分解菌, 第24回日本微生物生態学会, 札幌, ポスター
- 深谷肇一, 野田隆史, 仲岡雅裕, 山本智子, 堀正和, 奥田武弘, 熊谷直喜, 島袋寛盛, 2008年10月18-19日, イワフジツボの個体群動態を決定するパラメータの季節性と空間変動, 個体群生態学会, 東京, ポスター

- 藤井 正典, 小島 久弥, 岩田 智也, 占部 城太郎, 福井 学, 2008年9月14-17日, 山岳湖沼水中に生息するバクテリア群集の特徴, 日本陸水学会第73回大会, 札幌, 口頭
- 藤田聡志, 久万健志, 杉江恒二, 高田兵衛, 大西広二, 高木省吾, 坂岡桂一郎, 2008年3月26-30日, アラスカンストリームによる鉄の輸送, 日本海洋学会春季大会, 東京
- 堀田海帆, 木村幹子, 宗原弘幸, 2010年12月, アイナメ属魚類の野外雑種集団に新規加入はあるのか?, 日本水産学会北海道支部会, 室蘭, 口頭
- 堀田海帆, 木村幹子, 宗原弘幸, 2010年9月, アイナメ属魚類における野外採集雑種と人工交配雑種に見られた遺伝様式の違い, 日本魚類学会, 三重, ポスター
- 牧口祐也, 今野義文, 新居久也, 中尾勝哉, 永田光博, 上田宏, 2009年3月28日, EMG発信機を用いたカラフトマス親魚の遡上エネルギーコストの雌雄比較, 2009 (平成21) 年度日本水産学会大会, 東京, 口頭
- 南憲吏, 伊藤祐介, 東条斉興, 野別貴博, 安間洋樹, 福井信一, 宮下和士, 2008年11月11日, 音響放を用いた知床半島のコンブ場分布域把握の試み, 水産海洋学会, 東京
- 宮田理恵, 久保拓弥, 甲山隆司, 2009年9月19日, 明所における落葉広葉樹頂部の光合成特性の樹高依存性, 日本植物学会, ポスター
- 三好晃治, 林田寿文, 坂下 拓, 新居久也, 中尾勝哉, 岡本康寿, 上田 宏, 2010年12月12日, 豊平川の床止工がシロザケの遡上行動に及ぼす影響, 平成22年度日本水産学会北海道支部大会, 室蘭, 口頭
- 三好晃治, 林田寿文, 坂下 拓, 新居久也, 中尾勝哉, 岡本康寿, 上田 宏, 2010年12月18日, 豊平川の床止工がシロザケの遡上行動に及ぼす影響, 第4回サケ学研究会, 函館, 口頭
- 三好祐司, 春木雅寛, 2009年11月11日, 野幌国有林の代表的な林分における土壌の化学性, 日本森林学会北海道支部会, 口頭
- 三好祐司, 川久保恵理, 山東 豪, 春木雅寛, 2010年11月15日, 野幌国有林のトドマツ林におけるマウンド内部の土壌の理化学性, 日本森林学会北海道支部会, 口頭
- 宗原弘幸, 五十嵐理人, 植松孝昌, 堀田海帆, 2010年12月, 白尻漁港かもめドームにおけるアイナメの繁殖生態, 日本水産学会北海道支部会, 室蘭, 口頭
- 宗原弘幸, 木村幹子, 2009年3月30日, アイナメ属魚類の交雑個体における性の偏り, 日本水産学会, 東京, ポスター
- 村田祐亮, 井出尾進介, 和多田正義, 三井偉由, 木村正人, 2009年10月11日, ショウジョウバエ寄生蜂*Asobara japonica*の有性生殖及び単為生殖個体群における遺伝的・生理的変異, 日本昆虫学会第69回大会, 三重, 口頭
- 矢澤佳子, 甲山隆司, 久保拓也, Kassim Rahman Abd, Potts D. Matthew, 2009年3月17-21日, 熱帯多雨林における樹木200種の樹冠構造の種間変異, 第56回日本生態学会大会, 岩手, 口頭
- 山崎千登勢, 長谷川功, 2009年12月12日, 千歳川支流ママチ川における魚類相と環境要因との関係, 魚類系統研究会, 札幌, ポスター
- 山田有梨絵, 工藤勲, 2009年9月26日, 噴火湾底層水中における窒素態栄養塩の再生プロセス, 日本海洋学会, 京都, 口頭
- 山本佳奈, 大舘智志, 笠原康裕, 2008年11月25-28日, 土壌微生物群集に対する高次捕食者トガリネズミの効果 (予報), 第24回日本微生物生態学会, 札幌, ポスター
- 吉田悠貴, 傳法隆, 上田宏, 2009年12月5日, 炭素・窒素安定同位体を用いた洞爺湖の食物網の解析, サケ学研究会, 恵庭, ポスター
- 吉間綾子, 大原雅, 2008年9月24-27日, ツバメオモトの個体群構造と繁殖特性, 第72回日本植物学会, 高知, ポスター
- 吉間綾子, 大原雅, 2009年3月17-24日, ツバメオモトにおける個体群構造の時空間的解析, 第56回日本生態学会, 盛岡, ポスター
- 阿形朋子, 鷲尾健司, 金井保, 跡見晴幸, 今中忠行, 森川正章, 2009年12月7-10日, 超好熱性アーキア*Thermococcus kodakaraensis* KOD1 由来細胞表在タンパク質Slpの機能解析, 第33回日本分子生物学会年会第83回日本生化学会合同年会, 神戸, ポスター
- 安田俊平, 岩渕真奈美, 中山文, 湊秋作, 鈴木仁, 2008年9月13-14日, マイクロサテライトを用いたニホンヤマネの配偶システムと巣箱共有個体の血縁関係解析, 日本哺乳類学会, 山口, ポスター
- 安田俊平, 岩渕真奈美, 湊秋作, 土屋公幸, 鈴木仁, 2008年8月, ESU策定のための汎用分子マーカー開発の試みーニホンヤマネをモデルとしてー, 日本進化学会第10回大会, 東京, ポスター
- 伊東義兼, 坂上景子, 松本光史, 鷲尾健司, 森川正章, 2010年7月23日, 耐熱性を有する新規アンモニア酸化細菌の単離ならびにその諸性質, 生化学会北海道支部例会, 札幌, 口頭
- 井田崇, Harder LD, 工藤岳, 2009年3月19日, 資源制限が植物の繁殖に与える影響: 光資源や食害による葉の損失は資源利用パターンを変える?, 日本生態学会大会, 盛岡, ポスター
- 羽根詩織, 本西誠亮, 佐藤博二, 中野英樹, 高虫慧子, 荒木肇, 長沼昭夫, 星野洋一郎, 2008年, 北海道の栽培条件におけるキイチゴ属野生種および栽培品種のフェノール物質含量と諸形質の評価. 園芸学会雑誌 第77巻別冊2号 (2008), 三重, ポスター
- 臼井平, 黒木真理, 高井孝太郎, 小泉逸郎, 2010年12月4日, ウグイの知られざる生態, 魚類系統研究会, 千歳, 口頭
- 臼田大輝, 高田豊行, 吉川欣亮, 城石俊彦, 森脇和郎, 鈴木仁, 2009年9月16日, ユーラシア産野生ハツカネズミの系統地理学的解析, 日本遺伝学会, 松本, 口頭
- 臼田大輝, 吉川欣亮, 森脇和郎, 鈴木仁, 2008年9月13-14日, 野生ハツカネズミの系統地理学的研究へのSNPsの活用, 日本哺乳類学会, 山口, ポスター
- 梶原瑠美子, 小森田智大, 稲葉友理, 柴沼成一郎, 山田俊郎, 門谷茂, 2008年9月26日, 亜寒帯汽水湖 (北海道: 火散布沼) における短時間スケールでの物質輸送とその支配要因, 日本海洋学会, 広島, 口頭
- 梶原瑠美子, 小森田智大, 柴沼成一郎, 山田俊郎, 堤 裕昭, 門谷 茂, 2008年7月16日, 亜寒帯汽水湖 (火散布沼: 北海道) における環境傾度に沿った底生生物群集の変動, 海環境と生物および沿岸環境修復技術に関するシンポジウム, 北海道, 口頭
- 吉間綾子, 大原雅, 2009年12月11-13日, 生育地間比較によって明らかになったツバメオモトの生活史特性, 第41回日本種生物学会, 東京, ポスター
- 吉田 悠貴, 傳法 隆, 上田 宏, 2009年12月5日, 炭素・窒素安定同位体比を用いた洞爺湖の食物網解析, サケ学研究会, Oregon, 口頭
- 宮下朋美, 中野英樹, 高虫慧子, 高橋太郎, 堀 廣孝, 星野洋一郎, 2010年9月, ハスカップにおける倍数体シリーズの作出, 園芸学会雑誌 第79巻別冊2号, 大分, ポスター
- 宮下朋美, 柴田 洋, 桐山和也, 荒木 肇, 星野洋一郎, 2009年, 国内に自生するクロミノウグイスカグラの地理的分布およびその倍数性変異について 園芸学会雑誌 第78巻別冊1号, 東京, 口頭

- 宮川一志, 今井眞木, 三浦徹, 2009年, ミジンコにおける捕食者に誘導される表現型多型の分子機構, 第11回日本進化学会大会要旨集, ポスター
- 牛坂理美, 久万健志, 鈴木光次, 2009年4月5-9日, マンガン存在下における沿岸性珪藻 *Thalassiosira weissflogii* の鉄摂取増殖機構, 日本海洋学会春季大会, 東京
- 桐原崇, 篠原明男, 土屋公幸, 原田正史, Alexei P. Kryukov, 鈴木仁, 2008年9月13日, ミトコンドリアDNAおよび核遺伝子配列からみたコウベモグラ *Mogera wogura* の遺伝的構造, 日本哺乳類学会, 山口, 口頭
- 桐山和也, 本西誠亮, 中野英樹, 高虫慧子, 堀 廣孝, 高橋太郎, 荒木 肇, 星野洋一郎, 2009年, ハスカップ各系統における果実と葉のロガニン, キナ酸およびクエン酸含有量の評価, 園芸学会雑誌 第79巻別冊1号, 藤沢, ポスター
- 鍵和田玄, 本多健太郎, 宮下和士, 2009年11月27日, イトウ (*Hucho perryi*) 成魚が選択する季節的な生息域および生息域の河川環境特性の解明, 水産学会北海道支部大会, 函館, 口頭
- 鍵和田玄, 本多健太郎, 宮下和士, 2009年12月5日, イトウ (*Hucho perryi*) 成魚が選択する季節的な生息域および生息域の河川環境特性の解明, 第3回サケ学研究会, 恵庭, 口頭
- 後藤 寛貴, 三浦 徹, 2010年9月23日, クワガタムシの大顎発達におけるツールキット遺伝子の役割, 日本動物学会第81回大会, 口頭
- 後藤 寛貴, 三浦 徹, 2010年9月19日, メタリフェルホソアカクワガタの雄における大顎サイズの遺伝率, 日本昆虫学会第70回大会, 口頭
- 後藤寛貴, コルネット リンシャー, 越川滋行, 岡田泰和, 三浦 徹, 2009年, 幼若ホルモンがクワガタのアロメトリーを決定する, 第11回日本進化学会大会要旨集, ポスター
- 荒木 肇, 地子 立, 2009年12月, ペルーでの大規模灌漑によるアスパラガス生産、特に生産体系とFTAによる市場拡大について, 北海道園芸研究談話会平成21年度研究発表会, 札幌, 口頭
- 荒木 肇, 地子 立, 市川伸次, 中野英樹, 高虫慧子, 山形定, 山越幸康, 上出光司, 山田 敦, 2010年9月, アスパラガス残渣からのペレット成型と燃焼性, 園芸学会平成22年秋季大会, 大分, 口頭
- 荒木 肇, 中村 愛, 川村周三, 高橋能彦, 坂野正和, 2008年5月, メタン発酵消化液を施用したポット稲の生育、収量とタンパク含量, 農作業学会平成20年度春季大会, 埼玉, 口頭
- 荒木 肇, 中野英樹, 高虫慧子, 市川伸次, 地子 立, 星野洋一郎, 2009年9月, 近年のアスパラガス品種におけるバイオマス生産と収量性の比較, 園芸学会, 秋田, ポスター
- 高橋康徳, 嶋田恒平, 鷲尾健司, 森川正章, 2009年3月28日, バイオフィルム形成能の高いアルカン分解細菌の探索, 日本農芸化学会2009年度大会, 福岡, ポスター
- 高山縁, 小野清美, 隅田明洋, 原登志彦, 2009年3月18日, ダケカンパの展葉に対する低温の影響とアクアポリンとの関係, 第56回日本生態学会, 盛岡, ポスター
- 今井貴裕, 小林由美, 小林万里, 三谷曜子, 宮下和士, 2010年12月12日, 厚岸湾におけるゼニガタアザラシの漁場進入行動の解明, 平成22年度日本水産学会北海道支部大会, 室蘭, 口頭
- 今野義文, 牧口祐也, 岡本康寿, 上田宏, 2008年, 豊平川の床止工がシロザケの遡上行動に及ぼす影響, 2008(平成20)年度日本水産学会春季大会, 清水, 口頭
- 今野義文, 牧口祐也, 坂下 拓, 中尾勝哉, 新居久也, 岡本康寿, 津村 憲, 谷野賢二, 上田 宏, 2009年3月28日, 豊平川の床止工がシロザケの遡上行動に及ぼす影響, 2009(平成21)年度日本水産学会大会, 東京, 口頭
- 斎藤達也, 2009年12月11日, 外来植物オオキンケイギクの個体群動態は植生型間で異なるのか?, 第41回種生物学シンポジウム, 東京, ポスター
- 斎藤達也, 大窪久美子, 2009年5月22日, Invasion of alien plant *Coreopsis lanceolata* on riparian endemic vegetation in central Japan. International Day for Biological Diversity Symposium 2009, INVASIVE ALIEN SPECIES: Causes and Impacts, 東京, ポスター
- 斎藤達也, 露崎史朗, 2009年3月, 火山荒原上の植物分布に対する非在来カラマツと在来ダケカンパの樹冠効果の比較, 日本生態学会, 盛岡, ポスター
- 斎藤達也, 露崎史朗, 2010年, 外来草本オオアワダチソウのリター分解は在来イネ科草本より速い, 日本生態学会, ポスター
- 細川玲亜, Hata, Ahmad Iskandar Bin Haji Mohd, 奥山英登志, 2009年3月28日, タービン油分解菌群の取得とその特性, 日本農芸化学会大会, 福岡, ポスター
- 坂口直史, 永井元規, 牧秀明, 濱田誠一, 奥山英登志, 2010年11月25日, 北海道沿岸の原油汚染を想定した原地性バクテリアのメンテナーション, 微生物生態学会, 筑波, ポスター
- 坂上景子, 伊東義兼, 松本光史, 鷲尾健司, 森川正章, 2010年7月23日, アンモニア酸化細菌のアンモニア酸化活性に影響を与える従属栄養細菌, 生化学会北海道支部例会, 札幌, 口頭
- 坂東 洋, 黄田育宏, 上田宏, 2009年12月5日, fMRIを用いたヒメマス (*Oncorhynchus nerka*) の母川水に対する嗅覚応答解析, サケ学研究会, Oregon, 口頭
- 山崎和彦, 相原 悠, 大胡 康, 鷲尾健司, 森川正章, 2009年3月28日, 枯草菌バイオフィルムによるメナキノンの菌体外生産, 日本農芸化学会2009年度大会, 福岡, ポスター
- 山本佳奈, 2009年3月, 自由集会: 微生物がつなぐ土壌生態系と地上部生態系-北大苫小牧研究林を中心として, 第56回日本生態学会大会, 盛岡, 口頭
- 山本佳奈, 大鋸智氏, 2009年2月, 土壌生態系において高次捕食者オオアシトガリネズミが土壌バクテリア群集に及ぼす間接効果, 平成20年度日本生態学会北海道地区大会, 札幌, 口頭
- 児玉紗也香, 布目三夫, 森脇和郎, 鈴木仁, 2010年8月23日, ハツカネズミ *Mus musculus* 亜種間の毛色関連遺伝子 *Mc1r* 周辺領域における遺伝的多様性の比較, 日本動物学会平成22年北海道支部大会, 旭川, 口頭
- 児玉紗也香, 布目三夫, 森脇和郎, 鈴木仁, 2010年9月20日, ハツカネズミの毛色関連遺伝子 *Mc1r* 周辺領域の塩基多様性の減少, 第82回日本遺伝学会, 札幌, 口頭
- 寺内真, 梶村直子, 長里千香子, Christos Katsaros, 峰雪芳宣, 奥田一雄, 本村泰三, 2010年9月10日, 褐藻における plasmodesmata の微細構造解析, 第74回日本植物学会, 春日井, 口頭
- 寺内真, 梶村直子, 長里千香子, Christos Katsaros, 峰雪芳宣, 奥田一雄, 本村泰三, 2010年9月8日, 電子線トモグラフィ法を用いた褐藻アミジグサの原形質連絡の微細構造解析, 第22回日本植物形態学会, 春日井, ポスター
- 篠原陽, 水越麻仁, 本多健太郎, 野別貴博, 三谷曜子, 宮下和士, 2010年12月12日, 知床半島周辺海域に回帰したシロザケの遊泳深度決定要因, 平成22年度日本水産学会

- 北海道支部大会, 室蘭, 口頭
- 柴田 英昭, Nina Ileva, 佐藤 冬樹, 上田 宏, 2009年3月19日, 天塩川プロジェクト:流域生態系機能と土地利用変化の関係, シンポジウム「森・里・海のつながりを探る:陸域研究者と海域研究者の連携に向けて」, 第56回日本生態学会大会, 盛岡, 口頭
- 柴田英昭, Ileva, Y. Nina, 上田宏, 2009年3月28日, 天塩川における流域生態系機能と土地利用変化の関係, 2009(平成21)年度日本水産学会大会, 東京, 口頭
- 柴田英昭, Nina Ileva, 佐藤冬樹, 上田宏, 2009年3月20日, 天塩川プロジェクト; 流域生態系機能と土地利用変化の関係, 2009年日本生態学会, 盛岡, 口頭
- 若林紘子, 野田悟志, 齊藤隆, 2009年3月, アカネズミにおける multiple paternity (複数父性), 第56回日本生態学会, 盛岡, ポスター
- 酒井奈々, 宮下朋美, 辻田茉莉, 堀 廣孝, 田村春人, 生田 稔, 中野英樹, 高虫慧子, 荒木 肇, 中嶋 博, 佐藤博二, 本西誠亮, 長沼昭夫, 星野洋一郎, 2008年3月, ハスカップとミヤマウグイスカグラの形質調査および種間雑種の育成, 園芸学会平成20年度春季大会, 厚木, ポスター
- 酒井奈々, 辻田茉莉, 宮下朋美, 佐藤博二, 本西誠亮, 堀 廣孝, 田村春人, 生田 稔, 中野英樹, 高虫慧子, 荒木 肇, 星野洋一郎, 2008年, ハスカップとミヤマウグイスカグラの形質調査と雑種育成の試み, 北海道園芸研究談話会会報41:, 札幌, 口頭
- 小山明日香, 2008年, 谷地坊主が形成する微環境における種子発芽及び実生生存特性, 生態学会北海道地区大会, 北海道, 口頭
- 小山明日香, 露崎史朗, 2010年, 谷地坊主によるストレス緩衝作用を介した実生定着過程, 日本生態学会,
- 小森田智大, 柴沼成一郎, 山田俊郎, 堤 裕昭, 梶原瑠美子, 門谷 茂, 2008年7月16日, 亜寒帯汽水湖(火散布沼:北海道)に高密度で生息するアサリ (*Ruditapes philippinarum*) の個体群動態と生産生態に関わる物質循環過程, 海環境と生物および沿岸環境修復技術に関するシンポジウム, 北海道, 口頭
- 小森田智大, 堤 裕昭, 柴沼成一郎, 山田俊郎, 檜垣直幸, 梶原瑠美子, 石丸夏海, 畑中紫臣, 門谷 茂, 2008年9月26日, 亜寒帯汽水湖(火散布沼)における生産構造の特徴, 日本海洋学会, 広島, 口頭
- 小森田智大, 堤 裕昭, 柴沼成一郎, 山田俊郎, 檜垣直幸, 梶原瑠美子, 石丸夏海, 畑中紫臣, 門谷 茂, 2008年9月5日, 亜寒帯汽水湖(火散布沼)に高密度で生息する懸濁物食二枚貝類(アサリ: *Ruditapes philippinarum*) の夏季における生産生態と物質循環過程, 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 熊本, 口頭
- 小俣紋, 久万健志, 2009年10月16-18日, 船上培養実験における鉄および栄養塩環境が植物プランクトン生長に与える影響, 日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会, 函館
- 小林誠, 日向潔美, 渡邊陽子, 吉田国吉, 2009年3月17-21日, 分布北限のブナ林におけるスペシャリスト植食性鱗翅目の欠如はブナの被食防御能に影響するか, 第56回日本生態学会大会, 盛岡, ポスター
- 松井哲哉, 並川寛司, 小林誠, 紀藤典夫, 2009年3月17-21日, ブナ分布北限最前線における孤立林の分布とその特徴, 第56回日本生態学会大会, 盛岡, ポスター
- 松本宙, 東条斉興, 志田修, 奥山裕弥, 宮下和士, 2009年3月3日, 北海道噴火湾におけるスケトウダラ *Theragra chalcogramma* 稚魚の分布環境に関する研究, 平成20年度北海道音響資源調査研究情報交換会, 札幌, 口頭
- 森照貴, 齊藤隆, 2008年10月, 河川底生動物におけるギルド間での群集形成の違い, 第73回日本陸水学会, 札幌, ポスター
- 森照貴, 齊藤隆, 2009年3月, 河川底生動物におけるギルド間での群集形成の決定要因の違い, 第56回日本生態学会, 盛岡, ポスター
- 森照貴, 齊藤隆, 2009年8月18日, Differences in determinant factors on community structure among guilds of stream invertebrate assemblages, effects of competition on the diversity-disturbance patterns 10th International Congress of Ecology, Brisbane, ポスター
- 森照貴, 齊藤隆, 2009年9月15日, 落葉パッチの特性が河川底生動物の群集形成に及ぼす影響, 第74回日本陸水学会, 大分, ポスター
- 森照貴, 齊藤隆, 2009年10月18日, 群集内における密度依存的な競争がもたらす多様性一攪乱パターン, 第25回個体群生態学会, 京都, ポスター
- 森照貴, 齊藤隆, 2009年11月2日, Effects of density dependent competition on the diversity-disturbance patterns, Hokkaido University Sustainability Weeks Poster Contest, 札幌, ポスター
- 深谷肇一, 2009年10月29日, 状態空間モデルによるイワフジツボ個体群動態の解析, 2009年度統計数理研究所重点型共同利用研究「フィールド生態学と統計数理」研究集会, 東京, 口頭
- 深谷肇一, 白鳥和佳子, 河合百華, 野田隆史, 2010年9月22-23日, 気象プロセスが駆動するシオダマリミジンコの個体群動態:ベイズ状態空間モデルによる解析, 個体群生態学会第26回年次大会, 横浜, 口頭
- 深谷肇一, 堀正和, 山本智子, 仲岡雅裕, 野田隆史, 2009年10月17-18日, 岩礁潮間帯の固着生物群集における種多様性-生態系機能関係, 個体群生態学会第25回年次大会, 京都, ポスター
- 神戸嘉一, 谷川力, 松本泰治, 友澤森彦, Aplin Ken P., 鈴木 木仁, 2010年9月20日, クマネズミの *Mc1r* 遺伝子の変異と毛色多型の解析, 第82回日本遺伝学会, 札幌, 口頭
- 水越麻仁, 本多健太郎, 野別貴博, 三谷曜子, 宮下和士, 2009年2月4日, 知床半島周辺海域に回帰したカラフトマス (*Oncorhynchus gorbuscha*) 及びシロザケ (*O. keta*) の移動生態に関する研究, 平成20年度知床世界自然遺産地域生態系調査報告会, 札幌, 口頭
- 水越麻仁, 本多健太郎, 野別貴博, 三谷曜子, 宮下和士, 2009年3月29日, 知床半島周辺海域に回帰したシロザケ及びカラフトマスの遊泳行動に関する研究, 平成21年度日本水産学会春季大会, 東京, ポスター
- 杉原慎二, 奥山英登志, 2009年3月28日, 常温性細菌の超長鎖多価不飽和炭化水素について, 日本農芸化学学会大会, 福岡, ポスター
- 杉原慎二, 南広大, 奥山英登志, 2008年8月7日, 大腸菌 EntD 遺伝子の長鎖多価不飽和脂肪酸合成への関与, 日本農芸化学学会北海道支部, 平成20年度第1回合同学術講演会, 札幌, 口頭
- 杉江恒二, 久万健志, 池田勉, 2009年4月5-9日, 沿岸性珪藻の細胞内貯蔵鉄による増殖, 日本海洋学会春季大会, 東京
- 正富欣之, 2008年9月12-15日, 北海道に生息するタンチョウの個体群存続性分析(2008年版), 日本鳥学会, 東京, ポスター
- 正富欣之, 2008年9月16-18日, 北海道のタンチョウ個体数は将来どうなるか?, 第56回日本生態学会, 京都, ポスター

- 西村将太郎, 久万健志, 松村由起子, 石川聡子, 齋藤誠一, 2009年4月5-9日, ベーリング海峡における鉄・栄養塩と植物プランクトンブルーム, 日本海洋学会春季大会, 東京
- 青柳由希子, 平田聡之, 山田敏彦, 2009年3月29-30日, 開花期QTL領域上にあるSSRマーカー多型からみたアカクロバ3品種における遺伝構造の推移, 第65回日本草地学会, 藤沢, ポスター
- 石丸夏海, 稲葉友里, 門谷 茂, 2008年11月26日, 亜寒帯汽水湖における物質循環過程に対する微生物群集の寄与, 日本微生物生態学会, 北海道, ポスター
- 石丸夏海, 柴沼成一郎, 門谷 茂, 2008年9月26日, 亜寒帯域におけるアマモ(*Zostera marina* L.)の物質代謝速度の推定, 日本海洋学会, 広島, 口頭
- 石丸夏海, 柴沼成一郎, 門谷 茂, 2008年12月5日, 亜寒帯域におけるアマモ(*Zostera marina* L.)の物質代謝速度の推定, 全国アマモサミット, 東京, ポスター
- 石丸夏海, 柴沼成一郎, 門谷 茂, 2008年7月16日, 亜寒帯汽水域干潟(火散布沼)における栄養塩ダイナミクスについて, 海環境と生物および沿岸環境修復技術に関するシンポジウム, 北海道, 口頭
- 石丸夏海, 柴沼成一郎, 門谷 茂, 2008年9月5日, 亜寒帯汽水湖(火散布沼)における水柱および底生基礎生産者の時空間分布とその支配要因について, 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 熊本, 口頭
- 石崎智美, 塩尻かおり, Richard Karban, 大原雅, 2009年12月11-13日, Sagebrush (*Artemisia tridentata*)の補償反応に及ぼす食害時期の影響, 第41回日本種生物学会, 東京, ポスター
- 石川絵里奈, 伊東義兼, 鷲尾健司, 松本光史, 森川正章, 2009年12月7-10日, 火力発電所硝化槽より単離した新規メタノール酸化細菌の諸特性解析, 第33回日本分子生物学会年会, 神戸, ポスター
- 石川聡子, 久万健志, 西村将太郎, 磯田豊, 高木省吾, 亀井佳彦, 坂岡桂一郎, 2009年4月5-9日, 西部北太平洋および南部ベーリング海海盆域における鉄の挙動, 日本海洋学会春季大会, 東京
- 石川麻乃, 小川浩太, 後藤寛貴, 三浦徹, 2009年, 幼若ホルモンはアブラムシの繁殖多型を制御する, 第34回日本比較内分泌学会大会・日本比較生理生化学会第31回大会合同大会, 口頭
- 石川麻乃, 小川浩太, 三浦徹, 2009年, アブラムシの翅型分化を引き起こす密度シグナルの伝達, 第11回日本進化学会大会要旨集, ポスター
- 石川麻乃, 小川浩太, 後藤寛貴, 三浦徹, 2010年9月23日, アブラムシの生活史多型を担う内分泌基盤の解析, 日本動物学会・第81回大会, 東京, 口頭
- 石川麻乃, 小川浩太, 後藤寛貴, 三浦徹, 2010年8月5日, アブラムシの生活史多型を担う幼若ホルモンを介した発生生理機構, 日本進化学会第12回東京大会, 東京, 口頭
- 石川由希, 三浦徹, 2010年11月23日, コロニー防衛の迅速な最適化—ワーカーの攻撃性はコロニーメンバーの調節を受ける—, 日本動物学会第81回東京大会, 東京, 口頭
- 石沢清華, 山本雄三, 傳法隆, 上田宏, 2009年3月28日, 河川水中の溶存遊離アミノ酸の起源に関する環境生物学的研究, 2009(平成21)年度日本水産学会大会, 東京, 口頭
- 折笠善丈, 杉原慎二, 堀 竜二, 森田直樹, 渡部和郎, 奥山英登志, 2008年11月28日, 細菌の長鎖多価不飽和脂肪酸合成における分子種はpfaB遺伝子によって決まる, 第20回植物脂質シンポジウム, 札幌, 口頭
- 川内陽平, 松本宙, 志田修, 奥村裕弥, 東条斉興, 安間洋樹, 宮下和士, 2009年11月27日, 北海道噴火湾における餌生物転換期前後のスケトウダラ稚魚の分布構造, 平成21年度日本水産学会北海道支部大会, 函館, 口頭
- 川内陽平, 東条斉興, 西村明, 船本鉄一郎, 安間洋樹, 宮下和士, 2009年3月3日, 秋の道東太平洋大陸棚上におけるカタクチイワシ (*Engraulis japonicus*) の分布要因推定, 平成20年度北海道音響資源調査研究情報交換会, 札幌, 口頭
- 川内陽平, 東条斉興, 西村明, 船本鉄一郎, 安間洋樹, 宮下和士, 2009年3月29日, 北海道東部太平洋大陸棚上におけるカタクチイワシの分布要因の推定, 平成21年度日本水産学会春季大会, 東京, 口頭
- 前川諒, 大原雅, 2010年12月10-12日, エンレイソウ属植物における開花時期の違いが繁殖成功と雑種形成に与える影響, 第42回種生物学シンポジウム, 京都, ポスター
- 前田高志, 嶋田智, 四ツ倉典滋, 能登谷正浩, 2010年7月, マルバアマノリの分類形質, 第9回日本応用藻類学会春季シンポジウム, 東京
- 大松ちひろ, 大原雅, 2010年12月10-12日, 性転換する植物マムシグサの集団内・集団間における性比の変異, 第42回種生物学シンポジウム, 京都, ポスター
- 大木海平, 松井大悟, 平田善彦, 鷲尾健司, 森川正章, 2008年12月10日, Staphylococcus属細菌のバイオフィーム形成における尿素分解酵素(ウレアーゼ)の役割, 第31回日本分子生物学会年会第81回日本生化学会合同年会, 神戸, ポスター
- 大木海平, 鷲尾健司, 松井大悟, 平田善彦, 森川正章, 2010年9月17日, Staphylococcus属細菌のバイオフィーム形成における尿素分解酵素の役割, 平成22年度北海道腸内細菌叢研究会総会, 旭川, 口頭
- 地子 立, 堀 廣孝, 高橋太郎, 中野英樹, 高虫慧子, 市川伸次, 生田 稔, 村井 敦, 荒木 肇, 2009年12月, 雪利用長期保存株によるホワイトアスパラガスの夏どり体系の検討, 北海道園芸研究談話会平成21年度研究発表会, 札幌, 口頭
- 中山雄太, 藤田聡志, 杉江恒二, 久万健志, 2009年4月5-9日, 親潮域春季ブルーム期における鉄と栄養塩の短期変動, 日本海洋学会春季大会, 東京
- 中野渡瞳, 奥山英登志, 2008年8月7日, ラビリンチュラ類微生物を用いたDHAリン脂質の生産, 日本農芸化学会北海道支部 平成20年度第1回合同学術講演会, 札幌, 口頭
- 中野渡瞳, Ahmad Iskandar Bin Haji Mohd Taha, 若浜貴宏, 佐藤真美子, 金子堯子, 渡邊研太郎, 神田啓史, 東條元昭, 奥山英登志, 2010年12月1日, Formation of long-chain polyunsaturated fatty acid-containing phospholipids and cold-temperature adaptability in eukaryotic microorganisms, 極域生物シンポジウム, 東京, 口頭
- 中路達郎, 田柳史織, 中村誠宏, 日浦 勉, 2010年8月3日, 温暖化操作実験によるミズナラの被食防衛物質の変化とその光学的評価の試み, 日本植物学会北海道支部大会, 札幌, 口頭
- 貞國利夫, 黒沢令子, 長谷川理, 東正剛, 2009年9月19-24日, カラス2種のなわばり防衛行動・特に幼鳥の成長に伴う行動変化について, 日本鳥学会2009年度大会, 函館, ポスター
- 的場洋平, 松木吏弓, 阿部豪, 佐鹿万里子, 荒木奈津子, 奥祐三郎, 揚妻直樹, 鈴木正嗣, 浅川満彦, 2008年9月6日, ミトコンドリアDNA制限領域とマイクロサテライトDNAにおけるタヌキの遺伝的多様性, 野生動物医学会

- 大会, 神戸, ポスター
- 田中智之, 野田隆史, 仲間雅裕, 山本智子, 堀正和, 奥田武弘, 熊谷直喜, 島袋寛盛, 2009年3月15日, 岩礁潮間帯生物群集における種のターンオーバー: 時間的・空間的変異性に注目して, 第56回日本生態学会PB1-273, 盛岡市・岩手郡滝沢村, 盛岡, 口頭
- 渡辺恒大 (D2), 柴田英昭, 2008年10月4日, ササと樹木のリターフォールとそれに伴うリグニン分解, 生物地球化学研究会2008年研究集会, 清里, ポスター
- 渡辺恒大 (D2), 柴田英昭, 2008年5月29日, 北海道北部の森林生態系におけるササのリター分解に伴う窒素動態, 日本地球惑星科学連合2008年大会, 千葉, ポスター
- 嶋田恒平, 片岡剛文, 鷲尾健司, 森川正章, 2008年, Pseudomonas stutzeri バイオフィルムのナフタレン分解活性と土壌安定性, 日本農芸化学会年次大会, 名古屋, 口頭
- 嶋田恒平, 鷲尾健司, 森川正章, 2009年6月23日, ハ・イオフィルムに見られるナフタレン分解活性遅延の理由, 環境バイオテクノロジー学会2009年度大会, 東京, ポスター
- 東條卓人, 津田賢一, 山崎健一, 2008年7月23日, Arabidopsis MBF1s Play a Crucial Role for Controlling Leaf Cell Expansion through Regulating The Expression of Endoreduplication-Related Factors., 19th International Conference on Arabidopsis Research, Montreal
- 藤沼潤一, Rhett D. Harrison, 久保拓弥, 2009年3月17-21日, 外来草本種 *Clidemia hirta* の半島マレーシア・パソー森林保護区への侵入パターン, 日本生態学会, 盛岡, ポスター
- 南憲史, 宮下和士, 東条斉興, 安間洋樹, 伊藤祐介, 野別貴博, 2009年2月4日, 知床半島東部における漁期のコンブ群落の分布変化, 平成20年度知床世界自然遺産地域生態系調査報告会, 札幌, 口頭
- 南憲史, 宮下和士, 東条斉興, 安間洋樹, 伊藤祐介, 野別貴博, 2009年11月18日, 音響法を用いた知床半島のコンブ場分布域把握の試みII —コンブ漁前後の分布域について, 2009年度水産海洋学会研究発表大会, 長崎, 口頭
- 南憲史, 東条斉興, 安間洋樹, 伊藤祐介, 野別貴博, 宮下和士, 2009年3月3日, 2007年・2008年の知床半島におけるコンブ群落の分布調査について, 平成20年度北海道音響資源調査研究情報交換会, 札幌, 口頭
- 南波興之, 2009年3月, 高次捕食者 (トガリネズミ) の土壌微生物相への影響. 土壌生態系における捕食者 (トガリネズミ), 第56回日本生態学会大会, 盛岡, 口頭
- 南波興之, 2009年, Top down cascade effect on soil ecosystem by Long clawed shrew (*Sorex unguiculatus*), The 10th International Mammalogical Congress, Argentine, ポスター
- 南波興之, 2009年8月9-14日, Top-down effect on soil ecosystem by Long-clawed shrew (*Sorex unguiculatus*), SNU-HU joint symposium, ソウル, ポスター
- 南波興之, 大舘智氏, 2008年9月, 北海道に生息するチビトガリネズミの食性, 日本哺乳類学会, 山口, ポスター
- 日野貴文, 揚妻直樹, 日浦勉, 2009年3月18日, 異なる光・栄養塩環境下におけるシカの林床植物への影響-大規模密度操作実験による検証-, 日本生態学会第56回全国大会, 盛岡, ポスター
- 日野貴文, 揚妻直樹, 豊田鮎, 日浦勉, 2009年3月17日, シカによる林床植生と土壌生態系への影響, 日本生態学会第56回全国大会, 盛岡, 口頭
- 白井正利, 橋本寛隆, 木島誠二, 地子立, 前田智雄, 荒木肇, 2009年12月, 遮光フィルム被覆によるホワイトアスパラガス生産におけるもみがらマルチの効果と廃耕圃場での夏どり作型の検討, 北海道園芸研究談話会平成21年度研究発表会, 札幌, 口頭
- 粕谷菜月, 三井偉由, 青塚正志, 木村正人, 2010年8月23-25日, Diversity of parasitoids attacking fungivorous drosophilids in Tokyo, 日本・オランダ共同セミナー『寄生バチの生態学』, 東京, ポスター
- 粕谷菜月, 三井偉由, 木村正人, 2010年9月17-20日, 寄生蜂 *Ganaspis xanthopoda* とその近縁種の分類, 系統と宿主選択, 日本昆虫学会第70回大会, 鶴岡, 口頭
- 幡中迪彦, 友澤森彦, 佐藤淳, 鈴木仁, 2010年9月20日, 食肉目における毛色決定関連遺伝子 *Mc1r* の進化的動態, 第82回日本遺伝学会, 札幌, 口頭
- 布目三夫, 2008年6月, The role of Pleistocene refugia in shaping genetic diversity of the Japanese hare (*Lepus brachyurus*), Hokkaido University Sustainability Weeks G8 Summit Round, 札幌, ポスター
- 布目三夫, 鳥居春己, 山田文雄, 土屋公幸, 鈴木仁, 2008年9月13-14日, 第四紀の複数のレフュージアがニホンノウサギの遺伝的多様性に与えた影響についての系統地理学的解析, 日本哺乳類学会, 山口, ポスター
- 並川寛司, 渡辺直樹, 松井哲哉, 小林誠, 2009年3月17-21日, 光・密度・ネズミ類の被食を制御した実験系におけるブナ当年生実生の生残過程と死亡要因-北限域での例-, 第56回日本生態学会大会, 盛岡, ポスター
- 牧口祐也, 今野義文, 市村政樹, 永田鎮也, 村田秀樹, 小島隆人, 上田宏, 2008年11月14日, ECGロガーによるシロザケの産卵行動時の心拍変動解析, 第4回日本バイオロギング研究会シンポジウム, 長崎, 口頭
- 牧口祐也, 市村政樹, 永田鎮也, 村田秀樹, 小島隆人, 上田宏, 2009年12月5日, シロザケ産卵行動時における心停止およびその制御に関する研究, サケ学研究会, Oregon, 口頭
- 堀竜二, 西田孝伸, 渡邊研太郎, 奥山英登志, 2010年11月30日, 細菌の低温適応と細胞の疎水度, 極域生物シンポジウム, 東京, ポスター
- 本多健太郎, 宮下和士, 鍵和田玄, 2009年10月29日, 北海道別寒辺牛川水系に生息するイトウの季節変動に伴う移動生態の解明, 第16回河川整備基金助成事業成果発表会, 東京, 口頭
- 本多健太郎, 宮下和士, 野田裕二, 水越麻仁, 津田裕一, 安間洋樹, 2009年3月27-31日, 道東別寒辺牛川水系に生息するイトウ (*Hucho perryi*) 成魚の季節的分布変動について, 平成21年度日本水産学会春季大会, 東京, 口頭
- 本多健太郎, 野田裕二, 津田裕一, 宮下和士, 2008年12月13日, 道東別寒辺牛川水系に生息するイトウ (*Hucho perryi*) 成魚の季節的分布変動について, サケ学研究会, 函館, 口頭
- 本猪木太朗, 杉原慎二, 奥山英登志, 2010年11月25日, 海洋における多価不飽和脂質産生菌の分布, 微生物生態学会, 筑波, ポスター
- 木下豪太, 布目三夫, 平川浩文, 鈴木仁, 2010年8月23日, mtDNAを用いた北海道産ユキウサギの系統的位置づけと遺伝的集団構造の解析, 日本動物学会平成22年北海道支部大会, 旭川, 口頭
- 木下豪太, 布目三夫, 平川浩文, 鈴木仁, 2010年9月17日, 北海道産ユキウサギの系統地理学的解析, 日本哺乳類学会2010年度大会, 岐阜, ポスター
- 木村圭, 上井進也, 長里千香子, 本村泰三, 2009年3月27日,

褐藻ワカメの受精時におけるミトコンドリア、葉緑体の母性遺伝機構の解析, 第33回日本藻類大会, 那覇, 口頭

友澤森彦, 鈴木仁, 松原和純, 松田洋一, 2009年11月21日, アカネズミの集団史: 過去の分散、染色体変異、島嶼間での遺伝子流動, 日本哺乳類学会, 台北, ポスター

友澤森彦, 鈴木仁, 土屋公幸, 2008年9月13-14日, マイクロサテライトマーカーを用いたアカネズミ島嶼集団の遺伝解析, 日本哺乳類学会, 山口, ポスター

鷲尾健司, リム・シューピン, ルーンサワン・ニラン, 森川正章, 2008年12月10日, 環状リポペプチド・アルスロファクチンの産生を制御する(p)ppGpp合成・代謝酵素、SpoTの機能解析, 第31回日本分子生物学会年会第81回日本生化学会合同年会, 神戸, ポスター

傳法隆, 吉田悠貴, 上田宏, 2010年9月17-20日, 洞爺湖における最近の動植物プランクトンの動態と食物網について, 日本陸水学会, 弘前, ポスター

環境物質科学専攻

Awasthi Kamlesh, Hamada Tatuo, 飯森 俊文, 太田 信廣, 2008年9月, Electric field effect on fluorescence in methylene linked compounds of pyrene and phthalimide:D-A distance dependence and temperature dependence, 第2回分子科学討論会, 福岡, 口頭

Awasthi Kamlesh, 飯森 俊文, 中林 孝和, 太田 信廣, 2008年9月11日, Synergy effects of electric field and magnetic field on excitation dynamics in a mixture of N-ethylcarbazole and some acceptor molecules, 2008年光化学討論会, 堺, ポスター

A. Ge, H. Liu, Y. Tong, K. Suzuki, T. Sakai, M. Osawa and S. Ye, 2009年12月4-5日, Effect of Halogen Ions on the Surface Structures of Quaternary Ammonium Surfactant Monolayers, 表面・界面スペクトロスコピー2009, 定山溪, ポスター

Endo Toru, Akutagawa Tomoyuki, Kajiwaru Teppei, Kakiuchi Keiko, Tatewaki Yoko, Noro Shin-ichiro, Nakamura Takayoshi, 2008年12月16-18日, Langmuir-Blodgett Films of Charge-Transfer Complexes: Ethylenedithio-Substituted Amphiphilic Bis-TTF Macrocycle and F4TCNQ or Br2TCNQ, 8th International Conference on Nano-Molecular Electronics (ICNME 2008), Kobe Portopia Hotel, ポスター

Endo Toru, Akutagawa Tomoyuki, Noro Shin-ichiro, Nakamura Takayoshi, 2009年11月, Crystal Structures of [MnIICrIII(ox)3] Salts with o-Fluoroanilinium / ([18]crown-6 or Dicyclohexano[18]crown-6) Supramolecular Cations, The 2nd Asian Conference on Coordination Chemistry (ACCC2), Nanjing (China), ポスター

F. Kudo, H. Imai, D. Endo, S. Noro, T. Akutagawa, L. Cronin, T. Nakamura, Japan, 2008年10月23-25日, Crystal Structures and Magnetic Properties of {Mo176} and {Mo57} Wheels, 20th Korea Japan Joint Forum (KJF2008), Chitose Institute of Science and Technology, ポスター

F. Kudo, H. Imai, T. Akutagawa, D. Endo, S. Noro, L. Cronin, T. Nakamura, 2008年9月21-24日, Crystal structures and magnetic properties of gigantic polyoxomolybdate wheels, The 11th International Conference on Molecular-based Magnets (ICMM 2008) Conviitto della Calza, Florence, Italy, ポスター

Fukuhara Katsuo, Noda Yuki, Akutagawa Tomoyuki, Noro Shin-ichiro, Nakamura Takayoshi, 2009年10月, Quantum Conduction in Hybrid LB Films of TTF Derivatives and Gold Nanoparticles, IUPAC 5th International Symposium on Novel Materials and Synthesis (NMS-V) & 19th International Symposium on Fine Chemistry and Functional

Polymers (FCFP-XIX) & 3rd Symposium on Power Sources for Energy Storage and their Key Materials (PS-III), 上海 (中国), ポスター

H. Liu, Y. Tong, M. Osawa, N. Kuwata, J. Kawamura and S. Ye, 2009年11月26-29日, Molecular Structures on LiCoO2 and Propylene Carbonate Interface Studied by SFG Spectroscopy, ABBA Tokyo 2009, ポスター

H. LIU, Y. TONG, N. KuwATA, M. OSAWA, J. KAWAMURA and S. YE, 2009年12月4-5日, Adsorption Structure of Solvent on the LiCoO2 Surface Studied by in situ SFG spectroscopy, 表面・界面スペクトロスコピー2009, 定山溪, ポスター

H. Liu, Y. Tong, N. Kuwata, M. Osawa, J. Kawamura and S. Ye, 2009年12月7-9日, Molecular Structure on the LiCoO2 and Propylene Carbonate, Interface Investigated by in situ SFG Spectroscopy, CRC International Symposium on "Innovation Driven by Catalysis-past, present and future", 札幌, ポスター

Kanno Mitsuru, Yasukawa Toshiya, Ninomiya Wataru, Haito Hiroyuki, Kamiya Yuichi, 2009年8月8-9日, Catalytic performance and structure of SiO2-supported H4PMo11VO40 in the selective oxidation of methacrolein, Post-Symposium of ZMPC2009, 洞爺湖, ポスター

Kanno Mitsuru, Yasukawa Toshiya, Ninomiya Wataru, Naito Hiroyuki, Kamiya Yuichi, 2009年10月14-16日, Catalytic Oxidation of Methacrolein over Silica-supported H4PMo11VO40, 12th Japan-Korea Symposium on Catalysis, Akita(Akita Castle Hotel), 口頭

Liu, H., Tong, Y., Ge, A., Suzuki, K., Sakai, T., Osaka, M., Ye, S., 2009年3月18-19日, Surface Structures of Cationic Surfactant Monolayer on Solid Substrate: A Sum Frequency Generation (SFG) Study, International Symposium for Environmental Innovation Driven by Chemistry and Catalytic Science (EICCCS), 札幌, ポスター

Liu, H., Tong, Y., Kuwata, N., Osawa, M., Kawamura, J., Ye, S., 2009年12月3日, Solvent Adsorption on the LiCoO2 Surface Investigated by Sum Frequency Generation (SFG) Spectroscopy, Workshop on Liquid Surfaces, Seoul, 口頭

Masaki Aonuma, Ryo Tsunashima, Shin-ichiro Noro, Tomoyuki Akutagawa, Takayoshi Nakamura, 2008年10月23-25日, Electrically Conducting Salt of (p-fluoroanilinium) ([18]crown-6) [Ni(dmit)2]3 with Rotator Structure, 20th Korea Japan Joint Forum (KJF2008), Chitose Institute of Science and Technology, Japan, ポスター

Md. Motahar Hossain, 中田 耕, 川口俊一, 嶋津克明, 2010年1月27日, Reduction of nitrate ions on tin modified palladium-platinum electrocatalysts, 化学系学協会北海道支部2010年冬季研究発表会, 札幌 (北大), 口頭

N. Darwish, Y. Tong, P. Eggers, M. Paddon-Row, J. Gooding, and S. Ye, 2009年12月7-9日, "Characterization of SAMs of Straight and L-shaped Norbornylogous Bridges by IR, SFG and Electrochemical Methods, CRC International Symposium on "Innovation Driven by Catalysis-past, present and future", 札幌, ポスター

Ohta Nobuhiro, Awasthi Kamlesh, Iimori Toshifumi, Nakabayashi Takakazu, 2008年11月1日, Synergy Effects of Electric Field and Magnetic Field on Field on Fluorescence in Photoinduced Electron Transfer Systems in a Polymer Film, The 5th Asian Photochemistry Conference, China, 口頭

Ohta Nobuhiro, Nakabayashi Takakazu, Kinjo Masataka, Aoki Yumiko, Tanaka Minoru, 2009年1月24日, Fluorescence lifetime imaging study of a single cell: Stress-induced environmental change and electric field effects on fluorescence, SPIE, USA, 口頭

Ohta Nobuhiro, Nakabayashi Takakazu, Oshita Shugo, Kinjo

- Masataka, 2010年1月23日, Fluorescence lifetime imaging spectroscopy in living cells with particular regards to pH dependence and electric field effect, SPIE, USA, 口頭
- Ohta Nobuhiro, Ohshima Ruriko, Nakabayashi Takakazu, 2009年10月30日, External electric field effects on emission of metal and semiconductor nanoparticles in a polymer film, The 6th KJFP2009, Korea, ポスター
- Ohtani, B., Amano, F., Yasumoto, T., Prieto-Mahaney, O. O., Uchida, S., Shibayama, T., Terada, Y." 2009年10月14日, Decahedral and Octahedral Single-Crystalline Mesoscopic Particles of Anatase Titanium(IV) Oxide of High Photocatalytic Activity, The 12th Japan-Korea Symposium on Catalysis (第12回日韓触媒会議), Korea, 口頭
- Ohtani, B., Prieto-Mahaney, O. O., Li, D., Amano, F., Abe, R., 2009年9月18日, Dependence of Photocatalytic Activities on the Crystal Structure of Titanium(IV) Oxide Particles, International Meeting on Interdisciplinary Chemistry 2009 at Ikaho, Korea, 口頭
- Ohtani, B., Prieto-Mahaney, O. O., Li, D., Amano, F., Abe, R., 2009年9月15日, PHOTOCATALYTIC ACTIVITY OF ANATASE AND RUTILE TITANIUM(IV) OXIDE: A FUNDAMENTAL STUDY, First International Workshop on Advanced Redox Technologies in the Environment (Arte2009), Istanbul (Turkey), 口頭
- Osawa, M., Tsushima, M., Mogami, H., Samjeske, G., Yamakata, A., 2009年10月12-16日, Structure of water at the electrified platinum-water interface studied by infrared spectroscopy, The 3rd Horiba International Symposium and The 11th ISSP International Symposium (ISSP-11) on Hydrogen and Water in Condensed Matter Physics, Seimeinomori Resort(Chiba), JAPAN, 口頭
- Kamiya Yuichi, Zhang Jin, Ohnishi Ryuichiro, Okuhara Toshio, 2009年5月10-14日, Preferential oligomerization of isobutene in butene mixtures over 12-tungstosilicic acid supported on silica, 6th World Congress on Catalysis by Acids and Bases (ABC-6), Genova (Italy), 口頭
- Samjeske, G., Komatsu, K., Osawa, M. 2009年12月7-9日, Japan. Dynamics of Electro-oxidation of Adsorbed CO on Pt under Potential and Current-controlled Conditions: Investigations by In-situ Time-resolved Surface-enhanced IR-Spectroscopy (SEIRAS), CRC International Symposium on Innovation Driven by Catalysis-past, present and future, Sapporo, ポスター発表
- Y. Tong, Q. Wei, K. Tajima, K. Hashimoto and S. Ye, 2009年12月7-9日, Interfacial Structure of the PCBM Thin Film Surface Modified by Fullerene Derivatives for Application in Organic Solar Cell, CRC International Symposium on ""Innovation Driven by Catalysis-past, present and future, 札幌, ポスター
- Y. Tong, Y. Zhang, L. Lu, M. Osawa, and S. Ye, 2009年12月7-9日, Effect of Halogen Ions on the Surface Structures of Quaternary Ammonium Surfactant Monolayers, CRC International Symposium on ""Innovation Driven by Catalysis-past, present and future, 札幌, ポスター
- Y. Zhang, L. Lu, Y. Tong, Y. Gao, G. Yin, M. Osawa and S. Ye, 2009年8月16-21日, Structural Changes on Electrode Surface of Li-ion Battery Studied by Sum Frequency Generation (SFG) Spectroscopy, ISE 2009, Beijing, ポスター
- Yamakata, A.: Yoshida, M.: Kubota, J.: Domen, K.: Osawa, M., 2010年1月11-15日, Dynamics of photogenerated charge carriers in GaN photoelectrode, 7th International Workshop on Oxide Surfaces (IWOX-VII), Xiamen(China), 口頭
- Yoshinori Sakamoto, Mitsuru Kanno, Yuichi Kamiya, Toshio Okuhara, 2008年7月13-18日, Cu-Pd bimetal cluster supported on active carbon as highly active and selective catalyst for hydrogenation of nitrate in water, 14th International Congress on Catalysis, Soul (COEX Convention Center), ポスター
- Yuichi Kamiya, Kazuyuki Tsuneyama, Ryuichiro Ohnishi, Toshio Okuhara, 2008年7月13-18日, Mechanistic study on skeletal isomerization of n-heptane over Pd-promoted H₄SiW₁₂O₄₀/SiO₂ 14th International Congress on Catalysis, Soul(COEX Convention Center) ポスター
- A. Ge, H. Liu, Y. Tong, K. Suzuki, T. Sakai, M. Osawa and S. Ye, 2009年12月7-9日, Structural Studies of Quaternary Ammonium Surfactant Monolayers, CRC International Symposium on Innovation Driven by Catalysis-past, present and future, 札幌, ポスター
- F. Sabeth, 飯森俊文, 太田信廣, 2010年9月8日, Time-resolved measurement of the photoresponse in the organic superconductor kapa-(BEDT-TTF)₂Cu[N(CN)₂]Br
- F. Sabeth, 飯森俊文, 太田信廣, 2010年9月8日, Remarkable photoresponse near the superconducting transition temperatures in the quasi-two-dimensional organic superconductor beta-(BEDDT-TTF)₂I₃, 2010年光化学討論会, 千葉, ポスター
- Md. Serajul Islam, 中林 孝和, 太田 信廣, 2010年9月8日, Time-Resolved Fluorescence Decays of FAD in a Mixture of Alcohol and Water in the Femtosecond and Nanosecond Time Range, 2010年光化学討論会, 千葉, 口頭
- Md. Serajul Islam, 中林 孝和, 太田 信廣, 2010年9月8日, Fluorescence Lifetime Images of Yeast Cells Loaded with Water-Soluble Antimonyporphyrin, 2010年光化学討論会, 千葉, ポスター
- Sabeth Farzana, 飯森俊文, 太田信廣, 2010年9月10日, Remarkable photoresponse near the superconducting transition temperatures in the quasi-two-dimensional organic superconductor beta-(BEDDT-TTF)₂I₃, 光化学討論会 2010, 千葉, 口頭
- F. Sabeth, 飯森俊文, 太田信廣, 2010年9月14-17日, Time-resolved measurements of the photoirradiation effect in the ionic conductivity of the polycrystalline AgI, 第4回分子科学討論会, 大阪, ポスター
- Osawa, M., Tsushima, M., Mogami, H., Samjeske, G., Yamakata, A., 2008年9月7-12日, Structure of water at the Pt/acid interface: An infrared study, Annual Meeting of International Society of Electrochemistry, Seville (Spain), 口頭
- Osawa, M., Tsushima, M., Mogami, H., Samjeske, G., Yamakata, A., 2008年7月27-31日, Structure of water at the electrified platinum-water interface studied by surface-enhanced infrared absorption spectroscopy, Liverpool, UK, July 27-31, The 25th European Congress on Surface Science (ECOSS 25), Liverpool (UK), 口頭
- X. Ren, G. Liu, H. Xu, T. Akutagawa, T. Nakamura, 2008年9月21-24日, Structural and magnetic investigations for the nonmagnetic doping effects on Spin-Peierls-like transition in a quasi-1D spin system based on bis (maleonitriledithiolate) nickelate monoanion, The 11th International Conference on Molecular-based Magnets (ICMM 2008), Convitto della Calza, Florence(Italy), ポスター
- Awasthi Kamlesh, 飯森 俊文, 中林 孝和, 太田 信廣, 2008年6月2日, Magnetic field effect on fluorescence in a mixture of N-ethylcarbazole and dimethyl terephthalate in a polymer film in the presence of electric fields, 第24回化学反応討論会札幌, 口頭
- Taro Uchida, Akira Yamakata, Yoichi Sasaki, and Masatoshi Osawa, 2009年10月4-9日, Hydrogen evolution reaction catalyzed by the redox cycles of 4,4'-bipyridine adsorbed on silver electrodes, 216th Meeting of The Electrochemical Society, Vienna(Austria), 口頭
- Tomoyuki Akutagawa, Yuki Noda, Yoko Tatewaki, Takayoshi

- Nakamura, 2008 年 7 月 6-11 日, Quantum Conducting Behaviour of Gold Nanoparticles - Molecular Nanowires Hybrids, International Conference on Science and Technology of Synthetic Metals 2008, Porto de Galinhas(Brazil), 口頭
- Tong, Y., Zhao, Y., Li, N., Osawa, M., Davies, P. B., Ye, S., 2009 年 12 月 4 日, Interference Effect on Sum Frequency Generation (SFG) Vibrational Spectroscopy from Thin Films, Workshop on Liquid Surfaces, Seoul, 口頭
- Uchida, T., Yamakata, A., Sasaki, Y., Osawa M., 2009 年 12 月 7-9 日, Electrochemical Hydrogen Evolution Reaction Accelerated by the Redox Cycle of 4,4'-bipyridine Adsorbed on Ag and Cuelelectrodes, CRC International Symposium on Innovation Driven by Catalysis-past, present and future, Sapporo, ポスター
- Uchida, T., Mogami, H., Yamakata, A., Sasaki, Y., Osawa, M., 2008 年 10 月 12-17 日, Enhanced hydrogen evolution reaction on Ag electrodes catalyzed by proton-coupled redox cycles of 4,4'-bipyridine adsorbed on the surface, Pacific Rim Meeting on Electrochemical and Solid-State Science, Honolulu (USA), 口頭
- 天野史幸, 安本泰啓, PRIETO MAHANEY, Orlando Omar, 阿部 竜, 太谷文寛, 2008 年 9 月 11 日, 多面体形状アナタース型酸化チタン微結晶の光触媒活性, 2008 年光化学討論会, 大阪, 口頭
- カートンラヒマ, 飯森俊文, 太田信廣, 2008 年 9 月 11 日, Photoirradiation effects on the ionic conductivity of polycrystalline beta-AgI at room temperature, 2008 年光化学討論会, 堺, ポスター
- 遠藤大五郎, 芥川智行, 野呂真一郎, Leroy Cronin, 中村貴義, 2008 年 9 月, o-Phenylenediamine を用いた (crown ether)[PMo12O40]錯体の結晶構造と誘電特性, 第 2 回分子科学討論会, 福岡, ポスター
- 巖寅男, 久保和也, 野呂真一郎, 中村貴義, 2011 年 3 月 27 日, 3-フルオロアダマンチルアンモニウム-クラウンエーテル誘導体超分子カチオン/[Ni(dmit)2]塩の構造と物性, 日本化学会第 91 春季年会, 神奈川大学, 口頭
- 巖寅男, 佐藤大介, 野呂真一郎, 芥川智行, 中村貴義, 2009 年 9 月, アダマンチルアミン誘導体-クラウンエーテル超分子構造を含む[Ni(dmit)2]塩の構造と物性, 第 59 回錯体化学討論会, 長崎, ポスター
- 工藤史人, 今井宏之, 芥川智行, 遠藤大五郎, 野呂真一郎, Cronin Leroy, 中村貴義, 2009 年 2 月, モリブドヘテロポリ酸塩の結晶構造と磁性の相関, 日本化学会北海道支部 2009 年冬季研究発表会, 札幌, 口頭
- 湯浅麻衣子, 山岸裕, 孫尚鉉, 山田幸司, 2009 年 9 月 26 日, 細胞膜ダイナミクス解析のための波長応答型蛍光プローブの開発, 日本分析化学会第 58 年会, 北海道大学, ポスター
- 湯浅麻衣子, 山岸裕, 山田幸司, 2009 年 5 月 16 日, 化学発光ソルバトクロミック色素の創製, 第 70 回分析化学討論会, 和歌山大学, ポスター
- 道見康弘, 嶋津克明, 2008 年 5 月 16 日, シクロデキストリン単分子層を利用した硫酸イオンのセンシング, 第 69 回分析化学討論会, 名古屋 (名古屋国際会議場), 口頭
- 梅澤大樹, 香村隆夫, 河原哲平, 末田学, 韓雪容, 沖野龍文, 松田冬彦, 2009 年 10 月 7-9 日, Kalkitoxin 及びその類縁体の合成と生物活性, 第 51 回天然有機化合物討論会, 名古屋, 口頭
- 福永直人, 高瀬永理, 小西克明, 2010 年 7 月 24 日, Molecular Communication at the Organic-Cluster Heterogeneous Interface, The 25th CRC International Symposium, 洞爺
- 福永直人, 高瀬永理, 小西克明, 2010 年 12 月 15-20 日, Molecular events at the organic-inorganic interface of surface-modified nanoclusters: An approach for luminescent guest-sensing modules, PACIFICHEM 2010, Honolulu
- 福永直人, 七分勇勝, 小西克明, 2010 年 9 月 27-30 日, 疎水場を導入した水溶性 CdS クラスターの設計と応答機能, 第 60 回 錯体化学討論会, 大阪 (大阪国際交流センター), ポスター
- 福原克郎, 久保和也, 野呂真一郎, 中村貴義, 2011 年 3 月 27 日, 1 次元銅金属錯体の固溶体合成とガス・蒸気吸着特性, 日本化学会第 91 春季年会, 神奈川大学, 口頭
- 福原克郎, 久保和也, 野呂真一郎, 中村貴義, 2010 年 7 月, 1,3-ビス(4-ピリジル)プロパン配位子から構築される高分子状銅金属錯体の結晶構造と吸着特性, 北海道支部 2010 年夏季研究発表会函館, 函館, 口頭
- 福原克郎, 久保和也, 野呂真一郎, 中村貴義, 2010 年 9 月, 1,3-ビス (4-ピリジル) プロパン配位子から形成される高分子型銅金属錯体の合成とガス吸着特性, 第 60 回錯体化学討論会, 大阪, ポスター
- 福原克郎, 巖寅男, 野呂真一郎, 中村貴義, 2010 年 7 月, フルオロアダマンチルアンモニウム誘導体を利用した超分子ローター型強誘電体の作製, 北海道支部 2010 年夏季研究発表会, 函館, 口頭
- 福原克郎, 野呂真一郎, 中村貴義, 2010 年 9 月, Selective Uptake of Guest Molecules in Cu(II) Coordination Polymer 第 60 回記念錯体化学 OSAKA 国際会議, 大阪,
- 福原克郎, 野呂真一郎, 中村貴義, 2011 年 2 月, 異種アニオンを含む一次元銅金属錯体の固溶体の合成とガス吸着特性 化学系学協会北海道支部 2011 年冬季研究発表会, 札幌, 口頭
- 野田祐樹, 野呂 真一郎, 芥川 智行, 中村 貴義, 2009 年 9 月, Charge Transport Behavior of Hybrid Assembly Structures between Gold Nanoparticles and Porphyrin Derivatives The 8th International Symposium on Crystalline Organic Metals, Superconductors and Ferromagnets (ISCOM2009), ニセコ, ポスター
- 野田祐樹, 野呂 真一郎, 芥川 智行, 中村 貴義, 2009 年 12 月, Fabrication and Electron Transport Behavior of Gold Nanoparticles - Porphyrin Derivatives Hybrid Structures, 北海道大学触媒化学研究センター 20 周年記念国際シンポジウム, 札幌, ポスター
- 野田祐樹, 久保和也, 野呂真一郎, 中村貴義, 2011 年 3 月 29 日, テルビウムフタロシアニンダブルデッカー錯体 - 金ナノ粒子複合体の磁気特性, 日本化学会第 91 春季年会, 神奈川大学, 口頭
- 野田祐樹, 野呂真一郎, 芥川智行, 中村貴義, 2009 年 9 月, イミン部位の相互作用を利用したポルフィリン-金ナノ粒子, 集積体の作製と電気伝導, 第 3 回分子化学討論会, 名古屋, ポスター
- 柴田昌幸, 梅澤大樹, 松田冬彦, 2010 年 7 月 24 日, Danicalipin A の全合成研究, 北海道支部 2010 年夏季研究発表会, 函館,
- 小西克明, 七分勇勝, 亀井優太郎, 2009 年 9 月 25-27 日, メタロクラウンユニットを有する Au クラスターの合成と性質, 第 59 回錯体化学討論会, 長崎 (長崎大学文教キャンパス), 口頭
- 小西克明, 鈴木快, 村上嘉崇, 2009 年 9 月 25-27 日, 有機保護金クラスターの無機表面上でおきる物質間相互作用と反応 (予稿集 No: 1PC-006), 第 59 回錯体化学討論会, 長崎 (長崎大学文教キャンパス), ポスター
- 大下周吾, 中林孝和, 澄川亮也, 金城政孝, 太田信廣, 2010 年 3 月 26 日, Enhanced Yellow Fluorescent Protein (EYFP) の蛍光寿命イメージングを用いた細胞内 pH 測定, 日本化学会第 90 春季年会, 大阪, 口頭
- 大下周吾, 中林孝和, 澄川亮也, 孫 凡, 三國新太郎, 金城政

- 孝, 太田信廣, 2009年9月21日, Yello w Fluorescent Protein(YFP)の蛍光寿命のpH計測, 第3回分子科学討論会, 名古屋, ポスター
- 太島 瑠利子, 中林 孝和, 小林 洋一, 浅野 彩子, 玉井 尚登, 太田 信廣, 2009年9月16日, CdTeナノ粒子の光学特性の光照射および外部電場効果, 2009年光化学討論会, 桐生, ポスター
- 太島 瑠利子, 中林 孝和, 小林 洋一, 浅野 彩子, 玉井 尚登, 太田 信廣, 2009年9月21日, CdTeナノ粒子の吸収・発光スペクトルへの光照射効果および外部電場効果, 第3回分子科学討論会, 名古屋, 口頭
- 中畑喬之, 飯森俊文, 内藤俊雄, 太田信廣, 2008年9月26日, 有機超伝導 β -(BEDT-TTF) 2I3の電気伝導度における光照射効果, 第2回分子科学討論会, 福岡, ポスター
- Rima Farhana Rahman, 中田耕, 嶋津克明, 山方啓, 叶 深, 大澤雅俊, 2008年6月24日, Surface Enhanced Infrared Absorption Spectroscopic Studies of Adsorption and Reduction of Nitrite on Pt Electrode, Hokkaido University Sustainability Weeks 2008-G9 Summit Round, 札幌(北大), ポスター
- Rima Farhana Rahman, 中田 耕, 嶋津克明, 山方 啓, 叶 深, 大澤雅俊, 2008年7月19日, Rima Farhana Rahman (環境物質, D2) 白金電極上に吸着した亜硝酸イオンの表面増強赤外分光法による評価?表面吸着亜硝酸イオン, 一酸化窒素のpHおよび電位依存性?, 日本化学会北海道支部夏季研究発表会, 北見(北見工大), 口頭
- S. Ye, H. Liu, Y. Tong, M. Osawa, N. Kuwata and J. Kawamura, 2009年10月24日, Adsorption Structure of Solvent on the LiCoO₂ Surface Studied by Nonlinear Vibrational spectroscopy, ICSS13, 熊本, 口頭
- S. Ye, H. Liu, Y. Tong, M. Osawa, N. Kuwata and J. Kawamura, 2009年10月23-26日, Structural Changes on Electrode Surface of Li-ion Battery Studied by Sum Frequency Generation (SFG) Spectroscopy, ISE 2009 Post-conference, Xiamen, 口頭
- 野谷翔治, 大澤雅俊, 嶋津克明, 2010年1月26日, PdおよびSn修飾Pd電極上における吸着NOの還元反応, 化学系学協会北海道支部2010年冬季研究発表会, 口頭
- 後藤利光, 奥原敏夫, 神谷裕一, 後藤利光, 2008年9月23-26日, 各種12-タングストリン酸塩の磁性と磁気分離, 第102回触媒討論会A, 名古屋(名古屋大学), 口頭
- 山本拓真, 奥原敏夫, 神谷裕一, 山本拓真, 2008年9月23-26日, 担持Ir触媒上でのジメチルシクロペンタン水素化開環反応におけるIrの粒径効果, 第102回触媒討論会A, 名古屋(名古屋大学), 口頭
- 高瀬永理, 藤本信二, 小西克明, 2008年9月7-9日, ポリカチオンと複合化した水溶性CdSeナノ粒子の外部刺激に対する応答性, 第61回コロイド及び界面化学討論会, 福岡, ポスター
- 岡佳和, 中村進之介, 諸角達也, 中村博, 2009年9月9-10日, アントラセン修飾CDのTICT制御による蛍光"Off-On"センシング, 第26回シクロデキストリンシンポジウム, 宇都宮市, 口頭
- 坂本啓典, 岡田孟矩, 飯森俊文, 太田信廣, 2010年9月16日, 溶液中およびポリマー中におけるアズレンの電場吸収・電場発光測定, 第4回分子科学討論会, 大阪, ポスター
- 岡佳和, 諸角達也, 中村博, 2008年9月10-12日, ペプチド結合を介した分子内電荷移動と蛍光センシングへの応用, 日本分析化学会第57年会, 福岡市, 口頭
- 中林孝和, 王 会平, 辻本和雄, 宮内正二, 加茂直樹, 太田信廣, 2008年3月27日, 光寿命イメージングによる高度好塩菌の外部電場効果の研究, 日本化学会第88春季年会, 東京, 口頭
- 上田智也, 天竺克昭, 松田冬彦, 2008年7月19日, Sml₂-Pd(0)系による環化反応, 北海道支部2008, 北見, 年夏季研究発表会
- 角田大, 梅澤大樹, 松田冬彦, 2008年7月19日, Thyrsiferolの全合成研究, 日本化学会北海道支部, 北見(北見工業大学), 口頭
- 香村隆夫, 梅澤大樹, 松田冬彦, 2008年7月19日, Kalkitoxin及びその類縁体の合成研究, 日本化学会北海道支部, 北見(北見工業大学), 口頭
- 西川慶祐, 代蔵陽介, 梅澤大樹, 松田冬彦, 2008年7月19日, Isocyanocadineneの全合成, 日本化学会北海道支部, 北見(北見工業大学), 口頭
- 天野史章, 野上皓平, 阿部竜, 大谷文章, 2008年9月24日, 可視光応答性タングステン酸ビスマス光触媒: ミクロマクロ階層構造制御による高活性化, 第102回触媒討論会, 名古屋, 口頭
- 太田圭亮, 天野史章, 阿部竜, 大谷文章, 2008年9月24日, 酸化チタン中空マイクロ粒子の調製と光触媒活性制御, 第102回触媒討論会, 名古屋, ポスター
- 福原 克郎, 野田 祐樹, 帯刀 陽子, 野呂 真一郎, 芥川 智行, 中村 貴義, Jan BECHER, 2008年9月7-9日, 新規超薄膜のナノ物性評価, 第61回コロイドおよび界面化学討論会, 九州大学, ポスター
- Farhana, R. Rima, 中田耕, 嶋津克明, 山方啓, 叶深, 大澤雅俊, 2008年11月7日, Infrared Spectroscopic Studies of Adsorption and Reduction of Nitrite on a Platinum Electrode, 第12回北大ーソウル大学「環境科学シンポジウム」, 札幌(北大), 口頭
- Iimori Toshifumi, Khaton Rahima, Ohta Nobuhiro, 2008年11月13日, Reversible photoswitching in ionic conductivity of polycrystalline AgI at room temperature, 3rd International Conference on Photoinduced Phase Transitions and Cooperative Phenomena, 大阪, ポスター
- 池浦健太郎, 高橋 真, 道見康弘, 嶋津克明, 2009年2月4日, シクロデキストリン単分子層上での酸化還元反応?アニオンおよび基質依存性, 化学系学協会北海道支部冬季研究発表会, 札幌(北大), 口頭
- 中田耕, 土居義高, 久保田周平, 嶋津克明, 2009年2月3日, スズ修飾貴金属電極を用いた亜硝酸の還元, 日本化学会北海道支部冬季研究発表会, 札幌(北大), 口頭
- 天野史章, 李定, 大谷文章, 2009年3月4日, Preparation of Tungsten(VI) Oxide Films of Vertically Aligned Flakes for Photoelectrochemical Reactions, Asian Scientific Seminar 2009, 川崎, ポスター
- 天野史章, 李定, 大谷文章, 2009年3月18日, Preparation of Tungsten(VI) Oxide Flake-Wall Films for Photoelectrochemical Water Oxidation, International Symposium for Environmental Innovation Driven by Chemistry,
- 田中 麻紗子, 天野史章, 大谷文章, 2009年3月4日, Alkali-Ion-Modified Silica-Supported Vanadium Oxides for Photocatalytic Decomposition of Acetaldehyde, Asian Scientific Seminar 2010, 川崎, ポスター
- N. Ohta, M. Rahaman, T. Iimori and T. Hamada, 2009年9月21日, Characterization of optoelectronic devices based on the methylene-linked compounds of pyrene, 第3回分子科学討論会, 名古屋, ポスター
- 村上嘉崇, 小西克明, 2009年3月27-30日, Auクラスターの無機表面で起こる物質間相互作用と反応, 第89日本化学会春季年次大会, 船橋, 口頭
- 亀井優太郎, 小西克明, 2011年3月26-29日, cluster-to-cluster型の変換を利用したサブナノAuクラスターの合成と機能, 日本化学会第91春季年会, 神奈川大学横浜キャンパス,

- 口頭
- 福永直人, 小西克明, 2011年3月26-29日, 疎水場を有する水溶性半導体クラスターの有機ゲストに対する応答機能, 日本化学会第91春季年会, 横浜(神奈川大学横浜キャンパス), 口頭
- 小西克明, 松村光, 2010年3月26-29日, 水素化物還元による可視発光性ケイ素クラスターの合成, 日本化学会第90春季年会, 大阪(近畿大学本部キャンパス), 口頭
- 小西克明, 鈴木快, 村上嘉崇, 2010.3.26-29, 有機保護金ナノクラスターの無機表面が示す反応特性, 日本化学会第90春季年会, 大阪(近畿大学本部キャンパス), 口頭
- 柴田昌幸, 梅澤大樹, 松田冬彦, 2011年1月26-27日, Aの不斉全合成, 北海道支部2011年冬季研究発表会, 札幌
- 小西克明, 七分勇勝, 亀井優太郎, 2010年1月26-27日, クラウン型金9クラスターの合成と機能, 化学系学協会北海道支部 2010年冬季研究発表会, 札幌・北海道大学学術交流会館, ポスター
- 小西克明, 鈴木 快, 2010年1月26-27日, 有機保護金ナノ粒子の無機表面上の反応特性, 化学系学協会北海道支部 2010年冬季研究発表会, 札幌(北海道大学学術交流会館), ポスター
- 柴田昌幸, 梅澤大樹, 松田冬彦, 2010年1月26-27日, Danicalipin Aの全合成研究, 北海道支部2010年冬季研究発表会, 札幌, ポスター
- Samjesk, G.; Miki, A.; Osawa, M., 2008年6月25-27日, "Potential oscillations in formaldehyde electrooxidation: A time-resolved surface-enhanced infrared study", 4th Gerischer Symposium, Berlin (Germany), 口頭
- 小西克明, 七分勇勝, 鈴木 快, 亀井優太郎, 2009年9月25-27日, 二十面体構造を持つAu₁₃クラスターの合成と誘導化 第59回錯体化学討論会, 長崎(長崎大学文教キャンパス), 口頭
- 梅澤大樹, 鈴木将洋, 松田冬彦, 2010年3月26-29日, Omaezalleneの合成研究, 日本化学会第90春季年会, 東大阪
- 鈴木将洋, 梅澤大樹, 松田冬彦, 2010年1月26-27日, Omaezalleneの全合成研究, 北海道支部2010年冬季研究発表会, 札幌
- Yamakata, A.; Uchida, T.; Osawa, M., 2008年7月20-22日, Electrolysis of water on Ag electrode Accelerated by the adsorption of 4,4'-bipyridine, Catalysis for Hydrogen Energy Production & Utilization, A Post-Symposium of the 14th International Congress on Catalysis, Gyeongju, Korea, 口頭
- 村上嘉崇, 小西克明, 2008年9月20-22日, Auクラスターと複合化した金属ポルフィリン錯体の合成と性質, 第58回錯体化学討論会, 金沢, 口頭
- 亀井優太郎, 小西克明, 2010年12月15-20日, An approach for luminescent guest-sensing modules, PACIFICHEM 2010, Honolulu, ポスター
- 岡 佳和, 濱 弘哉, 金 正植, 諸角達也, 中村 博, 2008年9月24-26日, 種々の蛍光官能基を有する芳香族アミドクラウンエーテルの光化学的挙動とその分析的应用, 日本分析化学会第58年会, 札幌市, ポスター
- 柴田昌幸, 梅澤大樹, 松田冬彦, 2011年2月2日, 光学活性 Danicalipin Aの全合成, 日本化学会北海道支部, 口頭
- 小松圭一, 大澤雅俊, 2010年9月28日, Role of bridge-bonded formate in the electrocatalytic oxidation of formic acid on platinum 61th Annual Meeting of International Society of Electrochemistry, Nice(France), 口頭
- 小松圭一, 大澤雅俊, 2010年4月14日, Role of bridge-bonded formate in formic acid electro-oxidation on Pt: Reactive intermediate or site-blocking spectator?, 1st Ertl Symposium on Electrochemistry and Catalysis, Gwangju, South Korea, 口頭
- 天野史章, 野上皓平, 山方啓, 大谷文章, 2009年1月21日, 北海道大学触媒化学研究センター研究討論会 in 東京, 東京大田区, ポスター
- 平野光洋, 天野史章, 大谷文章, 2010年1月26日, 光電気化学的水分解反応のための酸化鉄薄膜電極の調製と光電極特性, 化学系学協会北海道支部2010年冬季研究発表会, 札幌, ポスター
- 大下 周吾, 伊藤 寿之, 中林 孝和, 太田 信廣, 孫 凡, 金城政孝, 2009年2月3日, 蛍光寿命イメージング測定によるHeLa細胞の細胞ダイナミクスの観測(1), 日本化学会北海道支部2009年冬季研究発表会, 札幌, 口頭
- 田中麻紗子, 天野史章, 大谷文章, 2009年2月4日, 担持バナジウム酸化物光触媒の有機物酸化分解への応用と活性制御, 化学系学協会北海道支部2009年冬季研究発表会, 札幌, ポスター
- 山岸裕, 湯浅麻衣子, 山田幸司, 2009年3月28日, 新規蛍光・化学発光ソルバトクロミック色素の創製, 日本化学会第89春季年会, 日本大学, 口頭
- 天野史章, 安本泰啓, PRIETO MAHANEY, Orlando Omar, 大谷文章, 2009年3月27日, 八面体形状アナタース型酸化チタン単結晶微粒子の光触媒活性, 日本化学会第89春季年会, 船橋, ポスター
- 天野史章, 野上皓平, 山方啓, 大澤雅俊, 大谷文章, 2010年3月28日, 階層構造をもつ金属酸化物光触媒のアセトアルデヒド分解活性におよぼす表面積の影響, 日本化学会第90春季年会, 東大阪, 口頭
- 野上皓平, 天野史章, 大谷文章, 2009年3月18日, Visible Light-Induced Photocatalytic Decomposition of azeous Acetaldehyde over Flake-Ball Particles, International Symposium for Environmental Innovation Driven by Chemistry and Catalytic Science, 札幌, ポスター
- 大下 周吾, 伊藤 寿之, 中林 孝和, 太田 信廣, 孫 凡, 金城政孝, 2009年3月28日, HeLa細胞のアポトーシスおよび分裂過程の蛍光寿命イメージング測定, 日本化学会第89春季年会, 東京, 口頭
- 天野史章, 安本泰啓, PRIETO MAHANEY, Orlando Omar, 大谷文章, 2009年3月18日, Octahedral Single-Crystalline Mesoparticles of Anatase Titanium(IV) Oxide, International Symposium for Environmental Innovation Driven by Chemistry and Catalytic Science, 札幌, ポスター
- 劉 尊奇, 野呂真一郎, 中村貴義, 2011年3月, ピリダジニウムークラウンエーテル誘電体超分子カチオン/[Ni(dmit)₂]塩の構造と物性, 日本化学会第91春季年会, 横浜, 口頭
- 金子賢介, 柴田昌幸, 梅澤大樹, 沖野龍文, 松田冬彦, 2011年3月26-29日, Danicalipin Aの不斉全合成, 日本化学会第91春季年会, 横浜,
- Gabor Samjesk, 小松圭一, 大澤雅俊, 2009年3月29-31日, Pt電極表面におけるCO酸化ダイナミクス: プレ酸化ピークの起源, 電気化学会第76回大会, 京都, 口頭
- 内田太郎, 山方 啓, 佐々木陽一, 2009年3月30-31日, ビビリジン分子による電解水素発生の促進—有機分子による反応活性サイトの創成—, 第103回触媒討論会, 埼玉, 口頭
- 内田太郎, 山方 啓, 佐々木陽一, 大澤雅俊, 2009年3月27-30日, Ag電極に吸着した4,4'-ビビリジンの酸化還元サイクルが触媒する水素発生反応, 日本化学会第89春季年会, 船橋, 口頭
- Gabor Samjeske, 小松圭一, 大澤雅俊, 2009年9月10-11日, Pt電極表面におけるCO酸化反応ダイナミクス: 時間分解赤外分光解析 (北大), 2009年電気化学会秋季大会, 東京, 口頭

- Rima Falhana Rafman, 中田 耕, 嶋津克明, 大澤雅俊, 2009年9月10-11日, 電位による亜硝酸イオンの吸着状態の変化, 2009年電気化学会秋季大会, 東京(東京農工大), 口頭
- 天野史章, 李定, 大谷文章, 2009年3月30日, フレークウォール形状酸化タングステン薄膜の調製と光電極活性, 第103回触媒討論会, さいたま, ポスター
- 中田 耕, 土居義高, 久保田周平, 嶋津克明, 2009年3月30日, シクロデキストリン単分子層上でのレドックス反応の共存アニオンおよび基質依存性, 電気化学会第76回大会, 京都(京大), 口頭
- 中田 耕, 土居義高, 久保田周平, 嶋津克明, 2009年3月31日, スズ修飾貴金属電極を用いた亜硝酸の還元および硝酸還元との比較, 電気化学会第76回大会, 京都(京大), 口頭
- Amano, Fumiaki/Li, Ding/Nogami, Kohei/Ohtani, Bunsho, 2009年4月15日, Crystalline Flake Assemblies with Hierarchical Architectures for Photocatalytic and Photoelectrochemical Reactions, 6th International Symposium on Transparent Oxide Thin Films for Electronics and Optics (TOEO-6), 東京, 口頭
- 神谷裕一, 張 晋, 大西 隆一郎, 2009年5月19-20日, ナトリウムカチオンを添加したH4SiW12O40/SiO2によるインゾテンの選択的オリゴマー化, 石油学会第58回研究発表会, 東京(タワホール船堀), 口頭
- 葛愛民, 叶 深, 大澤雅俊, 2009年6月13-14日, 陽イオン表面活性剤単分子膜の界面構造研究, 第26回ライラックセミナー第15回若手研究交流発表会, 小樽, ポスター
- Kamiya Yuichi, Wang Chengai, Sakamoto Yoshinori, 2009年7月5-10日, Catalytic oxidation of ammonium ions with nitrite ions in water over Pt/TiO2, 6th World Congress on Oxidation Catalysis, Lille(France), ポスター
- 三浦 裕紀, 神谷 裕一, 2009年7月23-24日, n-ブチルスズ置換タングストリン酸セシウム塩の合成と分子吸着特性, 第49回オーロラセミナー, 登別, ポスター
- 菅野 充, 安川 隼也, 二宮 航, 内藤 啓幸, 神谷 裕一, 2009年7月23-24日, H4PMo11VO40/SiO2触媒上でのメタクロレイン選択酸化における担持による触媒性能低下原因の解明, 第49回オーロラセミナー, 登別, ポスター
- Miura Yuki, Kamiya Yuichi, 2009年8月8-9日, Cesium salt of n-butyltin substituted phosphotungstate with hydrophobic micropores, Post-Symposium of ZMPC2009, 洞爺湖, ポスター
- Samjesk, G., Komatsu, K., Osawa, M., 2009年8月16-21日, Dynamics of CO electro-oxidation on a Pt electrode: A time-resolved infrared study, 60th Annual Meeting of International Society of Electrochemistry, Beijing, China, 口頭
- 山岸 裕, 湯浅 麻衣子, 山田 幸司, 2009年5月16日, チオフェンを母骨格とした新規両親媒性蛍光ソルバトクロミック色素の開発, 第70回分析化学討論会, 和歌山大学, ポスター
- 中田 耕, Rima Farhana Rahman, 嶋津克明, 山方 啓, 叶 深, 大澤雅俊, 2009年5月17日, 白金およびSn修飾白金電極上に吸着したNOの赤外分光法による分析 第70回分析化学討論会, 和歌山(和歌山大), 口頭
- 飯森 俊文, 田山純平, Mohan S. Mehata, 中林 孝和, 太田 信廣, 2008年6月2日, 外部電場を用いた凝縮系における分子の配向制御: 電場変調吸収分光法による電場配向状態の観測, 第24回化学反応討論会, 札幌, ポスター
- 天野史章, 野上皓平, 山方啓, 大谷文章, 2009年6月5日, 半導体光触媒の光誘起キャリア寿命と有機物分解活性, 第28回光がかかわる触媒化学シンポジウム, 東京, 口頭
- 佐藤祐輔, 嶋津克明, 2010年7月11日, 非担持メソポーラスカーボン電極の調製と電気化学応答, 日本化学会北海道支部夏季研究発表会, 苫小牧(苫小牧高専), 口頭
- 山岸 裕, 孫 尚鉉, 湯浅麻衣子, 山田幸司, 2009年7月11日, 新規両親媒性蛍光ソルバトクロミック色素の創製, 日本化学会北海道支部2009年夏季研究発表会, 苫小牧工業高等専門学校, 口頭
- 道見康弘, 嶋津克明, 2008年7月19日, シクロデキストリン自己組織化単分子層を用いた硫酸イオンのセンシング, 日本化学会北海道支部夏季研究発表会, 北見(北見工大), 口頭
- 太田 信廣, 飯森 俊文, 中畑 喬之, 内藤 俊雄, 2009年9月21日, 有機超伝導体 β -(BEDT-TTF)2I3における電気伝導度の光応答, 第3回分子科学討論会, 名古屋, ポスター
- 北村三佳, 天野史章, 大谷文章, 2009年9月27日, タングステン/モリブデン系ビスマス複合酸化物の光触媒活性におよぼすバンド構造の影響, 第104回触媒討論会, 宮崎, 口頭
- 太田 信廣, カートン ラヒマ, 飯森 俊文, 2009年9月16日, Photoirradiation effects on the electrical conductivity of polycrystalline AgI, 2009年光化学討論会, 桐生, 口頭
- 大島 瑠利子, 浜田 辰夫, 中林 孝和, 飯森 俊文, 太田 信廣, 2008年9月24日, 一光子励起発光を示す金ナノクラスターの蛍光スペクトルへの外部電場効果, 第2回分子科学討論会, 福岡, ポスター
- 天野史章, 李定, 大谷文章, 2009年9月10日, 光電極反応のためのフレークウォール形状酸化タングステン膜の調製, 2009年電気化学会秋季大会, 東京, 口頭
- 道見康弘, 嶋津克明, 2008年10月13日, Self-Assembled Monolayers of Thiolated- β -Cyclodextrin as Molecular Templates and Reaction Sites Pacific Rim Meeting on Electrochemical and Solid-state Science, ホノルル(ヒルトンハワイアンビレッジ), ポスター
- 山岸裕, 阿部悠子, 周紅波, 曾根弘昭, 福原拓馬, 湯浅麻衣子, 山田幸司, 2008年11月22日, チオフェンを母骨格に持つ新規蛍光ソルバトクロミック色素の開発, 第38回複素環化学討論会, 福山大学, ポスター
- 道見康弘, 嶋津克明, 2008年11月6日, Electrochemical Sensing of Anions on Mixed Thiolated β -Cyclodextrin/ Pentanethiol Monolayers, 第11回北大ーソウル大学「環境科学シンポジウム」, 札幌(北大), 口頭
- 天野史章, 野上皓平, 山方啓, 大谷文章, 2008年12月2日, 可視光応答性pristine金属酸化物光触媒: 水熱結晶化による活性増大, 第15回シンポジウム「光触媒反応の最近の展開」, 川崎, ポスター
- 北村三佳, 天野史章, 大谷文章, 2009年12月2日, タングステン/モリブデン系ビスマス複合酸化物粒子の調製と光触媒活性の評価, 第16回シンポジウム「光触媒反応の最近の展開」, 川崎, ポスター
- 太田圭亮, 天野史章, 大谷文章, 2008年12月2日, 選択的白金修飾による酸化チタン(IV)中空マイクロ粒子の光触媒活性制御, 第15回シンポジウム「光触媒反応の最近の展開」, 川崎, ポスター
- 遠藤大五郎, 芥川智行, 野呂真一郎, Cronin Leroy, 中村 貴義, 2008年9月, (nitroaniline)([18]crown-6)長分子カチオンを用いた[PMo12O40]3-塩の誘電特性, 第58回錯体化学討論会, 福岡, 口頭
- 青沼昌樹, 綱島亮, 野呂真一郎, 芥川智行, 中村貴義, 2009年2月, 超分子カチオン(p-fluoroanilinium)([18]crown-6)を用いた[Ni(dmit)2]の電気伝導性差謡の構造と物性, 日本化学会北海道支部2009年冬季研究発表会, 札幌, 口頭
- M. Aonuma, R. Tsunashima, S. Noro, T. Akutagawa, T. Nakamura,

2008年9月21-24日, Crystal structures, electrical conductivities and magnetic properties of (o-, m-, p-fluoroanilinium) (Crown ethers)[Ni(dmit)2]3 salt, The 11th International Conference on Molecular-based Magnets (ICMM 2008), Convitto della Calza, Florence, Italy, ポスター

西川慶祐, 代蔵陽介, 梅澤大樹, 松田冬彦, 2009年3月27-30日, Isocyanocadineneの全合成, 日本化学会第89春季年会, 千葉

岩瀬由香里, 奥原敏夫, 神谷裕一, 2008年9月23-26日, ミクロメソバイモダル多孔性CsxH4-xSiW12O40による酸触媒反応, 第102回触媒討論会A, 名古屋 (名古屋大学), 口頭

上田智也, 天笠克昭, 梅澤大樹, 松田冬彦, 2009年3月27-30日, Sml2-Pd(0)複合系による分子間Barbier型カップリング反応, 日本化学会第89春季年会, 千葉

杉山昭宏, 奥原敏夫, 神谷裕一, 2008年9月23-26日, 12-タングストリン酸セシウム銀塩の酸触媒機能, 第102回触媒討論会A, 名古屋 (名古屋大学), 口頭

加納邦泰, 梅澤大樹, 松田冬彦, 2011年3月26-29日, Vinigrolの合成研究, 日本化学会第91春季年会, 横浜

西川慶祐, 代蔵陽介, 野方靖行, 吉村えり奈, 梅澤大樹, 沖野龍文, 松田冬彦, 2010年3月26-29日, Isocyanocadinene及びその立体異性体の合成とそれらの着生阻害活性の評価, 日本化学会第90春季年会, 東大阪,

鈴木将洋, 梅澤大樹, 松田冬彦, 2011年1月26-27日, Omaezalleneの全合成研究, 北海道支部2011年冬季研究発表会, 札幌

西井ひろみ, 神谷裕一, 奥原敏夫, 2008年5月15-16日, p-キシレンとシクロヘキセンのFriedel-Craftsアルキル化反応におけるヘテロポリ酸触媒の活性サイト, 石油学会第57回研究発表会, 東京 (アルカディア市ヶ谷), 口頭

天野史章, 野上皓平, 大谷文章, 2008年6月6日, 可視光応答性タングステン酸ビスマスのナノ・マイクロ多重構造制御と光触媒活性, 第27回光がかかわる触媒化学シンポジウム, 東京大田区, 口頭

田中麻紗子, 天野史章, 大谷文章, 2009年3月18日, Cesium-Ion-Modified Vanadium Complex on Silica for Photocatalytic Decomposition of Acetaldehyde, International Symposium for Environmental Innovation Driven by Chemistry,

全玉進, 葛愛民, 叶深, 大澤雅俊, 2010年, Structural Studies of Quaternary Ammonium Surfactant Monolayers PacifiChem 2010, Honolulu, USA, 口頭

亀井優太郎, 七分勇勝, 小西克明, 2010年3月26-29日, クラウン型配座を持つサブナノAuクラスターの合成と性質, 日本化学会第90春季年会, 大阪 (近畿大学), 口頭

敵寅男, 野呂真一郎, 芥川智行, 中村貴義, 2010年1月, 3-フルオロアダマンチルアンモニウムクラウンエーテル誘導体超分子を含む[Ni(dmit)2]塩の構造と物性, "化学系学協会北海道支部2010年冬季研究発表会, 札幌, 口頭

敵寅男, 野呂真一郎, 芥川智行, 中村貴義, 2010年3月, フルオロアダマンチルアンモニウムクラウンエーテル超分子構造を含む[Ni(dmit)2]塩の構造と物性, 日本化学会第90春季年会, 大阪, 口頭

小西克明, 矢野寛興, 2010年3月26-29日, ナノクラスター化合物の分子認識特性と応答機能, 日本化学会第90春季年会, 大阪 (近畿大学本部キャンパス), 口頭

小西克明, 平谷卓之, 2009年9月24-26日, 半導体ナノクラスター表面での分子認識を用いた発光センシング, 日本分析化学会第58年会, 札幌 (北海道大学), 口頭

小西克明, 高瀬永理, 井田麻奈美, 2010年3月26-27日, 半導体クラスター表面での分子認識を駆動力とする発光セン

シング 日本化学会第88春季年会, 大阪, 近畿大学本部キャンパス, 口頭

齋藤彰一, 諸角達也, 中村 博, 2009年2月3-4日, ポルフィリン-ビオローゲン連結化合物を介した光化学的挙動, 化学系学協会北海道支部2009年冬季研究発表会, 札幌, ポスター

佐野翔吾, 岩瀬由香里, 神谷裕一, 2009年7月23-24日, 硫酸処理したミクロメソバイモダル多孔性12-タングストケイ酸セシウム塩の酸触媒活性, 第49回オーロラセミナー, 登別, ポスター

高橋真, 道見康弘, 川口俊一, 嶋津克明, 2010年1月27日, シクロデキストリン単分子層を分子鋳型とした機能性チオール分子配列制御, 化学系学北海道支部2010年冬季研究発表会, 札幌, 口頭

張ケイコウ, 神谷裕一, 2009年9月27-30日, 種々の酸化物に担持したH4SiW12O40の酸触媒作用, 第104回触媒討論会第104回触媒討論会, 宮崎大学, シーガイヤ (宮崎), 口頭

野上皓平, 天野史章, 阿部竜, 大谷文章, 2008年7月8日, Visible-Light-Induced Photocatalytic Activity of Bismuth Tungstate, International Symposium on Creation and Control of Advanced Selective Catalysis (ICC14 Pre-Symposium), 京都, ポスター

野上皓平, 天野史章, 阿部竜, 大谷文章, 2008年7月27日, Visible-Light-Induced Photocatalytic Oxidative Decomposition of Organic Compounds over Bismuth Tungstate Polycrystalline Flake-ball Particles Prepared by Hydrothermal Reaction, 17th International Conference on Photochemical Conversion and Storage of Solar Energy (IPS-17), シドニー, ポスター

野上皓平, 天野史章, 阿部竜, 大谷文章, 2008年9月26日, 可視光応答性タングステン酸ビスマス光触媒による気相光酸化分解反応, 第102回触媒討論会, 名古屋, 口頭

野上皓平, 天野史章, 阿部竜, 大谷文章, 2008年6月14日, フレークボール形状タングステン酸ビスマスによる有機物の可視光誘起光触媒分解, 第25回ライラックセミナー/第14回若手研究者交流会, 小樽, ポスター

野上皓平, 天野史章, 大谷文章, 2008年10月29日, Photocatalytic Oxidative Decomposition of Gaseous Acetaldehyde over Visible Light-Responsive Bismuth Tungstate Photocatalyst, CRC International Symposium on Bio-interface and Biomass Conversion, 札幌, ポスター

野呂真一郎, 神玲奈, 網島亮, 植村一広, 喜多英敏, 芥川智行, 中村貴義, 2008年9月20-22日, 巨大リング状Mo154核クラスターの内部空間安定化, 第58回錯体化学討論会, 金沢, 口頭

福原克郎, 野田祐樹, 野呂真一郎, 芥川智行, 中村貴義, 2009年9月, TTF誘導体-金ナノ粒子複合LB膜の量子伝導に与える金ナノ粒子サイズの影響, 第62回コロイドおよび界面化学討論会, 岡山, 口頭

福原克郎, 野田祐樹, 帯刀陽子, 野呂真一郎, 芥川智行, 中村貴義, 2009年3月, マクロサイクリックTTF-金ナノ粒子複合LB膜の電気伝導性に及ぼす金ナノ粒子のサイズ効果, 日本化学会第89春季年会, 東京都, 口頭

福原克郎, 野田祐樹, 帯刀陽子, 野呂真一郎, 芥川智行, 中村貴義, Becher Jan, 2008年9月, 有機薄膜ナノ物性評価, 第61回コロイド及び界面化学討論会, 福岡, ポスター

李定, 天野史章, 阿部竜, 大谷文章, 2008年9月24日, 垂直配向酸化タングステン薄片集合膜の調製と光電気化学反応への応用, 第102回触媒討論会, 名古屋, ポスター

全玉進, 2009年3月16日, Thin Film Interference Effect in SFG Spectroscopy, 第3回日本分光学会北海道支部学生シンポジウム, 札幌, 口頭

- 伊藤史也, 川口俊一, 嶋津克明, 2010年1月27日, 硝酸イオンの還元を目的とした小型電気化学フローセルの開発, 化学系学協会北海道支部2010年冬季研究発表会, 札幌(北大), 口頭
- 井田麻奈美, 八巻明裕, 小西克明, 2008年9月7-9日, Cd10S4(SR)12 クラスタ表面での外部物質との相互作用, 第61回コロイド及び界面化学討論会, 福岡, ポスター
- 榮秀憲, 小西克明, 2008年5月31日-6月1日, 表面に認識部位を導入した半導体ナノクラスタの設計, 第3回ホスト・ゲスト化学シンポジウム, 東京, ポスター
- 遠藤大五郎, 芥川智行, 野呂真一郎, Cronin Leroy, 中村貴義, 2008年9月24-27日, o-Phenylenediamineを用いた(crown ether)[PMo12O40]錯体の結晶構造と誘電率測定, 第2回分子科学討論会2008, 福岡国際会議場, 口頭
- 遠藤格, 芥川智行, 野呂真一郎, 中村貴義, 2009年9月, Anilinium誘導体/[18]crown-6 超分子カチオンを含む[MnIICrIII(ox)3]錯体の結晶構造と磁性, 第59回錯体化学討論会, 長崎, 口頭
- 遠藤格, 芥川智行, 野呂真一郎, 中村貴義, 2009年7月, m-fluoroanilinium/dibenzo[18]crown-6超分子ローターを含む[MnIICrIII(ox)3]結晶の構造と強磁性, 日本化学会北海道支部2009年夏季研究発表会, 苫小牧, 口頭
- 遠藤格, 芥川智行, 野呂真一郎, 中村貴義, 2009年1月, 超分子ローターカチオンを利用した新規分子性マルチフェロイック材料の開拓, 化学系学協会北海道支部
- 野田裕樹, 野呂真一郎, 中村貴義, 2010年9月, フタロシアニンダブルデッカー金ナノ粒子集合体の量子伝導挙動, 第4回分子科学討論会2010, 大阪 口頭
- 張一, 全玉進, 叶 深, 大澤雅俊, 2010年, Electrochemical Oxidation of Dimethyl Ether (DME) on Platinum Electrodes, PacifiChem 2010 Honolulu, USA, 口頭
- 佐藤 祐輔, 川口俊一, 嶋津克明, 2010年3月29日, メソポーラスカーボン電極の電気化学特性評価, 電気化学会第77回大会, 富山, 口頭
- 内田太郎, 大澤雅俊, 2010年4月12日, Mechanism of hydrogen evolution reaction catalyzed by 4,4'-bipyridine adsorbed metal electrodes: A combined electrochemical and infrared study, 1st Ertl Symposium on Electrochemistry and Catalysis, Gwangju, South Korea
- 亀井 優太郎, 小西 克明, 2010年7月24日, 特異な光学特性を示す新規サブナノAuクラスタの合成, 日本化学会北海道支部2010年夏季研究発表会, 函館工業高等専門学校, 口頭
- 鈴木 快, 小西 克明, 2010年7月24日, 露出金属サイトを有する有機保護Auクラスタの特性, 日本化学会北海道支部2010年夏季研究発表会, 函館(函館工業高等専門学校), 口頭
- 亀井 優太郎, 七分 勇勝, 小西 克明, 2010年9月27-30日, サブナノAuクラスタ群が示す多様な骨格構造と動的特性, 第60回錯体化学討論会, 大阪国際交流センター, ポスター
- 亀井 優太郎, 七分 勇勝, 小西 克明, 2010年9月27-30日, サブナノAuクラスタの構造評価と光化学特性, 第60回錯体化学討論会, 大阪国際交流センター, 口頭
- 大塚 英華, 七分 勇勝, 小西 克明, 2010年9月27-30日, クラウン修飾半導体性クラスタの発光応答特性, 第60回錯体化学討論会, 大阪国際交流センター, ポスター
- 李 玲, 鈴木 快, 七分 勇勝, 小西 克明, 2010年9月27-30日, 露出サイトを有する有機保護Auナノクラスタの反応と相互作用特性, 第60回錯体化学討論会, 大阪国際交流センター, ポスター
- 小松圭一, 大澤雅俊, 2010年12月16日, Role of bridge-bonded formate in the electrocatalytic oxidation of formic acid on platinum PacifiChem 2010, Honolulu USA, 口頭
- 佐野翔吾, 岩瀬由香里, 神谷裕一, 2010年8月1-2日, マイクロメソバイモダル多孔性12-タングストケイ酸セシウム塩の酸処理, 第50回オーロラセミナー, 洞爺湖 ポスター
- 岩原 恵太, 七分 勇勝, 小西 克明, 2010年9月27-30日, マルチポルフィリン構造体に内包された有機保護Auクラスタの触媒活性, 第60回錯体化学討論会, 大阪国際交流センター, ポスター
- 亀井 優太郎, 小西 克明, 2011年2月1-2日, ユニークな特性を示す新規サブナノAuクラスタの合成, 化学系学協会北海道支部2011年冬季研究発表会, 札幌(北海道大学学術交流会館),
- 福永 直人, 小西 克明, 2011年2月1-2日, 疎水場を導入した水溶性CdSクラスタと有機ゲストとの相互作用, 化学系学協会北海道支部2011年冬季研究発表会, 札幌(北海道大学学術交流会館), ポスター
- 鈴木 快, 小西 克明, 2011年2月1-2日, 有機保護Auナノクラスタ中に生成した露出無機表面の特性, 化学系学協会北海道支部2011年冬季研究発表会, 札幌(北海道大学学術交流会館)
- 鈴木将洋, 梅澤大樹, 松田冬彦, 2011年2月1日, Omaczalleneの合成研究, 日本化学会北海道支部, 口頭
- 劉嘯奇, 野呂真一郎, 久保和也, 中村貴義, 2011年2月1日, ピリダジン/[18]クラウン-6誘導体超分子カチオンを含む[Ni(dmit)2]塩の結晶構造, 日本化学会北海道支部, 2011年冬季研究発表会, 札幌(北海道大学), 口頭
- 亀井 優太郎, 小西 克明, 2011年3月26-29日, 金原子間の弱い相互作用を利用したAuクラスタの合成と新規特性の開拓, 日本化学会第91春季年会, 横浜(神奈川大学横浜キャンパス), 口頭
- 鈴木快, 小西 克明, 2011年3月26-29日, 露出金属サイトを有するチオレート保護Auナノクラスタの特性, 日本化学会第91春季年会, 横浜(神奈川大学横浜キャンパス), 口頭
- 劉嘯奇, 野呂真一郎, 久保和也, 中村貴義, 2011年3月27日, ピリダジニウム-クラウンエーテル誘導体超分子カチオン/[Ni(dmit)2]塩の構造と物性, 日本化学会第91春季年会, 神奈川大学, 口頭
- 劉嘯奇, 野呂真一郎, 久保和也, 中村貴義, 2011年3月27日, ピリダジニウム-クラウンエーテル誘導体超分子カチオン/[Ni(dmit)2]塩の構造と物性, 日本化学会第91春季年会, 神奈川大学, 口頭
- 遠藤大五郎, 芥川智行, 野呂信一郎, Leroy Cronin, 中村貴義, 2008年9月20-22日, o-nitroaniline([18]crown-6)超分子カチオンを用いた[PMo12O40]3-塩の誘電特性, 第58回錯体化学討論会, 金沢大学, 口頭
- 李定, 天野史章, 大谷文章, 2008年12月2日, 薄片形状酸化タングステン垂直配向膜の調製と光電極特性, 第15回シンポジウム「光触媒反応の最近の展開」, 川崎, ポスター
- 李定, 天野史章, 大谷文章, 2009年2月3日, 薄片形状酸化タングステン結晶の配向性制御と光電極特性評価, 化学系学協会北海道支部2009年冬季研究発表会, 札幌, 口頭
- 田中麻紗子, 天野史章, 大谷文章, 2009年3月30日, 担持バナジウム酸化物光触媒のアルカリイオン修飾による有機物酸化分解活性制御, 第103回触媒討論会, さいたま, ポスター
- 田中麻紗子, 天野史章, 大谷文章, 2009年9月27日, 局所励起

- 光触媒による有機物の完全酸化分解, 第104回触媒討論会, 宮崎, 口頭
- N. Ohta, R. Khaton and T. Iimori, 2009年9月21日, Photoinduced change in the electrical conductivity of polycrystalline silver iodide, 第3回分子科学討論会, 名古屋, ポスター
- 齋藤亮介, 川口俊一, 嶋津克明, 2010年7月3日, シクロデキストリン単分子層を用いた白金ナノ粒子電極の構造制御, 電気化学会北海道支部設立40周年記念シンポジウム, 札幌, ポスター
- 齋藤亮介, 川口俊一, 嶋津克明, 2010年7月3日, シクロデキストリン単分子層を用いた白金ナノ粒子電極の構造制御, 電気化学会北海道支部設立40周年記念シンポジウム, 札幌, ポスター
- 柴田昌幸, 梅澤大樹, 松田冬彦, 2010年9月29日, 光学活性 Danicalipin Aの全合成, 天然有機化合物討論会, 静岡, 口頭
- 佐藤祐輔, 川口俊一, 嶋津克明, 2010年7月24日, メソポーラスカーボン電極表面の活性化に向けた処理方法の検討, 北海道支部2010夏季研究発表会, 函館, 口頭
- 野上皓平, 天野史章, 大谷文章, 2009年2月4日, 水熱結晶化タングステン酸ビスマスの構造と光触媒活性におよぼす組成比の影響, 化学系学協会北海道支部2009年冬季研究発表会, 札幌, ポスター
- 齋藤亮介, 川口俊一, 嶋津克明, 2011年3月29日, シクロデキストリン単分子層空隙への白金析出過程のSTM観察, 電気化学会第78回大会, 横浜, 口頭
- 坂本啓典, 齋藤亮介, 川口俊一, 嶋津克明, 2011年3月29日, シクロデキストリン単分子層空隙への白金析出過程のSTM観察, 電気化学会第78回大会, 横浜, 口頭
- 山田幸司, 福原拓馬, 坂入信夫, 2008年5月15日, 鈴木-宮浦カップリング法を用いた蛍光ソルバトクロミック色素の高性能化, 第69回分析化学討論会, 名古屋大学, 口頭
- 山田幸司, 岡紅波, 山岸裕, 曾根弘昭, 2008年9月13日, チオフェンを母骨格に持つ新規蛍光ソルバトクロミック色素の分子構造と光物性, 光化学討論会2008, 大阪市立大学, ポスター
- 天野史章, 野上皓平, 大谷文章, 2009年9月27日, 酸素欠損型タングステン酸ビスマス光触媒: 光吸収特性と光触媒活性の関係, 第104回触媒討論会, 宮崎, 口頭
- 高橋賢司, 大澤雅俊, 2010年9月3日, 銀電極上の吸着チオ尿素が促進する水素発生反応,
- 孫尚鉉, 鈴木将洋, 梅澤大樹, 松田冬彦, 2010年1月26-27日, Omaezalleneの全合成研究, 北海道支部2010年冬季研究発表会, 札幌
- 野田裕樹, 野呂真一郎, 中村貴義, 2010年4月, Charge Transport Behavior of Hybrid Assembly Structures between Gold Nanoparticles and Porphyrin Derivatives, MRS 2010 Spring Meeting, USA, ポスター
- 澄川 亮也, 中林 孝和, 太田 信廣, 2010年9月8日, EYFPの蛍光寿命のpH依存性?細胞内と緩衝溶液中の比較, 2010年光化学討論会, 千葉, ポスター
- 鈴木 快, 小西 克明, 2010年6月6-10日, Reactions on the inorganic surface of organic-modified gold nanoclusters, 第5回大環状化合物および超分子化学国際会議 (ISMSC 2010), 奈良県新公会堂, 奈良市, ポスター
- 佐藤 祐輔, 川口俊一, 嶋津克明, 2010年7月3日, メソポーラスカーボン電極の構造と電気化学特性, 電気化学会北海道支部設立40周年記念シンポジウム, 札幌, ポスター
- 佐藤 祐輔, 川口俊一, 嶋津克明, 2010年7月3日, メソポーラスカーボン電極の構造と電気化学特性, 電気化学会北海道支部設立40周年記念シンポジウム, 札幌, ポスター
- 一
- 瀬戸孟, 神谷裕一, 2011年3月26-29日, ニッケル微粒子触媒による水中硝酸イオン還元反応, 日本化学会第91春季年会, 横浜 (神奈川大学横浜キャンパス), 口頭
- Zhang, Y.; Lu, L.; Tong, Y.; Osawa, M.; Ye, S., 2009年3月18-19日, Dimethyl Ether (DME) Electro-oxidation Reaction on Pt electrodes: An in situ Infrared Spectroscopic Study, International Symposium for Environmental Innovation Driven by Chemistry and Catalytic Science (EICCCS), 札幌, ポスター
- 張 一, 全 玉進, 路 蕾蕾, 大澤雅俊, 叶 深, 2009年3月29-31日, ジメチルエーテル (DME) の電気化学的酸化反応のその場研究, 電気化学会第76回大会, 京都, 口頭
- 内田太郎, 山方啓, 佐々木陽一, 大澤雅俊, 2009年9月10-11日, 電極表面に吸着した4,4'-ビピリジンが触媒する水素発生促進反応機構" 2009年電気化学会秋季大会, 東京, 口頭
- 齋藤亮介, 川口俊一, 嶋津克明, 2010年9月3日, シクロデキストリン単分子層を鋳型として用いた白金ナノクラスターの構築, 2010年電気化学秋季大会, 神奈川, 口頭
- Rima Falhana Rafman, 中田 耕, 嶋津 克明, 大澤 雅俊, 2009年9月24日, Characterization of adsorbed NOx species on Platinum electrode as investigated by infrared spectroscopy, 日本分析化学会第58年会, 札幌 (北大), 口頭
- 野田 祐樹, 野呂 真一郎, 芥川 智行, 中村 貴義, 2009年9月, ポルフィリン誘導体-金ナノ粒子複合構造の作製, 第62回コロイドおよび界面化学討論会, 岡山, 口頭
- 野田 祐樹, 野呂 真一郎, 芥川 智行, 中村 貴義, 2009年9月, 金ナノ粒子-ポルフィリン誘導体からなる集積体の電気伝導挙動" 日本物理学会2009年秋季次会, 熊本, 口頭
- 佐野翔吾, 岩瀬由香里, 神谷裕一, 2009年9月26日, 硫酸処理した12-タングストケイ酸セシウム塩触媒によるトリグリセリドのエステル交換反応, 第30回参照触媒討論会, 宮崎大学木花キャンパス, 口頭
- 吉田 雅憲, 神谷 裕一, 2009年9月27-30日, CsxPd4-xSiW12O40触媒による鈴木-宮浦カップリング, 第104回触媒討論会, 宮崎大学, 宮崎 (シーガイア), 口頭
- 三浦 裕紀, 神谷 裕一, 2009年9月27-30日, n-ブチルスズ置換タングストリン酸セシウム塩の合成と分子吸着特性 第104回触媒討論会, 宮崎大学, 宮崎 (シーガイア), 口頭
- Amano, F.; Li, D.; Ohtani, B., 2009年10月14日, Fabrication of Flake-Wall Tungsten(VI) Oxide Films for Photoelectrochemical Reactions, The 12th Japan-Korea Symposium on Catalysis, 第12回日韓触媒会議, 秋田, 口頭
- 土居隼人, 山本拓真, 神谷裕一, 2009年10月22-23日, Ir/Al₂O₃上での1,3-ジメチルシクロペンタン水素化開環反応の活性サイト, 第39回石油・石油化学討論会, 浜松市 (アクトシティ浜松), 口頭
- 叶 深, 柳輝金, 全玉進, 大澤雅俊, 桑田直明, 河村純一, 2009年10月26日, LiCoO₂電極溶液界面における分子構造のその場研究, 日本表面科学会2009年秋季大会, 東京, 口頭
- 天野史章, 李定, 大谷文章, 2009年11月21日, 高効率光電極反応のための酸化タングステン電極の設計と評価, 第28回固体・表面光化学討論会, 京都, 口頭
- 三浦 裕紀, 神谷 裕一, 2009年11月25-26日, 欠損型タングストリン酸セシウム塩の特異な水収着特性, 第25回ゼオライト研究発表会, 西日本総合展示場新館展示場, 北九州, 口頭
- Hironobu Hayashi, Yujin Tong, Shen Ye, Hiroshi Imahori, 2009年12月7-9日, Elucidation of Relationship between Adsorption Conditions and Photoelectrochemical Properties in

- Porphyrin-Sensitized Solar Cells, CRC International Symposium on Innovation Driven by Catalysis-past, present and future, 札幌, ポスター
- 伊藤 寿之, 大下 周吾, 中林 孝和, 金城 政孝, 太田 信廣, 2009年9月16日, 蛍光寿命イメージングを用いた細胞内環境変化のその場計測: アポトーシス過程, 2009年光化学討論会, 桐生, 口頭
- 萱野 充, 安川 隼也, 二宮 航, 内藤 啓幸, 神谷 裕一, 2009年9月27-30日, タクロレイン選択酸化におけるモリブドバナドリル酸触媒の担持による触媒性能低下要因, 第104回触媒討論会, 宮崎大学, 宮崎(シーガイヤ), 口頭
- 倉持祥子, 坂本啓典, 神谷裕一, 2009年9月27-30日, 塩化物イオン耐性の高いPd-Sn/活性炭触媒による水中硝酸イオン還元 第104回触媒討論会, 宮崎大学, 宮崎(シーガイヤ), 口頭
- 池浦健太郎, 道見康弘, 川口俊一, 嶋津克明, 2010年1月27日, シクロデキストリン単分子層へのアニオンの包接, 化学系学協会北海道支部2010年冬季研究発表会, 札幌(北大), 口頭
- 萱野 充, 安川 隼也, 二宮 航, 大谷内 健, 神谷 裕一, 2010年3月26-29日, 高温アンモニア処理シリカに担持したモリブドバナドリル酸触媒によるメタクロレイン酸化反応, 日本化学会第90春季年会, 東大阪(近畿大学本部キャンパス), 口頭
- 大下 周吾, 澄川 亮也, 中林 孝和, 太田 信廣, 2010年5月30日, Intracellular pH Sensing in Cells Using Fluorescence Lifetime Imaging of Fluorescent Proteins, 孫尚鉉, 鈴木将洋, 梅澤大樹, 松田冬彦, 2010年7月24日, Omaezalleneの全合成研究, 北海道支部2010年夏季研究発表会, 函館
- 厳寅男, 野呂真一郎, 中村貴義, 2010年7月, Crystal Structure and Physical Property of [Ni(dmit)2] Salts Containing Fluoroadamantylammonium - Crown Ethers Supramolecules, International Conference on Science and Technology of Synthetic Metals 2010 (ICSM), 京都, ポスター
- 厳寅男, 野呂真一郎, 中村貴義, 2010年7月, フルオロアダマンチルアンモニウム誘導体を利用した超分子ローター型強誘電体の作製, 日本化学会北海道支部2010年夏季研究発表会, 函館, 口頭
- 大下 周吾, 澄川 亮也, 中林 孝和, 太田 信廣, 2010年9月14日, 蛍光タンパク質の蛍光寿命を用いた細胞内pHのその場検出, 第4回分子科学討論会, 大阪, 口頭
- 澄川 亮也, 太田 信廣, 2010年9月8日, Electrophotoluminescence (E-PL) of π -conjugated polymers of poly(phenylene vinylene) derivatives, 2010年光化学討論会, 千葉, 口頭
- 大下 周吾, 澄川 亮也, 中林 孝和, 太田 信廣, 2010年9月8日, EYFPの蛍光寿命のpH依存性?細胞内と緩衝溶液中の比較, 2010年光化学討論会, 千葉, ポスター
- 厳寅男, 野呂真一郎, 中村貴義, 2010年9月, [Ni(dmit)2]単結晶中に構築したフルオロアダマンチルアンモニウム超分子ローターの回転と誘電性・磁性, 第60回錯体化学討論会,
- 澄川 亮也, 中林 孝和, 太田 信廣, 2010年9月14-17日, 蛍光タンパク質の蛍光寿命を用いた細胞内pHのその場検出 第4回分子科学討論会, 大阪, 口頭
- 劉 尊奇, 野呂真一郎, 中村貴義, 2010年9月, Pyridazine/[18]crown-6誘導体超分子カチオンを含む[Ni(dmit)2]塩の結晶構造と誘電性, 第60回錯体化学討論会, 大阪, ポスター
- 劉 尊奇, 野呂真一郎, 中村貴義, 2010年9月, Pyridazine/[18]crown-6誘導体超分子カチオンを含む[Ni(dmit)2]円形の結晶構造と誘電性, 第60回錯体化学討論会, 大阪, ポスター
- 遠藤格, 野呂真一郎, 中村貴義, 2010年9月, (Anilinium誘導体)(benzo[18]crown-6) [MnCr(ox)3]結晶における分子回転と磁性, 第60回錯体化学討論会, 大阪, 口頭
- 佐藤 祐輔, 川口俊一, 嶋津克明, 2010年9月3日, メソポーラスカーボン電極の表面構造と電極特性, 2010年電気化学秋季大会, 神奈川, 口頭
- 高橋真, 道見康弘, 川口俊一, 嶋津克明, 2010年1月27日, シクロデキストリン混合単分子層を分子鋳型とした機能性チオール分子の分子配列制御, 化学系学協会北海道支部2010年冬季研究発表会, 札幌(北大), 口頭
- 齋藤亮介, 道見康弘, 川口俊一, 嶋津克明, 2010年1月26日, Au電極上に構築したPdナノドットを用いた硝酸イオンの電気化学的還元, 化学系学協会北海道支部2010年冬季研究発表会, 札幌(北大), 口頭
- 近藤浩史, 阿部竜, 神谷裕一, 2010年3月26-29日, Pt/TiO₂とSn-Pd/Al₂O₃を用いた紫外光照射下における水中硝酸イオン還元, 日本化学会第90春季年会(2010), 東大阪(近畿大学本部キャンパス), 口頭
- 佐野翔吾, 神谷裕一, 2010年3月26-29日, ヘテロポリ酸セシウム塩触媒によるトリブチリンのトランスエステル化反応 日本化学会第90春季年会(2010), 東大阪(近畿大学本部キャンパス), 口頭
- 山岸裕, 山田幸司, 2010年5月15日, 細胞解析のための環境感受性波長応答型蛍光プローブの開発,
- 田中麻紗子, 天野史章, 大谷文章, 2010年6月18日, 有機物酸分解のためのバナジウム単核錯体光触媒の特性評価, 第29回光がかわる触媒化学シンポジウム, 東京都(東京工業大学), 口頭
- 佐野翔吾, 岩瀬由香里, 神谷裕一, 2010年7月11-15日, Acid Treatment of Micropore-Mesopore Bimodal Cs Salt of 12-Tungstosilicic Acid, The 10th International Symposium on the Scientific Bases for the Preparation of Heterogeneous Catalysts" Louvain-la-Neuve, Belgium, ポスター
- 亀井 優太郎, 小西 克明, 2010年6月6-10日, Acid-induced nuclearity alteration in diphosphine-protected ultrasmall gold clusters, 第5回大環状化合物および超分子化学国際会議 (ISMSC 2010), 奈良県新公会堂, ポスター
- 萱野 充, 神谷裕一, 2010年7月11-15日, Degradation of the Catalytic Performance of H₄PMo11VO₄₀ by the Supporting on SiO₂ in the Selective Oxidation of Methacrolein, The 10th International Symposium on the Scientific Bases for the Preparation of Heterogeneous Catalysts Louvain-la-Neuve, Belgium, ポスター
- 近藤浩史, 阿部竜, 神谷裕一, 2010年7月18-23日, Photocatalytic reduction of nitrate by using Pt/TiO₂ and Sn-Pd/Al₂O₃ The 6th Tokyo Conference on Advanced Catalytic Science and Technology The 5th Asia Pacific Congress on Catalysis, 札幌市(札幌コンベンションセンター), ポスター
- 山岸裕, 周 紅波, 山田幸司, 2010年7月24日, ラベル化部位を持つ蛍光ソルバトクロミック色素の合成と変色型センシングデバイスの開発, 日本化学会北海道支部2010年夏季研究発表会, 函館(函館高専), 口頭
- 近藤浩史, 阿部竜, 神谷裕一, 2010年8月1-2日, Pt/TiO₂とSn-Pd/Al₂O₃共存下での水中硝酸イオンの光還元反応, 第50回オーロラセミナー, 洞爺湖, ポスター
- 萱野 充, 神谷裕一, 2010年8月1-2日, シリカ担持モリブドバナドリル酸アンモニウム塩のメタクロレイン酸化反応特性, 第50回オーロラセミナー, 洞爺湖, ポスター
- 田中麻紗子, 天野史章, 大谷文章, 2010年9月17日, 有機物酸分解のためのバナジウム単核錯体光触媒の開発, 第106回触媒討論会, 山梨県(山梨大学), 口頭
- 岡田 孟矩, 飯森俊文, 太田信廣, 2010年9月14-17日, 溶液中およびポリマー中におけるアズレンの電場吸収・電場発

- 光測定, 第4回分子科学討論会, 大阪, ポスター
- 海老名紀廣, 天野史章, 大谷文章, 2010年9月17日, 酸化亜鉛/酸化銅(I)ヘテロ接合膜の調製と光電気化学特性評価, 第106回触媒討論会, 山梨県(山梨大学), 口頭
- 野田裕樹, 野呂真一郎, 中村貴義, 2010年9月, Fabrication of Gold Nanoparticle Assemblies Connected by Double-decker Phthalocyanine Complex via van der Waals Interactions, International Conference on Nanoscopic Colloid and Surface Science (NCSS2010), 千葉, ポスター
- 敵寅男, 野呂真一郎, 中村貴義, 2010年9月, [Ni(dmit)2]単結晶中に構築したフルオロアダマンチルアンモニウム超分子カチオンローターの回転と誘電性・磁性, 第60回錯体化学討論会,
- E. Sabeth, 飯森俊文, 太田信廣, 2010年9月14-17日, 有機超伝導体BEDT-TTF塩における光誘起電気伝導度変化の時間分解測定, 第4回分子科学討論会, 大阪, 口頭
- Rima Falhana Rafman, 中田耕, 大澤雅俊, 嶋津克明, 2010年9月3日, 硝酸イオンおよび関連物質の還元に対するスズの効果の赤外分光法による解明, 2010年電気化学秋季大会, 厚木(神奈川工大), 口頭
- 岡佳和, 中村進之介, 中村博, 2010年9月6-7日, TICT型蛍光官能基を修飾した γ -シクロデキストリンを用いたアルキルフェノール類の検出, 第27回シクロデキストリンシンポジウム, 金沢市, ポスター
- 大島瑠利子, 中林孝和, 飯森俊文, 太田信廣, 2010年9月8日, Electroabsorption Spectra of PbSe and PbS Nanoparticles in a Polymer Film, 2010年光化学討論会, 千葉, ポスター
- 大島瑠利子, 中林孝和, 飯森俊文, 太田信廣, 2010年9月8日, 水溶性CdTeナノ粒子の光励起ダイナミクスへの外部電場効果, 2010年光化学討論会, 千葉, ポスター
- 近藤浩史, 阿部竜, 神谷裕一, 2010年9月15-18日, Pt/TiO₂とSn-Pd/Al₂O₃共存下での水中硝酸イオンの光還元反応, 第106回触媒討論会, 山梨市(山梨大学), 口頭
- 佐野翔吾, 岩瀬由香里, 神谷裕一, 2010年9月15-18日, 多孔性ヘテロポリ酸セシウム塩Cs_xH_{4-x}SiW₁₂O₄₀の酸処理による活性向上効果, 第106回触媒討論会, 山梨市(山梨大学), 口頭
- 三浦裕紀, 神谷裕一, 2010年9月15-18日, セシウム/カリウム組成比の異なる一欠損型ヘテロポリ酸セシウムカリウム塩の分子収着特性, 第106回触媒討論会, 山梨市(山梨大), 口頭
- 菅野充, 神谷裕一, 2010年9月15-18日, シリカ担持モリブドバナドリン酸アンモニウム塩のメタクロレイン酸化反応特性, 第106回触媒討論会, 山梨市(山梨大学), 口頭
- 岡佳和, 中村進之介, 中村博, 2010年9月15-17日, 新規蛍光性シクロデキストリンを用いた非イオン性界面活性剤検出試薬の開発, 日本分析化学会第59年会, 仙台市, 口頭
- 劉尊奇, 野呂真一郎, 中村貴義, 2010年10月, Crystal Structures and Dielectric Response of (Pyridazine)[18]crown-6 derivatives[Ni(dmit)2] Salts, 日中合同シンポジウム, 京都, ポスター
- 野田裕樹, 野呂真一郎, 中村貴義, 2010年11月, Novel Gold Nanoparticle Assemblies Connected by Double-decker Phthalocyanine complex, AsiaNANO 2010, 東京, 口頭
- 山岸裕, 山田幸司, 2010年11月13日, 環境応答性波長変化型細胞膜プローブPOLARICTMの開発, 細胞を創る研究会3.0, 東京大学, ポスター
- 土居隼人, 山本拓真, 神谷裕一, 2010年11月25-27日, "担持イリジウム触媒上での1,3-ジメチルシクロペンタン水素化開環反応における担体効果", 第40回石油・石油化学討論会, 神戸市(神戸国際会議場), 口頭
- 遠藤格, 野呂真一郎, 中村貴義, 2010年12月, Supramolecular functional systems in electrically active molecular assemblies, Pacificchem 2010 Hawaii, USA, 口頭
- 海老名紀廣, 天野史章, 大谷文章, 2010年12月15日, Enhanced Photocurrent and Stability of Zinc Oxide/Copper(I) Oxide Heterojunction Films The International Chemical Congress on Pacific Basin Societies, Pacificchem2011, Hawaii (United States), ポスター
- 吉田雅憲, 杉山明宏, 神谷裕一, 奥原敏夫, 2010年12月15-20日, Cesium-palladium salts of 12-tungstosilicic acid Cs_xPd_{2-x}/2SiW₁₂O₄₀ as highly active catalysts in Suzuki-Miyaura reaction, The 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, ホノルル(ハワイ), ポスター
- 亀井優太郎, 七分勇勝, 小西克明, 2010年12月15-20日, Formation of novel ultrasmall gold clusters via reassembling of preformed cluster, Pacificchem 2010, Hawaii (Convention Center), ポスター
- 柴田昌幸, 梅澤大樹, 松田冬彦, 2010年12月20日, Synthetic Study on Danicalipin, A PacificChem2010, ポスター
- Chiang, Hung-Chu, 飯森俊文, 太田信廣, 2011年2月1日, Electrophotoluminescence spectra of pyrene dissolved in benzene, 化学系学協会北海道支部2011年冬季研究発表会, 札幌, 口頭
- Sabeth Farzana, 飯森俊文, 太田信廣, 2011年2月1日, Time-resolved measurement of the photoresponse near the superconducting transition temperatures of the quasi-two-dimensional organic superconductor beta-(BEDT-TTF)F₉I₃, 化学系学協会北海道支部2011年冬季研究発表会, 札幌, 口頭
- 敵寅男, 野呂真一郎, 中村貴義, 2011年2月, Fluoroadamantylammonium/Dibenzo[18]crown-6超分子を導入した[Ni(dmit)2]塩の構造と物性, 日本化学会北海道支部2011年冬季研究発表会, 札幌, 口頭
- 秦昊, 飯森俊文, 太田信廣, 2011年2月1-2日, Electrophotoluminescence spectra of pyrene dissolved in benzene, 化学系学協会北海道支部2011年冬季研究発表会, 札幌, ポスター
- 秦昊, 飯森俊文, 太田信廣, 2011年2月1日, ヨウ化銀の電気伝導度に対する電場効果と光照射効果, 化学系学協会北海道支部2011年冬季研究発表会, 札幌, ポスター
- 山木邦亮, 中田耕, 大澤雅俊, 嶋津克明, 2011年2月22日, 赤外分光法によるCu/Pd電極上の窒素酸化物の吸着状態解析, 化学系学協会北海道支部2011年冬季研究発表会, 札幌(北大), 口頭
- 秦昊, 飯森俊文, 太田信廣, 2011年2月1-2日, ヨウ化銀の電気伝導度に対する電場効果と光照射効果, 化学系学協会北海道支部2011年冬季研究発表会, 札幌, 口頭
- 山岸裕, 山田幸司, 2011年2月2日, 単一のPOLARICTM蛍光プローブによる各種細胞のマルチカラーイメージング, 化学系学協会北海道支部2011年冬季研究発表会, 札幌(北海道大学), 口頭
- 山木邦亮, 中田耕, 大澤雅俊, 嶋津克明, 2011年3月29日, 赤外分光法によるCu/Pd電極上の硝酸イオンおよび関連物質の吸着状態解析, 電気化学会第78回大会横浜国大, 横浜, 口頭
- 小西克明, 七分勇勝, 矢野寛興, 2009年7月11日, 表面保護Auナノクラスター触媒を用いた液相酸化反応(予稿集No:E-14), 日本化学会北海道支部2009年夏季研究発表会, 苫小牧, 口頭
- 小西克明, 藤本信二, 久保美菜子, 平谷卓之, 2008年5月31日-6月1日, 半導体クラスター・ナノ粒子の分子認識化学, 第3回ホスト・ゲスト化学シンポジウム, 東京, 口頭
- 小西克明, 村上嘉崇, 2008年9月7-9日, Auクラスターの酸化活

性を利用したポルフィリン錯体との複合体形成, 第61回コロイド及び界面化学討論会, 福岡, 口頭

小西克明, 井田 麻奈美, 2009年7月11日, 有機修飾CdSクラスタの金属イオンとの相互作用 (予稿集No:E-15), 日本化学会北海道支部2009年夏季研究発表会, 苫小牧, 口頭

小西克明, 栄 秀憲, 高瀬 永理, 2009年7月11日, 表面近傍への有機ゲスト捕捉に対する無機クラスター種の光化学応答 (予稿集No:E-16), 日本化学会北海道支部2009年夏季研究発表会, 苫小牧 (苫小牧工業高等専門学校), 口頭

児玉 崇, 田野千春, 孫 尚鉉, 坂入信夫, 2009年7月11日, ドデシルチオグリコシドを供与体とする水中グリコシル化反応, 日本化学会北海道支部2009年夏季研究発表会, 口頭

村上嘉崇, 小西克明, 2008年7月19日, Auナノクラスターが示す特異な助触媒作用, 日本化学会北海道支部2008夏季研究発表会, 北見 口頭

西川慶祐, 代蔵陽介, 中原博史, 松田冬彦, 梅澤大樹, 2008年9月30日-10月2日, Isocyanocadineneの全合成, 日本化学会, 日本薬学会, 日本農芸化学会, 福岡, 口頭

李 玲, 安藤卓, 佐野翔吾, 神谷裕一, 2011年3月26-29日, 12-タングストリン酸セシウム-鉄塩触媒の酸触媒反応特性, 日本化学会第91春季年会(2011), 神奈川大学横浜キャンパス, 口頭

李 玲, 巖 寅男, 久保和也, 野呂真一郎, 中村貴義, 2011年3月27日, 3-フルオロアダマンチルアンモニウム-クラウンエーテル誘導体超分子カチオン/[Ni(dmit)2]塩の構造と物性, 日本化学会第91春季年会, 神奈川大学, 口頭

三浦裕紀, 神谷裕一, 2011年3月26-29日, アルキルゲルマニウム置換タングストリン酸およびそのセシウム塩の合成, 日本化学会第91春季年会(2011), 横浜 (神奈川大学横浜キャンパス), 口頭

三浦裕紀, 菊池拓希, 神谷裕一, 2011年3月26-29日, フェニルスズ置換タングストリン酸セシウム塩の分子吸着特性, 日本化学会第91春季年会(2011), 横浜 (神奈川大学横浜キャンパス), 口頭

菅野充, 神谷裕一, 2011年3月26-29日, 水中硝酸イオン還元反応に適した Cu-Pd クラスタ触媒の構造解析, 日本化学会第91春季年会(2011), 横浜 (神奈川大学横浜キャンパス), 口頭

佐藤 祐輔, 川口俊一, 嶋津克明, 2011年3月29日, 炭素電極上へ構築したフェロセン固定化単分子層のキャラクタリゼーション, 電気化学会第78回大会, 横浜, 口頭

天野史章, 山方啓, 野上皓平, 大澤雅俊, 大谷文章, 2010年 3月24-25日, タングステン酸ビスマス粒子の光触媒活性と励起電子寿命の相関, 第105回触媒討論会, 京都, 口頭

柳 輝金, 全 玉進, 大澤雅俊, 叶 深, 2009年3月29-31日, 和周波発生(SFG)分光法によるリチウムイオン電池界面の構造研究, 電気化学会第76回大会, 京都, 口頭

田野千春, 古川潤一, 古池哲也, 坂入信夫, 2009年3月27-30日, 新規糖質系界面活性剤のMEKCへの応用-糖構造とアミノ酸光学分割能との相関, 日本化学会第89春季年会, 札幌, 口頭

矢野 寛興, 末光 茂紀, 小西 克明, 2008年9月7-9日, S保護Auクラスターから誘導される担持型Au触媒の酸化触媒活

性, 第61回コロイド及び界面化学討論会, 福岡, ポスター

12-4 受賞

環境起学専攻

江川知花, 2011年3月, 第58回日本生態学会大会(札幌大会)ポスター賞最優秀賞(札幌)

北野雅人, 白木彩子, 石山浩一, 2008年9月, 日本鳥学会ポスター賞 (若手の部・最優秀)

北野雅人, 白木彩子, 石山浩一, 東正剛, 2009年2月, 生態学会北海道地区大会の若手研究奨励賞

椎名佳の美, 長谷川理, 東正剛, 2007年9月, 日本鳥学会ポスター賞

地球圏科学専攻

梶谷卓志, 谷本陽一, 2010.11. JMSJ award

栗原 佳代子, 2010.10.28. 日本気象学会奨励賞

佐々木央岳, 2010.11. Trans-disciplinary Initiative Award for Global environment and ecosystems (分野横断的な独創力賞 (地球環境・生態系))

坂崎貴俊, 藤原正智, 2010. JMSJ Award in 2010 (2010年気象集誌論文賞)

山崎 学, 2008.9.20. 日本水文科学会研究奨励賞

小野数也, 2008.3.31. 日本海洋学会 2008年度奨励論文賞

西川史朗, 2009.4.7. 日本海洋学会奨励論文賞

西村大輔, 津滝 俊, 杉山 慎, 2009.10.1. 日本雪氷学会学生奨励賞

青木かおり, 入野智久, 大場忠道, 2010.8.21. 日本第四紀学会論文賞

齊藤拓也, 2008. 日本地球化学会奨励賞

大宮哲 「平成23年度中谷宇吉郎科学奨励賞」 受賞対象: “Estimation of the electrostatic charge of individual

大宮哲 2010 第83回日本大気電気学会研究発表会「学生発表表彰」受賞対象: “吹雪粒子の帯電に湿度が及ぼす影響について (序報)”

長谷川 航, 2008.8.22. 日本洞窟学会第34回大会ポスターコンテスト優秀賞

津滝 俊, 杉山 慎, 2009.10.1. 日本雪氷学会 Very Impressive Presentation 最優秀発表賞

津滝 俊, 西村 大輔, 吉澤 猛, 杉山 慎, 2010.10.1. 日本雪氷学会学生奨励賞

島村誠, 2010.9.28. 日本雪氷学会 Very Impressive Presentation 優秀発表賞

齊藤愛, 2011.3. 2011年度日本海洋学会奨励論文賞

1 3 修了後の進路

1 3-1 博士後期課程修了者

平成19年度～平成22年度修了者まで (平成23年5月1日現在)

就職先別統計

大学関係 44、公務員 8、製造業 11、その他 42、計 105.

主な進路

環境起学専攻

ボゴール農科大学、日本学術振興会特別研究員（PD）、北大低温科学研究所非常勤研究員、筑波大学ポストドクター、気象庁、中国国立師範大学教員、北大地球環境科学研究院学術研究員、(株)日本能率協会総合研究所

地球圏科学専攻

北大地球環境科学研究院博士研究員、日本学術振興会特別研究員（PD）、総合地球環境学研究所プロジェクト研究員、(独)海洋研究開発機構ポストドクター、北大水産科学研究院博士研究員、北大低温科学研究所博士研究員、埼玉県越谷市立北陽中学校教員、名古屋大学環境科学研究科助教、明星電気（株）、(株)構造計画研究所、池上学園池上学園高等学校教員、トリブバン大学地理学教室、気象庁盛岡地方気象台

生物圏科学専攻

日本学術振興会特別研究員（PD）、北大生命科学院研究員、(独)水産総合研究センター東北区水産研究所八戸支所、(株)ニコンシステム、Accenture（外資系経営コンサルティング）、北大地球環境科学研究院学術研究員、北大獣医学研究科博士研究員、花王（株）栃木研究所、北大低温科学研究所学術研究員、北大SGP事務局博士研究員、愛媛大学沿岸環境科学研究センター研究員、慶應義塾大学助教、(独)水産総合研究センター海洋水産研究所、京都大学舞鶴水産実験所研究支援員、北大北方生物圏フィールド科学センター博士研究員、日本大学生物資源学部助手、ムラワルマン大学林学科講師、北海道庁、北大低温科学研究所学術研究員、北大水産科学研究員ポストドクター、バイエル薬品（株）

環境物質科学専攻

武田薬品工業（株）、京都大学ポストドクター、サンディスク（株）四日市工場、富山県立大学生物工学研究センター嘱託研究員、DOWAホールディングス（株）、北大地球環境科学研究院博士研究員、北大地球環境科学研究院技術補助員、JSR（株）、バングラデシュ環境省事務局管理職、北大触媒化学研究センター博士研究員、北大触媒化学研究センター特任助教、九州大学先端物質化学研究所、三菱レイヨン(株)、チッソ(株)、産業技術総合研究所

13-2 修士（博士前期）課程修了者

平成18年度～平成22年度修了者まで （平成23年5月1日現在）

就職先別統計

博士後期課程進学（他大学院を含む）130、公務員 61、製造業 156、運輸・通信 49、サービス業 40、卸売・小売 28、建設業 17、金融・保険 10、電気・ガス 8、農業 8、その他 140、計 647.

おもな進路

環境起学専攻

日本大昭和板紙（株）、シュルンベルジュ（株）、（株）イノアックコーポレーション、山形県警、（株）富士テクニカルリサーチ、社団法人青年海外協力協会、ライオン油脂（株）、北海道大学、石川島播磨重工業、ホクレン農業共同組合連合会、岐阜県、アラビア石油（株）、（株）セイコーマート、ダイワ精工（株）、千歳市立千歳小学校、太陽日酸（株）、八幡市立男山第二中学校、札幌市役所、（株）野田塾、（株）プレック研究所、（株）樫出版、NEC 通信システム（株）、（株）NTT データ、日本金属工業（株）、極東石油工業（株）、大塚製薬（株）、NTT データアクセス、カゴメ（株）、（株）みずほトラストシステムズ、エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ（株）、（株）内田洋行、新和環境（株）、全日本空輸（株）、（独）製品評価技術基盤機構、（株）ニトリ、（株）イオンフォレスト、（株）テプコシステムズ、林野庁関東森林管理局、ワタミフードサービス（株）、（株）マインドシェア、北海道銀行、中部電力（株）、DOWA ホールディングス（株）、東北電力、伊藤忠商事（株）、日本能率協会総合研究所、（株）竹中工務店大阪本社、中央復建コンサルタンツ（株）、（株）ユニバーサル園芸社東京西支店、（株）ドーコン、（株）エステム、メタウォーター（株）、アタカ大機（株）、三菱総研 DCS（株）、東日本旅客鉄道（株）、国際協力機構、（株）メイテック、（株）ダイセキ、愛知県庁、（株）日立エンジニアリング・アンド・サービス、（株）オリエンタルコンサルタンツ、（株）うすい、酪農学園大学、経済産業省、鶴岡東高校、半導体エネルギー研究所、ジュンク堂書店、アーキヤマデ（株）、住友林業（株）、NTT ソフトウェア（株）、（株）ヨドバシカメラ、明治製菓（株）、エスビー食品（株）、埼玉県加須市立小学校、朝日ソーラー（株）、JFE エンジニアリング（株）日立情報システムズ、北海道公立中学校教員、札幌市役所、北海道道庁、日本たばこ産業、三菱電機ビルデクノサービス（株）、北海道道立浜頓別高校教員、（株）沖縄教育出版、（株）南江堂、（株）貴賓館、コクヨ（株）

地球圏科学専攻

北海道地図（株）、中外製薬（株）、（株）ビック東海、（株）エステム、エイムネクスト（株）、IBM ソリューションサービス、NEC、（株）上総環境調査センター、（株）オオスミ、昭文社、（株）パスコ、日立アドバンスドシステムズ、富士通エフ・アイ・ビー（株）、警視庁、ロイズコンフェクト、NTT コミュニケーションズ（株）、（株）技術情報協会、九州不二サッシ（株）、全国農業共同組合連合会、新日鉄ソリューション、ESRI ジャパン（株）、（株）チノー、TIS（株）、伊藤忠飼料（株）、全日空システム企画（株）、みずほ情報総研（株）、札幌管区気象台、（株）富士通ビー・エス・シー、（株）日本航空インターナショナル、（株）ゼンリン、（株）ベイカレント・コンサルティング、（株）帝国データバンク、山武（株）、川崎造船、エムエスティ保険サービス、（株）ダイナックス、（財）リモート・センシング技術センター、ナラサキ産業（株）、

DOWA ホールディングス、アイシン化工（株）、（株）岸本医科学研究所、松田産業（株）、（株）シーキューブソフト、全国酪農飼料（株）鳥栖工場、（独）水資源機構、スカパーJSAT（株）、気象庁、（株）野村総合研究所、（財）日本気象協会、日立製作所（株）、（独）日本原子力研究開発機構、日特建設（株）、富士電気システムズ（株）、エルム楽器、立山電化工業、（株）ウェザーニューズ、富士フィルター工業（株）、経済産業省北海道経済産業局、中部日本放送（株）、（株）住商情報システム、（株）HBA、国土交通省航空保安大学校、日本電信電話（株）、アメリカンファミリー生命保険会社、気象庁青森地方气象台、（株）東洋信号通信社、ソニー銀行、（株）IHI エスキューブ、旭川市役所、アクアス㈱、A T T O株、アジア航測㈱、㈱福田水文センター、気象庁（仙台管区气象台）、㈱ユニアデックス、㈱ジュピターテレコム、北海道庁、日本アイビーエム・ソリューション・サービス㈱

生物圏科学専攻

ノバルティスファーマ（株）、ハイテクシステム（株）札幌支店、北海道原子力環境センター、日本たばこ産業（株）、（株）武蔵野香料化学研究所、科研製菓、日本ユニシス、（独）農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター、オリックス（株）、積水樹脂（株）、（株）ローソン、ホクレン農業協同組合連合会、（株）オプトエレクトロニクス、KK HBA、いであ（株）、リンナイ（株）、イビデン（株）、東広島市役所、エコニクス、マルイチ通商、日本水産（株）、日本アイ・ビー・エム（株）、日本農産工業（株）、総合科学（株）、旭川市役所、DDOW ホールディングス、井上特殊鋼（株）、T S U T A Y A S T O R E S ホールディングス（株）、エミック（株）、NTT コミュニケーションズ（株）、（独）国際協力機構帯広国際センター、（株）富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ、（株）INAX、伊藤園、ハウス食品（株）、長瀬産業（株）、（株）ナシオ、札幌市役所、林野庁、オリエンタル酵母工業（株）、アサヒ飲料（株）、イー・アンド・イー・ソリューションズ（株）、（株）NTT データ、ホームック（株）、トッパン・フォームズ（株）、（株）エイ・イー・エス、紀本電子工業（株）、（株）ユーベック、伊藤忠商事（株）、日清丸紅飼料（株）、横浜冷凍、航空食品（株）、日本ケンタッキー・フライド・チキン（株）、（財）知床財団、（株）日比谷アメニス、神奈川県庁、（株）公文教育研究会、山崎製パン（株）、足柄上地域県政総合センター、山口県農林総合技術センター、（株）レンゴー、小清水町農業共同組合、（株）ドーコン、大成建設（株）、ワタミ（株）、（社）農山漁村文化協会、日本生活協同組合連合会、（株）ヤクルト本社、（株）三菱ガス化学、（株）ゼンショー、日本シルクコミュニティ（株）、トヨタ紡績（株）、（株）高橋造園土木、茨城県職員、石川コンピュータセンター、（株）西原環境テクノロジー、阪和興業（株）、ローランド（株）、兼松（株）、大成基礎設計（株）、日本エア・リキード（株）、室蘭信用金庫、エーザイ（株）、GCI キャピタル、（株）日阪製作所、林テレンプ（株）、（株）ザイマックスビルマネジメント、中山牧場、片倉チッカリン（株）、理化学研究所バイオリソースセンター、札幌国際観光、明治コンサルタント（株）、（株）レクシア、花王（株）、日本水産（株）、（株）ファミリーマート、サントリーホールディングス（株）、（株）新田ゼラチン、（株）千代田ラフト東京、（株）島津製作所、防衛省（自衛隊）、（株）エコニクス、札幌市消防局、苫小牧市役所、全日本空輸（株）、みなと山口合同新聞社、グローブライト（株）、東京都潤徳女子高校、デイジー食品工業（株）、（株）北炭ゼネラルサービス、（株）片山化学工業研究所、静岡県庁、北海道庁、（株）アマネセル、住友林業フォレストサービス（株）、神奈川県庁、NTT データ、（株）カクダイ、協友アグリ（株）、（株）ユニバーサル園芸社、鎌倉市役所、イカリ消毒㈱、東京消防庁、シー・アイ・シー㈱、日糧製パン㈱、カネコ種苗㈱、ヤマサ醤油㈱、よつ葉乳業㈱、ベル食品㈱、J オイルミルズ油脂基盤研究所、全国酪農業協同組合連合会、近畿大学、岐阜大学、広島大学、長野県庁、近畿日本ツーリスト㈱、六花亭㈱、大

成建設(株)

環境物質科学専攻

横浜ゴム、トーアエイヨー、日鉱金属、日本クラウンコルク、ホクレン農業組合連合会、(株)アレフ、同和鉱業、YKK、WDB、シグマアルドリッチジャパン、三井化学、住友ゴム工業、東京応化工業、シード、住友化学、旭化成、チッソ、日本たばこ産業、ペルメック電極、CREST、旭化成アミダス、アクアス、エビナ電化工業、日立化成、コガネイ、東京応化工業、NOK (株)、旭硝子、(株)日鐵テクノリサーチ、苫小牧臨床検査センター、大日本塗料 (株)、サミー (株)、金属技研 (株)、ソニーケミカル&インフォメーションデバイス、太陽日酸 (株)、札幌イグノダイアグノスティックラボラトリー中央研究所、三菱化学、(株)石垣、応用医学研究所、大日本インキ化学工業 (株)、住友ゴム工業 (株)、凸版印刷 (株)、栗田工業 (株)、岩手東芝エレクトロニクス (株)、三洋電機 (株)、積水化学、コバレントマテリアル、豊田合成、三菱樹脂 (株)、阪和興業 (株)、PRADABDAO Co. Ltd. Thailand、ヤマハ (株)、ホテルマネージメントインターナショナル、北海道教育庁、野外科学 (株)、みずほ情報総研、パナソニック (株)、昭和電工 (株)、セイコーエプソン、コバレントマテリアル、(株)キャタラー、栗田エンジニアリング (株)、札幌藤女子高等学校、(財)日本食品分析センター、三恵技研工業 (株)、(株)ホクエイ、FDK トワイセル、三菱原子燃料 (株)、三菱東京 UFJ 銀行中国広州支店、(株)インテック、高砂香料工業 (株)、(株)ルネサス北日本セミコンダクタ、(独)日本原子力開発機構、宮城県警察、山口県庁、日本製紙(株)、昭和電工(株)、トヨタ紡織(株)、(株)ジャストサポート、三菱化学(株)、日立造船 (Hitz)

V 補 遺

1 4 規程

北海道大学大学院環境科学院規程

平成17年4月1日制定
海大達第49号

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人北海道大学組織規則(平成16年海大達第32号)第27条の3第4項の規定に基づき、環境科学院(以下「本学院」という。)の教育課程等に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第1条の2 本学院は、自然科学に基礎をおき、地球規模の環境問題の解明と解決を目指す教育研究を行うとともに、これらの課題に取り組む研究者及び高度専門職業人の養成を目的とする。

第1章の2 専攻及び課程

(専攻)

第1条の3 本学院に、次の専攻を置く。

環境起学専攻

地球圏科学専攻

生物圏科学専攻

環境物質科学専攻

(課程)

第2条 本学院の課程は、博士課程とする。

第2章 入学、再入学、転学、所属変更及び転専攻

(入学)

第3条 本学院に入学することのできる者は、北海道大学大学院通則(昭和29年海大達第3号。以下「通則」という。)第4条第4項に規定する修士課程(以下「修士課程」という。)にあっては、通則第10条第1項、通則第4条第4項に規定する博士後期課程(以下「博士後期課程」という。)にあっては、通則第10条第2項に該当する者で、本学院の行う選考に合格した者とする。

(再入学、転学、所属変更及び転専攻)

第4条 通則第13条各号又は第13条の2第1号に該当する者が本学院に再入学、転学又は所属の変更を願い出た場合及び通則第13条の2第2号に該当する者が転専攻を願い出た場合は、選考の上これを許可することがある。

第3章 授業科目、修了要件、履修方法及び試験

(授業科目及び単位)

第5条 各専攻の授業科目及び単位は、別表(略)のとおりとする。

2 前項に規定する授業科目のほか、必要がある場合においては、教授会の議を経て、臨時の授業科目を設けることができる。

(単位数の計算の基準)

第5条の2 各授業科目の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外

に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。
- (2) 演習については、30 時間の授業をもって 1 単位とする。
- (3) 実習については、45 時間の授業をもって 1 単位とする。

(課程の修了要件)

第 6 条 修士課程の修了要件は、大学院に 2 年以上在学し、30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士課程の目的に応じ、本学院の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、大学院に 1 年以上在学すれば足りるものとする。

- 2 本学院において教育上有益と認めるときは、他の専攻、研究科、他の学院若しくは教育部の専攻又は学部の授業科目を指定して履修させ、修士課程の単位とすることができる。
- 3 本学院において教育上有益と認めるときは、北海道大学大学院理工系専門基礎科目規程（平成 22 年海大達第 60 号）に定める授業科目（以下この項及び次条において「理工系専門基礎科目」という。）のうち、別表（略）に掲げる授業科目以外の理工系専門基礎科目を指定して履修させ、修士課程の単位とすることができる。
- 4 本学院において教育上有益と認めるときは、北海道大学大学院共通授業科目規程（平成 12 年海大達第 24 号）に定める授業科目（次条において「共通授業科目」という。）を指定して履修させ、修士課程の単位とすることができる。

第 7 条 博士課程の修了要件は、大学院に 5 年（修士課程に 2 年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における 2 年の在学期間を含む。）以上在学し、修士課程において 30 単位以上、博士後期課程において 10 単位以上をそれぞれ修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本学院の行う博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、大学院に 3 年（修士課程に 2 年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における 2 年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

- 2 前条第 1 項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了の要件については、前項中「5 年（修士課程に 2 年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における 2 年の在学期間を含む。）」とあるのは「修士課程における在学期間に 3 年を加えた期間」と、「3 年（修士課程に 2 年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における 2 年の在学期間を含む。）」とあるのは「3 年（修士課程における在学期間を含む。）」と読み替えて、前項の規定を適用する。
- 3 前 2 項の規定にかかわらず、学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号）第 156 条の規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、博士課程の後期 3 年の課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は、大学院に 3 年以上在学し、10 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本学院の行う博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、大学院に 1 年以上在学すれば足りるものとする。
- 4 本学院において教育上有益と認めるときは、理工系専門基礎科目のうち、別表（略）に掲げる授業科目以外の理工系専門基礎科目を指定して履修させ、第 1 項の規定により修得すべき単位とすることができる。
- 5 本学院において教育上有益と認めるときは、共通授業科目を指定して履修させ、第 1 項の規定により修得すべき単位とすることができる。

(長期履修)

第 8 条 本学院において、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間

にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、教授会の議を経て、その計画的な履修(以下「長期履修」という。)を認めることができる。

- 2 長期履修に関し通則第4条の2に定めるもののほか、本学院において必要な事項は、教授会の議を経て、学院長が別に定める。

(他大学の大学院等における履修等)

第9条 本学院において教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、学生が他の大学の大学院の授業科目を履修し、又は外国の大学の大学院若しくは国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法(昭和51年法律第72号)第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学(次条において「国際連合大学」という。)において学修することを認めることができる。

- 2 前項の規定により学生が履修した授業科目について修得した単位又は学修の成果については、修士課程及び博士後期課程を通して10単位を超えない範囲において、教授会の議を経て第6条第1項又は第7条の規定により修得すべき単位の一部とみなすことができる。

- 3 本学院において教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、学生が他の大学の大学院若しくは研究所等又は外国の大学の大学院若しくは研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、修士課程の学生について認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

(入学前の既修得単位の認定)

第10条 本学院において教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、新たに本学院に入学した学生が、本学院に入学する前に本学若しくは他の大学の大学院において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として履修した授業科目について修得した単位を含む。)又は外国の大学の大学院若しくは国際連合大学において学修した成果を、本学院に入学した後の本学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項の規定により修得したものとみなすことができる単位数は、本学大学院において修得した単位以外のものについては、修士課程及び博士後期課程を通して10単位を超えない範囲において、第6条第1項又は第7条の規定により修得すべき単位の一部とすることができる。

(履修方法)

第11条 授業科目の履修方法の細目については、教授会の議を経て、学院長が定める。

(試験)

第12条 各授業科目の試験(以下「科目試験」という。)は、当該授業科目の授業が終了した学期末に行う。ただし、やむを得ない事由があるときは、教授会の議を経て、臨時に実施することができる。

(成績の評価)

第13条 科目試験の成績は、秀、優、良、可及び不可の5種とし、秀、優、良及び可を合格とする。

(学位論文の提出期日)

第14条 修士課程及び博士課程の学位論文は、本学院の定める期日までに提出しなければならない。

第4章 課程修了の認定

(課程修了の認定)

第15条 修士課程及び博士課程の修了は、当該課程の修了要件を満たした者について、教授会の議を経て認定する。

第5章 特別聴講学生、特別研究学生、委託生及び外国人留学生

(特別聴講学生)

第 16 条 本学院において特定の授業科目を履修し、単位を修得しようとする他の大学の大学院又は外国の大学の大学院の学生があるときは、教授会の議を経て、特別聴講学生としてこれを許可することができる。

2 特別聴講学生は、学期又は学年ごとに許可する。

3 特別聴講学生に係る試験及び成績の評価については、第 12 条及び第 13 条の規定を準用する。
(特別研究学生)

第 17 条 本学院において研究指導を受けようとする他の大学の大学院又は外国の大学の大学院の学生があるときは、教授会の議を経て、特別研究学生としてこれを許可することができる。

(委託生)

第 18 条 通則第 43 条及び第 44 条の規定による委託生の入学については、教授会の議を経て、許可することができる。

(外国人留学生)

第 19 条 通則第 47 条の規定による外国人留学生の入学については、教授会の議を経て、許可することができる。

附 則

1 この規程は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

2 北海道大学大学院通則の一部を改正する規則(平成 17 年海大達第 45 号)附則第 2 項に規定する地球環境科学研究科の地圏環境科学専攻、生態環境科学専攻、物質環境科学専攻又は大気海洋圏環境科学専攻に在学する者(以下「地球環境科学研究科在学者」という。)に係る教育課程の実施及び課程修了の認定は、同附則第 4 項の規定に基づき環境科学院が行うものとし、当該地球環境科学研究科在学者に係る教育課程、課程修了の要件その他教育に関し必要な事項は、環境科学院において別に定める。

3 北海道大学大学院地球環境科学研究科規程(平成 5 年海大達第 15 号)は、廃止する。

附 則(平成 18 年 4 月 1 日海大達第 95 号)

この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 19 年 4 月 1 日海大達第 140 号)

1 この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

2 平成 19 年 3 月 31 日に本学大学院に在学する者(以下この項において「在学者」という。)及び同年 4 月 1 日以降に在学者の属する年次に入学する者については、改正後の第 13 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成 19 年 12 月 26 日海大達第 285 号)

この規程は、平成 19 年 12 月 26 日から施行する。

附 則(平成 20 年 4 月 1 日海大達第 83 号)

1 この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

2 平成 20 年 3 月 31 日に本学大学院に在学する者(以下この項において「在学者」という。)及び同年 4 月 1 日以降に在学者の属する年次に入学する者については、改正後の 別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成 22 年 4 月 1 日海大達第 95 号)

この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 23 年 4 月 1 日海大達第 121 号)

この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

1 5 予算

年度	(単位：千円)
	運営費交付金
平成 20 年度	9,145
平成 21 年度	9,085
平成 22 年度	8,920

16 安全管理

実施項目	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
------	----------	----------	----------

防災訓練	5 月 8 日	5 月 8 日	5 月 14 日
------	---------	---------	----------

実施内容： 化学薬品吸着の取り扱い、A E D の使用方法、防火・防災に関するスライド上映、屋内消火栓の操作 防火シャッター・防火戸設備の操作

安全教育	4 月～5 月	4 月～5 月	4 月～5 月
------	---------	---------	---------

実施内容： 安全の手引き、安全の手引き C D 版、化学物質取扱の手引、安全マニュアルを活用して安全教育を各研究室単位で実施

職場巡視	-	-	7 月 5 日～30 日
------	---	---	--------------

実施内容：教職員の安全管理に関する意識の高揚を図り、労働災害等の発生を防止するため、全ての実験室・居室等を対象に実施

17 国際交流（大学間・部局間交流協定）

大学間交流協定・部局間交流協定

年月日	種別	協定先	備考
平成5年7月14日	部局間	アメリカ合衆国イリノイ大学大学院シカゴ校	
平成7年3月16日	部局間	インドネシア共和国パランカラヤ大学	
平成8年2月9日	部局間	連合王国ノッチンガム大学	(～平成14年2月6日)
平成9年10月17日	部局間	ネパール王国トリブバン大学科学技術研究科	
平成9年11月17日	部局間	中華人民共和国蘭州大学資源環境学院	
平成10年1月16日	部局間	マレーシアサバ大学科学技術研究科	(～平成15年1月15日)
平成18年8月26日	大学間	インドネシア共和国パランカラヤ大学	
平成19年6月13日	大学間	スイス連邦工科大学チューリッヒ校	
平成20年7月31日	部局間	中華人民共和国廈門大学海洋科学・環境科学院	
平成20年10月1日	部局間	パキスタンカラチ大学	
平成20年12月1日	部局間	ロシア極東地質学研究所	
平成20年12月2日	部局間	ロシア科学アカデミーシベリア支部・寒冷圏生物研究所	
平成20年12月3日	部局間	ロシア連邦サハ共和国ヤクーツク国立大学	
平成20年12月11日	部局間	インドネシアイスラム大学	
平成21年2月18日	部局間	モンゴル科学アカデミー地理学研究所	
平成21年2月18日	部局間	モンゴル国立大学生態学研究科	
平成21年2月19日	部局間	モンゴル国家気象水文環境監視省水文気象研究所	
平成22年2月1日	部局間	ロシア科学アカデミーシベリア支部メリニコフ永久凍土研究所	
平成22年2月1日	部局間	ロシア科学アカデミーシベリア支部・北方先住民族研究所	
平成22年10月24日	大学間	ネパール王国トリブバン大学	
平成22年10月29日	大学間	中華人民共和国東南大学	
平成22年12月13日	部局間	オランダ王国自由大学	
平成23年1月6日	部局間	ロシア連邦チュメニ石油ガス大学 及び ロシア科学アカデミーチュメニサイエンスセンター	

